二　本命令ニ違背シタルトキ

三　渡船取締規則第六條又ハ第二十一條ノ命令ニ違背シ又ハ第十九條ノ場合ニアラスシテ渡船ヲ休業シタルトキ

四　渡船取締規則第二十九條ニ依リ二間以上ノ處分ヲ受ケ渡船ノ業務ニ堪ヘサル者ト認メタルトキ

第十一條　前條ノ罷免ニ依リ何等ノ損害アルモ官廳ハ其賠償ノ責ニ任セス

（第二號式渡船場簿帳）

渡船場名稱

創設年月日　明治　年　月　日

廢止年月日　明治　年　月　日

取扱人　住所　氏名　年齢

取扱人手當月日

船夫人員

土地　名稱　地積　所在地　園　郡　村　字

充用年月日　明治　年　月　日

渡津賃錢　人　馬　車　荷物

備渡船　建物其他　建物名稱　坪數　充用年月日　張網直徑延長　尺數及種類　充用年月日

第十二條　保證人ハ渡船取扱人擔保ノ責ニ任シ渡船取扱人ニシテ其義務ヲ盡ササルトキハ保證人ハ其代辨ヲナスヘシ

本命令第四條ニ依リ修繕スヘキモノニシテ保證人ハ前項ノ義務ヲ盡ササルトキハ官ニ於テ修繕シ其費用ハ渡船取扱人及保證人ヲシテ支辨セシムルコトアルヘシ

渡船取扱人ハ本命令第八條ニ違背シテ辭職ヲ出願シタルトキ又ハ第十條二號三號四號ニ依リ罷免シタルトキハ渡船取扱人就職年間内若ハ適當ノ後代者アルマテ保證人ナシテ渡船ノ業務ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ保證人又其義務ヲ盡ササルトキハ官ニ於テ他人ヲシテ代辨セシメ其費用ハ渡船取扱人及保證人ヲシテ支辨セシム

（本書式ニ記載ノ條文外ニ猶必要ナルモノアルトキ又ハ官廳物件及取扱人手當等ノ如何ニヨリ更改ヲ要スルモノアルトキハ適宜增減ヲナスコトヲ得）

○明治三十二年十月一日總令第八十五號

區ノ事業ニ屬スル渡船ニ關シ明治三十一年十月北海道總令第七十七號渡船取締規則ノ取締ハ本廳ノ直轄トス但シ警察官署ノ管掌ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

本令ハ明治三十二年十月一日ヨリ施行ス

○明治十九年三月十八日　北海道・函館支廳乙第二號達（郡區役所　戶長役場宛）

郵便脚夫ノ飛信逓送竝ニ郵便物逓送集配ノ節各渡津場ニ於テ普通ノ旅人ヲ待合セ又ハ夜間通行ニ際シ無謬跋踏セシメ候ナハ逓送上ノ速度ヲ失フ不都合ニ付自今一層注意候樣該營業者ヘ可致告示此旨相達候事

○明治三十二年十一月三十日訓令第七十六號（支廳區役所宛）

其部内騎車、橋、小舟ヲ左ノ樣式ニ準據シ翌年二月限リ報告スヘシ

官

幅	長	價格	新造年月日
			明治　年　月　日
			明治　年　月　日
			明治　年　月　日
			明治　年　月　日
			明治　年　月　日
			明治　年　月　日
			明治　年　月　日
			明治　年　月　日

人渡馬渡船

幅	長	價格	新造年月日
			明治　年　月　日
			明治　年　月　日
			明治　年　月　日
			明治　年　月　日
			明治　年　月　日
			明治　年　月　日
			明治　年　月　日
			明治　年　月　日

民船

人渡馬渡

船

記事

（用紙美濃紙）

諸車　明治　年十二月三十一日現在

郡區	馬車 乘用 一頭立	馬車 乘用 二頭立	馬車 荷積 一頭立	馬車 荷積 二頭立	人力車 乘 一人	人力車 乘 二人	荷車 大車	荷車 中小車	牛車	其他	合計
總計											

木表荷積大車ハ荷臺ノ面積十四方尺以上ノ積量アルモノヲ云フ
地方特別ノ車輛ハ其他ノ欄ニ記スルモノトス

（用紙美濃紙）

橋　明治　年十二月三十一日現在

郡區	乘用馬橋 一頭立	乘用馬橋 二頭立	乘用馬橋 計	乘用人力橋 一人乘	乘用人力橋 二人乘	乘用人力橋 計	荷橋 人力	荷橋 馬	荷橋 牛	荷橋 計
總計										

（用紙美濃紙）

小舟　明治　年十二月三十一日現在

郡區	四洋形風帆船 五間以上	四洋形風帆船 三間以上	日本形船 五間以上	日本形船 三間以上	不航行船 五間以上	不航行船 三間以上	海川小型船 五間以上	海川小型船 三間以上	合計
總計									

本表ノ間數ハ艫梁ヨリ艫梁マテノ長トス
木表中ニハ漁船ヲ算入スヘカラス
四洋形風帆船ハ登簿噸數五噸未滿日本形ハ五十石未滿ニ限ル
不航行船ハ倉庫船、傳馬船、碇泊用船等航行ノ用ニ供セサルモノニ限ル
海川小型船ノ櫂櫓ノミヲ以テ運航シ専ラ河川港内等ニ用フルモノトス
港内ヲ運航スル登簿噸五噸未滿ノ小汽船ハ其數及長ヲ欄外ニ別掲スヘシ

第水運

○明治三十年一月二十二日訓令第六號（郡區役所宛）
船鑑札ヲ下付、返納書換又ハ再授シタルトキハ毎一箇月分取纏メ其船舶ノ件名、船鑑札ノ番號竝其年月日事由ヲ翌月十日迄ニ當廳ヘ報告スヘシ
俱シ木項ノ事實ナキトキハ其旨別ニ報告スヘシ
○明治三十年七月二十九日總令第四十八號
當廳在籍船舶ニシテ其定繫場ヲ移轉シ所轄郡區役所ヲ變更スルニ至リタル場船鑑札ノ書換ヲ出願セントスルトキハ三十日以内ニ若管轄郡役所ニ船鑑札ヲ返納シ且其件名書ノ證明ヲ受ケ之ヲ新管轄郡區役所ニ差出シ船鑑札ノ下付ヲ申請スヘシ
○明治三十年四月二十三日訓第六十八號（郡區役所宛）
明治三十年（一月）北海道廳訓令第六號船舶報告ハ別紙樣式ニ據ルヘシ

（樣式）

明治年月船舶報告（新規）（書換）（再渡）（返納）（用紙美濃）

鑑札番號	船名	定繫場	船ノ種類	船質	檣ノ數	製造地名	製造年月	造船工長氏名	木船ノ原名	長	副	深	總積 噸數 石數	登簿噸數	公稱馬力

鑑札下付竝返納年月日及事由

所有者住所	所有者氏名

右及報告候也
明治　年　月　日　　北海道廳長官氏名殿　　郡區長　氏　名　印

備考
一　木表ハ新規、書換、再渡、返納等各別ニ調製スヘシ
○明治二十一年三月二十一日訓令第二十七號（郡區役所戸長役場補役場宛）
左ノ報告書ハ各其樣式ニ據リ第二部ヘ差出シ若該事項ナキ時ハ其旨通報スヘシ
俱樣式ハ別ニ定ム

件名	差出期限
一　（三十四年一月訓令第三號ヲ以テ刪除）	
二　私立西洋形造船所竝造船員數表（三十四年四月訓令第三十號ヲ以テ刪除）	一月三十一日
三　（二十九年九月訓令第四十六號ヲ以テ削除）	
四　（二十三年十二月訓令第八十九號ニヨリ消滅）	
五　（三十四年三月訓令第十三號ヲ以テ削除）	
六　（二十七年二月訓令第五號ヲ以テ廢止）	
七　（三十四年四月訓令第三十號ヲ以テ削除）	
八　（二十三年十二月訓令第八十九號ニ依リ消滅）	
九	

第二 私立西洋形造船所及造船裏 明治何年分 （用紙美濃）

造船所名	造船所位置	造船工長	造船所主	設立年號	廢止年號	船名	船ノ種類	船質及網具製置	總噸數	登簿噸數	公稱馬力	實馬力	製造代價	竣工月日
何何						何何何何何何								

備考

一 造船所ハ其年中ニ造船セルト否トニ拘ハラス新設及廢止ニ係ルモノヲ除ク外ハ總テ十二月三十一日現在ノモノヲ掲クヘシ但シ「造船所ノ位置」以下「廢止月日」迄ノ五欄ハ新設及廢止ノモノニ限リテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

一 一時造船ノタメ設立セル假小屋ノ類モ本表中ニ記載シ符印ヲ以テ其假設ナルコトヲ區分スヘシ

一 重要ノ修繕改造等ノ工事ヲ爲シタル場合ニ於テモ本表各欄ノ通取調製造代價ノ欄内ニ其代價ヲ記入スヘシ但其修繕改造ナルコトハ赤符號ヲ以テ之ヲ區別スルコトヲ要ス

○明治三十二年八月二十九日訓令第四十八號（支廳戸長役場宛）

水難救護法取扱手續施行規程左ノ通定ム

第一條 水難救護法取扱手續第四條ノ報告ハ電信ニ依ルヘシ但シ電信ノ在ラサル處ニ於テハ便宜ノ方法ニ依ルヘシ

第二條 水難救護法取扱手續第六條ノ報告ハ船舶ノ大小遭難ノ狀況ニ依リ重大ト認ムルモノハ先ツ其概要ヲ電信又ハ書面ニテ即報スヘシ

第三條 戸長ハ附錄第一號樣式ノ帳簿ヲ備ヘ置キ遭難船舶其他ノ救上ケ物件又ハ差押物件ノ保管及其處分ヲ明カニスヘシ

第四條 水難救護法取扱手續第十四條ニ依ル件名書ハ附錄第二號樣式ノ如シ

第五條 保管金品ハ便宜一金品又ハ數物件毎ニ符號ヲ附シ金錢及貴重ナル物件又ハ長大ナラサル物件ハ錠前附ノ容器ニ保管スヘシ

第六條 書類ノ編綴ハ別ニ目ヲ設ケ必要ニ索引ヲ附スヘシ

第七條 水難救護法施行細則及水難救護法取扱手續ニ依リ戸長ニ於テ長官又ハ逓信大臣ニ差出ス書類ハ總テ所轄支廳ヲ經由スヘシ

第一號樣式（用紙美濃紙）

品目及其數量		品質形狀樣		救上ケ又ハ差押ヘタル年月日場所	戸長捺印	符號
鐵	何枚	木	△栗材長サ何尺何寸角何何ノ刻印アリト云フカ如ク品質形狀其他詳細記入ヲ要ス	△何年月日何處ニ於テ救上ケタルモノ	同	△一
金何圓		同	△米何俵數時間水中ニアリシヲ以テ其儘保管シ能ハサルニ付キ公營處分ヲナシタルモノ	△何年月日何處ニ於テ差押ヘタルモノ	同	△二
金何圓		同	△何何紙幣何枚		同	△三

△印ハ朱書

烟草	入箱	袋何皮差糸芋緒留瑪瑙金具何何	同	同	同	四

遭難船舶名及其所有者船長氏名	救護費用ノ金額及其納期間	備考
	△本欄ニハ救護ニ要シタル總金額及船長又ハ船舶所有者ヨリ賞金ヲ納付スヘキ期日ヲ記載スヘシ	

救護費用ヲ納付シ又ハ擔保ヲ供シテ金錢其他ノ物件ノ引渡ヲ受ケタルモノアルトキハ其擔保品及引渡ヲ受ケタル金額物件年月日氏名捺印

水難救護法第十六條三項ニ依リ金錢其他ノ物件年月日及引渡ヲ受ケタル者ノ氏名捺印

水難救護法第十七條ニ依リ處分ヲナシタルトキハ其年月日及金額

水難救護法第十六條四五六項ニ依リ處分シタルトキハ其要旨及船長又ハ船舶所有者ニ引渡シタルモノアルトキハ其金額物件年月日氏名捺印

水難救護法第十九條二項ニ依リ國庫ノ補給ヲ受ケタルトキハ其金額船長又ハ船舶所有者ニ還付シタルモノアルトキハ其金額年月日引渡ヲ受ケタル者ノ氏名捺印

第二號樣式（用紙西洋紙幅一尺　竪六寸）

△印ハ朱書

第　號

品目及其數量	品質形狀模樣	評價格	戶長捺印	摘要
何何	△品質模樣等詳細ニ記載スルコト第一號樣式ノ如シ	△物件ニ對スル評價額	△同	△一
同			△同	△二
金何何			△同	△三

表

拾得ノ年月日時及場所

物件ノ引渡ヲ受ケタル年月日

公告又ハ告知ヲシタル年月日及其方法

物件評價總額

公告保管公賣又ハ評價ニ要シタル費用　△金何圓　公告及告知ノ年月日ノ有ル時ハ其年月日ノ有ル時ハ其年月日ノ有ル時ハ其

年　月　日

金　何　円

右水難救護法第二十四條二項ニ依リ報酬トシテ授受候也

年　月　日

所有者（拾得者）
住所
氏名　印

所有者
住所
氏名　印

拾得者
住所
氏名　印

○明治三十五年六月十四日訓令第七十六號（區役所町村役場戸長役場汽船水難ニ関スル規程）

日水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル關税未納物件ノ取扱方ニ關シ本年六月二日訓令第一號ヲ以テ同法取扱手續ニ一條ヲ追加セラレタルニ付特案右訓令物件ノ處分等ニ急速ヲ要スル場合ニ在リテハ最寄税關又ハ支署ニ報告シ且ツ税關官吏等ニ現場ニ臨ミ難キトキハ成ルヘク税關又ハ支署ノ協議ニ應シ便宜ノ取扱ヲ爲スヘシ

○明治三十五年四月二十八日訓第百四十八號（河川側路根岸鈔那網走宗谷枇毛小樽若内函館都梓山松前函館室蘭沿河各支廳宛）

港湾ニ關シ別紙第一項ニ掲リ前年分取調報告年月三十一日限リ報告スヘシ

（別紙）

第一　本邦及遠洋航海ニヨリテ受ケタル影響

一　交通ニ關スルモノ

二　移住ニ關スルモノ

三　農工商其他殖産ニ關スルモノ

四　其他直接間接ニ得タルモノニ關スルモノ

第二　管内港湾ノ状況

第三　各港貿易ノ状況

（備考　各港湾トハ命令航路ノ港湾ヲ謂ヒ命令航路ノ港湾ト雖モ下各港湾トアルモノ若ハ同シ）

一　船客出入月別調査

月 ＼ 港湾	乗船客	下船客	計	乗船客	下船客	計	乗船客	下船客	計	乗船客	下船客	計
一月												
二月												
三月												
四月												
〃												
〃												
十二月												
合計												

備考

二　物価

備考　支廳所在地ヲ除ク、品種ハ重ナルモノヲ掲ク左表ハ港湾別ニ調製スヘシ

單位並物名税ハ明治三十二年十月北海道訓令第六十號別庶務通信第項統計様式第二十二物価表ニ準スヘシ（三十六年三月訓第三百七十九號ヲ以テ本項追加）

何何港（湾）ノ部

品種	單位	名称	税物	自一月至三月平均	自四月至六月平均	自七月至九月平均	自十月至十二月平均	平均

備考

三　運賃

（備考　運賃表ハ命令船ヲ除ク左表ハ各港湾別ニ調査スベシ）

品種＼港		米石	雑穀石	味噌樽十貫	清酒樽四斗	〃箱	木材百石	石油・函
何港湾								
小樽	最高							
	最低							
	平均							
函館	最高							
	最低							
	平均							
横浜	最高							
	最低							
	平均							
神戸	最高							
	最低							
	平均							
新潟	最高							
	最低							
	平均							
門司	最高							
	最低							
	平均							

備考

最高最低平均ハ共ニ一ケ年ヲ通シテ計算ス

第四、各港湾改備

一、解及荷役費

（備考　費額ハ重ナルモノヲ掲クベシ）

種別＼港湾										
荷役	荷積地間	本船	旅客平均	通船賃	解船賃	仲仕人数	解組合数			

備考

二、介雇

（介數料ハ五品以上ヲ掲クベシ）

事項＼港湾				
名称				

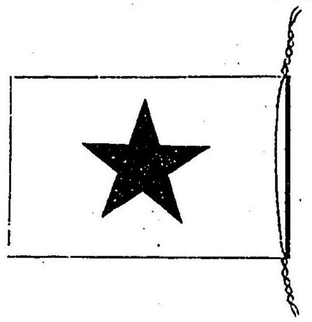
建物構造並棟數	坪數	倉庫數料					備考

五、各港灣ノ流結氷及海霧

（備考　流氷及結氷ノ各期日ハ去來結解ノ都度ヲ各別ニ擧ク）

港灣	流氷		結氷		海霧		備考
	發來期日	流去期日	結氷期日	解通期日	發來初日	散去終日	

○明治三十五年七月九日訓第七百八號（函館區役所小樽區役所宛）
海運ニ關シ別紙事項ニ據リ前年分取調毎年三月三十一日限リ報告スヘシ
（別紙ハ前出訓第四百四十八號ト同文略ス）
○明治三十五年七月十七日訓第七百三十四號（札幌支廳宛）
海運ニ關シ別紙事項ニ據リ前年分取調毎年三月三十一日限リ報告スヘシ
（別紙ハ前出訓第四百四十八號ト同文略ス）
○明治三十五年三月七日告示第二號
交通不便ノ地方ニ於ケル殖産ノ發達ヲ助ケンタメ本道各港中必要ト認ムル航路ニ對シ特ニ補助ヲ與ヘテ定期航海ヲ開カシメ居レルモ冬季ニ際シテハ天候不穩ノタメ往往豫想外ノ故障起リ爲メニ豫定ノ通其航海ヲ遂行シ難キ場合少ナシトセス現ニ今冬稚内網走間航路ノ如キ例年ニ比スレハ流氷ノ發來意外ニ早ク遂ニ終航ヲ缺航スルノ已ムナキニ至リ之カ爲メ該航路ニ屬スル地方人民ハ冬期間貯藏ノ米鹽ニ缺乏ヲ來シ一時非常ノ困難ニ遭遇セリ之レ全ク豫想外ノ故障ニ起因スルモノナルト亦タ一ハ寄港地人民カ冬季航海ヲ過度ニ信賴スルノ敎ス所ナラスト雖ヲ得ス就テハ今後トテモ右等ノ變無之トモ難計候條關係官民共聯テ深ク注意シ毎年初冬ニ於テ越年ノ準備ヲナシ重テ今日ノ情況ヲ踏マサル樣篤ク心得置クヘシ
○明治三十二年八月十一日告示第二百二號
本運輸助定期航海船ニハ港灣出入毎ニ左記旗標旗ヲ揭揚セシム
但八月十六日以降揭揚



三尺以上

（三十三年九月告示第三百四十八號ヲ以テ標旗ノ縦三尺ヲ三尺以上ニ横四尺ヲ四尺以上ニ改ム
○明治三十三年九月六日訓第五百十七號（釧路根室紗那網走宗谷增毛支廳釧路根室紗那網走宗谷增毛警察署宛）
本年三月二日公布勅令外國庫ノ負擔トナルヘキ契約中北海道沿岸定期航海補助ニ關スル契約ハ本長官ニ委任セラレタルヲ以テ本長官ハ右公布ノ示ス所ニ基キ日本郵船株式會社ニ對シ別紙ノ命令ヲナシ主トシテ船舶ノ積量航海ノ度數ヲ進メ又航海ノ期日ヲ確定シ航路ノ中斷ヲ排スル等勞テ拓殖ノ必要ト地方ノ利益ニ背カサランコトヲ期セリ是レ從來ニ比シ更ニ數歩ヲ進メタルモノナリト雖モ若シ其監督勵及之ニ伴フ設備ニシテ宜シキヲ得サルニアランカ其效果恐ラクハ見ルヘカラサルニ至ルヘキヲ以テ各支廳長及各警察署長ハ命令實施ニ關シ常ニ其視察ヲ怠ラサルハ勿論解船ノ設備及其取締ハ最モ能ク留意スル所ナカルヘカラス本道沿海ハ風浪穩順ノ季節ニ乏ク加フルニ海霧吹雪及流氷等ノ災多ク港灣亦不良ニシテ碇泊ニ便ナラサルヲ以テ其航海ハ實ニ一瞬刻ヲ爭フノ時ナシトセス然ルニ解船ノ設備甚不完全ナルヲ以テ往往ニシテ航海ノ期刻ヲ失ハシメ不慮ノ障害ヲ蒙ラシムルモノ尠シトセス若シ本命令ノ航路中之等ノ爲メ航海ノ確實ヲ保持スル能ハスシテ其航數ヲ減セサルヘカラサルカ如キ事實アランカ一局地ノタメ全線ノ利益ヲ損殺シ本末輕重ヲ誤ルニ至ルヘキヲ以テ遂ニ其地ノ寄港ヲ廢スルナキヲ保セス是レ其地方ノ興衰ニ關シ獨當業者ノ不幸ニ止マラサルヲ以テ關係當業者及地方人民ニ警告シ力ヲ其設備ニ盡サシメ當該官署ノ亦之レカ取締ニ勗メ共ニ缺遺ナキヲ期スヘシ
（別紙略ス）
○明治三十三年八月七日告示第三百十號
明治三十三年十月一日ヨリ明治三十八年九月三十日ニ至ル五箇年期間函館根室線外三線補助航海ハ之ヲ日本郵船株式會社ニ命令シタリ其航海線路及航海度數等左ノ如シ
一　航海線路航海度數及其寄港地
函館根室線
毎月六回ノ發船ナシ往復航共釧路ニ往航又ハ復航厚岸、霧多布ニ寄港ス但シ一月二月三月ハ毎月六回ノ內一回ヲ釧路ニ止ムルコトアルヘシ
小樽稚內線
本線ニハ總噸數七百噸以上最強速力一時間十海里以上ノモノヲ用フ本船ニ於テ第一號ノ航路紗那線
五月ヨリ十一月迄毎月三回十二月一回ノ發船ナシ往復航共留別ニ往航又ハ復航乳呑路、斜古丹ニ寄港シ六月九月ノ航海中各一回得撫島床丹ニ寄港ス
根室網走線
五月ヨリ十一月迄毎月三回四月及十二月毎月一回ノ發船ナシ往復航共泊ニ四月ヨリ十二月迄毎月一回往航又ハ復航斜里ニ寄港ス
小樽稚內線
四月ヨリ十一月迄毎月五回十二月ヨリ三月迄毎月三回ノ發船ナシ往復航共增毛、焼尻、天寶、鬼脇、鷲泊、香深ニ寄港ス
氷結又ハ流氷ノ爲メ港灣又ハ航路閉塞シタルトキハ根室ヲ花咲ニ稚內ヲ坂下ニ換ヘ十一月中旬以後ノ航海ニ於テ天候不良ノ爲メ進航スル能ハサルトキハ紗那及留別ヲ單冠ニ換フ又斜里寄港ノトキハ泊ノ往航又復航ヲ省クコトアルヘシ函館紗那間及函館網走間ノ各線ハ直通航海ナシモノトス（三十四年十一月告示第四百六十八號ヲ以テ本號改正）
二　各線路ニ使用スル船舶ノ資格
函館根室線、根室紗那線、根室網走線
函館根室線外二線ハ總噸數千噸以上最強速力一時間十一海里以上ノモノヲ用フ本船ニ於テ第一號ノ航海ナシ能ハサル場合ハ根室紗那線及根室網走線ニ限リ總噸數五百噸以上最強速力一時間十海里以上ノモノヲ用フルコトアルヘシ
小樽稚內線
本線ニハ總噸數七百噸以上最強速力一時間十海里以上ノモノヲ用フ本船ニ於テ第一號ノ航

海ヲナシ能ハサル場合ニ限リ總噸數五百噸以上ノモノヲ用フルコトアルヘシ

三　移住民ニ對スル待遇及農産物運賃ノ割引

本命令ノ航海船舶ニ依リ運搬スル移住民ニシテ法令ノ定ムル所ノ乘船割引券ヲ有スル者ノ旅客賃金及携帶品賃金ハ定額運賃ノ五割以上ヲ減ス第一號ノ各港ヨリ函館小樽ニ輸出スル農産物ノ賃金ハ定額運賃ノ二割以上ヲ減ス

○明治三十五年十二月二十八日告示第七百九十七號

命令航路小樽天鹽線定期船明治三十六年一月ヨリ明治三十九年三月迄天鹽國留萌郡留萌ハ寄港ス其航海度數左ノ如シ

一航海期間及　毎年一月ヨリ三月迄毎月二回四月ヨリ十月迄毎月四回十一月十二月

航海度數　ハ二箇月ニ三回

○明治三十四年五月二十一日告示第二百十號

明治三十四年五月ヨリ明治三十九年三月ニ至ル間稚内網走線明治三十四年十月ヨリ明治三十九年九月ニ至ル間函館小樽線和助航海ハ之レヲ日本郵船株式會社ニ命令シタリ其航海線路航海度數等左ノ如シ

一　航海線路航海度數及其寄港地

稚内網走線

四月ヨリ十月迄毎月五回十一月及十二月毎月二回ノ航海ヲ爲シ往復航共枝幸紋別沃別ニ四月ヨリ十月迄毎月三回往復航共雄武常呂ニ十一月及十二月毎月二回往復航共常呂ニ十一月及十二月毎月二回往復航共雄武ニ寄港ス

函館小樽線

四月ヨリ十月迄毎月五回十一月ヨリ三月迄毎月三回ノ航海ヲ爲シ往復航共江差鰊都岩内ニ往航シ又ハ復航奥尻島鈎掛ニ寄港ス

右二線ハ相通シテ航海ヲ爲シ其中途ニ於テ船舶ヲ換フルコトナシ（三十四年十月告示第四百十二號ヲ以テ本項改正）

二　使用船舶ノ資格

稚内網走線函館小樽線ニハ總噸數七百噸以上最强速力一時間十海里以上ノ汽船ヲ用フ本船ニハ相通シテ航海ヲ爲シ其中途ニ於テ船舶ヲ換フルコトナシ（三十四年十月告示第四百十二號ヲ以テ本項改正）

二　使用船舶ノ資格

函館小樽線ニハ總噸數七百噸以上最强速力一時間十海里以上ノ汽船ヲ用フルコトアルヘシ

三　移住民ニ對スル待遇及農産物運賃ノ割引

本命令ノ航海船舶ニ依リ運搬スル移住民ニシテ法令ノ定ムル所ノ乘船割引券ヲ有スル者ノ旅客賃金及携帶品賃金ハ定額運賃ノ五割以上ヲ減ス第一號ノ各港ヨリ函館小樽ニ輸出スル農産物ノ賃金ハ定額運賃ノ二割以上ヲ減ス

○明治三十四年四月十九日告示第百六十四號

明治三十四年四月ヨリ明治三十九年三月ニ至ル間小樽天鹽間航海和助ハ小樽區藤山裏吉ト契約シ汽船利尻丸ヲ以テ之ニ充ツ其航路及航海度數等左ノ如シ

一　航路　仕立地　小樽　仕向地　天鹽

毎航往復毛利山別遠別ニ寄港シ九月ヨリ三月迄毎月一回往航又ハ復航鬼脇若クハ鰊泊ニ寄港ス

二　航海度數

四月ヨリ十月マテ毎月四回十一月十二月ハ二箇月ニ三回一月ヨリ三月マテ毎月二回合セテ三十七回トス

三　移住民ニ對スル待遇

移住民竝其帶携品ノ賃金ハ普通賃金ノ五割減トス但移住民乘船割引券ヲ有スル者ニ限ル

四　農産物ニ對スル割引

仕向地及寄港地ヨリ小樽ニ向ケ輸出スル其地方農産物ニ對シテハ普通賃金ノ二割五分減トス

五　航海船ノ積量

總噸數三百噸餘

○明治三十六年三月二十日告示第百九十八號

明治三十六年度自明治三十六年四月函館大津間補助航海ハ北海道渡島國函館區渡邊熊四郎ト契約シ汽船日ノ丸ヲ以テ之ニ充ツ其航路及航海度數等左ノ如シ

一　航路　仕出地渡島國函館　仕向地十勝國大津

往復航共廣尾寄港

二　航海度數　毎月五回

三　移住民ニ對スル待遇及運賃ノ割引移住民竝其携帶品ノ賃金ハ普通賃金ノ五割減トス但移民乘船割引券ヲ有スル者ニ限ル

人造肥料種苗及家畜ノ購買者カ法定農會若クハ明治三十三年法律第三十四號及勅令第二百五十五號ニ據リテ設立シタル農業者ノ購買組合ニシテ北海道農會ノ證明書ヲ有スルトキ又ハ明治三十四年北海道廳令第百三十號種牡牛馬買與規則ニ據リ運搬スル種畜ノ借用者又ハ返納者カ法定農會ニシテ北海道農會ノ證明書ヲ有スルトキ若クハ法定産牛馬組合ナルトキ

其レカ運送ヲ委託スル人造肥料種苗家畜及種畜ノ運賃ハ普通賃金ノ三割減トス

四　航海船ノ積量ノ總噸數二百七十六噸

○明治三十四年十二月二十八日告示第五百六十七號

明治三十五年四月ヨリ明治三十九年三月ニ至ル四箇年間郵便物運送及旅客貨物運搬ノ爲メ石狩川補助定期航行ハ之ヲ大倉組頭取大倉喜八郎ニ命令シタリ其航行線路航行度數等左ノ如シ

一　航行線路

江別石狩間　往復共茨戸ヒトイ當別太ニ寄航ス

江別月形間　往復航共幌向、下遠布、上遠布、奚唄遠布、奚唄、狐森ニ寄航ス

月形札的内間　往復航共札的内晩生内ニ寄航ス

二　航行度數

江別石狩間　四月二回五月ヨリ十一月迄毎月四回

江別月形間　四月四回五月ヨリ十一月迄毎月八回

月形札的内間　四月二回五月ヨリ十一月迄毎月四回

三　使用船舶ノ資格

總噸數三十噸以上最强速力一時間六哩以上ノ汽船二隻及淀川船十隻小廻船三隻ヲ用ユ

四　移住民ニ對スル待遇及農産物運賃ノ割引

本命令ノ航行船舶ニ依リ運搬スル移住民ニシテ法令ノ定ムル乘船割引券ヲ有スル者ノ旅客運賃及携帶品運賃ハ定額運賃ノ五割以上ヲ減ス第一號ノ各地ヨリ運出スル農産物ノ運賃ハ定額運賃ノ二割以上ヲ減ス

○明治三十五年三月六日告示第八十四號

日本郵船株式會社ハ明治三十五年四月一日ヨリ同三十八年九月三十日迄左記ノ場合ニ於テ人造肥料種苗及ヒ牛馬ニ對スル運賃ヲ二割五分割引スヘシ

一　本道ニ輸入シ若クハ本道内ヲ運搬スル人造種苗及ヒ家畜ノ購買者カ法定農會或ハ明治三十三年法律第三十四號及勅令第二百五十五號ニ據リ設立シタル農業者ノ購買組合ニシテ北海道農會ノ證明書ヲ有スルトキ

二　明治三十四年北海道廳令第百三十號種牡牛馬貸付規則ニ據リ運搬スル種畜ノ借用又ハ返納者カ法定農會ニシテ北海道農會ノ證明書ヲ有スルトキ

○明治三十五年三月十五日告示第百號

北海道後志國小樽區北濱町六町目一番地藤山裏吉ハ命令航路小樽天鹽線ニ於テ明治三十九年三月三十一日迄左記ノ場合ニ於テ人造肥料種苗及牛馬ニ對スル運賃ヲ三割割引スヘシ

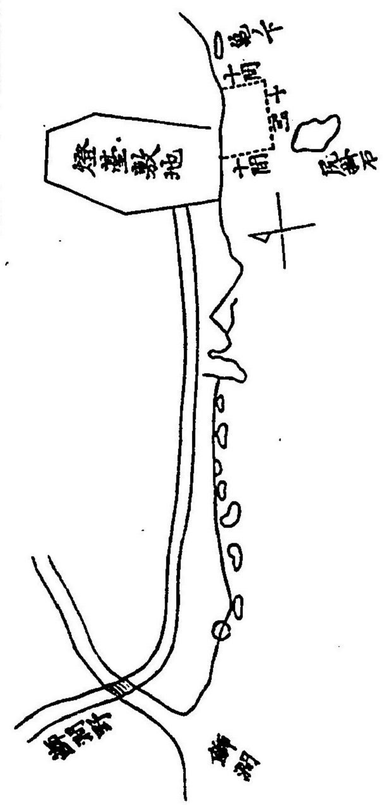
一　人造肥料種苗及家畜ノ購買者カ法定農會或ハ明治三十三年法律第三十四號及勅令第二百五十五號ニ據リ設立シタル農業者ノ購買組合ニシテ北海道農會ノ證明書ヲ有スルトキ

二　明治三十四年北海道廳令第百三十號種牡牛馬貸付規則ニ據リ運搬スル種畜ノ借用又ハ返納者カ法定農會ニシテ北海道農會ノ證明書ヲ有スルトキ若クハ法定産牛馬組合ナルトキ

○明治三十五年三月十五日告示第百號

北海道後志國小樽區北濱町六町目一番地藤山裏吉ハ命令航路小樽天鹽線ニ於テ明治三十九年三月三十一日迄左記ノ場合ニ於テ人造肥料種苗及牛馬ニ對スル運賃ヲ三割割引スヘシ

一　人造肥料種苗及家畜ノ購買者カ法定農會或ハ明治三十三年法律第三十四號及勅令第二百五十五號ニ據リ設立シタル農業者ノ購買組合ニシテ北海道農會ノ證明書ヲ有スルトキ



貸付規則ニ據リ運搬スル種畜ノ借用者又ハ返納者カ法定農會ニシテ北海道農會ノ證明書ヲ有スルトキ若クハ法定産牛馬組合ナルトキ

●航路標識

○明治九年十二月二十日開拓使札幌本廳甲第三十二號布達

今般高島郡手宮村新築波止場ヨリ凡二百間相隔テ浮標ヲ設ケ右浮標ヨリ北南ヘ距離三十尋ツヽノ海底ヘ定錨候ニ付其距離以内ヘ船舶碇泊不致樣其筋營業ノ者共厚ク注意可致此旨布達候事

○明治二十二年二月五日告示第十一號

渡島國松前郡白神崎燈臺保存用必要ニ付同燈臺ヨリ四方字師間野マテノ山腹通路左右各百間以内ニ於テ草木ヲ刈伐シ及同燈臺避雷線布設シアル海面左圖處線内ニ於テ漁業繫舟等ヲ爲ス可カラス

○明治三十一年二月八日告諭第一號
海岸望樓前ヲ通過スル西洋形商船ハ明治二十七年（八月）海軍省告示第九號ニ依リ船名符字信號旗ヲ掲揚スヘキ筈ノ處往往符字信號ヲ掲揚セスシテ望樓前ヲ通過スルノミナラス甚シキニ至テハ望樓ヨリ信號ヲ以テ其船舶ヲ問フモ更ニ應答ナク通過スル向モ有之趣右ハ甚不都合ニ候條自今望樓前ヲ通過スルトキハ前記告示第九號ヲ厳守シ必ス符字信號ヲ掲揚スヘシ

○明治三十二年二月二十二日告示第四十一號
ラオテアイシヤン燈臺（一名リアウテーシヤン崎臺）ハ毎年十二月十六日ヨリ五月一日マテ點燈ノ處自今週年中點燈ノ旨函館在勤露帝國副領事ヨリ通知アリ

●郵便

○明治三十一年一月十九日訓第十三號（支廳宛）
通信機關ハ社會發達ノ程度ニ伴フヘキハ勿論ナリト雖モ本邦ノ如キハ殊ニ拓殖ノ便否ト將來ノ發達トヲ考ヘ之ヲ實況ニ照ラシテ規畫スル處ナカルヘカラス今郵便電信ノ事業ハ直接本廳ノ事務ニ屬セスト雖モ拓地殖民上之レカ利便ヲ察シ以テ當局者ト協議參照スルハ忽諸ニ附スヘカラサル實務ナリトス依テ郵便電信局ノ設置其他ニ關スル取扱規程別冊ノ通相定メ候條自今右ニ依リ上申スヘシ
但シ規程第一條ノ上申ハ本年ニ限リ二月二十日限リ進達スヘシ

（別冊）

郵便電信局設置其他ニ關スル取扱規程

第一條　郵便電信局設置ノ必要アリト認ムル箇所アルトキハ左ノ事項ヲ調査シ毎年十一月三十日限（急設ヲ要スルトキハ其時時）上申スヘシ
一度上申シタルモノト雖モ其未タ設置セラレサル間ハ猶本條ニ依リ上申ヲ繼續スルヲ要ス
一　設局地所屬地及戸數人口　（第一號表）
二　輸出入品　（第二號表）
三　住民ノ職業及生計ノ概況
四　水陸運輸ノ狀況
五　官衙公署病院學校等ノ名稱及所在地
六　會社市場製造所鑛山等ノ名稱所在地及其種類
但工場及鑛山ニ付テハ其産出品ノ額及使役人ノ員數等ヲ記スヘシ
七　温泉名勝舊跡地ノ名稱所在地
但温泉等ニ就テハ一箇年浴客ノ概數及浴客群集ノ時季等ヲ記スヘシ
八　船舶停泊所及船舶出入　（第三號表）
九　殖民地及移住見込數　（第四號表）
十　郵便電信ニ係ル現在ノ狀況及設局ニ關スル意見
十一　圖面
圖面ニハ設局所屬ノ區域廣袤及見込線路等參考トナルヘキモノヲ詳記スヘシ但數局ヲ併セテ新設スル見込アルトキハ一枚ノ圖面ニ色分ナシテ記入スルヲ要ス

第二條　小包取扱所及郵便取扱所ハ郵貯金取扱所等ノ新設若クハ郵便電信線路又ハ郵便物運送集配等ニ關シ變更ヲ必要トスルトキハ前條ニ依リ上申スヘシ
但調査事項ハ必スシモ前條ニ依ルヲ要セスト雖モ參照トナルモノハ可成詳細取調添附スヘシ

第三條　人民ヨリ設局其他ノ請願ヲ逓信大臣又ハ長官ニ提出スルモノアルトキハ第一條第二條ニ依リ之ヲ調査シ意見ヲ添ヘ進達スヘシ
但爲ニ第一條第二條ニ依リ上申ナシタルモノアル時ハ其理由ヲ添附シテ進達スルコトヲ得

郵便電信局設置見込地戸口其他調（第一號表何年何月調）

設局地區別	地名	距離	交通ノ狀況	戸數	人口
設局地	何國何郡何村何字何里	現在所屬局ヲ距ル何丁近局何何ヲ距ル何里	道路種別及險易便否ヲ要記スヘシ		
同	同	同	同		
同	同	同	同		
同	同	同	同		
同	同	同	同		
同	同	同	同		
同	同	同	同		
同	同	同	同		
同	同	同	同		
同	同	同	同		
同	同	同	同		
同	同	同	同		
同	同	同	同		
同	同	同	同		
同	同	同	同		
同	同	同	同		

備考
何何ハ連携何戸ニ至リ市街ノ狀體ヲナシ何何ノ商家多シ云云ノ記事ヲナスヘシ

輸出入品調（第二號表）何年何月調（本表ハ最近一箇年ノ統計ヲ掲ケルモノトス）

設局地區別	地名	品目	輸出ノ部 數量	輸出ノ部 價格	輸入ノ部 數量	輸入ノ部 價格
設局地	何何	何何				
所屬地	何何	何何				

○明治三十二年十月十一日訓第五百八十八號（支廳又ハ戸長アラサル地若クハ戸長事務取扱者ヲ置カサル地）（區役所戸長役場宛）

三等郵便電信局長又ハ郵便受取所取扱人及其身元引受人若クハ身元保證人ノ資格調査上ニ必要ナル土地家屋ノ價格其所有者ヨリ證明方請求スル者アルトキハ其時價格ヲ評定シ之ニ證明ヲ與フヘシ

但價格ノ評定ハ適宜ノ方法ニ據ルヘシ

●工商

●銀行會社取引所

○明治三十年十一月五日廳令第六十三號

明治三十年（九月）農商務省令第十六號ニヨリ文書ヲ大臣ヘ提出シタルトキハ之ト同時ニ左記ノ文書ヲ當廳（所轄郡區役所ヲ經由）ヘモ差出スヘシ

一　商工事務ニ關シ一般人民及法人其他ノ團體ヨリ提出スル建議書請願書竝任意ノ報告書

二　商工事務ニ關シ一般人民及法人其他ノ團體ヨリ吏員派遣ノ申請書

三・株式會社ヨリ提出スル左記ノ報告

一　總會ニ於テ認定シタル每事業年度ノ計算書財産目錄貸借對照表事業報告書利息又ハ配當金分配ノ率

二　會社又ハ役員訴訟ノ當事業トナリタルトキ其訴件ノ要旨及年月日

三　前號訴件結了シタルトキ其結果及年月日

四　債券發行ニ關シ株式會社ヨリ提出スル左記ノ届書

一　債權者募集締切ノ年月日

二　募集金額

三　應募金額

四　申込價格ノ最高最低及平均

五　募集契約締結ノ最低價格及會社ノ實收スヘキ金額

六　每年債券拂込高及未拂込高

七　每年債券償還高既往累年償還總高及未償還高

八　債券償還讓受ノ人員及債金高

九　每年末季期現在債權者ノ員數

十・取引所開業届書

六　取引所ヨリ提出スル左記ノ報告及届書（三十一年十月廳令第七十五號ヲ以テ本項中改正）

一　每日公定相場表

二　每月實買高表

三　（削除）

四　（削除）

五　每年季財産目錄

六　每年季貸借對照表

七　每年季損益計算表

八　每年季末日現在會員株主仲買人氏名表

九　實買諸證據金及仲買人口錢額徵收率（三十一年十月廳令第七十五號ヲ以テ本項乃至十五項追加）

十　臨時休業届書

十一　立會時間變更届書

十二　代米格付表

十三　國債證券、地方債證券實買擧行届書

十四　仲買人廢業届

十五　商業會議所會員役員ノ就任退任届書

七　商業會議所會員役員ノ就任退任届書

○明治二十七年三月十二日訓第八十號（郡區役所宛）

銀行及貯蓄銀行出張所代理店ニ關スル取扱手續ハ明治二十六年十一月大藏省第三十五號訓令ノ次第モ有之候條右ニ該當スルモノアルトキハ其手續ヲ履行候樣取計其營業者ヘ通達致スヘシ

○明治二十七年七月六日訓第二百二十三號（小樽外六郡役所、松前郡役所、札幌區役所宛）

私立銀行營業報告書ハ銀行條例施行細則附圖雛形ニ準據スヘキハ勿論ニ候處其調製方粗漏誤謬ノ廉不勘向モ有之主務者ニ於テ非常ノ手數ヲ要スルノミナラス法律上公告ヲ要スル貸借對照表財産目錄等ハ大ニ銀行ノ信用ニ關スルモノニ有之萬一違法ノ廉等有之ニ於テハ不都合ニ付此際當業者ノ注意ヲ促カシ前顯ノ不都合無之樣遵スヘキ旨主務大臣ヨリ訓令有之候條右遵守取計フヘシ

○明治三十一年十月十九日廳令第七十四號

取引所ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル左記ノ各項ハ其都度支廳經由當廳ヘ届出ヘシ

一　株式（債券）實買擧行ノ認可ヲ受ケタルトキ

二　實買手數料徵收額ノ認可ヲ受ケタルトキ

三　取引所所有金預リ金保管方法ノ認可ヲ受ケタルトキ

四　特別契約倉庫設置ノ認可ヲ受ケタルトキ

○明治三十二年八月十七日廳令第六十六號

合名會社合資會社株式會社及株式合資會社ハ左ニ掲クル事項ヲ其都度所轄支廳ヲ經由シテ當廳ニ届出ツヘシ

一　登記ヲ受ケタルトキハ其事項及年月日

明治二十八年十一月北海道廳令第九十四號ハ自今廢止ス

○明治三十四年九月二十六日訓令第百十一號（支廳行ノ事業ヲ營ムモノ左ノ場合ニ該當スルトキハ支廳長區長ハ速ニ其年月日及事由ヲ調査シ北海道廳長官ニ報告スヘシ

一　支拂ヲ停止シ若クハ中止シタルトキ

二　營業ヲ廢止シタルトキ

三　破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ解散シタルトキ

●度量衡

○明治二十八年九月十三日廳令第六十一號

明治二十六年（二月）北海道廳令第二號度量衡取締規則左ノ通リ改正ス

但シ明治二十六年（四月）北海道廳令ハ廢止ス

度量衡取締規則

第一條　此規則ニ於テ製作者、修覆者及販賣者トハスルハ度量衡法ニ據リ免許ヲ得タル度量衡器ノ製作者修覆者及販賣者ヲ云ヒ使用者トハ營業ノ目的ニテ度量衡器ヲ使用スル者竝度量衡法第九條ニ於テ指定セラレタル實買授受證明ノ爲メニ度量衡器ヲ使用スル者ヲ云フ

第二條　製作者、修覆者、販賣者又ハ衡器販賣者ニシテ桿秤ノ取緒及錘絲（金屬ニアラサルモノ）ノ修覆營業届書ハ第五號書式ニ依ルヘシ

修覆ヲ兼ル者ハ其營業ノ種類竝氏名若クハ商號ヲ記載シタル標札ヲ營業所ノ戸外ニ掲クヘシ

第三條　度量衡器ノ檢定ヲ受ケントスル者ハ請求書ニ器物ヲ添ヘ直ニ度量衡檢定所ニ差出スヘシ

前項檢定ヲ除ク外度量衡ニ關スル願届書類ハ區長町村長戸長（戸長ヲ置カサル地ハ支廳長）ヲ經由スヘシ（三十二年十二月廳令第百二十號三十五年三月廳令第二十號ヲ以テ本項中改正）

第四條　製作者、修覆者及販賣者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　製作修覆ニ用フル原器ハ溫氣少ナク溫度ノ劇變ナク且ツ塵埃等ヲ避クヘキ場所ニ於テ堅牢ナル臺ヲ据テ安置スヘシ

二　製作者、修覆者ハ常ニ其原器ニ差狂ヲ生セサルヤ否ヲ注意シ若シ其疑アルトキハ直チニ臨時檢定ヲ受クヘシ

三　販賣者ハ販賣スヘキ度量衡器ニ差狂ヲ生セサルヤ否ヲ注意シ其疑アルモノハ販賣スヘカラス

四　製作、修覆ニ用フル材料ハ善良（例ヘハ木材ナレハ其質ヲ選フハ勿論能ク乾燥セシメ製作後差狂ヲ生スルノ虞レナキモノ）ノ物質ヲ選定スヘシ

五　販賣者ハ其器物各種ノ販賣價格竝桿秤ノ取緒及錘絲（金屬ニアラサルモノ）ノ修覆料ハ撰メ之ヲ定メ需用者ノ見易キ場所ニ掲示スヘシ

六　假計書ト實際ト差違ナキ樣注意スヘシ

第五條　度量衡法施行規則第四十一條ニ依リ當廳ニ差出スヘキ桿秤ノ取緒及錘絲（金屬ニアラサルモノ）ノ修覆營業届書ハ第五號書式ニ依ルヘシ（三十年九月廳令第五十三號ヲ以テ本號追加第五條以下樣下ク）

第六條　製作者クハ修覆ニ用フル原器ハ每年四月ヨリ十月ノ期間ニ於テ檢定ヲ受クヘシ

正當事由アリテ本條ノ期間ニ於テ檢定ヲ受クヘシコト能ハサルトキハ其年内ニ在テ受檢期ノ伸縮ヲ許可スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ撰メ北海道廳長官ニ出願スヘシ（三十年九月廳令第五十三號ヲ以テ改正）

第七條　衡器販賣者ニシテ桿秤ノ取緒及錘絲ノ修覆ヲ爲シタルトキ差狂アリト認ムルニ於テハ其修覆者ヘ通知シテ器物ヲ返付スヘシ

使用者ハ販賣者ヨリ前項ノ通知ヲ得タルトキハ該器物ヲ其儘使用スヘカラス

第八條　度量衡法施行規則第四十三條ノ届書ニハ左ノ事項ヲ詳記シ區長町村長戸長（戸長ヲ置カサル地ハ支廳長）ニ届出ツヘシ（三十年九月廳令第五十三號三十二年十二月廳令第百二十號三十五年三月廳令第二十號ヲ以テ本條中改正）

一　桿秤ノ物質、秤量、年號及番號

二　差狂アリト認メタル廉

三　使用者ノ職業住所氏名又ハ度量衡法第九條末項ノ諸建設場

第九條　製作者、修覆者及販賣者ハ各別ニ營業明細簿ヲ備ヘ置キ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　製作者ニ在テハ製作品ノ物質、種類、個數販賣數（販賣者ヘ販賣シタル數ト使用者ヘ販賣シタル數トヲ區別スヘシ）竝販賣代價

二　修覆者ニ在テハ修覆品ノ物質、種類、個數、修覆料

三　販賣者ニ在テハ販賣品ノ物質、種類、仕入數、同代價、仕入先ノ住所氏名、販賣數、同代價

四　桿秤ノ取緒及錘絲ノ修覆ヲ爲ス者ニ在テハ其修覆品ノ秤量、個數、修覆料

第十條　製作者修覆者及販賣者ハ第一號第二號及第三號書式ニ依リ每年一月ヨリ十二月ニ至ル一箇年間ニ於ケル統計表ヲ調製シ翌年一月三十一日限リ北海道廳長官ニ差出スヘシ（三十三年十二月廳令第百二十號ヲ以テ本條改正）

第十一條　桿秤ノ取緒及錘絲ノ修覆ニ限リ製作者修覆者及販賣者ハ第四號書式ニ依リ前年四月ヨリ其年三月ニ至ル一箇年間ニ於ケル統計表ヲ調

製シ毎年四月十五日限リ北海道長官ニ届出スヘシ

第十二條　使用米ハ左ノ事項ヲ心得ヘシ

一　度量衡器ノ構造ニ異狀ヲ呈スルカ或ハ其性質ヲ生シタルモノハ之ヲ使用スヘカラス

二　度量衡器ニ糞尿其他外物附着シ貿メニ容量ヲ減印ニ特減ヲ生セサル樣容ニ注意スヘシ

三　混印既容ヲ識別シ難キモノハ又ハ既容ヲ計量ニハ其容ヲ出容ヲ淡付スヘシ

四　容量ノ目的ニ使用セサル度量衡器ハ容量ノ検定請求ヲ為ニハ其容ヲ出容ヲ淡付スヘシ

第十三條　北海道長官ハ必ヲ検査ヲ為サシム

第十四條　取締吏員臨検ノ際ハ取締吏員タルノ証ヲ携帯セシム

第十三條　北海道長官ハ必ヲ検査ヲ為サシム

製作所、修理所、販賣所及使用米ノ場所ヲ臨検スヘシ

第十四條　取締吏員臨検ノ際ハ取締吏員タルノ証ヲ携帯セシム

第一號様式（用紙美濃紙）（度量衡器各別ニ調製スヘシ）

明治何年至自何月何日何器製作販賣表

種類	物品	製作數（容量）（全量）（積量）	販賣者ヘ販賣數	同代價	使用者ヘ販賣數	同代價	合計販賣數	同代價
合計								
備考								

右ノ通リ相違無之候也

明治　年　月　日

北海道長官某殿

郡區町村市地何器製作者

何

某

第二號様式（用紙美濃紙）

明治何年至自何月何日何器修理表

種類	修理數	修理料
合計		

右ノ通リ相違無之候也

明治　年　月　日

北海道長官某殿

郡區町村市地何器修理者

何

某

第三號様式（三十五年三月勅令第二十號ヲ以テ米様式変正）

明治何年至自何月度量衡器販賣表

度器種類		前年度越高	仕入數	卸賣數	小賣數
直尺	尺				
	メートル				
曲尺	尺				
	メートル				
丈尺	尺				
	メートル				
定尺	尺				
	メートル				
鑑尺	尺				
	メートル				
鯨鯨尺					
鯨鯨尺					
鯨鯨尺					
計					

度器販賣價格

量器種類	前年度越高	仕入數	卸賣數	小賣數
何斗				
何升				
何合				
何勺				
何リットル				
計				
斗桶				

量器販賣價額

衡器種類		前年度越高	仕入高	卸賣數	小賣數
分銅	貫				
	キログラム				
天秤	貫				
	キログラム				
蛮秤	貫				
	キログラム				
製木秤秤	貫				
	キログラム				
製鉄金秤秤	貫				
	キログラム				
計					

衡器販賣價格

備考

一　一器ニ尺及「メートル」又ハ貫及「キログラム」ヲ目盛ヲ付スルモノハ尺又ハ貫ノ部ニ計入スルコト

一　分銅ハ組ヲナスモノハ組數ヲナスモノハ個數ヲ記入スルコト

一　秤及半製秤ハ木製ノ部ニ計入スルコト

右ノ通リ相違無之候也

明治　年　月　日

北海道長官　殿

郡區町村市何地何器販賣者

某

第四號様式（用紙美濃紙）

明治何年至自何月秤ノ取締及鑑査表

秤量	箇數	作料

合計		

右之通リ相違無之候也

郡區町村字地何製作修覆又ハ販賣者

明治　年　月　日　何　某

北海道廳長官　某　殿

第五號様式（用紙英法紙）

（三十年九月廳令第五十三號ヲ以テ追加）

桿秤修覆錘秤

郡區町村字地

衡器販賣者

何　某

右令規則第一條ノ分銅及秤架其他附屬品相備ヘ桿秤ノ取締及錘秤ニシテ金圓殷御用候モノハ修覆錘秤致候ニ付度量衡法施行規則第四十一條ニ依リ此段御屆候也

明治　年　月　日　何　某印

北海道廳長官　某　殿

右

（別紙）

分銅

何貫　何匁　何ヶ匁ニ何個

〃　〃　〃〃〃

以上

秤架　何個

但附屬品共

右ノ外雜具一切

○明治三十八年九月十三日勅令第三十二號（郡區役所戶長役場規程）

度量衡取締規則左ノ通リ定ム

但シ明治三十六年（二月）北海道勅令第二號ハ廢止ス

度量衡取締手續

第一條　明治二十四年法律第三號度量衡法第十一條ニ非キ區長町村長戶長（戶長ヲ置カサル地ハ支廳長）ハ其部內度量衡器ノ取締ヲ爲スヘシ

度量衡定期檢定ヲ施行スル爲メニ特設檢定所ヲ開設スルトキハ支廳長區長町村長ハ相當ノ準備ヲ爲シ以テ檢定ニ關スル事務ヲ補助スヘシ（三十二年十二月勅令第八十六號三十五年勅令第十七號ヲ以テ本條改正）

第二條　區長町村長戶長（戶長ヲ置カサル地ハ支廳長）ハ其部內ニ於ル製作者、修覆者及販賣者ノ氏名ヲ北海道廳ニ報告スヘシ

（三十二年十二月勅令第八十六號三十五年三月勅令第十七號ヲ以テ本項改正）

前項ノ主任者ヲ定メタルトキハ其氏名ヲ北海道廳ニ報告スヘシ（三十二年十二月勅令第八十六號三十五年三月勅令第十七號ヲ以テ本項改正）

名稱ヲ備ヘ種類別個數及住所氏名、營業所、營業ノ種類及開始年月日其他必要ナル事項ヲ記載シ爾後毎月末日其他必要ナル事項ニ變動アル時ニ之ヲ加除スヘシ（三十二年十二月勅令第八十六號三十五年三月勅令第十七號ヲ以テ本條中改正）

第三條　區長町村長戶長（戶長ヲ置カサル地ハ支廳長）ハ其部內ニ於ル製作所、修覆所、販賣所及使用者ノ度量衡器ヲ毎年一回以上時ヲ定メ檢査スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ其部分ヲ限リ特ニ臨檢スヘシ（三十二年十二月勅令第八十六號三十五年三月勅令第十七號ヲ以テ本條中改正）

前項ノ主任者ヲ定メタルトキハ其氏名ヲ北海道廳ニ報告スヘシ（三十二年十二月勅令第八十六號三十五年三月勅令第十七號ヲ以テ本項改正）

第四條　製作所、修覆所及販賣所ニ臨檢シタルトキハ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一　營業所ノ位置及構造ニ變更ナキヤ否

二　製作、修覆及販賣ニ用ヒル器具ノ數等

四　前各項ノ外勅令第四條ニ規定ノ事項ニ違フコトナキヤ否

第五條　使用者ノ度量衡器ヲ臨檢シタルトキハ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一　度器ノ一部ヲ缺クヘ圓形ヲ減シタル者又ハ破損ヲ生シタルモノ又ハ破損ヲ生シタルモノナキヤ否

二　檢尺及繩尺ノ接續ニ緩ヲ生シ或ハ變形ヲ生シタルモノナキヤ否

三　度器ノ目盛及金具ノ表記等ニ磨滅シタルモノナキヤ否

四　度器ニ錆蝕其他容量ノ減スヘキモノ附着セサルヤ否

五　計機ノ側面ニ凹凸ヲ生シ若クハ起撓シタルモノナキヤ否

六　金量其他ノ表記磨滅シタルモノナキヤ否

七　衡器ノ桿ニ起撓シタルモノナキヤ否

八　秤量ノ表記及目盛等磨滅シタルモノナキヤ否

九　桿秤ノ取糸ハ針ニ曲リタルモノナキヤ否

十　桿秤ノ取締及錘秤ノ不正ナルモノナキヤ否

十一　分銅、取締及錘秤ニ錆其他異狀ニ關スル外物ノ附著シタルモノナキヤ否

十二　前各項ノ外構造ニ異狀ヲ生シタルモノナキヤ否

十三　度器衡器ニ濫用セラルヘキモノナキヤ否

十四　法律命令ニ抵觸ノ虞ナキヤ否

第六條　本則第四條第五條ノ調査ニヨリ不完全ノ器物ヲ認メタルトキハ修理ヲ命シ又ハ使用ヲ禁止ムヘシ

但度量衡法第十五條ニ該當セルモノアルトキハ相當ノ手續ヲ爲スヘシ（三十二年十二月勅令第八十六號ヲ以テ本條中改正）

第七條　臨檢ノ際調査スルモノ非都度北海道廳長官ニ報告スヘシ（三十二年十二月勅令第八十六號ヲ以テ本條中改正）

第八條　衡器販賣者ニシテ度量衡取締規則第八條規定ノ屆出ヲ受ケタルモノハ第一條使用者ノ器物ニ限リ臨檢スヘシ（三十二年十二月勅令第八十六號ヲ以テ本條中改正）

第九條　度量衡ニ關スル法律命令ニ違犯アルコトヲ認知シ又ハ違犯アリト思料シタルトキハ遲滯ナク北海道廳長官ニ報告スヘシ

第十條　臨檢ノ際構造スヘキ器具ハ北海道廳長官之ヲ交付スヘシ約束臨檢等セントキハ北海道廳長官ニ申請スヘシ

第十一條　取締上必要ナリト認メタルトキハ臨檢定期ノ臨檢ヲ請求スルコトヲ得

第十二條　度量衡檢定所ヲ經由シ北海道廳長官ニ臨檢報告書（製作、修覆、販賣所別ニスヘシ）

（三十二年十二月勅令第八十六號三十五年三月勅令第十七號ヲ以テ本條中改正）

前項ノ器物ハ本則第六條ノ例ニ準シ處分シ其顛末ヲ北海道廳長官ニ報告スヘシ

第十三條　度量衡法第十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ罰則ニ處シ其器物ハ沒收ス

第十四條　法律命令ニ抵觸ノ虞ナキヤ否

第十五條　本則第四條第五條ノ調査ニヨリ不完全ノ器物ヲ認メタルトキハ修理ヲ命シ又ハ使用ヲ禁止ムヘシ

但度量衡法第十五條ニ該當セルモノアルトキハ相當ノ手續ヲ爲スヘシ（三十二年十二月勅令第八十六號ヲ以テ本條中改正）

第十六條　臨檢ノ際構造スヘキ器具ハ北海道廳長官之ヲ交付スヘシ約束臨檢等セントキハ北海道廳長官ニ申請スヘシ

第十七條　臨檢ノ際構造スヘキ器具ハ北海道廳長官之ヲ交付スヘシ約束臨檢等セントキハ北海道廳長官ニ申請スヘシ

（三十二年十二月勅令第八十六號三十五年三月勅令第十七號ヲ以テ本條中改正）

度量衡器製作（修覆）（販賣）所臨檢成績報告			何郡支廳區役所（戶長役場）役所
種類	個數	臨檢月日	製作（修覆）（販賣）者氏名
計			
備考		臨檢者氏名	

備考欄ニハ破壞其他ニ過ヘサルヤ否ヤニ付詳記スヘシ

度量衡使用者臨檢成績報告（第十二條ヲ以テ本條中改正第八十六號）		何郡支廳區役所（戶長役場）
度品		

種類	個數	前回ノ個數ト比較増減	不完全ノ器物個數	區町村別	臨檢戸數
直尺（本邦系）（「メートル」系）	〃	〃	〃		
鯨尺					
曲尺					
巻尺					
鏈尺					
計					
量器					
種類	個數	前回ノ個數ト比較増減	不完全ノ器物個數	區町村別	臨檢戸數
金屈枡	〃	〃	〃		
鍛葉枡					
木製枡					
玻璃枡					
計					
斗概					
計					
衡器					
種類	個數	前回ノ個數ト比較増減	不完全ノ器物個數	區町村別	臨檢戸數
分銅	〃	〃	〃		
天秤					
棹秤					
金屈枡秤					
木製枡秤					
計					

備考

一 象牙及骨製枡秤ハ便宜木製ノ部ニ算入スヘシ

一 市街中ニ數多ノ町名アル者ハ單ニ其總稱例ヘハ小樽根室ニ於ルノ類ヲ一箇町ト見做スヘシ

一 不完全ノ器物ニ對スル處分ノ要點（何個修繕、何個使用ヲ差止ム）ヲ三器毎ニ備考欄ニ掲クヘシ

一 臨檢月日ハ備考欄ニ掲クヘシ

右臨檢ノ成績報告候也

明治　年　月　日

區長町村長戸長（戸長ヲ置カサル地ハ支廳長）　氏　名

北海道廳長官　某　殿

臨檢者　氏　名

備考

○明治二十六年二月二十五日告諭第一號

本年一月一日ヨリ度量衡法施行ニ付テハ之レカ取締ニ關シ追追發令セシ次第モ之レアリ然ルニ爾來實施ノ日尚淺キヲ以テ其取扱上或ハ舊慣ニ泥ミ不知不識法律命令ニ違背スルモノナキヲ以テ保セス因テ今後各免許者及使用者ニ於テ最モ心掛ヲ要スル廉廉ヲ左ニ列擧ス各自克ク此意ヲ體シ務メテ犯則ニ陷ラサル樣篤ク注意スヘシ

一 メートル法度量衡器（例ヘハ「メートル」ノ目ヲ盛リタル度器「リットル」量器「グラム」秤）ニシテ檢定ノ印章ナキモノハ賣買授受又ハ證明ノ目的ニ使用スヘカラサルニ付之ヲ所持スル者ハ速ニ之レカ檢定ヲ受クヘキ事

一 玉尺（球又ハ林木等ノ徑ヲ度ルニ用フルモノ）ハ從來度量衡器タルノ制裁ヲ受ケスシテ製作販賣又ハ使用セル者アレトモ此等ハ法律ノ規定ニ據ラサレハ製作販賣使用スヘカラサル事

一 名稱命位一定セサレハ物品授受上往往錯誤ヲ生シ易シ是等ハ舊來ノ習慣ニ倣ハス斤ハ百六十匁ヲ以テ算シ量器ハ一杯二杯ト唱フルヲ止メ桝目ノ名稱ヲ用フヘキ事

一 從來牛乳油類ヲ量ルニ往往規定ノ量器ヲ用ヰサルモノアリシヤニ聞ク是等ハ正當ノ量器ヲ用フヘキ事

○明治二十九年三月二十八日勅令第十五號（郡區役所宛）

度量衡營業者ノ身元保證物ヲ收納シ又ハ返還シタルトキハ保證物ノ種類金額出納ノ年月日ヲ當該度量衡檢定所ヲ經由シテ當廳ヘ報告スヘシ又同營業者ニ於テ度量衡法施行規則第三十六條同第三十九條ノ期限内ニ身元保證物ヲ納メサルトキモ同樣ニ

報告スヘシ

○明治三十年二月四日告示第十八號

度量衡法施行規則第三十五條ニ據リ當廳ヘ納入スヘキ身元保證金預入レ銀行ヲ左ノ通リ指定ス

（三十二年五月告示第百二十八號ヲ以テ本項中及銀行名改正）

合名會社三井銀行函館支店
同　小樽支店
株式會社北海道商業銀行
同　札幌支店
同　室蘭支店
同　岩内支店
株式會社小樽銀行
同　岩内支店
同　余市支店
同　古平支店
同　増毛支店
株式會社江差銀行
株式會社松前銀行
日本銀行北海道支店（函館）
同　小樽出張所
株式會社札幌貯蓄銀行
株式會社北海銀行
同　小樽支店

（三十四年九月告示第三百八十六號ヲ株式會社小樽貯蓄銀行削除）

株式會社江差貯蓄銀行
株式會社百十三銀行
同　小樽支店
株式會社函館銀行
株式會社函館貯蓄銀行
株式會社二十銀行根室支店
同　函館支店
同　小樽支店
株式會社日本商業銀行小樽支店
株式會社第三銀行函館支店

（三十四年九月告示第三百八十六號ヲ以テ合資會社安田銀行函館支店削除）

合資會社田中銀行小樽支店
株式會社根室銀行

○明治三十四年九月十九日告示第三百八十五號

度量衡法施行規則第三十五條ニ依リ當廳ニ納入スヘキ身元保證金預ケ入レ銀行左ノ通指定ス

株式會社拓植銀行
株式會社札幌貯蓄銀行旭川支店
株式會社北海道商業銀行若見澤出張所
株式會社根室銀行釧路支店
株式會社根室銀行帯廣支店
株式會社根室銀行浦河支店
株式會社根室銀行網走支店
株式會社薩都銀行
株式會社江差貯蓄銀行
株式會社十二銀行小樽支店

○明治二十六年二月四日告示第三號

明治二十四年（三月）法律第三號度量衡法第十二條ニ依リ臨檢スル當該吏員ノ携帶スヘキ證票ハ左ノ如シ

（三十五年三月告示第八十五號ヲ以テ本項及證票中改正削除）

○明治三十六年二月二十五日告示第百三十七號

札幌區北海道廳構内ニ當置度量衡檢定所ヲ札幌常置度量衡檢定所ト稱シ來ル四月一日ヨリ開廳從來函館區ニ當置シアル當置度量衡檢定所ヲ函館當置度量衡檢定所ト稱ス

○明治三十六年二月二十五日告示第百三十八號

札幌當置度量衡檢定所及函館當置度量衡檢定所ノ管轄區域左ノ通リ定ム

表

北海道廳

總印

表

三寸

第號

北海道廳

度量衡取締吏員ノ證

總割印

二寸

檢定所名	所在地	管轄區域
札幌當置度量衡檢定所	札幌	札幌區、小樽區、札幌支廳管内一圓、小樽支廳管内一圓、岩内支廳管内一圓、増毛支廳管内一圓、宗谷支廳管内一圓、空知支廳管内一圓、網走支廳管内一圓、上川支廳管内一圓、室蘭支廳管内一圓
函館當置度量衡檢定所	函館	函館區、函館支廳管内一圓、松前支廳管内一圓、檜山支廳管内一圓、薩都支廳管内一圓、浦河支廳管内一圓、河西支廳管内一圓、釧路支廳管内一圓、根室支廳管内一圓、紗那支廳管内一圓

○明治三十六年二月十六日訓第百四十八號（殖民部宛）

當置度量衡檢定所處務規程左ノ通リ定メ本年四月一日ヨリ施行ス

當置度量衡檢定所處務規程

第一條　度量衡檢定所ハ殖民部通商課ニ屬ス

第二條　度量衡檢定所ニ所長一人所員若干名ヲ置キ通商課員ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　所長ハ所務ヲ掌理シ所員ノ勤怠ヲ監視シ其身分ニ關シテハ殖民部長ノ指揮ヲ受クルモノトス

第四條　所長ハ事務處理ノ爲メ其所ニ屬スル處務心得ヲ制定シ殖民部ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　所長ハ配賦經費ノ範圍内ニ於テ管内ニ出張シ及所員ヲ出張セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ其都度之ヲ本廳長官ニ報告スヘシ

第六條　左ノ事項ハ所長限リ處理スルコトヲ得

一　度量衡器現品檢定ノ事
一　記號屆受理ノ事
一　成規例アル願届等文書ノ訂正ヲ命シ若ハ期限アル報告等遲延ノ際之ヲ督促スル事
一　免許狀指令書等ヲ交付スル事
一　度量衡器臨檢、成績報告處理ノ事
一　支廳區町村戸長役場事務取扱主任異動報告處理ノ事
一　前各項ニ關シ所名ヲ以テ管内各官衙及當業者ニ照會應答ノ事

第七條　所長ハ配付經費ノ範圍内ニ於テ傭人ヲ使用スルコトヲ得

●物　價

○明治三十四年一月十日訓第十二號（區役所宛）

其所所在地ニ於ケル別記物品ノ毎月平均相場翌月十五日限リ報告スヘシ

札幌區役所

物品	空知夕張都巻別	上川	同
トドマツ、エゾマツ、ゴヨウマツ、イヌエンジュ、カツラ、センノキ、ヤチダモ、アカダモ、ドロヤナギ、キワダ、イタヤ、シナノキ、オヒヨウ、ホノキ、桂木、		同	同
塊炭、粉炭		上、中、下	同
煉化石、燒過、耐火、		上、中、下	同
鑛油、白絞油、種油			

物品		
精米	下等	（船賃用）
精米		（軍隊用）
玄米		同　上
大麥		（軍隊馬糧用）
乾草		同　上
藁		同　上
堅炭		同　上
セメント		九州澤野、中央、小野田、日本、大阪各會社製品及舶來品
挽割麥		（船賃用）
蕎麥		同　上
精麥		同　上
三河木綿		

●工　業

○明治三十二年三月三十一日廳令第二十五號

他人ノ損傷セル鐵物ヲ買入製煉スル者又ハ砂鐵ヲ製煉スル者ハ左ノ雛形ニ依リ一箇年ノ工程ヲ豫年一月限リ製煉地ヲ管轄スル戸長役場及支廳ヲ經由シテ當廳ヘ報告スヘシ

新ニ製煉業ヲ開始シ又ハ廢業シタル者其ノ工程一箇年ニ滿タサルトキ亦同シ

明治三十一年ノ製煉工程ハ本年四月限リ本令ニ依リ報告スヘシ

雛形（用紙美濃紙）正副二通

明治（何）年（何）鍛製煉業明細表

製煉工場位置	何國何郡何町村字何何番地	鍛製煉人	住所氏名	鍛品	種別	越高	買入高	製品	種別	越高	製出高	販賣	數	代價	殘高	記事

明治三十二年北海道廳令第二十五號ニ依リ報告候也

明治何年一月　日

北海道廳長官男爵氏　名宛

右　何某印

注意

種別ノ欄ニハ総高以下各欄ニ記入スヘキ鍛品製品ノ各種類ヲ列記スヘシ

第品ハ買ヲ単位トシ製品ノ内金、銀ハ匁其ノ他ハ斤ヲ単位トス但鍛品製品ノ區別ナキ燃料ハ買石油ハ升ヲ単位トス

砂鐵ヲ製煉スル場合ニ於テハ自己ノ採取セルモノト買入レタルモノトヲ問ハス同一ニ買入高ノ欄ニ記入スヘシ

鍛業條例ニ所謂鍛業人ト雖モ買入鍛物ニ係ル分ハ総テ本表ニ記入スヘシ

○明治三十二年三月三十一日調令第十六號（文廳発）

明治三十二年三月北海道廳令第二十五號ニ依リ他人ノ掘採セル鍛物ヲ買入レ製煉スル者又ハ砂鐵ヲ製煉スル者ノ工程報告書ヲ受クルトキハ管轄内取纏メ毎年二月十五日限リ進達スヘシ但本廳令ニ違背スルモノナキトキハ其旨報告スヘシ

明治三十一年ノ製煉工程報告書ニ限リ本年五月十五日迄ニ進達スヘシ

明治二十七年八月北海道廳調令第四十九號ハ廢止ス

●農事

●諸害豫防驅除

○明治二十九年七月二十五日廳令第四十號

田圃害蟲驅除豫防規則左ノ通リ相定ム

田圃害蟲驅除豫防規則

第一條　此規則ニ於テ害蟲ト稱スルハ左ニ掲クル蟲類ヲ謂フ

一　螟蟲（飛螟）

一　地蠶（夜盜蟲）

第二條　驅町村ノ區域ニ據リ公選ヲ以テ害蟲豫防委員ヲ置クヘシ

害蟲豫防委員ハ區戸長之ヲ定ム但本則中區戸長ト稱スルハ戸長ナキ地ノ郡長ヲモ包含ス

第三條　害蟲豫防委員ハ官吏又ハ區戸長ノ指揮ヲ承ケ害蟲ノ驅除豫防ヲ擔當スヘシ

第四條　田圃ノ作人ハ其田圃ニ害蟲發生セシヲ認知シタルトキハ直ニ害蟲ヲ添ヘ區戸長ニ届出驅除豫防ニ著手シ同時ニ害蟲豫防委員及接近地ノ作人ニ通告スヘシ

第五條　田圃ニ害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ區戸長ハ豫メ期限ヲ定メ其田圃ノ作人ニ驅除豫防ヲ爲サシムヘシ

前項ノ指揮ヲ受ケタル田圃ノ作人ハ其期限内ニ驅除豫防ヲナスヘシ

第六條　害蟲蔓延シ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ區戸長ハ驅除地區ヲ定メ其地區内田圃ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ爲サシムヘシ

前項ノ指揮ヲ受ケタル田圃ノ作人ハ驅除豫防ヲ怠ルコトヲ得ス

第七條　驅蟲地區ヲ定メ驅除豫防ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ要スル經費又ハ人夫ハ區町村費若クハ區町村ノ夫役トシテ賦課スルコトヲ得

第八條　區戸長ハ害蟲蔓延又ハ蔓延ノ兆アリト認メタルトキハ其旨ヲ所轄部内ニ公示シ仍ホ他ノ部内ニ蔓延セントスル兆アルトキハ關係區戸長ニ急報スヘシ

第九條　第八條ノ急報ヲ得タル區戸長ハ直ニ其旨ヲ害蟲發生地接近ノ部内ニ公示シ第五條第六條ニ據リ驅除豫防ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條　驅蟲地區ヲ定メ驅除豫防ヲ行フトキハ區戸長ハ左ノ事項ヲ取調當廳（戸長ハ郡役所ヲ經由山）及所轄警察官署ニ急報スヘシ

一　害蟲ノ名稱及其發生地名

二　害蟲發生又ハ發見月日

三　驅蟲地區内町村名（字ヲ以テ地區ヲ定メタルトキハ其字名）

四　驅除豫防ニ著手ノ月日

五　被害作物ノ種類及被害見積反別

六　被害ノ狀況及驅除豫防ノ方法

第十一條　害蟲ノ驅除豫防ヲ行フトキハ區戸長ハ五日毎ニ其狀況ヲ當廳（戸長ハ郡役所經由）ニ報告スヘシ驅蟲地區ヲ定メ驅除豫防ヲ行フタルトキハ區戸長ハ害蟲驅除豫防報告樣式ニ據リ其都度當廳（戸長ハ郡役所經由）ニ報告スヘシ

第十二條　害蟲ノ驅除豫防方法ハ官吏又ハ區戸長若クハ害蟲豫防委員ノ指揮ニ從フヘシ

第十三條　官吏區戸長若クハ其指揮ヲ受ルタル者ハ臨時人ノ田圃ニ入リ害蟲ノ驅除豫防ニ從事スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ土地所有者管理者又ハ使用者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條　第四條ノ届出又ハ第五條第二項第六條第二項ノ驅除豫防ヲ怠リタル者若クハ第十二條第十三條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十五條　第一條ニ掲クル蟲類田圃以外ノ地ニ蔓延シ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若クハ第一條ニ掲クル以外ノ蟲類田圃又ハ田圃以外ノ地ニ蔓延シ若クハ蔓延ノ兆アリ區戸長ニ於テ驅除豫防ノ必要アリト認メタルトキハ當廳ノ認可ヲ經驅除豫防ヲナサシムルコトヲ得但シ此場合ニ於テハ總テ此ノ規則ヲ適用ス

○明治三十年七月二十七日告諭第四號

近來各地ニ地蠶（夜盜蟲）發生シ尚蔓延ノ虞アルニ付該蟲ノ發生ヲ認メタル時ハ左ノ方法ニヨリ驅除豫防法ヲ行ヒ不測ノ災害ヲ被ラサル樣篤ク注意ス

害蟲驅除豫防報告樣式（各害蟲ニ區別スヘシ）

| 害蟲名 | | | | | | | | | | | | | | | |

第一　蛾發生シ産卵スルトキ

一　燈火誘殺　六七月或ハ九月頃ニ蛾ノ發生スルヲ認メナハ四方ヲ玻璃ニテ張リタル角燈（普通ノランプニテモ可ナレト風雨等ノ爲メ火ノ滅セサランコトヲ要ス）ニ點火シ日没ヨリ夜十時頃迄畑地ノ處處ニ地上二尺位ニ釣リ大ナル盥ニ水ヲ盛リ石油ヲ少シク注加シ其下ニ置クトキハ蛾飛來リテ玻璃板ニ中リ水ニ墜リテ死スヘシ

二　糖蜜誘殺　黒砂糖（臭氣高キ程可ナリ）ニ醋又ハ酒ヲ混シ煮テ飴樣ノ濃汁トナシ并又ハ金盥等ニ入レ畑地ノ處處ニ備置クヘシ然ルトキハ蛾其臭氣ヲ嗅ヒ來リテ之ニ墜ルヘシ

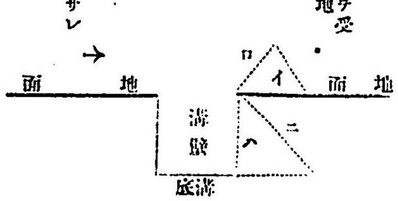
三　卵子摘殺　蛾産卵スルヲ見ハ注意シテ作物ノ葉裏又ハ莖ノ下部ヲ檢シテ之ヲ摘殺スヘシ卵子ハ大抵一個處ニ百個以上モ附著セルヲ以テ之ヲ摘殺スルハ甚有效ナリ

第二　卵子孵化シテ幼蟲發生シタルトキ

一　網羅捕獲　亞麻畑等ニ發生シタル際ニハ網羅捕獲ヲ行フヘシ之ニ用ユル網袋ハ長サ六尺幅三尺位ノ寒冷紗（綿布油紙又ハ濾紙ニテ作ルモ可ナリ）ニテ作リ之ニ籐竿又ハ金線ナル樹枝等ヲ以テ作リタル圓形ノ綵框ヲ付シ害蟲作物ノ梢頭ニ上リ來ル折ヲ見計ヒ之ヲ捕ヒナカラ行クヘシ害蟲ハ驚ルレハ忽チ落ツルノ性アルカ故ニ自ラ網袋ノ中ニ陷落スルナリ

二　明溝設置　地蠶ハ生長スルニ從ヒ漸次他ニ移動スルヲ以テ發生セル地ノ周圍ニ溝ヲ掘リ害蟲ヲ陷レテ驅除スヘシ溝ハ幅ハ九寸深サ一尺位ニ掘リ其掘取リタル土ハ圍中（イ）ノ如ク被害ヲ受ケサル畑地ノ方ニ山形ニ積上ケ其溝ニ面セル處ノ土壌（ロ）ヲ粉碎シ害蟲繭絲セントスル際其細土ニマブレテ溝中ニ陥落スル樣ナシカクコト甚肝要ナリ又被害ヲ受ケサル畑地ノ方ノ溝壁ハ之ヲ垂直（ハノ如シ）ニナスカ或ハ（ニ）ノ如ク深ク掘込ミ倘其面ナレーキ、クマサウヒ等ニテ掻キ崩クヘシ又溝底ニ更ニ二間位ヲ距テテ長サ一尺深サ八九寸ノ穴ヲ掘置クヘシ又凡テ害蟲ノ繭絲ヲ便ニスル際芥草木等ヲ除去スヘシ而シテ朝夕巡見シテ穴中ニ集マリタル害蟲ヲ枠ノ先等ニテ潰殺スヘシ

明溝ノ横断面



既ニ食害サレタル畑地

イハ害蟲ノ移動スル向方ヲ示ス

三　壓殺　被害甚シク收穫ノ望ナキトキハ輾軸（ロラー）（徑二尺長サ四尺位ノ丸太ニテ可ナリ）ヲ馬ニ牽カシメ縱横ニ畑地ヲ鎮壓スヘシ然ルトキハ害蟲ハ大抵壓殺サルヘシ或ハ作物ヲ拔取リ（豆類ノ如ハ拔取ラサルモ可ナリ）直ニ犂ニテ畝間ヲ深ク鋤起シ肥料ニテ整地シ後右ノ輾軸ヲ縱横ニ數回施シ地面ヲ鎮壓スヘシ

第三　蛹ニ化シタルトキ

一　壓殺　春、秋及作物收穫後ニハ必ス前項ノ如キ鎮耕鎮壓ヲ行フヘシ

注意　右ニ列擧シタル方法ハ其時季ニ應シテ之ヲ行ヒ決シテ其一ヲモ怠ルヘカラス又害蟲ヲ食スル鳥、雲雀、タヒバリ、ツグミ、シギ、椋鳥、鶺鴒、ヒタキ等ノ益鳥、牛蛙、小蜥蜴等ノ益蟲ハ注意シテ之ヲ保護スヘシ

○明治二十五年六月四日告諭第三號

凡ソ作物ヲ害スル蟲類其數少ナカラスト雖トモ叶年亞麻等ヲ侵シ銀蝶ヲ逐フセシ種族モ亦最モ甚シキモノナリ今ニシテ之レカ驅除豫防ノ方ヲ施サンハ復タ覆轍ヲ履ムノ譏ナシト言フヘカラス而シテ昨年ノ調査ニ依ルニ該蟲ハ前年秋期蛹ニ化シテ土中ニ潛伏シ翌年五月下旬乃至六月上旬蛾ニ變シテ放卵シ亞麻或育ノ候ニ至テ孵化生長シ七月下旬乃至八月上旬ノ交再ヒ蛹ニ化シ三四週日ノ後蛾トナリテ放卵シ孵化ノ後又蛹ニ化シテ翌年スルモノノ如シ故ニ左ニ記載シタル誘殺若クハ秋期ノ方法ニ因テ銀蛾ノ時之レカ驅除ヲ計ルヿ他ニ未タ便宜ノ策アルヲ認メス然リト雖モ農業ハ其種類ノ所産ニ一回一團ニ止ラス延テ郡村ニ及ホスコトアリ故ニ甲者驅除ヲ務ムルモ乙者豫防ヲ怠ルトキハ遂ニ其害ヲ免ルルコトヲ得ス是ヲ以テ害蟲驅除ハ協同ノ力ニ藉ルニ非スンハ其效ヲ奏スルコトヲ望ムヘカラス今ヤ銀蛾ノ期ニ際ス當業者能ク此意ヲ體シ比鄰協力シ以テ之レカ驅除ヲ勉ムヘシ

一　誘殺法　銀蛾ノ季節ニ於テ試ニ夜中ノ燈火

ヲ提ケ農場ヲ歩スルトキハ蛾來テ燈火ヲ撲ツモノナリ是レ即チ銀蛾ノ時ナレハ此時ヲ過タス夜中圃上ニ於テ篝火ヲ設クルカ又ハ便宜左圖ノ如ク水槽ヲ備ヘテ其上面ニ燈火ヲ裝置スルトキハ蛾火光ヲ望テ四方ヨリ來集シ自ラ篝火ニ投死シ又ハ燈火ニ觸レ水槽中ニ落テ死スルモノナリ

一　秋期法　秋期熟ロニ圃田ヲ耕鋤シ蛹ヲシテ露氣ニ暴露セシムルトキハ其生氣ノ全部若クハ幾分ヲ滅殺スルモノナリ

（圖略ス）

○明治二十六年七月十九日告諭第五號

當道梨林檎樹ヲ栽培スルモノ年一年ニ其數ヲ增シ果實ノ產額亦タ漸ク多キヲ加ヘ將來一ノ特有產物ヲ生セントスルノ勢ヲ呈シ來レリ然ルニ目下菓樹ニ寄食スル害蟲各所ニ蕃殖蔓延セントスルノ兆アリ其害發大ニシテ畏ルヘキモノタルハ人人ノ目擊スル所ナリ畢竟害蟲ハ其發生ノ初メニ方リ各栽培者意ヲ注キ豫防驅除ヲ力ムルニ於テハ之ヲ絶滅スル亦甚タ難カラサルモ既ニ初期ヲ經過スレハ或ハ蛹トナリ蛾又ハ蝶トナリ遂ニ羽足ヲ生シ自由ニ空中ヲ飛散シ又ハ地下ヲ伺匿シテ隨處ニ無數ノ卵ヲ放泌シ一粒ノ卵モ之ヲ放棄シ置ケハ忽チニシテ蛾蝶トナリ復タ化シテ數百千倍ノ害蟲ニ變シ一層ノ激害ヲ致ス故ニ發生ノ當初ニ方リ一人豫防驅除ノ意慢ハ直チニ害ヲ近隣ニ與ヘ轉轉相延ヒテ覓ニ手ヲ下スコト能ハサルノミナラス多年培發ノ良樹ヲシテ萎枯セシメ終ニ一物產ヲ失フニ至ルヘキニ付菓樹ヲ栽植スル者ハ此際精豫防驅除ニ力ヲ盡シ害ヲ未萌ニ防禦スル樣厚ク注意スヘシ

○明治三十五年七月七日訓第七百一號（支廳區役所町村役場戶長役場）

本道ノ風土ハ能ク菓果ノ栽培ニ適スルヲ以テ之ヲ栽植スル者多ク今ヤ方ニ一ノ特產物タルヲ得タリ然ルニ頃者果樹ニ寄食スル害蟲發生シ就中綿蟲、巢蟲（クロコ）ノ如キ亦漸ク蔓延ノ兆候アリ今ニシテ此カ驅除ノ方法ヲ講スルニ非ラサレハ勢ヒ猖獗ヲ逞フシ之カ爲メ終ニ多年經營ノ果樹ヲ伐採シ遽ササル可カラサルニ至ル抑害蟲驅除ノ如キハ發生ノ初ニ於テ近隣相補ケ力ヲ驅除ニ盡スニ非ラサレハ其功ヲ收ムルコト能ハス是ヲ以テ義ニ明治二十六年告諭第五號ヲ以テ一般當業者ニ注意スル所アリシト雖モ當局者亦篤ク注意ヲ加ヘ部內ニ於テ其害アルヲ認メタルトキハ其輕重ヲ計リ明治二十九年廳令第四十號田圃害蟲驅除豫防規則第十五條ヲ適用シテ速ニ驅除ノ功ヲ全フシ他日噬臍ノ悔ナカラシムルニ勉ムヘシ

○明治三十四年七月三十日告諭第二號

馬鈴薯ハ本道ノ地質ニ適シ之ヲ植栽培スルモノ極メテ多シ其段別一萬七千町歩產額實ニ百五十萬石ニ達ス故ニ其豐凶ハ農家經濟上ニ重大ノ關係ヲ有スルハ既ニ昔知ル所ナリ偶客年本道ニ馬鈴薯疫病ヲ發見シ本年亦札幌郡ニ同病ノ發生ヲ見ル元來此疫病ハ最モ恐ルヘキモノニシテ莖葉ヲ襲ヒ薯塊ヲ侵シ傳染ノ迅速ナル病毒ノ猛烈ナル其災害ノ測ラレサルヲ以テ襲キニ之ヲ發見スルニ當リ直ニ豫防法ヲ播布シタルモ今ヤ羽ヒ發生ノ徵アリ農家タル者協同寡心豫防ニ從事シ一朝之ヲ等閑ニ付シ忽チ傳播蔓延セシメ全道ヲシテ不測ノ凶災ヲ蒙ラシメサル樣豫テ注意スヘシ

○明治三十五年八月二十二日總令第百十四號

明治二十九年（三月）法律第十七號害蟲驅除豫防法及明治二十九年（七月）北海道廳令第四十號田圃害蟲驅除豫防規則ヲ馬鈴薯疫病ニ適用ス

○明治三十五年十月三日告諭第六號

寒霜ノ農作物ニ害ヲ及ホスヤ實ニ恐ルヘキモノアリ本年春季以來氣候大ニ寒レ農作物ノ生育亦早ニ比シテ旬餘ノ晚キヲ見ル今ヤ秋季ニ接シ冷氣頓ニ加ハリ上川札幌ノ如キ既ニ一二回ノ降霜ニ會シ農作物ノ被害尠少ナラス其勢ヒニシテ遂マハ今後寒氣ノ乾燥セル夜ニアリテハ霜霜ノ降下スルコト敢テ疑ヲ容レス因テ此際之カ豫防ノ方法ヲ講スルハ實ニ焦眉ノ急ニ屬ス今左ニ最モ容易キ霜害豫防ノ方法ヲ掲ク農家之ニ依リ以テ之ノ恐ルヘキ災害ノ豫防ニ怠ルヘカラス然レトモ此霜害豫防ノ方法タル二三者之ヲ行フモ能ク效果ヲ收ムヘキモノニアラス宜シク協心同力シテ之カ施行ニ勉ムヘシ

霜害豫防法

降霜ノ虞レアル天氣模樣

降霜ハ重ニ低氣壓經過後天氣恢復シテ無雲快晴ナル夜ニ起ルモノニシテ日没ノ頃溫度ハ華氏零度計四十五度內外ヲ示シ夜ニ入リテ益益下降シテ三十三四度ニ至レハ地面ノ溫度ハ二十八九度ニ降リテ霜ヲ結フニ至ル故ニ日没ノ頃ヨリ天氣快晴トナリ夜ニ入リ華氏零度計四十度ニ降ル事アレハ烟烟ヲ焚ムヘシ或ハ霄夜空氣最モ乾燥シテ天氣快晴ナルトキハ日没ノ頃五十二三度ヲ示スモ翌朝結霜ノ見ルコトアリ注意スヘシ

霜害豫防法

霜害ヲ豫防スルノ方法ハ氣溫ノ冷却ヲ輕減スルコト地熱及ヒ植物熱ノ放散ヲ遮斷スルコト蓋シ朝日ノ直射ヲ防禦スルコトニアリ故ニ防霜ノ方法ニシテ此等ヲ具備スルトキハ最モ完全ニシテ其利益大ナルヘシト雖モ地熱ノ放散ヲ遮斷シ氣溫ノ冷却ヲ輕減スルノミニテモ尙有功ナルモノトス故ニ此方法ヲ施サントセハ各自田畑ノ畔畔

ニ豫メ粗糠枯草塵芥等ヲ適宜ニ配置シ天候前述ノ如キ場合ニ於テ之ニ點火シ人造ノ霧霧ヲ作リ以テ地面ノ冷却ヲ防クニアリ而シテ燃燒物ニハ水ヲ撒布シテ可成火焔ノ昇ラサル樣ニシ多量ノ水蒸氣ヲ放散セシムルノ必要アリ又地面冷却ノ度ハ日出前最モ甚シキヲ以テ燻烟ハ日出迄繼續スルヲ適當トス且燻烟ハ可成多數ノ場所ニ於テスルヲ效力多シトス

○明治三十五年十二月六日告諭第九號

稻作上浮塵子、螟蟲、泥貫蟲其他ノ害蟲ヲ驅除豫防スルハ苗代ニ於テ行フニ如クハナク之ヲ行フニハ苗代ヲ短册形ニ作ルヨリ善キハナシ

抑從來ノ如ク苗代ヲ大ニスルトキハ一朝害蟲發生ノ際ニ方リ之レカ驅除豫防ヲ妨ケ其ノ害延テ關里鄰國ニモ及ホシ公衆ノ利益ヲ損フノミナラス雜草ノ除去、播種ノ均一等ニモ亦妨ケアリ故ニ水稻苗代ハ床地幅四尺以内ノ短册形トシ床地相互ノ間ニ幅一尺以上ノ畦畔又ハ通路ヲ設ケ以テ害蟲ノ驅除豫防ニ便宜ナラシムヘシ

○明治三十五年十二月六日訓令第千九十八號（支廳戶長役場町村役場宛）

本年米作不良ノ結果ハ農民ナシテ已ニ一大痛苦ヲ感セシメタリ不幸若シ之ニ次クニ害蟲ノ發生ヲ以テスルカ如キコトアルニ於テハ其ノ困難蓋シ容易ナラス本官ノ憂慮措ク能ハサル所ナルヲ以テ爾今水稻苗代ハ是ヲ短册形ニ作リ以テ豫メ害蟲ノ驅除豫防ニ備ヘ併セテ除草、播種等ノ便ヲ圖ラシムル爲メ今般北海道廳告諭第九號ヲ發布シタルニ付深ク此意ヲ體シ勤節前主任者ヲ町村ニ派遣シ農民ヲシテ奮テ改作セシムル樣取計フヘシ

●肥料取締

○明治三十四年十二月十一日勅令第百七十一號

肥料取締法施行手續

肥料取締法施行手續左ノ通リ相定ム

第一條　肥料販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ第一號又ハ肥料製造販賣ノ免許ヲ得タル者ハ製造販賣ハ第二號樣式ノ願書ヲ差出スヘシ

第二條　肥料取締法施行規則第一條ノ二第一項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ第三號樣式ノ願書ヲ差出スヘシ

第三條　肥料製造販賣ノ免許ヲ得タル者ハ製造販賣所ノ戶外ニ第四號樣式ノ標札ヲ掲クヘシ但製造場及販賣所ノ位置ヲ異ニスル者ハ每場所ニ之ヲ掲クヘシ

第四條　肥料販賣ノ免許ヲ得タル者ハ販賣所ノ戶外ニ第五號樣式ノ標札ヲ掲クヘシ

第五條　肥料取締法施行規則第五條ノ帳簿ハ第六號樣式ニ據ルヘシ

第六條　肥料取締法施行規則第六條ニ據リ前年中ニ販賣シタル肥料ノ種類別ノ數量及ヒ價格ノ屆出ハ製造販賣シタルモノト輸入販賣シタルモノトヲ區別スヘシ

第七條　肥料製造販賣又ハ販賣ニ關スル書類ノ進達ハ製造場若クハ販賣所所在ノ町村役場若クハ戶長役場及支廳ヲ經由シ區ニ在ルモノハ區役所ヲ經由スヘシ

第八條　肥料製造場又ハ販賣所ヲ二以上ノ支廳、區役所、戶長役場又ハ町村役場所轄内ニ有スルトキハ前條ノ書類ハ其一ヲ經由スヘシ（三十五年二月勅令第七號ヲ以テ本條追加）

第九條　前條ノ手續ニ依リ免許又ハ認可ヲ受ケタル事項及肥料取締法施行規則第二條ノ事項ハ二週間内ニ他ノ支廳又ハ區役所ニ屆出ヘシ肥料取締法施行規則第一條第三項第一條ノ二第二項ニ依リ屆出ヲナスモノ亦同シ（三十五年二月勅令第七號ヲ以テ本條追加）

樣式

第一號

肥料製造販賣免許願

一製造場及販賣所ノ位置

一肥料ノ名稱

一原料ノ種類

一肥料ノ製造方法

右製造販賣致度ニ付免許相成度此段相願候也

年　月　日　　住所　氏　名印

長官宛

第二號

肥料販賣免許願

一販賣所ノ位置

一肥料ノ名稱

右販賣致度ニ付免許相成度此段相願候也

年　月　日　　住所　氏　名印

長官宛

第三號

肥料製造販賣（肥料販賣）免許事項變更認可願

一何何

一何何

（免許ノ事項ヲ列記シ其變更セントスルモノヲ朱記スヘシ）

右事項變更ノ儀認可相成度此段相願候也

年　月　日　　住所　氏　名印

長官宛

第四號

肥料製造販賣業　住所　氏名

縱二尺　幅五寸

第五號

肥料販賣業　住所　氏名

縱二尺　幅五寸

第六號ノ一

調製年月日　名稱　數量　讓渡年月日　讓受人住所氏名

第六號ノ二

製造年月日　名稱　數量　仕入年月日　仕入先住所氏名

○明治三十四年十二月十四日告示第五百四十號

當廳肥料檢査官吏ニハ左記樣式ノ證票ヲ携帶セシム

樣式

表面　番號　肥料檢査官吏　官氏名　縱二寸五分　幅一寸八分

裏面　明治　年　月　日　北海道廳

●農事試驗所

○明治三十四年十二月二十二日告示第四百四十五號

當廳所屬農事試作場及札幌蠶業傳習所ノ名稱左ノ通改ム

舊稱	新稱
北海道廳地方農事試驗場	上川農事試作場
北海道廳地方農事試驗場十勝分場	十勝農事試作場
北海道廳地方農事試驗場白石分場	上白石農事試作場
北海道廳農事講習所	札幌蠶業傳習所

○明治三十四年六月十三日勅令第百十二號

北海道農事試驗場章程左ノ通定ム

北海道農事試驗場章程

第一條　北海道農事試驗場ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　農産ノ增殖改良ニ關スル試驗

二　巡回講話

第二條　北海道農事試驗場ニ場長ヲ置キ場中全般ノ事務ヲ掌理セシム

場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　北海道農事試驗場ニ技師及技手ヲ置ク

技師及技手ハ場長ノ指揮ヲ受ケ場務ニ從事ス

（三十五年四月勅令第五十六號ヲ以テ本條中改正）

○明治三十四年六月十三日訓令第七十六號（北海道農事試驗場宛）

北海道農事試驗場ハ殖民部ニ屬セシム

○明治三十四年十二月二十七日訓第千百十七號（總中一般北海道農事試驗場宛）

北海道農事試驗場處務規程左ノ通リ相定ム

北海道農事試驗場處務規程

第一條　本場ハ左ノ各項ニ付農産ノ增殖改良ヲ圖ルヘシ

一　農作物ノ種類撰擇及ヒ播種ニ關スルコト

一　耕耘栽植及ヒ肥培ニ關スルコト

一　耕地ノ改良ニ關スルコト

一　農具ノ改良ニ關スルコト

一　收穫及貯藏ニ關スルコト

一　農産物製造ニ關スルコト

一　植物ノ病蟲害其他諸害ニ關スルコト

一　有益鳥獸及ヒ菌類ノ保護繁殖ニ關スルコト

一　種苗ノ配付ニ關スルコト

一　土壤、肥料、農産物製造品、其他農業上ニ關係アル物料ノ分析ニ關スルコト

一　農事講話ニ關スルコト

第二條　本場ニ於テ施行スヘキ事業ノ方案ハ豫メ長官ノ決裁ヲ經ヘシ

第三條　場長ハ場員ノ勤惰ヲ監督シ事務整理ノ責ニ任スル但シ場長事故アルトキハ書席員其職務ヲ代理ス

第四條　場長ハ場員ノ事務及ヒ試驗事業ノ分掌ヲ定ムルコトヲ得但シ殖民部長ハ報告スヘシ

第五條　前年十二月一日ヨリ其年十一月三十日マテノ場員勤惰表ヲ調査シ十二月五日限リ殖民部長ハ報告スヘシ

第六條　試驗成績ハ翌年三月中長官ハ報告スヘシ

第七條　每年一回以上試驗ノ成績ニ關スル報告書

チ發行スヘシ

第八條　本場ノ事業時間ヲ規定シ及ヒ之レヲ變更シタルトキハ殖民部長ヘ報告スヘシ

第九條　本場ノ生産物及標本器械等ハ博覽會共進會品評會等ヘ出品スルコトヲ得但シ特ニ重要ナル出品ニ付テハ殖民部長ノ承諾ヲ經ヘシ

第十條　本場所管ノ事務ニ付テハ場名若クハ場長名ヲ以テ文書ヲ發送スルコトヲ得但シ重要ノ事件ハ長官若クハ殖民部長ノ決裁ヲ經ヘシ

第十一條　本場ニ當直ヲ置キ在官者中ノ判任官一名宛交替勤務スヘシ

第十二條　當直規程其他細則內規等ヲ規定シタルトキ及ヒ之レヲ變更シタルトキハ其都度殖民部長ノ承認ヲ經ヘシ

○明治三十五年五月二十一日訓第五百四十七號（總中一般地方農事試驗場同分場宛）

北海道總地方農事試驗場處務細則左ノ通定ム

北海道總地方農事試驗場處務細則

第一條　北海道總地方農事試驗場ハ府縣農事試驗場規程ノ定ムル所ニ依リ其事務ヲ處理ス

第二條　北海道總地方農事試驗場ハ左ノ事業ヲ行フ

一　農産ノ改良增殖ニ關スル試驗

二　巡回講話

三　種苗配付

第三條　分場長ハ場長ノ監督ヲ受ケ分場全般ノ事務ヲ處理ス

第四條　場長及分場長ハ場員ノ勤惰ヲ監督シ場務整理ノ責ニ任ス

第五條　員長及分場長事故アルトキハ次席員其職務ヲ代理ス

第六條　場長ハ事務分掌取扱手續當直其他必要ノ規程ヲ設クルコトヲ得

前項ニヨリ事務分掌其他ノ規程ヲ設ケタルトキハ殖民部長ニ報告スヘシ之レヲ變更シタルトキ亦同シ

第七條　左ニ掲クル事項ハ場長及分場長限リ處分スルコトヲ得

一　場員事務引繼ノ事

二　定失ノ進退負分ニ關スル事

三　制規定例若クハ輕易ノ事件ニ關シ北海道廳所轄官公署若クハ人民ニ照會往復ノ事但職權又ハ法令ノ解釋ニ渉ルノ類ハ此限リニアラス

第八條　場長ハ毎年本場及分場ニ於テ配付スヘキ種苗ノ種類數量及配付箇所ヲ定メ殖民部長ノ承認ヲ受クヘシ

第九條　左ニ掲クル事項ハ場長ニ於テ豫メ殖民部長ノ承認ヲ受クヘシ

一　臨時發行物ニ關スルコト

二　特用物品ノ購入ニ關スルコト

第十條　場長ハ本場及分場ニ於ケル事業方案ヲ定メ毎年二月限リ長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條　場長ハ本場及分場ニ於ケル試驗成績ヲ審査編纂シ毎年三月末日迄ニ本廳ニ報告スヘシ

第十二條　前條ノ報告ハ毎年一回之ヲ發行スヘシ

第十三條　試驗成績事項中特ニ結了ヲ告ケ確實トヲ得ルモノハ長官ノ認可ヲ受ケ臨時發行スルコトヲ得

第十四條　場長ハ毎年十二月一日ヨリ翌年十一月三十日迄ノ本場及分場員勤惰表ヲ調査シ十二月十日限リ本廳ニ報告スヘシ

第十五條　農談會品評會等ノ爲メ旅費ヲ支辨シ場員ノ出張ヲ請フ者アルトキハ其日數七日ヲ超ヘサルモノニ限リ場長又ハ分場長之レヲ許否シ其旨本廳ニ報告スヘシ

但シ分場ニ係ルモノハ本場ヲ經由スヘシ

第十六條　本場及分場ニ於テ巡回講話ヲナシタルトキハ場長ハ其要領ヲ直チニ本廳ニ報告スヘシ

第十七條　場長ハ前年度ニ於ケル本場及分場日巡回講話ノ日數度數及場所ヲ毎年四月限リ本廳ニ報告スヘシ

第十八條　場長ハ本場及分場ニ於ケル業務工程ヲ各項ニ區分シ前年一月ヨリ十二月マテノ分ハ一月二十日限リ前年四月ヨリ其年三月迄ノ分ハ四月限リ本廳ニ報告スヘシ

第十九條　場長ハ本場及分場ニ生産シタル物品ヲ甲號式ニヨリ本廳ニ報告スヘシ

第二十條　本場及分場所在地方ニ於テ病蟲害及其他ノ被害アルトキハ場長又ハ分場長ハ直ニ本廳ニ報告スヘシ

但分場ニ係ルモノハ同時ニ本場ヘモ報告スヘシ

第二十一條　農事ニ關スル質問ハ場長及分場長ニ於テ必要ト認ムルモノニ限リ應答スヘシ

第二十二條　本場及分場ニハ一般ノ規定ニ依ルモノノ外左ノ表簿ヲ備フヘシ

一　豫算整理簿

二　生産案帳

三　種場配付案帳

四　使役人夫內譯簿

五　農場日誌

六　其他必要ノ帳簿

第二十三條　本場及分場ニ於テハ各三名以內ノ見習生ヲ入場セシムルコトヲ得

見習生ノ入場ニ關スル規定ハ場長之ヲ定メ本廳ニ報告スヘシ

甲號式

品名	數量	內譯			單價	事由
		試驗用	配付用	場用	賣拂用	價格	
何何							
何何							
何何							
、、							

第二十四條　本場及分場ニ毎夜一名ノ宿直ヲ置キ技手書記ノ內交替勤務スヘシ

●農事奬勵

○明治三十三年二月十七日訓第六十六號（紗那支廳宛）

擇捉島ハ克ク水産ノ利ニ富ミ島民據テ以テ衣食ノ資ト爲ルコト由來既ニ久シ然ルニ頃年其利漸ク減シ島民隙メ冬季越歲ノ計ヲ爲スノ餘資ナク勵モスレハ輙チ糧食ノ匱乏ヲ告ケ官給ヲ仰キ又ハ一時富豪ノ扶ケニ依ルコト其例乏シカラス今ニシテ感奮興起以テ後圖ヲ爲スニ非ンハ遂ニ或ハ飢餓ノ境悲ニ沈淪スルニ至ルコトアルヲ免レス

願フニ魚族ノ蕃殖ニ力ムヲ可キハ亦善後良圖ノ一ニシテ尤モ必要トナル所ナリ然レトモ是レ固ヨリ永遠ノ事業ニシテ其效果ハ遲ニ之ヲ十年後ニ期セサル可ラス而カモ該島前途ノ經營ハ單リ漁事ノ挽回ニ止ラス又大ニ農事ヲ奬ムルニ在ルヲ認ム

抑モ擇捉島ハ氣候寒冷ナリト雖モ之ヲ根室地方ニ比スルニ降霜、融雪ハ俱ニ幾ント其季ヲ同フシ氣溫又大差ナク而シテ海霧ノ稀薄ナルハ耕作上反テ彼ニ優ルモノノ如シ之ヲ事實ニ徵スルニ根菜類ノ生育最モ良好ニシテ大麥ノ如キ亦能ク其成熟ヲ完フスルニ至ル況ンヤ紗那、振別二郡ノ如キハ平原殊ニ多ク地味亦頗ル肥沃ナルモノアリ尙今以後更ニ大ニ馬鈴薯ヲ栽培シ加フルニ大麥、燕麥、ライ麥、燕麥及稻黍等地味、氣候ニ適スルモノヲ以テシ之ヲ島民洗鍊、食ノ料ニ充テシムルニ於テハ啻ニ糧食缺乏ノ危體ヲ免ル可キノミナラス又能ク勤儉ノ美風ヲ發成シ產ヲ興シ生ヲ樂ンスルトヲ得ン若シ夫レ耕作方法ノ細節ハ當該部長ヲシテ之ヲ移牒セシムル所アラントス偽テ深ク此意ヲ體シ其實行ニ懇メラルヘシ

●農商務通信

○明治三十二年十月十三日訓令第六十號（支廳區役所月長役場宛）

明治二十八年（十月）北海道廳訓令第三十六號農商務通信規則別冊ノ通改正ス

（別冊）（三十三年二月訓令第九號三十五年十月訓令第百十九號ヲ以テ別冊中改正アリ今一條下ニ注記スルヲ省略シ三十六年三月三十一日現在ノモノヲ掲ク）

農商務通信規則

第一條　支廳長及區長ハ毎年其所轄內ニ於ケル左ノ定期統計報告ノ事項ヲ調査シテ當廳ニ報告スヘシ

一　農商務通信事項統計　毎表ニ定ムル報告期

一　米作開花ノ景況　毎年九月三十日限

一　同成熟ノ景況　同　十月三十一日限

一　麥作成熟ノ景況　同　九月十五日限

一　春蠶（掃立ヨリ三齡ニ至ルマテノ）景況　同　六月三十日限

第二條　支廳長及區長ハ左ノ場合ニ於テハ臨時報告ヲナスヘシ

但シ緊急ノ場合ニハ電報ヲ以テスヘシ

一　蟲害　病害

一　風雨水旱霜雹ノ害

一　森林ノ火災

一　漁業者ノ遭難

一　其他各種ノ災害ニシテ產業上著シキ影響ノ生スヘキ事件ノ發生シタル場合

第三條　支廳長ハ適宜戶長役場ニ係ル報道期ヲ定メ戶長ハ其期內ニ於テ部內統計報告ノ事項ヲ調査シ支廳長ニ報告スヘシ

第四條　支廳長及區長其支廳員區員ニシテ農商務統計調査ニ從事セシムル時ハ其官職氏名ヲ當廳ニ報告スヘシ其異動ヲ生シタル時モ亦直チニ報告ナスヘシ

第五條　支廳長ハ統計報告ノ事務補助ノ爲メ便宜區劃ヲ設ケ其地方ニ於テ相當ノ地位名望アリテ實業ノ狀況ニ精通シ且統計調査ニ適スル者ヲ選ビ當廳ノ認可ヲ經テ農商務統計調査委員ヲ囑託スルコトヲ得

第六條　函館札幌小樽ノ三區ニ農商務統計調査委員ヲ設ルノ必要アル時ハ其區長ヲシテ適任者ヲ選定セシメ當廳之ニ農商務統計調査委員ヲ囑託ス

第七條　農商務統計調査委員ノ事務ハ左ノ如シ

一、統計報告材料ノ蒐集ニ補助ヲナスコト

一　蒐集セシ統計報告ノ適實ナルヤ否ヤノ協議ニ與カルコト

一　以上ノ調査ニ關シ意見アルトキハ當廳又ハ農商務省統計主任ヘ之ヲ開申スルコト

農商務通信事項統計樣式目錄

目次

號		報告期
第一	桑畑段別表	其年七月三十一日限
第二	春蠶表	同　九月三十日限
第三	蓼播收表	同
第四	夏蠶及秋蠶表	同
第六	米播收表	同十一月三十日限
第七	普通農產物播收表	同十二月二十七日限
第八	特用農產物播收表	同
第九	蠶絲眞綿及蠶卵紙表	翌年二月二十八日限
第十一	田畑自作地小作地表	同
第十二	果樹表	同
第十三	勸業豬會表	同
第十四	牛數表	同
第十五	馬數表	同
第十六	羊豚數表	同
第十七	牛馬羊豚屠殺表	同
第十八	畜產物表	同
第十九	牧場表	同
第二十	貢錢表	其年十月三十一日限
第二十一	物價表	翌年一月十五日限
第二十二	製藍蓼桿眞田藺荷表	同　一月三十一日限
第二十三	製粉類產額表	同
第二十四	漆汁產額表	同
第二十六	織物產額表	同
第二十七	煉化石其他製造表	同
第二十八	構寸軸木產額表	同
第三十	陶磁器表	同
第三十一	漆器銅器青銅器表	同
第三十二	和製煙表莫煙類表	同（其一翌年一月三十一日限　其二其年七月三十一日限）
第三十三	捫附木製蠟及製油表	翌年一月三十一日限
第三十四	製革產額表	同
第三十五	合社票	同
第三十六	工場票	同
第三十七	商船出入表	同　二月二十八日限
第三十八	輸出入表	同
第三十九	銀行業務及金利表	同（其一其年九月三十日限　其二翌年三月三十一日限）
第四十	營業種別表	同（其一翌年二月二十八日限　其二其年三月三十一日限）
第四十一	漁船表	翌年一月三十一日限
第四十二	新造漁船表	同
第四十三	廢用漁船表	同
第四十四	難破漁船表	同
第四十五	漁網表	同
第四十六	水產養殖表	同
第四十七	水產製造物表	同（自一月至六月其年七月三十一日限　自七月至十二月翌年一月三十一日限）
第四十八	生鮮水產物表	同
第四十九	食鹽產額表	翌年一月三十一日限
第五十	水產業者入稼表	同
第五十一	水產業者出稼表	同
第五十二	水產現業表	同
第五十三	水產業者戶口表	同
	作毛被害臨時報告樣式	同
第五十四	遠洋漁業表	同　八月三十一日限
第五十五	漁夫表	同　一月三十一日限

第一　桑畑段別表

明治年分　明治年六月三十日現在
報告期　其年七月三十一日限　調査毎年

郡區	桑畑 段別	見積段別	計
合計			

備考

前年ニ對スル增減ノ事由ヲ詳記スヘシ

一　單位以下ハ四捨五入法ヲ用フヘシ

一　見積段別ハ桑畑以外ニ散在セル桑ノ株數ヲ近傍桑畑ノ株數ニ比準シ段別ヲ記入スヘシ

第三　春蠶繭　明治年分報告期其年九月三十日限　調査年

郡區	飼養戶數	繭		玉繭		出殺繭		屑繭		數量計	結立枚數	
		數量	一升ノ價格	數量	一升ノ價格	數量	一升ノ價格	數量	一升ノ價格		框製	非通製
	戶	合	錢	合	錢	合	錢	合	錢	合		
合計			—		—		—		—	—	—	

備考　前年ニ對スル增減ノ事由ヲ詳記スベシ
單位以下ハ四捨五入法ヲ用フベシ
結立枚數框製ハ一帖ヲ以テ單位トシ非通製ハ一枚以下二位(即○枚○分○厘)迄記入スベシ
天蠶繭ハ本表ニ準シ則表トシ報告スベシ
價格ハ生産者ヨリ製絲業者ノ仲買人等ニ賣渡ス平均相場ヲ記載スベシ

第三　麥播收表　明治年分報告期其年九月三十日限　調査年

郡區	作付段別				收穫高				一段歩ニ付平均收穫高		
	大麥	裸麥	小麥	計	大麥	裸麥	小麥	計	大麥	裸麥	小麥
	段	段	段	反	石	石	石	石	合	合	合
合計											

備考　前年ニ對スル增減ノ事由ヲ詳記スベシ
單位以下ハ四捨五入法ヲ用フベシ

第四　夏秋蠶表　明治年分報告期其年九月三十日限　調査年

郡區	種別	飼養戶數	繭		玉繭		出殺繭		屑繭		數量計	結立枚數	
			數量	一升ノ價格	數量	一升ノ價格	數量	一升ノ價格	數量	一升ノ價格		框製	非通製
	夏秋蠶	戶	合	錢	合	錢	合	錢	合	錢	合		

合計													

記入法等桑蠶談ニ同シ

第六　米穀收穫表　　明治　年分　報告期其年十一月三十日限　調査事項

郡區	作付段別				收穫高				一段ニ付平均收穫高		
	糯米	粳米	陸米	計	糯米	粳米	陸米	計	糯米	粳米	陸米
	段	段	段	段	石	石	石	石	合	合	合
合計											

備考　前年ニ對スル增減ノ事由ヲ詳記スベシ
　　厘位以下ハ四捨五入法ヲ用フベシ

第七　非通度穀物播收表　　明治　年分　報告期其年十二月二十七日限　調査事項

種別 郡區	豌豆	蠶豆	小豆	大豆	菽豆	緑豆	玉蜀黍	稗	粟	稷	蕎麥
一收作付段歩及收穫高	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃
合石段											
計											

| 合計 | 何 | 何 | 何

一　距離表、表題、表格等、間ハ乾線シタルモノ大廓、字廓ハ科ヲ去リ乾線シタルモノヲ以テ数フベシ
一　牧草一段歩収穫高ハ町(瓦位)以下三位(分厘毛)マテ算出スベシ
一　瓦位以下ハ四捨五入法ヲ用フベシ
一　何何トアル欄内ニハ本表列記外ノモノニシテ其地方ノ重要作物ト認ムルモノヲ記入スベシ

第九　蠶繭収納及蠶卵紙表　明治　年分　報告期限年二月二十八日限　四先年

郡区	製繭戸数 製造所	製繭戸数 白宅	数量価格	生繭 繰糸取	生繭 蚕繭	煮沸繭	玉繭	屑繭及物品	屑繭	蠶卵紙 製造戸数	蠶卵紙 種製	蠶卵紙 普通製
	所			瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	戸	枚	枚
合計												

備考　前年ニ對スル増減ノ事由ヲ詳記スベシ
一　蠶卵紙製造戸数ハ其年六月三十日ノ現在数ヲ記入スベシ
一　製繭戸数ハ其年七月三十一日ノ現在数ヲ記入スベシ
一　蠶卵紙及生繭繰糸玉繭数ハ其年中ノ製造高ヲ記入スベシ

第十一　田畑自作地小作地表　明治　年分　報告期限年二月二十八日限　四先年

郡区	明細種別	自作地 田	自作地 畑	自作地 計	小作地 田	小作地 畑	小作地 計	合計 田	合計 畑	合計 計
何郡	新既墾地	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦
何郡	同同									
總計	新既墾地									

本表ハ貸下地モ作ヲ開墾スベシ

第十二　果樹表(其一果樹園段別表)　明治　年分　報告期限年二月二十八日限　四先年

郡	見段	税別	林檎 種洋	林檎 種和	梨 種洋	梨 種和	櫻桃	柿	蜜柑
何郡	計見段	税別	／／／

第十三　勅令勅令（農商務省令、農商務省令及ビ農商務省令ノ別）

明治年分　報告期其翌年二月二十八日限　四箇年

会名	所在地名	会務目的	創立年月	会員数	役員数	会費収入	会費支出
						円	円

本表ハ臨時開設スル品評会ノ如キ勅令及道郡町村長令ハ調査スルニ及ハス

第十四　牛数表

明治年分　報告期其翌年二月二十八日限　四箇年

郡区	種別	十二月三十一日現在			乳上ノ用内	本年中生産			本年中斃死		
		牝	牡	計		牝	牡	計	牝	牡	計
	計外雑種	円									
	同										
	同										
	同										
合計	同										

備考
一　前年ニ比スル増減ノ事項ヲ詳記スヘシ
一　官有用ハ此様式ニヨリ別表トシテ報告スヘシ

第十五　馬数表

明治年分　報告期其翌年二月二十八日限　四箇年

郡区	種別	十二月三十一日現在			本年中生産			本年中斃死		
		牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計
	計外雑内									
	同									
	同									
	同									
合計	同									

一　官有モ亦同シ

備考
一　前年ニ對スル増減ノ事項ヲ詳記スヘシ
一　官有用ハ此様式ニヨリ別表トシテ報告スヘシ
一　官有モ亦同シ

馬数表（其二年齢別）

明治年分　報告期翌年二月二十八日限　四箇年

郡区	種別	当歳	二歳	三歳	四歳	五歳	六歳	七歳	八歳	九歳	十歳	十一歳以下	十六歳以上	合計
	計外雑内													

合計														
同同同

本表搾乳所數及ビ乳牛數ハ年末現在搾乳法ハ一箇年中販賣セシモノヲ調査スベシ

第十二　產製造物表　　明治　年分　報告期限年二月二十八日限　調査年

郡區	品目	一箇年製造高 數量	一箇年製造高 價額
	合計		

本表ニハ銀乳、乳酪、粉乳、乾酪、ハム、ベーコン、鹽豚ヲ記入スベシ

第十九　牧場表　　明治　年分　報告期限年二月十八日限　調査年十二月三十一日現在

牧場表　　明治　年分

牧場名	位置	面積 放牧地	面積 牧草地	面積 其他	牧畜數 牛	牧畜數 馬	牧畜數 羊	牧畜數 豚
		坪	坪	坪	頭	頭	頭	頭

本表ハ年末現在ノモノヲ調査スベシ

第二十　工錢表(何地)　　明治　年分　報告期限年十二月三十一日限　調査年

職業種類	給別	三月 上	三月 中	三月 下	九月 上	九月 中	九月 下	平均
農作雇夫男	年給	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
同日雇女男	日給							
日雇人夫	同							
下男	月給							
下女	同							
婆罫女	日給							
木挽職	同							
大工	同							
左官	同							
桶根職	同							
石工	同							
鍛冶職	同							
酒造杜入	月給							
醬油造杜入	同							

本表ハ札幌區、小樽區、函館區、旭川町、根室町、稚內町ノ六箇所ニ限リ調査報告スルモノトス

第二十一　物價表　　明治年分　報告期限年一月十五日限　調査報告

品種	産地所在地	立物名稱	三月	六月	九月	十二月	不明
玄米	上中下	何何何					
白米	上中下	何何何					
大麥	同	何					
小麥	同	何					
粟	同	何					
大豆	同	何					
小豆	同	何					
食鹽	同同	竹鹽					
醬油	同	何					
清酒	同同同同	地廻大大					
燒酎	同	何					
味噌	一貫目	何					
茶（番茶、粉茶ヲ除ク）	百斤	何					
白砂糖	和產	何					
同	洋產	何					
赤砂糖	和產	何					
同	洋產	何					
黑砂糖	和產	何					
同	洋產	何					
鹽	一貫目	土佐節					
煙草（刻）	百斤	何					
同（葉）	同	何					
同阿波粉	一百四十入一箱	何					
綿糸	和產	何					
同	洋產	何					
生木綿	一反	何					
晒木綿	同	何					
紡織綿糸	和產	何					
同	洋產	何					
生金巾	洋產 一疋	何					
晒金巾	同	何					
小巾金巾	同	何					
綿金巾	同	何					
反地花色金巾	同	何					
生糸	器械上 百斤	何					

同	中	百斤	何	何					
同	下	同	何	何					
同	蝶上	同	何	何					
同	中	同	何	何					
何	下	同	何	何					
鐵(玉、斤、山、紋、除ク)	一	石	何	何					
波地花色綿	一	反	何	何					
海氣	同		何	何					
麻苧	百	斤	何	何					
牛肉	同(十四日)第	斤	何	何					
藍玉	一	貫目	何	何					
鰹(鯛鰹和產)	同		何	何					
同(熱鰹九分洋產)	同		何	何					
同(同角一分洋產)	同		何	何					
松尺メ二間	一	本	何	何					
檜松尺メ二間	一	本	何	何					
檜尺メ二間	同		何	何					
杉尺メ二間	同		何	何					
檜松六分五三間板	一	坪	何	何					
杉六分五三間板	同		何	何					

杉四分板	一	坪	何	何					
水油(白絞油)	一	石	何	何					
同(種油)	同		何	何					
鰊油	同		何	何					
鯛油	同		何	何					
鰹油	同		何	何					
石油(二種)	一	箱	何	何					
石炭	一	噸	何	何					
薪	十貫目		何	何					
炭	同		何	何					
英濃紙(十帖)	一	束	何	何					
半紙(十帖)	一	束	何	何					
油粕(菜種)	十貫目		何	何					
莚	十	枚	越	中					
同	同		津	輕					
同	同		若	狹					
同	同		答	薩					
盛	十	盛	何	何					
鰯	一	丸	大	問					
同	洞		中	問					

| | | |

| | | |

第三十二　製蠶種及繭産額表　　明治　年分　報告期限年一月三十一日限　調査年

郡區	製蠶（蠶玉及蟻ヲクサシ）					蠶種製造所及繭産額					蠶種製造所及繭産額				
	製造戸數	製造高		職業		製造戸數	製造高		職工		製造戸數	製造高		職工	
	現在十二月三十一日	數量	價格	男	女	現在十二月三十一日	數量	價格	男	女	現在十二月三十一日	數量	價格	男	女
	戸	貫	圓	人	人	戸	枚	圓	人	人	戸	斤	圓	人	人
合計															

1　製蠶種及繭等其年十二月三十一日現在製造戸數ノ詳カナラサルモノハ其年中製造ニ從事セシ戸數ヲ記入スヘシ而シテ其場合ニハ其旨ヲ明記スヘシ

第三十三　製粉類産額表　　明治　年分　報告期限年一月三十一日限　調査年

郡區	蕎麥粉（小麥）			麥粉（高麗麥）			麩		
	製一十二月三十一日現在戸數	製粉高	價格	製一十二月三十一日現在戸數	製造高	價格	製一十二月三十一日現在戸數	製造高	價格
		斤	圓		斤	圓		斤	圓
合計									

1　麥粉麩類等其年十二月三十一日現在製造戸數ノ詳カナラサルモノハ其年中製造ニ從事セシ戸數ヲ記入スヘシ

但其場合ニハ其旨ヲ明記スヘシ

1　價格ハ原料相場ヲ以テ計算スヘシ

1　本表ニハ自家用ニ製造スルモノヲ記入スヘカラス

第三十四　醬油産額表　　明治　年分　報告期限年一月三十一日限　調査年

郡區	八月三十一日現在醬油樽數	八月三十一日現在製造戸數	正味醬油（樽詰）		溜醬油（樽詰）		雜醬油	
			數量	一瓶ノ價格	數量	一瓶ノ價格	數量	一瓶ノ價格
	樽	戸	瓶	圓	瓶	圓	瓶	圓
合計								

1　醬油樽ハ成木ノ上醬油ヲ搾ルモノノミヲ調査スヘシ

第三十六　織物産額表　　明治　年分　報告期限年一月三十一日限　調査年

郡區									合計
織戸	戸								
機數 器械機	台								
機數 手織機	台								

物	織	絹	羽	綿	自	紋	織	織
	絹	羽	綿	縮	縮	織類(羅紗、綾子、金襴等ノ類)	工	工
	絹	二	縮	縮	縮		女	男
	絹	子	疋	緬	緬			
	絹	織	類	類	類			
	絹	絲	織	織	類			
	絹	太	織	織	類			
	絹	紬	類	類	類			
	絹		緞	緞	緞			
	絹	海	氣	氣	氣			
	絹	海	氣	氣	氣			
	絹	地	類	類	類			
	絹	帶	地	地	地			
	絹	帶	地	地	地			
	絹		類	類	類			
非他ノ絹織物類	女	男	彩	紐	平	綾	絽	紗

| 物 | 織 | 絹 | 綿 | 綿 | 綿

價額合計	毛織物價額	其他ノ織物類	其他ノ麻織物	紋張地	麻帆布ズック等ノ類	上布	晒麻布	生麻布	其他ノ織物	紋張地	男帶地類	女帶地類	其他ノ絹織物	紋張地
			計						計					
	一													
	一													
	一							

郡區	現在製造戸數	職工 男	職工 女	製造品價格
合計				

一　職工ハ平常使用スル數(一日)ヲ記入スヘシ
一　賃用品何分裝飾品何分又ハ何何ノ類何分等ヲ記シ一箇年間業務ノ景況ヲ概述トシテ記入スヘシ

第三十一　漆器調製等調査表　　明治　年分　報告期限年一月三十一日限　問合先

郡區	現在製造戸數	職工 男	職工 女	製造品價格
合計				

一　職工ハ平常使用スル數(一日)ヲ記入スヘシ
一　賃用品何分裝飾品何分又ハ何何ノ類何分等ヲ記シ一箇年間業務ノ景況ヲ概述トシテ記入スヘシ

第三十二　和紙製造實績表　　明治　年分　報告期限年一月三十一日限　問合先
(其一)　和紙

郡區	十二月三十一日現在製造戸數	美濃紙 數量	美濃紙 價額	半紙 數量	半紙 價額	其他ノ紙類 數量	其他ノ紙類 價額	合計 數量	合計 價額	職工 男	職工 女
		帖	圓	帖	圓	帖	圓	帖	圓	人	人

郡區	十二月三十一日現在製造戸數	陶器	磁器	輸出向
合計				

(其二)　陶磁器類

種別 ＼ 郡區	十二月三十一日現在製造戸數	陶器	磁器	輸出向
	焼成及焼建窯	焼成窯 焼建窯	焼成窯 焼建窯	焼建 價額
	戸	個	圓	圓
明治(前)年七月六年七月二十一日限報告期其年七月二十一日限				
合計				

一　焼建ノ本トハ四十ヤード即チ二十間ヲ云フ

第三十三　捲附米、製罐、製油表

（其一）捲附米、生罐及明罐

明治　年分　自年一月三十一日限　調査年

郡	區	捲附米 製造戸數 一月三十一日現在	職工 男	職工 女	捲附米 數量	捲附米 價格	生罐 製造戸數 一月三十一日現在	生罐 職工 男	生罐 職工 女	生罐 數量	生罐 價格	明罐 製造戸數 一月三十一日現在	明罐 職工 男	明罐 職工 女	明罐 數量	明罐 價格
					ダース	圓				圓	圓				圓	圓
合計																

一　職工ハ製造所ニ於テ勞働スルモノノ數（一日ノ）ヲ記載スヘシ其不明ナルモノハ一年間ノ延人數ヲ記入スヘシ
一　「ダース」トハ小箱十二個入一包ヲ云フ
一　マッチ箱製造ヲ内職トスル等間接ニ捲附米製造ノ爲メ生活スルモノハ概數ヲ備考欄ニ記入スヘシ

（其二）製油

明治　年分　報告期限年一月三十一日限　調査年

郡	區	十二月三十一日現在製造戸數	職工 男	職工 女	種別	油類ノ油 數量	油類ノ油 價額	油粕 數量	油粕 價額
		戸	人	人	何何菜種 何何荏胡麻 何何油油油油	石	圓	石	圓
合計									

職工ハ製造所ニ於テ勞働スルモノノ數（一日ノ）ヲ記載スヘシ其不明ナルモノハ一年間ノ延人數ヲ記入スヘシ

第三十四　製茶産額表

明治　年分　報告期限年一月三十一日限　調査年

郡	區	十二月三十一日現在製造戸數	職工 男	職工 女	牛革 數量	牛革 價額	馬革 數量	馬革 價額	鹿革 數量	鹿革 價額	其他 數量	其他 價額	價額	備考
		戸	人	人	枚	圓	枚	圓	枚	圓	枚	圓	圓	
合計														

職工ハ製造所ニ勞働スル勞働スルモノノ數（一日ノ）ヲ記載スヘシ其不明ナルモノハ一年間ノ延人數ヲ記入スヘシ

第三十五　合社票

明治　年分　報告期限年一月三十一日限　調査年

合社票

明治　年十二月三十一日現在

合社種類		社債總額	圓
合社名稱		拂込濟社債	圓
營業種別		損益金 損	
所在地名		損益金 益	
創業年月		利益配當 配當積金	
資本金總額	圓	組織 合主	
拂込濟資本金	圓	支店數	
積立金	圓		

本票ハ一合社（本社支社）毎ニ雛形之通リ記入シ之ヲ一括シ其封筒ニ總計何枚ト明記シ進達スヘシ

本票ハ銀行、取引所、鑛業會社等ニモ適用スルモノトス
會社ニシテ工場ヲ有スルモノハ別ニ工場票ヲ発出スベシ

第三十六　工場票　　明治　年分　報告期限年一月三十一日限　西暦年

| 第　號 | 工場票　　明治　年十二月三十一日現在 | | |

第三十八　輸出入表
（其一）管外輸出入表
（其二）管内輸出入表

横浜港　明治　年分　報告期限年二月三十八日限　四年分

品目	単位	輸出 数量	輸出 元価	輸出 平価	輸出 仕向地	輸入 数量	輸入 元価	輸入 平価	輸入 積出地
生鮮	石								
生鮭	同								
生鱒	同								
生鱒	同								
生鮎	貫								
生蹶	同								
生鮒	同								
生鰻	同								
其他生魚	同								
身鮮	同								
二ッ物鮮	同								
鹽鮮	同								
鰊鰈	同								
鹽鮭	同								
鮭罐詰	斤								
鮭筋子	石								
鹽鱒	同								
鱒罐詰	斤								
枠鱈	石								
開鱈	同								
鹽鱈	同								
乾鮏	同								
鰈鰈	斤								
其他乾魚	貫								
鹽鮏	石								
鹽鰤	同								
其他鹽魚	貫								
鰤	同								
煎海鼠	同								
乾鮑	同								
乾海鼠	同								
乾北海鼠	同								
乾牡蠣	同								
其他乾介	同								
長切昆布	石								

大野搾粕	同
鮗搾粕	同
鰊搾粕	同
鰯搾粕	同
鯡魚粕	同
鯡粕目子	同
鯡胴鯡	同
鯡搾粕	石
鹽鮭	同
其他海産	同
海苔	同
銀杏	同
石花菜	同
寒布	貫
其他昆布	石
刻昆布	貫
細布	同
折昆布	同
元揃昆布	石

牛筋	貫
蹄	箱
コークス	個
鐵作	噸
銅	貫
礦	石
石炭	同
氷	噸
其他毛皮	同
腿皮	同
腦胸皮	同
海豹皮	同
海獺皮	枚
其他魚油	同
鱈肝油	同
鰐油	同
鯨油	同
鰮油	同
鯖油	同
其他魚油	石

| | | |

種類	備考
鉄	計
雜貨	箇
種子物類	石
其他海産物	貫
雑穀類	箇
蠶卵紙	箇
綿糸	貫
漁網	反
船具類	箇
草鞋	同
麻類	束
縄	同
柳	丸

管外輸出入表ハ一港湾等ニ他道府縣ヘ輸出シ及他道府縣ヨリ當道ヘ輸入ノ物品ヲ調査シ管内輸出入表ハ北海道各場間ノ輸出入品ニ就キ調査シ重複道海ナキヲ要ス

輸出入ノ物品ハ本表中ニ掲載セシ品目ニ從ヒ可成的同種ノモノ（例ヘハ兒服太物ノ品目ヘハ和洋紗、木綿其他一切ノ織物等ヲ合狀シ鍋鍋類ヲ金物ニ燒酎等ヲ日本酒ニ合狀スルカ如シ）ヲ組入レ其組入カタキ異種ノ品物ニシテ本表中ニ掲載ノ目ナキモノハ都テ雜貨ニ編入スヘシ

種類	備考
鉄	計
鍛冶川鍛材	噸
銅鍛類	同
金物類	同
綿	貫
和洋小間物	同
兒服太物類	箇
燈	枚
蠟燭	貫
其他油類	同
菜種油	同
亞麻油	同
種油	石
石油	函
漆器	同
陶磁器	箇
紙類	同
煙草	同
乾物類	同
麦粉	貫

第三十九　銀行業務及金利表　　明治　年上半季分　年下半季分　年三月三十一日限　年末

（其一）上半季營業狀況　（其二）下半季營業狀況

（行名）　（所在地）

支店數		入金		總收益金	
資本總額		出金		總損金	
拂込濟資本金		前季末積立金		差引純益金	
涸川資本金		當季積立金		當季割賦金	

預金

科目	前季越高	當季預高	預高計	當季拂戻高	當季末殘高
官金及公金預金					
人民 振別當定 出段座期 手預貯所 形金金預金					
小計					
合計					

貸付金

科目	前季越高	當季貸付高	貸付高計	當季返金高	當季末殘高
貸付金					
當座預金貸越					
計					

諸手形

手送形金					
官金及公金	（提出）	（受込）	荷爲替手形	（發出）	（取立）
人民	（同）	（同）	割引手形	（當所）	（他所）
計	（同）	（同）	代金取立手形	（當所）	（他所）

季末通貨有高

種別	貨幣	紙幣	他店切手	計
金高				

金利（百圓ニ付）

種別	一（七）月		二（八）月		三（九）月		四（十）月		五（十一）月		六（十二）月	
	最高	最低	最高	最低	高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
貸付金	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘
預り金												
割引相場	銭 厘 毛	銭 厘 毛	銭 厘 毛	銭 厘 毛	銭 厘 毛	銭 厘 毛	銭 厘 毛	銭 厘 毛	銭 厘 毛	銭 厘 毛	銭 厘 毛	銭 厘 毛

況商

一　商國金銀迷所況庶ナ交用獻
一　關金キ本貨金ニノ時額本國
　　ハ出ハ二金罰
　　當季ハ旨及ハ以下
　　商記記圓假令ハ四
　　月ヲヲ怒ハ柔年銘
　　夫要要來年銘五
　　況モス日柔入
　　況ス・ニ怒注ニ
　　ヲ配テ柔ニ
　　スヘシ除日數ノ得百配ルヲ五入十スヘシ金日ノ十三ニシ及テ三非千内三五百三十日十四三ハヲ迷四用ヲ貨本用金シトヲ行日ヲ國ハ入十スルヲ及四モノヲト使用スシータルトハ迷ヤハ貨此本位

第四十　營業種別表
（其一）農業戸口表　　明治　年分　報告期年二月二十八日限　調査年

郡區	種別	戸口	業				雇								合計
							農業ヲ主トスル者				他業ヲ主トスル者				
			自作	小作	兼自小作	計	自作	小作	兼自小作	計	自作	小作	兼自小作	計	
		人戸													
		口數													
合計															

本表ハ其年十二月三十一日現在數ヲ記入スルモノトス

營業種別表
（其二）商工業戸數表　　明治　年分　報告期其年三月三十一日限　調査年

種別＼郡區	何郡（區）				合計
物品販賣業	戸	戸	戸	戸	戸
銀行業					
保險業					
金錢貸付業					
物品貸付業					
製造業					
運送業					
倉庫業					
運河業					
橋梁業					
船渠業					
船舶碇泊場業					
貨物陸揚場業					
土木請負業					
労力請負業					
印刷業					
窯瓦業					
貸座敷業					
旅人宿業					
料理店業					
公ナル周旋業					
代辯業					

備考		
仲立業		
仲買業		
計		

一　本表ハ營業稅ヲ納ムルモノニ限リ記入スルモノトス
一　雜業者ハ一方ニ○印ヲ附スベシ
一　調査期ハ其年一月三十一日現在トス

第四十一　漁船表　　明治　年分　報告期限年一月三十一日限　調査年年

郡名	船種	二枚棚					一枚棚			舟艇		合計
		船形三	船形作	船形川	船形崎	船形西	計	機船形	艪船形	計	丸木船	計	
	五四以上												
	五四未滿												
	三四未滿												

備考

四機川三二船
洋船崎牛枚定
形形船船柳ハ
船ハ形形ハ船
ハ持ハハ數梁
船算浮四トヨ
種船通淺岡リ
及中川尺岡鰹
稅及崎地各梁
量根船方二マ
チ宝宝トノ枚ヲ
匿地柳三ノチ
刑方ス牛柳刑
シノル船板リ
本岡モ、ヨ一
送浮ノ保リ問
三船及洋皮ハ
準ト一船ルモ尺
シ形ヲ根ノト
刑スヤ根ノ一ス
送ルッ宝ハ地枚
三ムイ方柳
調ダ「ノハ
製マ「ノハ同
ス沿ヲ合上
ヘシリッ船一
チバ船枚
云イ摂ノ
フ帝地モノ
稱方刻
スノ船
ル岡ハ
遊船丸
テ三木
川牛ヤ
崎船刻
遊ニリ
リ類ス
ノシル
モタルノ
ノモヤ
算ノ云フ
入ヤ卍
スベ入
シ
ル
モ
ノ
ト
ス

第四十一　新造船表　　明治　年分　報告期限年一月三十一日限　調査年年

河海湖沼名	同所廣郡區名	五間以上			五間未滿			三間未滿			合計	
		船數	價額	平價	船數	價額	平價	船數	價額	平價	船數	價額
			圓	圓		圓	圓		圓	圓		圓

計				

備考

一　本表ハ其年内竣工ノモノヲ掲記スヘシ

一　沿海ノ區域ハ郡界ヲ以テ之ヲ別ツ例ヘハ何郡沿海ト記入スルカ如シ

一　郡區名ノ欄ニハ河海湖沼所在ノ郡區ヲ記入スルモノトス

一　二郡又ハ三郡ニ屬セル業湖ニ於テ使用スヘキ漁船ヲ新造スルトキハ第二欄ニハ二郡又ハ三郡名ヲ記入スルモノトス

一　西洋形船ハ船種及積量ヲ區別シ本表ニ準シ別表ニ調製スヘシ

第四十三　廢川漁船表

明治　年分　報告期翌年一月三十一日限　調査毎年

河海湖沼名	同所屬郡區名	五間以上 船數	五間以上 平均船齢	五間未滿 船數	五間未滿 平均船齢	三間未滿 船數	三間未滿 平均船齢	合計 船數	合計 平均船齢
計									

備考

一　廢川漁船トハ漁業川ニ堪ヘスシテ使用ヲ廢シタルモノヲ云フ但雜破船ヲ加フヘカラス

一　平均船齢ハ其欄ニ記入スル各船ノ年齢ヲ合計シ船ノ總數ヲ以テ除シタルモノヲ掲クヘシ

一　合計ノ欄ニ記入スル平均船齢ハ該欄ニ記入スル各船ノ年齢ヲ合計シ船ノ總數ヲ以テ除シタルモノヲ掲クヘシ

一　西洋形船ハ船種及積量ヲ區別シ本表ニ準シ別表ニ調製スヘシ

第四十四　雜破漁船表

明治　年分　報告期翌年一月三十一日限　調査毎年

郡區名	遭難ノ場所	月日	遭難ノ種類	船數	乘組總員	乘組員中 死去	乘組員中 負傷	乘組員中 生死不明	乘組員中 計
			破壞	漂流	行先不明				
計									

備考

一　本表ハ船籍所在郡區衙ヨリ報告スヘシ

一　郡區名ハ船籍所在ノ郡區名ヲ記入スヘシ

一　備考ニ遭難ノ事由ヲ摘記スヘシ例ヘハ何漁業ノ爲メ何船ニテ某處ヘ出漁中何風ニ遭ヒ何何シタル等

第四十五　漁網表（其一）

明治　年分　報告期翌年一月三十一日限　調査毎年

| 郡區名 | 建網 | | | | | | | | |

| 郡名 | 旋網 | | |

品名	單位
鹽鮭	貫
鹽鰤	石
鹽鯖	石
鹽鰯	石
其他鹽製品	貫
乾鮑	石
乾鱈	石
乾鱈	石
丸乾鱈	石
枠鱈	石
其他鱈製品	貫
鱈罐詰	斤
鱈漬製	尾
鹽鱒	石
其他鱒製品	貫
鯉筋子	貫
鯉鱗詰	斤
鯉漬製	尾
鯉	石
鯉	石
鹽鯛	石

品名	單位
乾鮫	貫
乾鯛	貫
乾蝶	貫
乾大神貝	貫
乾河豚	貫
鮫鰭	貫
其他乾魚	貫
其他鹽魚	貫
鹽柔魚	貫
柔魚鹽辛	貫
乾傘魚	貫
鹽海鼠	貫
雲丹	貫
乾蝦	貫
乾鮑	貫
乾海鼠	貫
乾牡蠣	貫
牡蠣醬油	石
牡蠣鹽詰	斤
牡蠣	貫

品名	准ノ超標貫	日ノ罪標貫位準	何郡 産額	何郡 價額	何郡 平價	何郡 産額	何郡 價額	何郡 平價	何郡 産額	何郡 價額	何郡 平價	計 産額	計 價額	計 平價
鰯搾粕	石													
鰯飾粕	石													
鯛鰹	石													
鰯白子粕	石													
鰯鱗	石													
鰯搾粕	石													
鰯搾粕	石													
鰯搾粕	石													
鰯搾粕	石													
鰯搾粕	石													
鰯搾粕	石													

水産製造物表　其二（肥料）

備考

本表ニ於テ粕類ト稱スルハ從來ノ統計ニ於テ乾鰯ト云ヒシモノニシテ其無税品項中ニ記セル粕類ニ代フベキ無税品項中ニ記セル鰯ト記セルモノハ即チ本表ノ丸乾鰯トス

但	何	何
	計	計

品名	准ノ超標貫	日ノ罪標貫位準	何郡 産額	何郡 價額	何郡 平價	何郡 産額	何郡 價額	何郡 平價	何郡 産額	何郡 價額	何郡 平價	計 産額	計 價額	計 平價
鰯搾粕	石													
鰯飾粕	石													
鯛鰹	石													
鰯白子粕	石													
鰯鱗	石													
鰯搾粕	石													
鰯搾粕	石													
鰯搾粕	石													
鰯搾粕	石													
鰯搾粕	石													
鰯搾粕	石													

水産製造物表　其三（雑川）

品名	鮑貝殻	沃度母液	沃度	其他魚油	鯨油	薬用鱈肝油	鱈油	鰈油	鮒油	價額何何	鯨骨	河豚搾粕	火鼠搾粕	豚搾粕
単ノ起産表	貫	斤	斤	石	石	斤	石	石	石	石	石	石	石	石
日ノ単標産位準														
何郡 産額														
何郡 價額														
何郡 平價														
何郡 産額														
何郡 價額														
何郡 平價														
何郡 産額														
何郡 價額														
何郡 平價														
計 産額														
計 價額														
計 平價														

水産製造物表　其四（河湖沼川）

品名	鱒鍋語	蒸製鱒尼	陸鱒	其他鮭製品	鮭筋子	鮭鍋語	蒸製鮭	鮭	海馬貝殻	牡蠣殻灰	海鹿皮	海豹皮	鼠皮	何皮
単ノ起産表	斤	尼	石	貫	貫	斤	尼	石	貫	石	枚	枚	枚	枚
日ノ単標産位準														
何何郡 産額														
何何郡 價額														
何何郡 平價														
何何郡 産額														
何何郡 價額														
何何郡 平價														
何何郡 産額														
何何郡 價額														
何何郡 平價														
計 産額														
計 價額														
計 平價														

品名		準ノ基標	日ノ現価標準	何郡 産額	何郡 価額	何郡 平価	何郡 産額	何郡 価額	何郡 平価	何郡 産額	何郡 価額	何郡 平価	計 産額	計 価額	計 平価
鰊		石													
鱈		貫													
鮭		石													
鱒		石													
鱈子		貫													
鱈		石													
鮑		貫													

第四十八　生産水産物表

明治　年分報告期　自一月至六月　自七月至十二月　自年初年七月三十一日限　至年末年一月三十一日限

非一

品名		準ノ基標	日ノ現価標準	何郡 産額	何郡 価額	何郡 平価	何郡 産額	何郡 価額	何郡 平価	何郡 産額	何郡 価額	何郡 平価	計 産額	計 価額	計 平価
海鼠		貫													
乾海鼠		貫													
牡蠣雑品		斤													
牡蠣罐詰		石													
牡蠣炭		石													
何何															
価額		計													
他類製品		貫													

備考
本表ハ前三表ニ掲記セシ水産製造物中河沼湖産ヲ各郡分シテ記入スベシ

品名		準ノ基標	日ノ現価標準	何郡 産額	何郡 価額	何郡 平価	何郡 産額	何郡 価額	何郡 平価	何郡 産額	何郡 価額	何郡 平価	計 産額	計 価額	計 平価
王ヨウ		貫													
鮟	鱇	貫													
鱈		貫													
鰈		貫													
アカエイ		貫													
鮪		貫													
鰹		貫													
鯖		貫													
鰯		貫													
鰤		貫													
鰆		貫													
鰺		貫													
鯛		貫													
比目魚		貫													
火鱙		貫													
鮫		貫													
鱈		貫													
鯛		貫													
目抜鯛		貫													
鯉		貫													
火カナガ魚ジタ		貫													
ソイ		貫													
アブラコイ		貫													
鱒		貫													
鮎		貫													
鰻		貫													
鯉		貫													
鯉		貫													
鯉

價額	何	何	鯛	北海鮭	鮑	蟹	蝦	海鼠	海鼠	海鼠	海鼠	海鼠	海鼠	海鼠	海鼠	海鼠	海鼠	海鼠
計	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦

生産水産物表　其二

品名	鮭	鱒	鮑	キ	ソ	リ	鯨	鯛	シ	ニ	シ	ヤ	ム	公	魚	鯨	残	魚	鱈	魚	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
準ノ起源	石	石	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
日ノ票証及使用																														
何何 産額																														
何何 価額																														
何何 平価																														
何何 産額																														
何何 価額																														
何何 平価																														
何何 産額																														
何何 価額																														
何何 平価																														
小 産額																														
小 価額																														
小 平価																														

備考

表ハ生ノ確実ニ設治セルモノヲ統計スルモノニシテ其ニハ之カ均価ヲ掲ケ其ニハ河湖沼沼ニ其産額価額ヲ掲記スヘシ

第四十九　食鹽産額表　明治　年分　報告期限年一月三十一日限　調査年

濱浦名	郡濱浦所在地	鹽田反別	食鹽産出高	非鹽他食鹽産出高	食鹽産出高	同上價額	産數
合計		四	石				

第五十　水産製造人員表　明治　年分　報告期限年一月三十一日限　調査年

郡區名	漁業種類	管外 漁夫	管外 漁船	管外 漁業者	管内 漁夫	管内 漁船	管内 漁業者
		人	隻		人	隻	人

備考
管外ノ欄ニハ他府縣ヨリ入稼セルモノ管内ノ欄ニハ本道各郡區ヨリ入稼セルモノヲ漁業種類ニ區別シテ記入スベシ

第五十一　水産業者出稼表　明治　年分　報告期限年一月三十一日限　調査年

郡區名	漁業種類	管外 漁夫	管外 漁船	管外 漁業者	管内 漁夫	管内 漁船	管内 漁業者
		人	隻	人	人	隻	人

備考
管外ノ欄ニハ他府縣又ハ海外ヘ出稼セルモノ管内ノ欄ニハ本道各郡區ヘ出稼セルモノヲ漁業別ニ記入スベシ
西比利亞等海外ニ出稼セルモノハ備考ニ其出稼地及業種種類ヲ詳記スベシ

第五十二　水産現業表　其一　明治　年分　報告期限年一月三十一日限　調査年

郡區名	鮭				鱒				鰊				鱈				鯛				鰯			
	管業者	管業者	流網業	流休網業	管業者	管業者	流網業	流休網業	管業者	管業者	流網業	流休網業	管業者	管業者	流網業	流休網業	管業者	管業者	流網業	流休網業	管業者	管業者	流網業	流休網業

水産現業表　其二

| 郡區名 | 曳網 | | |

備考	

本表ニハ風雨水旱霜雹及病虫害ニ係ル作毛被害ヲ記入シ且備考欄内ニハ被害ノ狀況ヲ詳記スヘシ

第五十四　遠洋漁業　報告期八月三十一日限　調査　至自明治廿年六月　一箇年

場所	季節	日本形船 船名	日本形船 乗組員	西洋形帆船 船名	西洋形帆船 噸數	西洋形帆船 乗組員	西洋形汽船 船名	西洋形汽船 噸數	西洋形汽船 乗組員	漁獲物 種類	漁獲物 數量	漁獲物 價額
			人			人			人			圓
計												

一　遠洋漁業トハ遠海洋面ノ漁業ヲ云フ
一　場所ノ欄ニハ漁業ニ從事セシ洋面ヲ記スヘシ

第五十五　漁夫表　明治　年分　報告期翌年一月三十一日限　調査明治年

郡區	鰊	鮭	鱒	鰹	鯨	柔魚	昆布	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人
計								

一　同一漁期ニ於テ二種以上ノ漁業ニ從事セル場合ハ其主ナルモノニ從テ記入シ他ノ欄ニハ朱字ニテ其人員ヲ記スヘシ
一　一人ニシテ二種以上ノ漁業ニ兼業ニ從事セルカ若ハ其從事セル各種ニ算入スヘシ例ヘハ鱒漁業ニ從事シタル者ハ鱒及鮭ノ部ニ各其人員ヲ記入スルカ如シ
一　鱈ノ如キ其漁期年末ニ到ルニ分ルルモノハ漁期ノ何レタル問ハス漁夫數ノ最モ多キヲ以テ算スヘシ

○明治三十六年一月十日告示第八號
明治三十五年(十二月)農商務省令第二十六號農會ニ於テ調査スヘキ農事ニ關スル報告様式左ノ通定ム

様式

第一號

作付段別	水稲	陸稲	合計	大麥	小麥	裸麥	合計
收穫高							

第二號

段別	田一毛地作	二毛以上作田地 常通ノ反作	二毛以上作田地 綠肥反作	二毛以上作田地 合計	合計

第三號

田段別	牛馬耕ナス	牛馬耕ナサス	合計
畑段別			

第四號

田・畑段別	自作	小作	合計

第五號

耕作用牛馬頭數	牛	馬	合計

第六號

戸數	退戸數	休業農家	兼業農家	農家合計

第七號

現在數	農業ヲ廢シ他ノ職業ニ移リタルモノ又ハ廢業之ニ移シ他ノ職業ニ移リタルモノ	職業ヲ廢シ農業ニ移リタルモノ又ハ職業ヲ變ジ他ノ職業ニ移リタルモノ	合計

第八類　醤油醸造業

醤種

○明治三十四年二月二十六日農令第十號

醤種檢査法施行手續左ノ如相定メ明治三十三年(三月)法律第四十五號醤種檢査法施行ノ日ヨリ施行ス

但明治三十三年(一月)北海道廳令第二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

醤種檢査法施行手續

第一條　醤種檢査法施行規則第一條ノ醤種製造者ハ毎年四月十五日迄ニ其管轄ニ差出スコトヲ要ス但シ特殊ノ事情ニ於テ居出ノ非項ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ其旨ヲ居出ツルコトヲ要ス

第二條　醤種製造者ハ醤種製造所ニ第一號雛形ノ標札ヲ掲クヘシ

第三條　醤種製造者製造所ノ管理ヲ自ラ爲サヽルトキハ相當ノ代理人ヲ定メ第一號書式ニ依リ醤油業方面ノ上醤種製造居管ト共ニ居出ツルコトヲ要ス

第四條　醤種製造者原種ノ採立ヲ了リタル日以内ニ第二號書式ニ依リ所轄醤種檢査所ニ居出ツルコトヲ要ス

但シ數回ニ採立ツルトキハ其都度居出ツルコトヲ要ス

第五條　製造所ヲ異ニシタル醤兒、醪及ビ卵ハ之ヲ混同スルコトヲ得ス

第六條　原種ノ製造ニ供用セサルモノト雖モ醤後ノ檢査ヲ經ルノ醤種ノ之ヲ保存スルコトヲ要ス

第七條　製種用醤兒ノ上表ヲ了リタルトキハ即日所轄醤種檢査所ニ第三號書式ニ依リ上表簿ヲ提出スコトヲ要ス

但シ數回ニ上表ヲ爲シタルトキハ其都度居出ツルコトヲ要ス

第八條　製種用醤兒ヨリ廢生シタル醪ハ他所ニ搬出スルコトヲ得ス

第九條　醪ノ搾則ヲ了リタルトキハ直チニ第四號書式ニ依リ醤醪簿ヲ作リ醤種檢査員ニ檢査ノ際之ヲ提出スコトヲ要ス

第十條　醪ハ上表後一化性ニ在リテハ十二日以内ニ醤油ニ成ルモノトス但シ數回ニ上表ヲ爲シタルトキハ其都度居出ツルコトヲ要ス

第十一條　醤種檢査法施行規則第十九條ニ依リ醤油證明書ノ交付ヲ請求セントスルトキハ其請求書ニ醤種檢査所ニ提出シタル醪簿ヲ所轄醤種檢査所ニ提出スコトヲ要ス但シ證明ヲ爲シタルモノニ在リテハ請求書ニ之ヲ添附スヘシ

醤種檢査所更ニ證明書ヲ交付スルトキハ其證明書ニ其下付ノ日ヲ記載ス

第十二條　醤種檢査法施行規則第二十條ニ依リ醤油證明書ノ書換ヲ請求セントスルトキハ其請求書ニ依リ所轄醤種檢査所又ハ醤種檢査員ニ提出スコトヲ要ス

第十三條　不適年醤種ノ採取後ハ檢査ヲ了リタル日ヲ以テ第六號書式ニ依リ醤種證明書ヲ作リ醤種檢査員ニ提出スコトヲ要ス

第十四條　醤種檢査員ニ提出スル醤種ハ縦一尺一寸七分横七寸四分厚一寸四分ノ四環ヲ容ルルニ足ルヲ要ス

第十五條　不適年醤種ノ製造者ハ醤種ニ之ヲ表明セサルトキハ即日其旨ヲ醤種檢査所ニ提出スコトヲ要ス

第十六條　不適年原種ノ製造ヲ了リタルトキハ第七號書式ニ依リ不適年原種檢査請求書ヲ提出スコトヲ要ス

第十七條　醤種檢査所ハ醤種ノ製造ヲ了リタルトキハ三日以内ニ第八號書式ニ依リ醤種製造届ヲ提出スコトヲ要ス

第十八條　適年原種ハ毎年九月一日ニ開封ス

第十九條　醤種製造者適年原種ハ檢査ヲ請求セントスルトキハ第九號書式ニ依リ醤種檢査請求書ヲ作リ醤種檢査員ニ提出スコトヲ要ス

第二十條　醤種檢査所ハ醤種ヲ受領シタルトキハ其旨ヲ醤種製造者ニ通知スヘシ

第二十一條　醤種製造者原種檢査濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ醤種檢査所ニ出頭シ醤種ノ枚數及ビ醤油ノ有無ヲ申出ヘシ醤種ヲ受取リタル後直チニ檢査濟醤種ヲ受領シ其數及ビ醤油ノ有無ヲ醤種檢査所ニ提出スヘシ

第二十二條　北海道ニ在所ヲ有セサル醤種製造者カ北海道ニ於テ醤種ヲ製造シ來リタル場合ハ醤種檢査員ニ提出スヘシ

第二十三條　醤種檢査法施行規則第二十條ノ印ヲ押捺スルトキハ醤種檢査員ニ提出スヘシ

第二十四條　原種製造者ハ醤種ノ數量ヲ明ニシ川ニ流スコトヲ要ス

第二十五條　不適年醤種ハ北海道廳ニ之ヲ廢棄シ其旨ヲ醤種檢査所ニ提出スヘシ

第二十六條　不適年原種ノ製造ヲ了リタルトキハ第七號書式ニ依リ不適年原種檢査請求書ヲ提出スヘシ

及ビ其數量ヲ添ヘ之ヲ所轄醤種檢査所ニ提出スコトヲ要ス

第二十七條　醤種檢査所ハ醤種ノ製造ヲ了リタルトキハ三日以内ニ第八號書式ニ依リ醤種製造届ヲ提出スコトヲ要ス

第二十八條　適年原種ハ毎年九月一日ニ開封ス

第二十九條　醤種製造者適年原種ハ檢査ヲ請求セントスルトキハ第九號書式ニ依リ醤種檢査請求書ヲ作リ醤種檢査員ニ提出スコトヲ要ス

第三十條　醤種檢査所ハ醤種ヲ受領シタルトキハ其旨ヲ醤種製造者ニ通知スヘシ

第三十一條　醤種檢査所ハ醤種製造者ヨリ醤種ノ檢査濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ醤種檢査員ニ出頭シ醤種ノ枚數及ビ醤油ノ有無ヲ醤種檢査所ニ提出スヘシ醤種ヲ受取リタル後直チニ檢査濟醤種ヲ受領シ其數及ビ醤油ノ有無ヲ醤種檢査所ニ提出スヘシ

第三十二條　北海道ニ在所ヲ有セサル醤種製造者カ北海道ニ於テ醤種ヲ製造シ來リタル場合ハ醤種檢査員ニ提出スヘシ

第三十三條　醤種檢査法施行規則第二十條ノ印ヲ押捺スルトキハ醤種檢査員ニ提出スヘシ

第三十四條　原種製造者ハ醤種ノ數量ヲ明ニシ川ニ流スコトヲ要ス

雛形

第一號

○醤種製造所

郡村氏番地名

縦三尺　横五寸

第二號

北海道廳醤種檢査員氏名印

方六分

肉色朱

第三號

鉄蛭

圓徑二分五厘

肉色黒

第四號

繼印

長徑三分

短徑二分

肉色朱

第一號書式

代理人届

郡区町村番地

氏名

郡区町村番地

氏名

郡区町村番地

氏名

郡区町村番地

氏名

代理人

氏名印

郡区町村番地

氏名

氏名印

右何郡区何町村何番地醤種製造所ノ代理人ト相定メ候條此段御届候也

年　月　日

第二號書式

醤油立表

化性	化期	名稱	數量	醤油表上	月日	製造所
一化性						
〃						
二化性	第一化					
〃	〃					

右及御屆候也

第三號書式

上願屆

化性	化期	名稱	蛾屆出孵數	蛾屆出孵立數	月上日數	採種定期月日	製造所

右及御屆候也

年　月　日　　郡區町村番地

二化性第二化多化性モ本式ニ準スヘシ　　氏　　名　印

第四號書式

收繭屆

調査項目 / 化性名稱	孵立蛾數	孵立蛾數	收繭總數	收繭一及二付孵立數	種蠶掃別孵立數	製絲川繭孵立數	同功繭孵立數
一							
何化							
何性							
〃							
〃							
〃							
〃							
〃							
〃							

第五號書式

種蠶明告換請求書

化性	化期	名稱	種蠶數	種蠶數	種蠶受渡人	製造所

右及請求候也

年　月　日　　郡區町村番地

何號種換所宛　　氏　　名　印

第六號書式

不越年原種換紙証明請求書

化性	化期	名稱	種蠶	種蠶	種蠶	製絲川種	種蠶製造蛾數	月日
			系地	種蠶數	原種	何號分何枚		經過
								檢査日定

右請求候也

年　月　日　　郡區町村番地

宛　　氏　　名　印

第七號書式

不越年原種換証請求書

化性	化期	名稱	原種枚數	產卵蛾數	產卵月日	孵化檢査月日

右請求候也

年　月　日　　郡區町村番地

宛　　氏　　名　印

第八號書式

蠶種製造届

化性	化期	名稱	出殺繭量	產卵月日	蠶種製造額 原種	蠶種製造額 製絲川種	殘餘枚數 原種	殘餘枚數 製絲川種

右及御屆候也

年　月　日　　郡區町村番地

越年種ハ最下ノ一欄ヲ要セス　　氏　　名　印

第九號書式

越年原種換証請求書

化性	化期	名稱	原種 枚數	原種 蛾數	製絲川種 枚數	製絲川種 蛾數	現在數 枚數	現在數 蛾數

右請求候ニ付証明相成度候也

年　月　日　　郡區町村番地

宛　　氏　　名　印

第十號書式

原種川陸揚請求書

化性	化期	名稱	原種川 枚數	原種川 蛾數	製絲川種陸揚 枚數	製絲川種陸揚 蛾數	現在數 枚數	現在數 蛾數

右請求候ニ付証明相成度候也

年　月　日　　郡區町村番地

宛　　氏　　名　印

年　月　日　　郡區町村番地

二化性及ヒ多化性モ本式ニ準スヘシ　　氏　　名　印

第二號書式

上願屆

化性	化期	名稱	蛾屆出孵立數	蛾屆出孵立數	月上日數	採種定期月日	製造所

右及御屆候也

年　月　日　　郡區町村番地

二化性第二化多化性モ本式ニ準スヘシ　　氏　　名　印

第四號書式

收繭屆

調査項目 / 化性名稱	孵立蛾數	孵立蛾數	收繭總數	收繭一及二付孵立數	種蠶掃別孵立數	製絲川繭孵立數	同功繭孵立數
一							
何化							
何性							
〃							
〃							
〃							
〃							
〃							
〃							

第五號書式

種蠶明告換請求書

化性	化期	名稱	種蠶數	種蠶數	種蠶受渡人	製造所

右及請求候也

年　月　日　　郡區町村番地

何號種換所宛　　氏　　名　印

第六號書式

不越年原種換紙証明請求書

化性	化期	名稱	種蠶	種蠶	種蠶	製絲川種	種蠶製造蛾數	月日
			系地	種蠶數	原種	何號分何枚		經過
								檢査日定

右請求候也

年　月　日　　郡區町村番地

宛　　氏　　名　印

第七號書式

不越年原種換証請求書

化性	化期	名稱	原種枚數	產卵蛾數	產卵月日	孵化檢査月日

右請求候也

年　月　日　　郡區町村番地

宛　　氏　　名　印

第八號書式

蠶種製造届

化性	化期	名稱	出殺繭量	產卵月日	蠶種製造額 原種	蠶種製造額 製絲川種	殘餘枚數 原種	殘餘枚數 製絲川種

右及御屆候也

年　月　日　　郡區町村番地

越年種ハ最下ノ一欄ヲ要セス　　氏　　名　印

第九號書式

越年原種換証請求書

化性	化期	名稱	原種 枚數	原種 蛾數	製絲川種 枚數	製絲川種 蛾數	現在數 枚數	現在數 蛾數

右請求候ニ付証明相成度候也

年　月　日　　郡區町村番地

宛　　氏　　名　印

第十號書式

原種川陸揚請求書

○明治三十四年二月二十六日訓令百二十五號(道長郡蠶種檢査所宛)

蠶種檢査手續左ノ通相定メ明治三十三年(三月)法律第四十五號蠶種檢査法施行ノ日ヨリ施行ス

蠶種檢査手續

第一條　蠶種檢査法施行規則第一條第二項ノ申出ニ依リ檢査手續ノ一部ヲ他府縣蠶種檢査所ニ推移シタル場合ニハ檢査ノ成績ヲ送ニ其推移シタル蠶種檢査所ニ通知スヘシ

第二條　蠶種檢査ハ蠶期中ノ蔟除ハ結繭後及上蔟前ノ二回以上之ヲ行フヘシ

第三條　蠶種檢査法施行規則第六條第一號ノ檢査ヲナスニ當リテハ第三條乃至第五條ニ準拠シ蠶種製造蛾數ヲ定メ之ヲ種蠶ノ株數ヲ定メ之ヲ種蠶ノ株數

ニ乘シ種繭ノ顆數トシ次ニ種繭ノ内若干顆ヲ切開シテ其發蛾歩合ヲ定メ之ヲ種繭ノ顆數ニ乘シ其半數ヲ以テ產卵セシメ得ヘキ蛾數ノ標準トナスヘシ

第四條　蠶種檢査法施行規則第十一條ノ場合ニハ蓙紙ノ數及ヒ種繭證明書ヲ蓙帳ニ照合シ且同第三條ノ規定ニ違背セサルヤ否ヤヲ檢定スヘシ

第五條　蠶種檢査法施行規則第十三條ノ手續ハ蠶種製造所ニ於テ出殼繭種繭證明書及ヒ蠶種製造濟屆トヲ照合シタル後之ヲ行フヘシ

第六條　蠶種檢査法施行規則第十四條ノ手續ハ卵出殼繭及蠶種證明書ヲ照合シタル後之ヲ行フヘシ

第七條　出殼繭ヲ檢査スルニ當リテハ蠶種檢査法第三條及ヒ第四條ニ違背セサルヤ否ヤヲ檢定シ次ニ平均一枡ノ發蛾顆數ヲ定メ之ニ出殼繭ノ枡數ヲ乘シ其半數ヲ以テ產卵シタル蛾數ヲ標準トスヘシ

第八條　母蛾ノ檢査ヲナスニハ一蛾毎ニ乳鉢ニ入レ黄性加里ノ稀薄液若クハ蒸餾水少許ヲ加ヘテ能ク磨潰シ其液ヲ顆微鏡ニ照シ微粒子ノ有無ヲ檢定スヘシ但シ無毒ト定ムル場合ニハ毎鏡面五視野以上ヲ視察スヘシ

○明治三十一年五月十三日訓第百八十四號（殖民部蠶種檢査所宛）

蠶種檢査監督規程左ノ通定ム

蠶種檢査監督規程（三十一年七月訓第二百六十八號ヲ以テ第三條ヲ削除シ第四條ヲ第三條ニ繰上ク）

第一條　本廳殖民部ニ蠶種檢査監督若干名ヲ置キ蠶種檢査員ヲ指揮監督セシム

第二條　蠶種檢査監督ハ臨時蠶種檢査所、蠶種製造所若クハ飼育所ヲ巡檢シ檢査ノ確否ヲ査察シ蠶種檢査員ノ職務執行ヲ監視ス

第三條　蠶種檢査監督ハ蠶種檢査所、蠶種製造所若クハ飼育所ノ巡檢ヲナシタルトキハ左ノ各項ヲ復命スヘシ

一　蠶種檢査ノ狀況

一　蠶種檢査員ニ對スル製造者ノ感情

一　蠶種檢査員勤怠及檢査事務ノ整否

右ノ外必要ト認ムル事項

○明治三十四年五月二十日訓第四百十一號（殖民部蠶種檢査所宛）

蠶種檢査所處務細則左ノ通定ム

蠶種檢査所處務細則（五月）訓第百八十五號ハ廢止ス

但明治三十一年（五月）訓第百八十五號ハ廢止ス

蠶種檢査所處務細則

第一章　庶務施行手續

第一條　蠶種檢査所ニ到達シタル文書ハ親展書ヲ除クノ外書記之ヲ授受シ文書發著簿ニ記入シ主事ノ檢印ヲ受ク

第二條　蠶種檢査所ヨリ發スル文書ハ書記之ヲ起草シ主事ノ檢印ヲ受ケ淨寫發送スヘシ但文書發著簿ニ記入シ番號ヲ付スヘシ

第三條　蠶種檢査所ニハ日誌ヲ備置キ事務ノ概要ヲ摘錄スヘシ

第四條　蠶種檢査所ニハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　出勤簿

二　文書發著簿

三　蠶種檢査所日誌

四　諸屆臺帳

五　種繭證明書付與臺帳

六　蠶種檢査臺帳

七　原種受渡簿

八　物品受拂簿

九　原種檢査成績簿

十　其他必要ナル帳簿

第五條　物品ノ購入又ハ人夫ノ使用ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ殖民部ニ請求スヘシ

但札幌ヲ除クノ外蠶種檢査所所在地ニ所ヲ購入スルヲ便利トスル物品ニ對シハ營業者二名以上ノ代價見積書ヲ添附スヘシ

第六條　物品ヲ受領シタルトキ又ハ所員ニ物品ヲ交付シタルトキハ物品受拂簿ニ登記シ受取人捺印スヘシ

第七條　蠶繭、收繭及產卵ノ狀況視察收繭後及產卵後ノ檢査其他所員ノ出張ハ期日前主事ニ於テ御用名旅行區域日數及氏名ヲ豫定シ出張命令ヲ申請スヘシ

但臨時ニ生シタル事件ニシテ指揮ヲ待ツノ暇ナキトキハ追認ヲ受クルコトヲ得

第八條　蠶種檢査所備付ノ印章ハ主事ニ於テ保管シ退所ノ節ハ印函ニ鎖ヲ卸シ宿直者ニ預クヘシ

但鍵ハ主事之ヲ保管スヘシ

第九條　蠶種檢査所ハ樣式第一號乃至第三號ニ倣ヒ左ノ報告ヲ殖民部ニ提出スヘシ

一　蠶種檢査所週報　毎土曜日

二　原種母蛾檢査週報　毎月曜日

三　蓙數、收繭、產卵ノ狀況視察報告　歸著五日以內

第十條　蠶種檢査事務終了シタルトキハ蠶種檢査法施行規則樣式第十三號ニ準シ區町村別ノ檢査成績ヲ十日以內ニ殖民部ニ報告スヘシ

第二章　檢査事務手續

第十一條　原種母蛾檢査ノ請求ヲ受ケタルトキハ原種檢査臺帳ニ照合シタル後檢査請求書ト蠶種及拂蛾ノ數ヲ對照調査シ原種受渡簿ニ登記シ番號ヲ付スヘシ檢査濟交付ノ節ハ受取人ニ署名捺印セシムヘシ

第十二條　蠶種檢査員出張先ニ於テ蠶種檢査法施行手續第十二條ニ依リ種繭證明書書換ノ請求アリタルトキハ調査ノ上不都合ナキモノニ限リ書換下付シ其旨ヲ即日所轄蠶種檢査所ニ報告スヘシ

前項ノ報告ヲ受クタル蠶種檢査所ハ種繭證明書付與臺帳ヲ訂正シ讓受人ノ所轄蠶種檢査所ニ通知スヘシ

第十三條　蠶種檢査員出張先ニ於テ蠶種檢査法施行手續第十三條ニ依リ不越年蠶種蓙紙證印ノ請求アリタルトキハ收繭證明書ニ照シ不都合ナキトキハ直チニ證印ヲ與ヘ即日所轄蠶種檢査所ニ報告スヘシ

第十四條　蠶種檢査員出張先ニ於テ蠶種檢査法施行手續第十六條第二項ニ依リ不越年原種ノ檢査請求アリタルトキハ速ニ檢査ヲ施行シ其成績ハ檢査結了次第所轄蠶種檢査所ニ報告スヘシ

第十五條　原種母蛾ノ檢査ヲナスニハ檢査用紙ニ受付番號月日化性化期名稱數量及蠶種製造者ノ氏名並ニ有毒（十）無毒（〇）卵及母蛾ノ不備ニシテ顆微鏡視察ヲナササルモノハ（ロ）ノ符號ヲ記シ用紙一枚毎ニ小計ヲ付シ檢査員認印スヘシ

第十六條　蠶種檢査所ニ於テスル檢査ハ現品受付ノ順序ニ依リ之ヲ行フヘシ

競進會又ハ品評會ノ如キ直接營利ノ目的ニアラサル出品ニシテ期日ニ限リアルモノハ受付順序ニ拘ラス便宜檢査ヲナスコトヲ得

第十七條　檢査ヲ了リタル原種ハ主事ニ於テ其至日迄ニ檢査用紙ト對照シ捺印ノ誤謬脫漏ナキヤヲ檢スヘシ

樣式第一號（二化性多化性ハ各別紙トナスヘシ）

北海道廳何何蠶種檢査所週報第　回　自　月　日　至　月　日

一化性（二化性第一化又ハ第二化ノ類以下同）掃立屆出數

區町村別 ＼ 項目	口數	掃立蛾數	掃立蟻蚕	製造者數	製造所數
何郡何村					
何郡何村					
何郡何村					
總計					
累計					
一化性上蔟屆出數					
何郡何村					
何郡何村					
何郡何村					

區町村別 ＼ 項目	枚數	樹量	原種製造者數	絲川種製造數	收繭量	讓渡人數	讓渡枚數	讓受樹量	讓受人數	讓受枚數	讓受樹數	製造者數	製造所數
總計													
累計													
收繭後ノ檢査成績													
何郡何村													
總計													
累計													
種繭證明書書換數													

區別 ＼ 項目	種繭證明書付與	除去繭	收繭總量	原種製造者數	絲川種製造數	收繭量	樹量	樹量檢定額	製造檢定額	書換再渡
所轄內										

不合格證紙數	原種用紙廢棄數	週計	累計	何郡何村	所屬村別	項目	產卵後ノ檢査成績	週計	累計	同週	何所檢査所
						原種					
						口數					
						蛾數					
						産卵數					
						製造數					
						種製					
						口數					
						核査通數					
						核査種數					
						絲製					
						製造數					
						川種					
						製造數					

（備考）

様式第二號

北海道何何郡種檢査所出張檢査週報第何號

受付數

同年月日

名稱	項目	週計	累計
何何	口數		
	枚數		
	蛾數		
	製造者數		
	蛾未受數		
	枚未受付數		

合計	計	蛾指人夫	ク檢査助手者	檢査員	計	蛾指人夫	ク檢査助手者	檢査員	週計	累計	人員名	決一勅週間中日數	原種檢査功績内譯	週計	累計	項目	週計	累計	檢査成績
何人	何人	何人	何護	何護	何人	何人	何護	何護											
合計	計	決蛾其他	有	無	計	決蛾其他	有	無			決蛾不決蛾	月日				合格證印數			無蛾數
			海藻	海藻			海藻	海藻				日							有蛾數
												日							決蛾其他數
												日							合
												日							未檢査蛾數
												日							現在
												計							

備考

様式第三號

證紙、收藏、産卵狀況報告

證種檢査員　氏　名　印

産卵狀況報告年月日	産卵狀況	孵立蟻蛆	孵立月日	産卵狀況	化性	産卵狀況報告年月日	所屬郡市	氏名

（産卵狀況）ノ欄ニハ孵立蟻蛆ノ正確ナルヲ答及證紙、收藏、産卵等ノ狀況ヲ備考ニ記入スベシ

（上表報告期日）ノ欄ハ收藏産卵ノ狀況報告ニ「上表月日」ト記入スベシ

明治　年　月　日　　何何郡種檢査所

合計					

（備考）

檢査員、蛾指人夫及檢査助手ハ一種ニ付檢査員ノ數ニ過ギザルトキハ檢査員ノ數ニ過ギザルトキハ檢査員ノ數ニ過ギザルトキハ

直シ蠶種檢査所一切ノ取締ニ任スヘシ

○明治三十六年二月四日勅第百二號（內務部殖民部蠶種檢査所宛）

蠶種檢査所員給與規則左ノ通定メ本年四月一日ヨリ施行ス

明治三十四年四月勅令第三百五十四號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

蠶種檢査所員給與規則

第一章　手當

第一條　蠶種檢査員、書記及蠶種檢査助手ハ甲號表ノ定ムル範圍內ニ於テ手當ヲ給ス但シ主事ヲ兼ヌル蠶種檢査員ニ限リ日額金五拾錢以內ヲ增給スルコトアルヘシ

第二條　手當ハ勤務日數ニ應シ前月二十一日ヨリ其月二十日迄ヲ打切リ每月末日之ヲ支給ス但シ休暇日ハ其前後缺勤セシ場合ノ外勤務日數ニ算入ス

第三條　新ニ採用ノ場合ハ辭令交付ノ當日ヨリ增給減給ノトキハ發令ノ翌日ヨリ之ヲ支給ス

第四條　解免死亡ノトキハ第二條ノ規程ニ拘ハラス其際之ヲ支給ス

第二章　旅行手當

第五條　蠶種檢査員書記及蠶種助手ハ乙號表ノ區分ニ依リ旅行手當ヲ支給ス但シ支給方法ハ明治三十年勅令第三百三十三號內國旅費規則ノ例ニ依ル

第六條　左ニ掲クル事項ノ旅行手當ハ第五條ニ依ラスシテ丙號表ノ區分ニ依リ日額ヲ以テ之ヲ支給ス

一　蠶況視察

一　收繭後檢査

一　產卵後檢査

一　母蛾檢査

第七條　在勤地用務地間直行陸路三里汽車五哩水路十浬未滿ノ日歸旅行手當ハ丁號表ノ區分ニ依リ日額ヲ支給ス

第八條　前二條ノ日額ヲ支給スル場合ハ汽車賃汽船賃車馬賃及宿泊料ヲ支給セス

第九條　旅行手當ノ日額ハ旅行ノ日數ニ應シ之ヲ支給ス

第十條　新ニ採用シタルトキハ現住地ヨリ在勤地マテノ旅行手當ヲ給シ解職ノトキハ在勤地ヨリ採用地マテノ旅行手當ヲ支給ス但シ自己ノ便宜ニ依リ又ハ不都合ノ行爲アリテ解職シタル者ハ此限ニアラス

第三章　食料

第十一條　蠶種檢査員書記及蠶種檢査助手宿直又ハ徹夜勤務ノ節ハ食料ヲ支給ス但シ一食支給額ハ金四錢トス宿直及徹夜勤務ハ一夜二食ヲ支給ス

（甲號表）

蠶種檢査員書記及蠶種檢査助手手當額表

區分	一日手當額
蠶種檢査員	壹圓以內
同助手	四拾錢以內
同書記	六拾錢以內

（乙號表）

蠶種檢査員書記及蠶種檢査助手旅行手當額表

區分	汽車賃	汽船賃	車馬賃	宿泊料
蠶種檢査員	一哩二付四錢	一浬二付四錢	一里二付五錢	一夜壹圓
同助手	參錢	參錢	拾貳錢	六拾錢
同書記	參錢	參錢	拾貳錢	七拾錢

（丙號表）

蠶種檢査員及蠶種檢査助手旅行手當日額表

旅行區域	蠶種檢査員日額	同助手日額
札幌蠶種檢査所管轄區域（增毛出張所管轄區域ヲ除ク）	壹圓七拾錢	壹圓五拾錢
空知同上（伊達出張所管轄區域及浦河支廳管內ヲ除ク）		
上川同上（下帶廣出張所及釧路出張所管轄區域ヲ除ク）		
岩內同上（函館出張所管轄區域ヲ除ク）		
松前同上（江差出張所管轄區域ヲ除ク）		
札幌蠶種檢査所增毛出張所管轄區域	壹圓	壹圓
浦河支廳管內		
上川蠶種檢査所下帶廣及釧路出張所管轄區域		
空知蠶種檢査所伊達出張所管轄區域		
岩內蠶種檢査所函館出張所管轄區域		
松前蠶種檢査所江差及函館出張所管轄區域		

（丁號表）

蠶種檢査員書記及蠶種檢査助手旅行手當日額表

區分	蠶種檢査員	同助手	書記
三拾錢	貳圓五拾錢	貳圓五拾錢	貳圓五拾錢

○明治三十四年四月六日告示第百四十號當廳所管蠶種檢査所同出張所位置及管轄區域左ノ通相定メ各出張所ニ於テハ越中草種注蛾ノ檢査ニ限リ檢査ヲ施行ス

但明治三十三年一月當廳告示第一號ハ廢止ス

蠶種檢査所位置及管轄區域

名稱	位置	管轄區域
札幌蠶種檢査所	石狩國札幌區	石狩郡ノ內札幌區札幌、石狩、豐平、澄川、滝野ノ四郡、後志國ノ內小樽區小樽、高島、積丹ノ七郡及天鹽國ノ內增毛、留萌、苫前、天鹽ノ四郡

空知蠶種檢査所　石狩國空知郡石狩國ノ内空知、（高見野村ヲ除ク）夕張、雨龍、樺戸ノ四郡勝振國ノ内室蘭、有珠、幌別、白老、勇拂、虻田（倶知安村ヲ除ク）ノ六郡及日高國一圓
石狩村
上川蠶種檢査所　石狩國上川郡及空知郡富良野村天鹽國ノ内上川、中川ノ二郡及十勝國、釧路國一圓
石狩國上川村
岩内蠶種檢査所　後志國岩内郡岩内、古宇、忍都、歌棄、磯谷、島牧ノ六郡及勝振國虻田郡ノ内倶知安村
永山
松前蠶種檢査所　後志國松前郡福山
岩内町
札幌蠶種檢査所　札幌郡江別村石狩郡ノ内篠津、新篠津、當別ノ三村
札幌蠶種檢査所管轄ノ内増毛、留萌、苫前、天鹽ノ四郡
札幌郡江別村
札幌蠶種檢査所増毛出張所　天鹽國増毛郡
増毛町
空知蠶種檢査所　空知郡瀧川村樺戸郡紋別村瀧川村（三十五年九月告示第四百三十號ヲ以テ本項改正）
空知蠶種檢査所瀧川出張所　石狩國空知郡瀧川
空知蠶種檢査所管轄ノ内雨龍郡一圓（三十五年九月告示第四百三十號ヲ以テ本項追加）
空知蠶種檢査所深川出張所　石狩國雨龍郡深川
空知蠶種檢査所伊達出張所　勝振國有珠郡伊達村
空知蠶種檢査所管轄ノ内室蘭、有珠、幌別、白老、勇拂、虻田（倶知安村ヲ除ク）ノ六郡
上川蠶種檢査所下帶廣出張所　十勝國河西郡下帶廣村
上川蠶種檢査所管轄ノ内十勝ノ國一圓
上川蠶種檢査所釧路出張所　釧路國釧路郡釧路町
上川蠶種檢査所管轄ノ内釧路國一圓
岩内蠶種檢査所忍都出張所　後志國忍都郡忍都
岩内蠶種檢査所管轄ノ内歌棄、磯谷、島牧ノ四郡
松前蠶種檢査所函館出張所　渡島國函館區
松前蠶種檢査所管轄ノ内函館區及亀田、上磯、茅部山越ノ四郡
松前蠶種檢査所江差出張所　渡島國檜山郡江差町
松前蠶種檢査所管轄ノ内檜山、爾志、久遠、奥尻、太櫂、瀬棚ノ六郡

●養蠶

○明治三十三年二月十七日告示第一號

蠶病ノ種類多シト雖モ從來當廳管内ニ於テ被害ノ最モ劇甚ナルハ軟化病硬化病微粒子病ノ三種トス以上ノ蠶病ハ極メテ微細ナル微菌ノ傳染蔓殖ニ原因シ一度蠶病毒ヲ發生スルトキハ蠶室蠶具ニ附著シテ更ニ次期ノ蠶兒ニ傳染スルノ恐レアルヲ以テ若シ之レカ蔓殖ヲ放任シ消毒法ヲ施行セサルトキハ養蠶ノ收利期スヘカラス故ニ蠶病ノ消毒ハ實ニ刻下ノ急務ナリトス依テ蠶種製造者ト普通養蠶者トヲ問ハス苟モ蠶兒ヲ飼育スル者ハ左ノ方法ニ依リ毎年養蠶期ノ前後ニ於テ普ク蠶病ノ消毒ヲ務ムヘシ

蠶病消毒法

一　木村燻烟法　此法ハ蠶室蠶具ヲ汚染シ其效力ハ蟻酸（アルデヒード）瓦斯燻蒸ニ及ハサレトモ病毒ノ大多數ヲ驅除スルノ效アリテ又行ヒ易キ法トス其方法ハ蠶室ヲ密閉シ適當ノ篩所ニ於テ燃料トシテ木材ヲ用ヰ其木材ノ燃エ上カラサル程成ルヘク多量ニ烟ヲシテ烈烟ノ漏出スルニ從ヒ時々木材ヲ加ヘテ三時間以上室内ヲ烟烟スルニアリ但蠶簿蠶具其他總テ蠶具ハ一品毎ニ間隙ヲ設ケ烟烟ノ通スル樣陳メ室内ニ配列シ置クヘシ

二　「フオルマリン」撒布法　此藥劑ハ蟻酸「アルデヒード」瓦斯ヲ水ニ含著セシメタル液體ニシテ其濃厚ナルモノハ百匁中四十匁ノ瓦斯ヲ含有セリ之ヲ清水ニ加ヘテ三十九倍ニ稀薄シ室内ハ勿論廊下等ノ天井床壁ニ限ナク撒布スヘシ即チ一壜（半「キログラム」入リ、モノ）ハ一斗一升ノ水ニ一（ポンド）入リノモノハ八升五合ノ水ニ混合シ又之ヲ撒布スルニ最モ適當ナルハ「ムラトリ」式噴霧器（代金八圓五拾錢）ニシテ先ツ前記ノ割合ニ調製シタル「フオルマリン」水溶液ヲ桶ニ容レ其器ヲ液中ニ浸シテ喞子ノ柄ヲ上下スレハ液ハ漸次其筒内ニ浸入スルヲ以テ全ク之ヲ吸ヒ上ケタルトキ其撒布セントスル室ニ持チ行キテ射出管ノ栓ヲ開カハ細霧トナリテ撒布シ烈シク噴出スルヲ以テ天井壁等隅々ニ撒布スルヲ得ヘシ「フオルマリン」半「キログラム」ノ代價ハ現今弐圓内外ニシテハ疊數高サ八尺五寸ノ室内全面ニ撒布スルニハ之レニ三十九倍ノ水ヲ加ヘタル稀薄液六合九勺餘ヲ要シ藥劑ノ代價拾八錢ニ過キス

三　蟻酸「アルデヒード」瓦斯燻蒸法　此法ハ最モ完全ノ消毒法ニシテ「トリラ」消毒器ヲ用ユルモノハ器械代價現今二百數拾圓ノ高價ナリト雖モ一箇ヲ備フレハ數百戸ノ養蠶家ニ適用シ得ヘク而シテ八疊敷高サ八尺五寸ノ室ニ於テ使用スル蠶具ノ二倍ヲ此室ニテ同時ニ燻蒸スルモノトセハ凡ソ四拾錢ノ藥品料ヲ要ス又簡便安全消毒燈（代價拾貳圓ヵ拾錢内外）ハ廣大ナル室ヲ消毒スルニ適當ナラサルモ之レヲ用ユルニハ長サ四尺幅三尺高サ七尺ノ箱ヲ作リ内部ニ棚ヲ設ケ蠶具ヲ挿入シ消毒燈ニ點火シテ箱ノ一隅ニ置キ一時間ノ後之ヲ取出シ尚ホ一時間ヲ經テ蠶具ヲ取出シ更ニ前ノ如クシテ其濃厚ナルモノハ百匁中四十匁ノ瓦斯ヲ含有セリ之ヲ清水ニ加ヘテ三十九倍ニ稀薄シ室内ハ勿論廊下等ノ天井床壁ニ限ナク撒布スヘシ即チ一壜（半「キログラム」入リ、モノ）ハ一斗一升ノ水ニ一（ポンド）入リノモノハ八升五合ノ水ニ混合シ又之ヲ撒布スルニ最モ適當ナルハ「ムラトリ」式噴霧器（代金八圓五拾錢）ニシテ先ツ前記ノ割合ニ調製シタル「フオルマリン」水溶液ヲ桶ニ容レ其器ヲ液中ニ浸シテ喞子ノ柄ヲ上下スレハ液ハ漸次其筒内ニ浸入スルヲ以テ全ク之ヲ吸ヒ上ケタルトキ其撒布セントスル室ニ持チ行キテ射出管ノ栓ヲ開カハ細霧トナリテ撒布シ烈シク噴出スルヲ以テ天井壁等隅々ニ撒布スルヲ得ヘシ「フオルマリン」半「キログラム」ノ代價ハ現今弐圓内外ニシテハ疊數高サ八尺五寸ノ室内全面ニ撒布スルニハ之レニ三十九倍ノ水ヲ加ヘタル稀薄液六合九勺餘ヲ要シ藥劑ノ代價拾八錢ニ過キス

四　蟻酸「アルデヒード」瓦斯燻蒸法　此法ハ最モ完全ノ消毒法ニシテ「トリラ」消毒器ヲ用ユルモノハ器械代價現今二百數拾圓ノ高價ナリト雖モ一箇ヲ備フレハ數百戸ノ養蠶家ニ適用シ得ヘク而シテ八疊敷高サ八尺五寸ノ室ニ於テ使用スル蠶具ノ二倍ヲ此室ニテ同時ニ燻蒸スルモノトセハ凡ソ四拾錢ノ藥品料ヲ要ス又簡便安全消毒燈（代價拾貳圓ヵ拾錢内外）ハ廣大ナル室ヲ消毒スルニ適當ナラサルモ之レヲ用ユルニハ長サ四尺幅三尺高サ七尺ノ箱ヲ作リ内部ニ棚ヲ設ケ蠶具ヲ挿入シ消毒燈ニ點火シテ箱ノ一隅ニ置キ一時間ノ後之ヲ取出シ尚ホ一時間ヲ經テ蠶具ヲ取出シ更ニ前ノ如クシテ順次多數ノ蠶具ヲ消毒スヘシ右一回分ニ費スヘキ木精ノ量ハ八匁ニシテ其百匁ノ代價ハ參拾五錢内外ナリ但安全消毒燈所用ノ木精不良ナレハ瓦斯發生力頗ル弱クシテ消毒ノ效ヲ奏シ難キコトアリ注意ヲ要ス

蒸氣ヲ以テ蠶具ヲ熱スルコトモ亦有效ナル消毒法ニシテ其簡單ナル裝置ハ大釜ニ湯ヲ沸シ底面ニハ直徑一寸位ノ圓孔數多ヲ穿チタル大桶ヲ之ニ載セ十數枚ツヽ捲キタル蓆ヲ之ニ挿入シ二三ノ小圓孔ヲ穿チタル蓋ヲ施シ其孔ヨリ蒸氣盛ニ上昇シ始メヨリ三十分間ヲ過クレハ消毒セラルルニ依リ蓆ヲ取出シ更ニ他ノ蓆ト交代セシムルニアリ又籠或ハ蠶座等ヲモ消毒センニハ稍稍長キ箱ヲ作リ扉ヲ設ケ箱内ニ籠ト蓆トヲ交互ニ建テ掛ケ箱ノ底ハ桶ト同シク多數ノ孔ヲ穿ツカ或ハ格子張トナシ大釜ノ上ニ載セ湯ヲ沸騰セシムレハ蒸氣ハ箱内ニ入リ扉ノ間隙ヨリ逃出スヘシ蠶病ノ傳染毒ハ總テ華氏二百十二度内外ニ三十分間蒸氣ヲ以テ加熱セハ消滅スルヲ以テ桶或ハ箱ノ上部ニ爽暖計ヲ挿入シテ此法ヲ行ハハ完全ニ消毒スルヲ得ヘシ

○明治三十三年二月十七日訓令第十號（支廳區役所戸長役場宛）

今般當廳告示第一號ヲ以テ蠶室蠶具消毒法施行方告諭候處右ハ蠶業上ニ於ケル刻下ノ急務ニシテ病毒ノ蔓延ハ養蠶ノ豊凶ニ至大ノ影響ヲ及ホシ候義ニ付組合又ハ農會蠶業會ノ如キ團體ノ設備アル地方ハ其團體ニ於テ施行セシメ右等團體ノ設備ナキ地方ニ於テハ養蠶者各自ニシテ又ハ附近申合セ適當ノ方法ヲ設クルカ孰レカ便宜ノ方法ニ據リ普ク消毒ヲ實行セシムヘシ

○明治三十三年三月二十三日告諭第二號

桑樹ノ被害中最モ恐ルヘキハ降霜ニシテ明治三十一年ノ上川郡ニ於ケル同三十二年ノ空知郡及其樹近ニ於ケル等其ニ一朝ニシテ幾多ノ桑園ヲ荒涼ニ歸セシメ桑葉供給ノ途杜絶シテ蠶兒ヲ投棄スルノ慘狀ヲ呈シ爲メニ一年ノ家計ヲ誤リタルモノ少ナカラス豊ニ寒心ニ堪ユヘケンヤ然レトモ豫メ警戒ヲ加ヘ防霜ノ法ヲ怠ラサルトキハ之レカ慘害ヲ免ルルコト敢テ難キニアラス依テ桑園所有者ハ霜害豫防組合ヲ設クルカ其他協同ノ力ヲ以テ左ノ方法ニ依リ普ク霜害ノ豫防ヲ施行スヘシ

霜害豫防燻烟法

豫メ樹木ノ生葉、藁、雑草、落葉等ノ如キ燃料ヲ貯ヘ置キ降霜ノ兆アルヲ豫期シ桑園内外ノ所所ニ之ヲ配置シ點火シテ烟烟シ園上ニ濃烟ヲ發カシメ以テ熱ノ發散ヲ防キ且翌日ノ光線ヲ遮ルニアリ但烟烟ノ際ハ時々其燃料ニ水ヲ注キ發烟ト共ニ可成多量ノ水蒸氣ヲ發散セシムヘシ尚烟烟ヲ停止スルコト早キニ失セサルヲ要ス

煙烟法ヲ施行シ難キ場合ニハ硫黄粉ヲ除布シタル綿布ノ類ニテ作レル天幕ヲ結霜前ニ張リ或ハ桑園ニ藤棚樣ノモノヲ設ケ蓆ノ類ヲ被セ以テ地熱ノ發散ヲ防クモ可ナリ

○明治三十四年十月十九日告諭第四號

本道ノ氣候頗ル養蠶ニ適シ加フルニ蠶業上唯一ノ資料タル桑樹ハ山野ニ繁茂シ久敷モ恐ルヘト驚駭ハ未タ嘗テ之ヲ認メス天與ノ惠天レ已ニ此ノ如シ故ニ農村ノ業ニ從フ者能ク之ヲ利用シ各其分ニ應シ傍ラ養蠶ヲ營マハ曾ニ自己ヲ益スルノミナラス又一邦一國ヲモ裨益スルニ至ルヘシ抑養蠶ノ利ヲ收メントセハ豫メ桑園ヲ設クルノ要ヲ知ルハ勿論ナリト雖モ本道ハ氣候概ネ低度ナルカ爲メ府縣ノ

例ナリテ成木ヲ期スヘカラスシテ苗木移植後少ナクモ六年ヲ經過スルニアラサレハ以テ收葉ノ望ナキカ如シ故ニ開墾ノ當初ニ於テ陸メ桑園ヲ設備スル者ト雖モ其成木收葉ノ期ニ至ルノ間暫ク野桑ニ輔ルハ誠ニ避クヘカラサルコトニシテ而シテ又實ニ有益ノ方法ナリトス然ルニ輓近貸付地ノ狀況ヲ觀ルニ一意開拓ニ急ニシテ濫リニ野桑ヲ斫伐シ收テ顧ルコトナキニ似タリ若シ此ノ如クンハ他日開墾成リ此有益ナル副業ヲ營ムヘキ餘暇ヲ得ルニ至ルモ野桑既ニ盡キ桑園未タ收穫スルニ至ラスシテ徒ラニ悔ヲ招クニ至ラン故ニ苟モ開墾ニ從事スル者ハ當初桑園ノ設備ヲ爲スト共ニ概ネ左記ノ法ニ則リ野桑ノ保存ニ留意シ以テ他日ノ需用ニ供スルニ勉ムヘシ

一　老木又ハ大木ハ枝條開暢シテ多クハ其枝梢ロリ摘葉セサルヘカラサルヲ以テ收葉ニ至難ナルノミナラス其量亦多カラサルモノナリ故ニ且之ヲ伐採シテ新條ヲ發生セシメ除草肥培ヲ加フヘシ

一　種樹ノ密植セルモノハ適宜樹間ヲ存シ繁茂ニ便ナラシムル樣栽培ヲ加フヘシ

一　雜生ノモノニアリテハ他樹ヲ掘採シテ日光ノ透射ヲ計リ前項ニロリ肥培スヘシ

○明治三十五年十一月二十三日告諭第八號

蠶繭業ノ隆替ハ國家經濟ノ消長ニ關ス試ニ之ヲ統計ニ徵スルニ明治三十四年ニ於ケル本邦輸出品ノ總價額貳億五千萬圓中蠶繭ニ係ルモノ幾ント壹億壹千萬圓ニ上レリ亦以テ其關スル所ノ大ナルヲ見ルヘキナリ

顧テ本道ノ狀況ヲ察スルニ到處野桑ニ富ミ其風土氣候亦能ク養蠶ニ適セリ然ルニ已ニ八萬ノ農戶ヲ有スルノ地ニシテ蠶ヲ養フモノ僅ニ五千ニ滿タス而シテ其繅繊ノ加キハ殊ニ寥寥トシテ衣ル所ノモノ悉ク之ヲ府縣ニ仰ケリ是レ豈天然ノ惠ヲ無ミスルモノニアラスヤ

夫本道ノ農業ハ冬季ノ間蹙頗ル多シ其農家經濟上副業ヲ興スノ必要アルヤ固コリ論ヲキナリ而シテ能ク老幼婦女ヲモ起シ家ニ徒食ノ人ナカラシムルコト蠶ヲ養ヒ繅繊ノ業ヲ作スコリ善キハナシ況ンヤ斯業ノ利ハ獨リ一身一家ノ富ヲ增スニ止ラス延テ外國貿易ヲ殷ンナラシメ國家經濟ヲ裕カニスルモノナルニ於テヤ

本道產業ノ蹟ヲ察スルニ其發達頗ル顯著ナルモノアリ然レトモ其產出スル所概ネ多大ノ容量ヲ有シ遠ク之ヲ需要地ニ輸スルニ於テ勢ヒ多額ノ失費ヲ要セサルヲ得ス而シテ其繅繊ニ係ルモノハ全ク之ニ反ス

蠶繭ノ利凡ソ此ノ如シ是レ本官ノ從來數數之ヲ勸メ將來又益益之ヲ奬メント欲スル所以ナリ業ニ農耕ニ從フ者苦克ク之ヲ察シ分ニ應シテ蠶ヲ戶毎ニ養ヒ冬間婦女ヲシテ繅繊ノ業ヲ操ラシムルコトヲ勉ム可シ特ニ之ヲ驗ス

○明治三十六年一月七日廳令第一號

蠶共同飼育場補助規程左ノ通定メ明治三十六年一月十日ヨリ施行ス

蠶繭共同飼育場補助規程

第一條　本規程ニ依リ蠶共同飼育場ヲ設置スルトキハ一箇所ニ付金貳百圓以內ヲ補助ス

第二條　前條蠶共同飼育場ノ設置箇所ハ每年之ヲ告示ス

第三條　蠶共同飼育場ハ左ノ各號ノ實格ヲ具備スルコトヲ要ス

一　養蠶者十戶以上ノ共同飼育ヲ爲スコト

二　蟻量五十匁以上ヲ飼育スルコト

三　蠶種ハ春蠶本賣ノモノニシテ左ノ種類中ノ一ナルコト

一　小石丸

二　又昔

三　昔熟

四　蠶種ハ原種合格ノ證印アルモノニ限ル

五　蠶室蠶具ノ設備完キモノタルコト

第四條　蠶共同飼育場ニハ教師若干名ヲ置クヘシ

第五條　教師ハ蠶業上ノ學術ニ驗アル者ニシテ北海道廳長官ノ認可ヲ受ケタル者ニ限ル

第六條　飼育期ハ蠶背ヨリ二眠起迄ノ間ニシテ其ノ後ハ共同者自宅ニ分配シ教師ノ監督ヲ受ケ飼育スヘシ

第七條　蠶共同飼育場ノ經費ハ共同飼育者ニ於テ負擔スヘシ

第八條　蠶共同飼育場竝共同飼育者ノ蠶室及蠶具ハ飼育前教師ノ監督ヲ受ケ消毒法ヲ施行スヘシ

第九條　補助ヲ受ケントスルトキハ共同飼育者中ヨリ總代人一名ヲ選定シ第一號書式ノ願書ニ左ノ調書ヲ添ヘ其ノ年三月三十一日限支廳長官ハ廳長ヲ經テ北海道廳長官ニ願出ヘシ

一　蠶共同飼育場ノ位置及名稱

二　蠶共同飼育契約書寫

三　經費ノ收支豫算

四　共同飼育者ノ住所氏名及豫定蟻量表

五　教師ノ員數及其ノ俸給額

六　蠶室其ノ他建家及器械器具ノ設備要領

但シ建家ハ圖面ヲ要ス

第十條　共同飼育者總代人ハ補立月日ヲ豫定シ一週間前ニ到達スル樣北海道廳長官ニ屆出ヘシ

第十一條　共同飼育者總代人ハ第二號書式ノ飼育成績表ヲ八月十五日迄ニ北海道廳長官ニ差出スヘシ

第十二條　北海道廳長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ臨時吏員ヲ派遣シテ蠶共同飼育場ノ狀況ヲ視察セシムルコトアルヘシ

第十三條　補助金ハ之ヲ二分シ事業著手後半額第十一條ノ成績表ヲ差出シタル後半額ヲ交付ス

第十四條　補助ノ許可ヲ受ケタル者本規程ニ違背スルカ又ハ命令ヲ遵守セサルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ補助金額ヲ減少シ若ハ既ニ交付シタル補助金ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第十五條　本規程ニ定メタルモノノ外北海道廳長官ニ於テ必要ト認ムル事項ハ特ニ命令スルコトアルヘシ

第一號書式

蠶共同飼育場補助願

明治三十六年北海道廳令第一號ヲ遵守シ郡(區)町(村)番地ニ蠶共同飼育場ヲ設ケ度候間補助金御交付被成下度別紙書類相添ヘ此段相願候也

國郡(區)町(村)番地字

何何蠶共同飼育場飼育者

總代人　　氏　　名　印

明治年　月　日

北海道廳長官宛

第二號書式

蠶共同飼育成績表

名	補立	上蔟	收繭	飼育中	飼育者氏名
蟻量	月日	月日	重量	ノ狀況	

第二號　明治廿年月日
桑田郡米國及結束
何郡（村）何番地　住所
何程　何番地　何番地
右ノ通相違之儀也
明治廿年月日
何縣（府）何郡（市）何番地　住所
何程　何番地　何番地
右ノ通相違之儀也
第三號　明治廿年月日
桑田郡米國及結束
何郡（村）何番地　住所
何程　何番地　何番地
右ノ通相違之儀也
第四號　明治廿年月日
何縣（府）何郡（市）何番地　住所
何程　何番地　何番地
右ノ通相違之儀也

役川	同作	桑苗桑祝	稅地力法	稅地力法	役百姓況	稅木ノ數	何程	桑田郡米國
人夫及水路ノ費用ハ其年八月迄海産物ノ内ヲ以テ支拂ヒ他ノ役ノ非	名田及作ノ反別ハ受ケタル非	付又ハ桑苗ノ代金ハ其年度及ノ利	肥料ノ種類及分量ハ其年度ノ收穫ノ見積	肥料ノ種類及分量ハ其年度ノ收穫ノ見積	拾貫多新開ノ反別ハ其年度ノ收穫ノ見積	明治年月日	何程	郡（區）町（村）字何

第五號　明治廿年月日
桑田郡米國及結束
何郡（村）何番地　住所
何程　何番地　何番地
右ノ通相違之儀也
第六號　明治廿年月日
桑田郡米國及結束
何郡（村）何番地　住所
何程　何番地　何番地
右ノ通相違之儀也

第三條　作物ノ種類ハ桑苗ノ外ニ何ヲ作ルヤ
第四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第五十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第五十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第五十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第五十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第五十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第五十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第五十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第五十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第五十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第五十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第六十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第六十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第六十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第六十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第六十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第六十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第六十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第六十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第六十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第六十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第七十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第七十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第七十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第七十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第七十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第七十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第七十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第七十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第七十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第七十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第八十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第八十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第八十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第八十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第八十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第八十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第八十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第八十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第八十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第八十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第九十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第九十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第九十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第九十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第九十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第九十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第九十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第九十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第九十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第九十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百二十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百二十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百二十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百二十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百二十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百二十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百二十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百二十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百二十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百二十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百三十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百三十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百三十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百三十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百三十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百三十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百三十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百三十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百三十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百三十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百四十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百四十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百四十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百四十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百四十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百四十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百四十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百四十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百四十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百四十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百五十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百五十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百五十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百五十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百五十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百五十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百五十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百五十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百五十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百五十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百六十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百六十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百六十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百六十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百六十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百六十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百六十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百六十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百六十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百六十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百七十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百七十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百七十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百七十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百七十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百七十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百七十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百七十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百七十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百七十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百八十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百八十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百八十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百八十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百八十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百八十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百八十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百八十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百八十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百八十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百九十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百九十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百九十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百九十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百九十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百九十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百九十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百九十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百九十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第百九十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百二十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百二十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百二十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百二十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百二十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百二十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百二十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百二十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百二十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百二十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百三十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百三十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百三十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百三十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百三十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百三十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百三十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百三十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百三十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百三十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百四十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百四十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百四十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百四十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百四十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百四十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百四十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百四十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百四十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百四十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百五十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百五十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百五十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百五十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百五十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百五十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百五十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百五十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百五十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百五十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百六十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百六十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百六十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百六十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百六十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百六十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百六十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百六十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百六十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百六十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百七十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百七十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百七十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百七十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百七十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百七十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百七十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百七十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百七十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百七十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百八十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百八十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百八十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百八十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百八十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百八十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百八十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百八十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百八十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百八十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百九十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百九十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百九十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百九十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百九十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百九十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百九十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百九十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百九十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第二百九十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百二十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百二十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百二十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百二十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百二十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百二十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百二十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百二十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百二十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百二十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百三十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百三十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百三十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百三十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百三十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百三十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百三十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百三十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百三十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百三十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百四十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百四十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百四十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百四十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百四十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百四十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百四十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百四十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百四十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百四十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百五十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百五十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百五十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百五十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百五十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百五十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百五十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百五十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百五十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百五十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百六十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百六十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百六十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百六十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百六十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百六十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百六十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百六十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百六十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百六十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百七十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百七十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百七十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百七十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百七十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百七十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百七十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百七十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百七十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百七十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百八十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百八十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百八十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百八十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百八十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百八十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百八十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百八十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百八十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百八十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百九十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百九十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百九十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百九十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百九十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百九十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百九十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百九十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百九十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第三百九十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百二十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百二十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百二十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百二十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百二十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百二十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百二十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百二十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百二十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百二十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百三十條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百三十一條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百三十二條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百三十三條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百三十四條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百三十五條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百三十六條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百三十七條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百三十八條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百三十九條　桑苗ノ代金ハ何ヲ以テ支拂フヤ
第四百四十條　桑苗ノ代金ハ何

十日ヨリ施行ス

器械製絲補助規程

第一條　本規程ニ依リ器械製絲場ヲ設立スル者ニハ補助金ヲ交付ス

第二條　補助金ハ器械ノ設備ト生絲製産額ノ二様ニ對シ器械ノ構造、種類及生絲ノ品位ニ從ヒ郡ノ制限ニ依リ之ヲ交付ス

一　器械設備ノ補助ハ器械一釜ニ對シ拾圓以上四拾圓以下

二　生絲製産額ノ補助ハ檢査ニ合格シタル生絲百斤ニ對シ四拾圓以上七拾圓以下

第三條　器械製絲場ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

一　器械ノ構造ハ二目繰以上ニシテ二十釜以上ヲ設備シ蒸氣力又ハ水力ヲ以テ運轉スルコト

二　一箇年度内ニ於テ生絲二百斤以上ヲ製出スルコト

第四條　補助ヲ受ケントスル者ハ前年度一月三十一日迄ニ別紙書式ニ倣ヒ願書ニ設計書及豫算書ヲ添ヘ所轄官公署ノ財産證明ヲ受ケ支廳長又ハ區長ヲ經テ北海道廳長官ニ願出スヘシ

第五條　補助ノ許可ヲ受ケタル者ハ許可ノ日ヨリ滿七箇月以内ニ器械建物其ノ他事業上ノ設備ヲ完成スヘシ但シ別ニ期ヲ定メテ許可シタルトキハ其ノ期限ニ依ル

前項ノ設備完成シタルトキハ實費明細書ヲ添ヘ北海道廳長官ニ届出ヘシ

第六條　前條ノ届出アリタルトキ北海道廳長官ハ吏員ヲシテ檢査ヲ行ハシメ適當ト認メタルトキハ器械設備ニ對スル補助金ヲ交付ス

第七條　第五條ノ檢査ヲ受ケタル後器械ノ設備ヲ變更セントスルトキハ其ノ理由ヲ詳具シテ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　事業開始後生絲ノ製出高二百斤以上ニ達シタルトキ及爾後ハ生絲荷造前毎ニ別紙書式ニ倣ヒ事業成績表ヲ添ヘ製絲ノ檢査ヲ請求スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ北海道廳長官ハ吏員ナシテ檢査ヲ行ハシメ檢査ニ合格シタル生絲ノ品位數量ニ相當スル補助金ヲ交付ス

第九條　左ニ掲クル事項ハ北海道廳長官ニ届出ヘシ

一　事業ノ開始及閉鎖

二　就業時間及休業日

三　工男女ノ給與及賞罰ニ關スル方法

四　工男女ノ雇入又ハ寄宿舍ニ關スル規則

五　生絲ノ販賣額及代價

六　繭購入ノ價格標準

七　前各號ノ外北海道廳長官ニ於テ必要ト認メタル事項

第十條　補助ノ許可ヲ受ケタル者本規程ニ違背スルカ又ハ命令ヲ遵守セサルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ補助金額ヲ減少シ若ハ既ニ交付シタル補助金ヲ還納セシムルコトアルヘシ

第十一條　本規程ニ定メタルモノノ外北海道廳長官ニ於テ必要ト認ムル事項ハ特ニ命スルコトアルヘシ

附　則

第十二條　本令發布前ノ設立ニ係ル器械製絲場ニシテ其ノ組織ヲ改良擴張スル場合ニ於テ北海道廳長官カ補助ノ必要アリト認ムルトキハ本規程ヲ適宜準用スルコトヲ得

第十三條　第四條ノ願書提出期限ハ明治三十六年ニ限リ三月三十一日迄トス

書式ノ一（新ニ器械製絲場ヲ設ケ補助ヲ出願スルトキノ例）

器械製絲場補助願

私儀明治三十六年北海道廳令第五號ヲ遵守シ郡（區）町（村）番地ニ器械製絲場ヲ設立シ製絲業開始仕度候間相當ノ御補助被成下度別紙設計書豫算書及財産證明書相添此段相願候也

明治　年　月　日　　住所　氏名　印

北海道廳長官宛

（別紙）

設計書

器械設備

一　ケンチル式（又ハ）（其他）再繰（又ハ）（直繰）何人繰製器械一式

但シ構造（何部）製（其他木製）（木製）

揚返器（何）筒掛

原動力蒸氣力（又ハ）水力　何　齋　何馬力

右ノ外重要ト認ムル事項ハ此例ニ倣ヒ別記スヘシ

建物設備

一　繰絲器械室　平家建（右造瓦造）（又ハ木造）　一棟何坪

一　殺繭乾燥場　同（同）　同上

一　貯繭庫　二階建（同）　一棟階上何坪階下何坪

一　生絲仕上及荷造所　平家建（同）　一棟何坪

事務所　同（同）　同

其ノ他此例ニ倣ヒ列記スヘシ

用地及用水設備

一　敷地　郡（區）町（村）字番地　何　坪

一　用水　河水又ハ池水ノ別及引水運過ノ方法ヲ記スヘシ

事業功程

書式ノ二（生絲補助ヲ出願スルトキノ例）「本令發布前設立ノ製絲場ニシテ初メテ補助ヲ出願スルトキハ別紙ハ書式ノ一ニ準シ調製スヘシ」

製絲補助願

私儀明治三十六年北海道廳令第五號ヲ遵守シ郡（區）町（村）番地器械製絲場ニ於テ明治　年度ノ生絲製産額ニ對シ相當ノ御補助相受度別紙事業見込相添ヘ此段相願候也

明治　年　月　日　　住所　氏名　印

北海道廳長官宛

（別紙）明治　年度事業見込書

一　製絲就業日數　俱シ　年　月　日始業　月　日終業

一　原繭購入高　何　人

一　建物建築　年　月　日竣功

一　器械据付　年　月　日著手

一　製絲開業　年　月　日竣功

一　就業日數　何　年　月　日

一　原繭購入高　何　程

一　女工　何　人

内譯

繰絲　何　人

揚返シ　何　人

一　男工　何　人

内譯

現業掛　何　人

機關士又ハ火夫　何　人

右ノ外檢査婦其ノ他此例ニ倣ヒ列記スヘシ

一　生絲製産見込額　何　程

但シ懸デニール目的

一　繰糸製産見込額　何　程

一　生絲販賣方法　（外國輸出又ハ内國用ノ別ヲ記スヘシ）

一　起業費　經費豫算

書式ノ三

自　年　月　日
至　年　月　日第何回事業成績日表

月日	利目	繭元受高	同支拂高	同殘高	繰絲高	繭一升平均繰絲量	繰絲釜數	繰絲一釜ノ繰絲量	備考
		石	石	石	匁	匁		匁	
合計									

一　業費

右二項ハ各收支内譯豫算出標準ヲ詳記スヘシ

右ノ通相違無之候也

明治　年　月　日　　住所　氏名　印

北海道廳長官宛

（別紙）明治　年度事業見込書

一　製絲就業日數　俱シ　年　月　日始業　月　日終業

一　原繭購入高　何　人

一　女工　何　人

内譯

繰絲　何　人

揚返シ　何　人

一　男工　何　人

内譯

現業掛　何　人

機關士又ハ火夫　何　人

右ノ外檢査婦其ノ他此例ニ倣ヒ列記スヘシ

一　生絲製産見込額　何　程

但シ懸デニール目的

一　繰糸製産見込額　何　程

一　生絲販賣方法　（外國輸出又ハ内地用ノ別ヲ記スヘシ）

一　業費　何　程

俱シ收支内譯豫算出標準ヲ詳記スヘシ

右ノ通相違無之候

明治　年　月　日　　住所　氏名　印

（備考）數回ニ繭ノ受入ナシタルトキハ其ノ都度繭元受高ニ加算シ其數量ヲ備考欄内ニ記入スヘシ繰絲ニ消費スルノ外繭ノ仕拂ナシタルトキハ繭仕拂高ノ内ヲ控除シ其ノ數量及事由ヲ備考欄内ニ記入スヘシ

前日ノ繭殘高ハ翌日ノ繭元受高トナスヘシ

○明治三十六年一月三十一日訓第八十七號（内務部殖民部宛）

明治三十六年（一月）當總令第五號ニ依リ補助金ヲ交付スヘキ生絲檢査規程左ノ通定ム

補助生絲檢査規程

第一條　生絲ノ檢査ハ左ノ各號ニ就キ之ヲ行フ

一　正量
天秤ヲ以テ生絲ノ全量ヲ檢シタル後風袋其他附屬物ノ重量ヲ秤リ之ヲ控除シタルモノヲ生絲ノ正量トス

二　色澤
肉眼鑑定ニ依ル

三　再繰
生絲一箇中ヨリ三本ヲ採リ是ヲ再繰器ニ掛ケ生絲ノ細太ニ應シ一分時間四十回内外ノ速力ヲ以テ一時間繰返シ絲條ノ平均切斷數ヲ定ム但シ（デニール）十三以下ヲ細絲トシ十四以上ヲ太絲トス

四　纖度
生絲一箇中ヨリ三本ヲ採リ一本毎ニ檀式纖度四百七十六「メートル」宛ニ二口ヲ採リ其最大最小兩數ヲ以テ纖度ノ差ヲ定ム

五　類節
生絲一箇中ヨリ三本ヲ採リ檢尺器ニ掛ケ一本毎ニ百回ニ對スル類節ノ數ヲ檢シ其平均ヲ以テ類節ノ數ヲ定ム

第二條　前條ノ檢査ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルヲ以テ合格トス

甲　色澤純清齊一ニシテ切斷ノ數細絲ニアリテハ三回以内纖度ノ差三「デニール」以内類節ノ數十五顆以下ノモノ

乙　色澤純清齊一ニシテ切斷ノ數細絲ニアリテハ五回太絲ニアリテハ三回以内纖度ノ差四「デニール」以内類節ノ數三十箇以下ノモノ

丙　色澤稍純清齊一ニシテ切斷ノ數細絲ニアリテハ四回以内纖度ノ差七回太絲ニアリテハ四回以内類節ノ數四十箇以下ノモノ

丁　色澤稍齊一ニシテ切斷ノ細絲ニアリテハ十回太絲ニアリテハ六回以内纖度差六「デニール」以内類節五十箇以下ノモノ

第三條　補助金ハ左ノ區別ニ依リ計算ス

甲合格生絲百斤ニ付　七拾圓
乙合格生絲百斤ニ付　六拾圓
丙合格生絲百斤ニ付　五拾圓
丁合格生絲百斤ニ付　四拾圓

第四條　檢査合格ノ生絲ニハ左ノ式ノ證明書ヲ付與シ補助金請求ノ節之ヲ添附セシムルモノトス

證明書

何國郡町（村）番地氏名製造

一　生絲　何程

割印

但何年月日ヨリ何年月日マテ製造ノ分

甲合格　何程
乙合格　何程
丙合格　何程
丁合格　何程

右檢査ニ合格セルヲ證ス

明治年月日　官　氏名　印

●農事講習所

○明治三十五年十二月二十五日告示第七百七十四號

明治三十四年（十二月）北海道廳告示第五百二十六號北海道廳農事講習所規則左ノ通改正ス

北海道廳農事講習所規則

第一章　總則

第一條　北海道廳農事講習所ハ專ラ蠶業ニ關スル學理及實地ノ講習ヲ爲サシメ併セテ蠶業ニ關スル試驗ヲ行フ所トス

第二條　本所ノ講習ハ本科及別科ノ二トシ講習生ノ定員ハ本科十名別科三十名トス

第三條　講習期間ハ本科及別科各八箇月トス

第四條　本科及別科ニハ講習生ノ外別ニ傍聽生ヲ置キ講義ノ傍聽及實習ヲ許スコトアルヘシ

第五條　講習生ハ總テ所内ニ寄宿セシムルモノトス

傍聽生ハ本所ノ都合ニ依リ寄宿ヲ許スコトアルヘシ

第二章　學科

第六條　本科及別科ノ課目ハ左ノ如シ

本科

講義　博物學、理化學、氣象學、農業大意、農業經濟論、土壤及肥料論、害蟲害菌論、蠶業通論及養蠶論、蠶體病理論、蠶體解剖論、蠶體生理論、蠶體病理論、製絲法、桑樹栽培論、殺蛹乾燥論、消毒法

實習　養蠶及夏蠶飼育、製種、殺蛹乾燥、桑樹栽培、顕微鏡使用、蠶體解剖、消毒法、蠶種繭生絲檢査、製絲

別科

講義　博物學、理化學、氣象學、養蠶法、蠶體解剖大意、蠶體生理大意、蠶體病理大意、製絲法大意、桑樹栽培大意、農事大意

實習　養蠶及夏蠶飼育、製種、殺蛹乾燥、蠶體解剖、消毒法、製絲、桑樹栽培、顕微鏡使用、蠶種繭生絲檢査、製絲

第七條　本科及別科ノ講習期ヲ分ツコト左ノ如シ

第一期　自四月一日　至五月二十五日
第二期　自五月二十六日　至九月十日（養蠶實習期）
第三期　自九月十一日　至十一月三十日

第八條　本科及別科ハ第二期ニ於テモ實習ノ繁閑ニ依リ隨時講義ヲ行フコトアルヘシ

第九條　本所ノ休業期日ハ左ノ如シ

日曜日
大祭祝日
夏蠶終了後一週間
但養蠶實習中ハ休業スルコトナシ

第四章　入所及退所

第十條　講習生ハ左ノ資格ヲ有スルモノヨリ採用ス

一　本科ハ別科ノ課程ヲ卒ヘタル者若クハ之ニ相當スル者
一　別科ハ高等小學第二學年終了以上ノ學力ヲ有スル者若クハ之ニ相當スル者
一　本道ニ於テ農業ニ從事スル者及其子弟ニシテ年齢十七歲以上ノ男子
一　身體强壯品行方正ニシテ講習中家事ニ繫累ナキ者

第十一條　前條ノ資格ヲ有スル者ト雖モ左ニ掲ク左ニ掲クルモノハ採用ノ限リニアラス

一　負債ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者及破産宣告又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者
一　公權剝奪又ハ公權停止中ノ者

第十二條　講習生ノ應募者定員ヲ超過シタルトキハ試驗ノ上成績ノ順序ニ依リ採用ス

第十三條　志願者ハ毎年一月三十日迄ニ第一號書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ區長戸長又ハ町村長ノ證明ヲ受ケ北海道廳農事講習所ニ差出シ入所許可セラレタルトキハ第二號書式ニ依リ保證人二名連署ノ上契約書ヲ差出スヘシ

第十四條　保證人ハ本道ニ居住シ丁年以上ノ戸主ニシテ相當ノ財産ヲ有スル者而シテ其一人ハ札幌區ヲ距ル一里以内ニ現住スル者タルヲ要ス

但保證人旅行セントスルトキハ豫メ相當ノ代理者ヲ定メ届出ヘシ

第十五條　講習生ハ在所中退所スルコトヲ得ス

但シ病氣其ノ他止ムヲ得サル事故アリテ保證人連署退所ヲ願出タルトキハ特ニ許可スルコトアルヘシ

第五章　試驗及卒業

第十六條　試驗ハ定期及臨時ノ二トシ定期試驗ハ各期ノ終リニ於テ之ヲ行ヒ臨時試驗ハ受持教員ノ見込ニ依リ之ヲ行フ

第十七條　試驗點數ハ各科目一百點ヲ以テ最高トシ講習期間ノ終リナル定期試驗ニ於テハ左ノ規定ニ依リ及落ヲ定ム

試驗ハ何部ノ事故ナ間ハス再ヒ之ヲ受クルコトヲ得ス

總平均點數　六十點以上　及第
總平均點數　六十點未滿　落第
二課目以上　五十點未滿　落第
一課目　四十點未滿　落第

但總平均點數ハ學科ノ平均點ニ平常ノ成績ヲ評定シ得タル實習點ヲ加ヘ之ヲ二分シ尚他ノ定期及臨時試驗ノ評點ヲ參考シテ之ヲ定ム

第十八條　試驗ニ缺席シタル課目ニハ零點ヲ付スト雖モ病氣其他止ムヲ得サル事故ニ因リ届出ノ上缺席シタル者ハ願ニ依リ特ニ試驗ヲ行フコトアルヘシ

第十九條　第十七條ノ試驗ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第六章　學資及賞罰

第二十條　講習生ニハ在所中食費及燈油ヲ給シ寢具ヲ貸與ス

但シ傍聽生ノ學費ハ總テ自辨トス

第二十一條　講習生ニシテ中途退所シ若クハ退所ヲ命セラレタルトキハ在所中給與シタル學費ヲ一時ニ償還セシム

但シ情狀ニ依リ特ニ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第二十二條　品行方正成績優等ノ者ニハ賞品ヲ授與ス

第二十三條　怠惰不品行又ハ病氣其他事故ニ依リ成業ノ見込ナキ者ハ退所セシメ又講規則及命令ヲ犯シタル者ハ其ノ情狀ニ依リ左ノ處罰ニ附ス

一　譴責
二　謹慎
三　退所

附則

第二十四條　講習生ニシテ卒業後五箇年内ニ居住地ヲ轉シタルトキハ其ノ都度本人ヨリ死亡シタルトキハ親屬ヨリ其旨本所ニ届出ヘシ

第二十五條　入所出願期ハ明治三十六年ニ限リ二月二十八日迄トス

第一號書式（用紙半紙）

入所願

私儀北海道廳農事講習所（本科又ハ別科）ニ入所修業仕度候ニ付御許可被成下度履歴書相添ヘ此段相願候也

族籍住所誰子弟
本人　何　誰　印　何年何月生
族籍住所
保證人　何　誰　印　何年何月生

北海道廳農事講習所長殿

履歴書（用紙半紙）
族籍住所
何　誰　何年何月生

一　何年何月ヨリ何何小學校ニ入リ又ハ何ノ誰ニ付何何修業（卒業證書アルモノハ寫ヲ添フヘシ）
一　何年何月ヨリ何年何月迄何所ニ於テ農業ニ從事ス右ノ外學業身分賞罰ニ關スル事項

年　月　日　右　何　誰　印

第二號書式（用紙半紙）

印紙

誓約書

私儀今般北海道廳農事講習所（本科又ハ別科）ニ入所御許可相成候ニ付テハ御規則ヲ堅ク遵守シ卒業ノ上ハ暫テ本道内ニ於テ養蠶業ニ從事可仕又入所中退所ヲ命セラレ或ハ止ヲ得サル事故ニ依リ退所ヲ許可セラレ候節ハ給費ノ全額保證人ニ於テ速ニ辨償可致其ノ他本人身上ニ關スル一切ノ事件ハ保證人ニ於テ引受可申候依テ保證人連署誓約書如斯候也

年　月　日

族籍住所誰子弟
本人　何　誰　印　生年月日
族籍住所
保證人　何　誰　印　生年月日
族籍住所
保證人　何　誰　印　生年月日

北海道廳農事講習所長宛

○明治三十五年一月十一日訓令第一號（支廳區役所戶長役場町村役場宛）

明治三十四年（十二月）當廳告示第五百二十六號ヲ以テ北海道廳農事講習所規則相定メ候ニ付テハ同規則第九條ニ據リ證明願出タルトキハ同第六條資格ノ有無及同第七條ニ抵觸セサルヤ否ヤヲ取調應募資格アリト認ムル者ハ其旨ヲ記シ證明ヲ與フヘシ

○明治三十五年七月四日告示第二百九十三號

北海道廳農事講習所蠶種配付規則左ノ通定ム

北海道廳農事講習所蠶種配付規則

第一條　農事講習所ニ於テ製造スル蠶種ハ原種用トシテ左ノ資格ヲ有スル者ニ限リ無代價ニテ配付ス

本道内ニ住所ヲ有シ且本道ニ於テ二年以上養蠶ニ從事シ毎年五十枚以上ノ販賣用蠶種ヲ製造スル者

第二條　農事講習所ニ於テ配付スル蠶種ハ一化性ニアリテハ小石丸又昔青熟トシ二化性ニアリテハ飛白伊形ノ越年蠶種トス

第三條　蠶種ノ配付ヲ出願セントスル者ハ區町村長又ハ戶長ノ資格證明ヲ受ケ毎年五月十五日マテニ農事講習所ニ出願スヘシ

第四條　配付スヘキ蠶種ハ請求者一名ニ對シ五十蛾分以上五百蛾分以下トシ十一月三十日マテニ發送ス配付ヲ受クル能ハサル者ニハ十月三十一日マテニ其旨ヲ通知スヘシ

第五條　蠶種ノ配付ヲ授ケタル者ハ別紙書式ノ成績表ニ左ノ殺蛹シタル成蘭（二化性ハ第二化ノ成蘭）ヲ添附シ一化性ハ翌年八月三十一日二化性ハ十月三十一日マテニ農事講習所ニ送付スヘシ

百蛾分未滿ノ配付ヲ受ケタル者　五合
百蛾分以上ノ配付ヲ受ケタル者　一升

第六條　前條ノ義務ヲ怠ル者ハ爾後三箇年蠶種ノ配付ヲ受クルヲ得ス

第七條　公立若ハ公費ノ補助ヲ受クル學校試驗場等ニシテ蠶業研究ノ爲蠶種ノ配付ヲ請求スルトキハ第一條ノ資格ヲ有セサルモ百蛾分以内ノ蠶種ヲ配付ス但此場合ニ於テハ第五條第六條ヲ適用セス

附則

第八條　第三條ノ出願期限ハ明治三十五年ニ限リ九月三十日マテトス

（別紙）

配付蠶種成績表

飼育者　國郡區町（村）氏名

經過		收獲			
種名		上蘭			
蟻量	匁分	容量	重量	一升ノ繭量	同功繭
掃立	月日	石斗升合	貫匁	瓩	容量
飼育日數	日	石斗升合	貫匁		重量
室最高	度				

溫度		晴雨		給桑		備考
最低	度	晴天	日	回數	同	記事
平均	度	雨天	日	桑量	瓩	記事欄内ニハ蠶種ノ保護ニ關スル事項氣候ノ順否蠶兒發育ノ狀況眠起ノ齊否病蠶ノ多寡桑葉及繭ノ價格等ヲ記入スルヲ要ス
蘭	容量	石斗升合		出高	製絲用	二化性ハ第一化性ト第二化トハ異ナル用紙ニ記入スルヲ要ス
	重量	貫匁			枚	

○明治三十五年五月十三日訓第五百十一號（總中一般農事講習所宛）

北海道廳農事講習所處務細則左ノ通定ム

北海道廳農事講習所處務細則

第一條　本所ハ府縣農事講習所規程及北海道廳農事講習所規則ノ定ムル所ニ依リ其事務ヲ處理ス

第二條　所長ハ所員ノ勤惰ヲ監督シ所務整理ノ責ニ任ス

第三條　所長事故アルトキハ首席員其職務ヲ代理ス

第四條　所長ハ事務分掌、取扱手續、宿直規程、生徒心得其他必要ノ規程ヲ定ムルコトヲ得

前項ニ依リ事務分掌、取扱手續、宿直規程、生徒心得其他必要ノ規程ヲ定メタルトキハ殖民部長ニ報告スヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五條　左ニ掲クル事項ハ所長限リ處分スルコトヲ得

一　所員事務引繼ノ事
二　諸願伺屆書等處分以前本人ノ請求ニ依リ下戻又ハ送式ヲ訂正セシムル事
三　公文書中誤謬遺算アルトキハ訂正ノ事
但事ノ重要ナルモノハ此限ニアラス
四　制規定例ノ手續ヲ踐マスシテ差出シタル諸願伺屆書類却下ノ事
五　制規定例アル諸屆受理ノ事
六　制規定例又ハ先例アル諸屆受理ノ事件ニ關シ北海道廳所轄官公署若クハ人民ニ照會往復ノ事
但職權又ハ法令ノ解釋ニ渉ルノ類ハ此限リニアラス
七　定夫ノ進退自分ニ關スル事
八　生徒賞罰ノ事但退所處分ハ此限ニアラス

第六條　所長ハ事業方案ヲ定メ毎年一月限リ長官ノ認可ヲ受クヘシ其臨時必要ノ事項ヲ生シタルトキ亦同シ

第七條　講習生、研究生ノ定員、給額及其入退所ニ關スル事項ハ豫メ長官ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　養蠶ノ狀況ハ實習ト試驗トヲ區別シテ毎齡報告スヘシ

第九條　前年度ノ業務功程ハ左ノ各項ニ區分シテ毎年四月限リ報告スヘシ

一　講習ニ關スルコト
二　蠶絲試驗ニ關スルコト
三　桑園ニ關スルコト
四　栽桑試驗ニ關スルコト

五　蠶種及桑苗ニ關スルコト
六　巡回講話ニ關スルコト
七　雜件

第十條　本所ニ於テハ一般ノ規定ニ依ルモノノ外左ノ表簿ヲ備フヘシ
一　蠶業整理簿
二　製産臺帳
三　蠶種配付臺帳
四　桑苗配付臺帳
五　使役人夫內譯簿
六　講習生及研究生名簿
七　其他必要ノ簿書

第十一條　本所ニ毎夜一名ノ宿直ヲ置キ技手及書記ノ內交替勤務スヘシ

○明治三十六年一月三十日廳令第十三號
北海道廳農事講習所桑苗配付規則左ノ通定ム

北海道廳農事講習所桑苗配付規則

第一條　農事講習所ニ於テ生産スル桑苗ハ桑樹蕃殖ノ爲左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限リ無代價ニテ配付ス
一　本道內ニ住所ヲ有シ且本道ニ於テ耕地ヲ所有又ハ占有シ養蠶ニ從事スル者
二　學校講習所傳習所試驗場又ハ農會ニシテ蠶桑ノ事業ヲ爲ス者

第二條　農事講習所ニ於テ配付スル桑苗ハ當分北海道在來種トス

第三條　桑苗ノ配付ヲ請求セントスル者ハ區町村又ハ戶長役場ヲ經テ毎年四月三十日迄ニ農事講習所ニ出願スヘシ

第四條　桑苗ノ配付ハ出願者一名ニ付三百本以內トス但シ第一條第二號ノ出願ニ對シテハ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五條　桑苗ノ配付ハ春秋ノ二期ニ於テ直接本人ヘ發送シ配付セサル者ニ對シテハ其ノ旨十月末日迄ニ通知ス

第六條　桑苗ノ配付ヲ受ケタル者ハ左ノ書式ニ倣シ成績書ヲ調製シ春期栽植セシモノハ其ノ年十月秋期栽植シタルモノハ翌年十月落葉迄ノ景況ヲ記載シ十一月限農事講習所ヘ報告スヘシ

第七條　一度桑苗ヲ配付シタル者ニハ爾後之ヲ配付セス但シ前後ヲ通シテ三百本ヲ超過セサル者ハ此ノ限ニアラス

（書式）

桑苗栽植景況報告

植付年月日
植付場所
植付距離及方法
最伸長新條ノ長
發芽數
枯損本數
發育概況
土質及地形ノ大略
右報告候也

年　月　日

國郡町(村)
栽植者　氏　名印

○明治三十六年二月二十三日訓第百七十三號（殖民部支廳町村役場戶長役場農事講習所宛）
明治三十六年（一月）當廳令第十三號ニ依リ農事講習所ニ提出スル桑苗配付願ハ町村役場又ハ戶長役場ヲ經ルノ外所轄支廳ヲ經由セシムヘシ

●牧畜

●種畜

○明治二十年十月六日告示第百四十二號

種豚貸與手續左ノ通定ム

但從前貸與ノ分モ此手續ニ據ルヘシ

種豚貸與ノ分

種豚貸與手續（二十九年一月告示第二十六號ヲ以テ第一條第二條ノ貸與ハ當分中止ス）

第一條　種豚貸與ヲ乞フノ者ハ毎年一月ヨリ四月迄ノ間ニ別紙甲號雛形ノ願書ヲ出シ許可ノ上ハ乙號雛形ノ證書ヲ出スヘシ

第二條　種豚ハ一戶ニ付牡一頭牝二頭ヲ貸與ス但願人ノ情況又ハ官ノ都合ニ依リ特ニ頭數ヲ增減スルコトアルヘシ

第三條　貸與セル種豚牡一頭牝三頭ニ付生産兒豚牡一頭牝二頭ノ割ヲ以テ滿二箇年間ニ上納スヘシ上納ノ後其種豚ハ無代價ヲ以テ借受人ニ付與スヘシ但生産後十二箇月未滿ノ者ヲ貸與スルトキ其月數ニ滿ル迄ハ本條年限ニ算入セス

第四條　上納ニ充ツヘキ兒豚ハ生産後四箇月以上ヲ經過シ體格健全ノ者ニ限ル

第五條　受取及上納ニ關スル費用ハ借主ノ自辨トス但時宜ニ依リ甲ヨリ上納スヘキモノヲ移シテ直ニ乙ニ貸與スルコトアルヘシ

第六條　貸與種豚死亡若クハ失踪セシトキハ其事由ヲ詳記シ保證人連署第二部ヘ屆出ヘシ

第七條　種豚貸與ヲ受ケタルモノハ其初年蕃殖ノ景況ハ丙號雛形ニ其後二年間ハ丁號雛形ニ依リ毎歲十二月ニ取調ヘ第二部ヘ屆出ヘシ（二十二年一月道廳告示第八號ヲ以テ本條改正）

第八條　種豚貸與中ハ主務官吏ヲ派遣シ飼養ノ景況ヲ視察セシムルコトアルヘシ

第九條　貸與種豚ノ飼育ヲ粗略ニシ若クハ此手續ニ違背スルトキハ直ニ返納セシメ不注意ヨリ減死若クハ失踪セシトキハ相當ノ代價ヲ辨償セシムヘシ

甲號

種豚拜借願

豚蕃殖ノ爲メ牡何頭牝何頭拜借仕度保證人連署此段奉願候也

何國何郡(區)何町(村)番地士族平民
願人　何　誰
同上
保證人　何　誰

年　月　日

北海道廳長官姓名殿

戶長奥印

乙號（證券印紙貼用）

種豚拜借證

豚蕃殖ノ爲メ牡豚何頭正ニ拜借仕候就テハ種豚貸與手續確守可仕ハ勿論平素鄭重ニ取扱萬一不注意ヨリ失踪又ハ斃死セシムルトキハ相當ノ代價辨償可仕若シ本人ヨリ上納難致節ハ證人ニ於テ引受辨償可仕爲後證連署如件

何國何郡區町村番地士族平民
拜借人　何　誰
同上
保證人　何　誰

北海道廳長官姓名殿

丙號（二十二年一月告示第八號ヲ以テ丙號雛形ヲ追加シ元丙號ヲ丁號トス）

豚蕃殖御屆

年齢＼事故	牝牡	拜借頭數	拜借後生殖數	計	屠殺	賣却	斃死	失踪	計	差引現數
六箇月未滿	牝									
	牡									
六箇月以上	牝									
十二箇月未滿	牡									
十二箇月以上	牝									
	牡									
計										

備考　（假令ハ牝牡ノ內單ニ一頭ヲ借受ケ之ヘ所有ノ牝或ハ牡ヲ配尾セシメタルトキハ本表中ヘ所有ノ分モ併記シ證キ其事由ヲ此欄內ニ記載シテ官私ノ區別ヲ說明スヘシ）

右御屆仕候也

年　月　日

北海道廳第二部御中

國郡町(村)番地士族平民
何　誰　印

丁號

豚蕃殖御屆

年齢＼事故	牝牡	前年十二月三十一日現數	本年一月以降生殖數	計	屠殺	賣却	斃死	失踪	計	差引現數
六箇月未滿	牝									
	牡									
六箇月以上	牝									
十二箇月未滿	牡									
十二箇月以上	牝									
	牡									
計										

右御屆仕候也

年　月　日

北海道廳第二部御中

國郡町(村)番地士族平民
何　誰　印

○明治三十六年三月二十四日廳令第四十號

明治三十一年(三月)北海道廳令第二十一號種牡馬檢査法施行手續左ノ通リ改正ス

種牡馬檢査法施行手續

第一條　此手續ニ於テ細則ト稱スルハ明治三十年農商務省令第四號種牡馬檢査法施行細則ヲ謂フ

第二條　種牡馬ノ檢査ヲ受ケント欲スル者ハ毎年三月三十一日マテニ第一號書式ニ依リ當廳ニ願出ヘシ

但本條ノ期間内ニ出願シ能ハサル正當ノ事故アルモノハ檢査期日内ニ限リ檢査ヲ出願スルコトヲ得此場合ニ於テ當廳ハ其馬匹ノ繫付場所ヲ指定ス

第三條　種牡馬ノ資格標準ハ細則第三條第二號第三號及第四號ノ外尚左ノ各號ニ依ルモノトス

但證明書ヲ下付スル時期ニ於テ第一號ノ齢ニ達スルモノハ除メ檢査ヲ行フモノトス

一　明ケ四歳以上ノモノ

二　佐目及斑白(俗ニ駁馬ト稱スルモノヲ云フ)ノモ色ニアラサルモノ

三　交接病芥蘚病及其他類似ノ傳染性疾病ヲ有セサルモノ

第四條　種牡馬ノ年齢ハ定齒又ハ月數ニ依リ定ムルモノトス

但種牡馬檢査委員ハ馬匹ノ定齒明カナラス或ハ月數不足ノ疑アルトキハ推認ヲ以テ決定スヘシ

第五條　第三條ノ資格標準ニ合格シタル種牡馬ニハ種牡馬檢査委員ニ於テ直ニ左前肢膝肢ノ前部ニ第一號雛形ノ烙印ヲ捺スヘシ

第六條　種牡馬檢査ニ合格シタル馬匹種牡馬證明書下付以前ニ於テ斃死スルカ其他疾病逸失等ノ異狀アルトキハ其旨速ニ當廳ニ屆出ヘシ

第七條　合格種牡馬ノ所有者又ハ管理者ニハ當廳ヨリ翌年一月ニ於テ第二號書式ノ種牡馬證明書ヲ下付スヘシ

第八條　種牡馬證明書ノ效力ハ滿二箇年トス

第九條　種牡馬ヲ廢シ又ハ證明書ノ效力ヲ失ヒ若クハ取消サレタルトキハ所有者又ハ管理人ハ其事由ヲ付シ證明書ヲ返納スヘシ

第十條　細則第七條第二項ノ場合ニ於テハ第二號雛形ノ烙印ヲ以テ烙消スヘシ但此場合ニハ其旨ヲ告示ス

第十一條　種牡馬證明書ハ賣買貸借讓與交換スルコトヲ得ス

種牡馬ノ賣買貸借讓與交換等ニ依リ所有者又ハ管理人ニ異動ヲ生シタルトキハ變方速署證明書ノ書換ヲ當廳ニ願出ヘシ其檢査後證明書下付前ニ係ルモ亦同シ

第十二條　細則第十條ノ帳簿ハ第三號書式ニ依リ整理スヘシ但其使用期限ハ滿三箇年トス

第十三條　種牡馬所有者又ハ管理人ハ第十二條ノ帳簿ニ記載ノ事項ヲ毎年十二月限リ第四號書式ニ依リ當廳ニ屆出ヘシ

第十四條　種牡馬檢査ノ場所區域ハ期日ト共ニ告示ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條　第十四條ノ告示アリタルトキハ所轄支廳及區長ニ於テ速ニ檢査場ノ地點ヲ定メ之ヲ當廳ニ報告シ且區域内各受驗出願者ニ告知ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條　第十四條ノ告示及第十五條ノ告知アリタルトキハ出願者ハ檢査時間内ニ其區域ノ檢査地點ニ該馬匹ヲ繫付ヘシ

但都合ニ依リ該區檢査委員ノ證明ヲ得テ他ノ檢査場ニ繫付クルコトヲ得

馬匹ヲ繫付タル所有者又ハ管理人ハ其住所氏名及馬匹ノ名號ヲ檢査委員ニ屆クルコトヲ要ス

第十七條　種牡馬檢査時限ハ期日ノ午前八時乃至午後四時トス但檢査委員ハ其日ノ狀況ニ依リ此時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第十八條　種牡馬檢査委員ハ一檢査場ノ檢査ヲ終ル毎ニ別ニ定ムル所ノ式ニ據リ檢査ノ結果ヲ北海道廳長官ニ報告スヘシ

第十九條　此手續ニ於テ檢査願人トハ當廳ニ差出ス願屆書ハ所轄町村役場又ハ戸長役場區役所支廳ヲ經由スヘシ

第二十條　本手續第二條ノ檢査出願期限ハ明治三十六年ニ限リ五月三十一日マテトス

右御檢査被成下度此段相願候也

明治何年何月何日　　國郡區町村字番地

北海道廳長官宛　　所有者(管理人)　氏　名印

第二號書式

第何號　　種牡馬證明書

何國何郡區何町村大字番地

所有者又ハ管理人　氏　名

明治何年　月　日檢査

一何種牡馬何何號

毛色	何毛	年齢	何歳	體尺	何尺何寸何分	
特徴	何何	産地	何國何郡區町村何何	飼養所	何何	

右種牡馬檢査ニ合格シタルコトヲ證明ス

此證明書ハ明治何年何月何日ヨリ明治何年何月何日マテ何年間有效トス

明治何年　月　日

北海道廳長官　　氏　名　印

第三號書式(種牡馬一頭毎ニ口譯ヲ設クヘシ)

何種牡馬何號

種付牝馬	種類	毛色	體尺	産地	交尾年月日及度數
名號	年齢	特徴			

産駒	牝馬所有者又ハ管理人住所氏名	

第八類　牧畜　種畜

第四號書式

牝馬種付簿

何種	何毛	何寸何分	何何	明治何年何月何日	同上	同上	牝	何國何郡何區何町何村何番地	氏名
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	

種類	名號	毛色	年齢	體尺	特徴	牝馬所有者又ハ管理人住所氏名
何種	何號	何毛	何歳	何尺何寸何分	何何	何國何郡區何町村何番地所有者又ハ管理人氏名
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

備考　本帳簿ノ表紙ニハ某年度種付簿ト記シ所有者ノ氏名ヲ書シ置クヘシ

右明治何年何月何日ヨリ同年何月何日マテ種牡馬何種何號ト種付セシ牝馬頭數相違無之候也

何國何郡區何町村何番地

明治何年何月何日

北海道廳長官宛

種牡馬所有者又ハ管理人

氏　名　印

○明治三十五年二月一日廳令第八號

北海道廳種畜場飼養ノ種牡馬ヲ以テ交尾ヲ施行セシムル爲メ交尾施行細則左ノ通相定ム

交尾施行規則

第一條　北海道廳種畜場ニ於テハ料金ヲ徴收シテ其飼養ノ種馬ヲ以テ交尾ヲ施行ス

第二條　交尾施行ノ場所及期日竝ニ交尾ニ使用スル種馬交尾ヲ許可スヘキ牝馬頭數及交尾料金ハ交尾施行ノ前之ヲ告示ス

第三條　交尾ヲ受ケント欲スル者ハ牝馬ヲ望ミノ交尾場ニ牽附ケ口頭ヲ以テ其旨出願シ同時ニ望ミノ種牝馬ヲ申立ツヘシ

第四條　交尾ヲ受クヘキ牝馬ハ左ノ資格ヲ有スルモノニ限ル

一　年齢四歳以上

二　乘用種及農用種牡馬ニ配合スヘキ牝馬ハ身幹四尺五寸以上雜種牡馬ニ配合スヘキ牝馬ハ身幹四尺四寸以上

三　體格不良營養不良老衰佞目若クハ駿ナラサルモノ又ハ惡癖若クハ著明ノ損徴ヲ有セサルモノ又ハ傳染病ニ罹ラサルモノ

第五條　配合スヘキ牝馬定數ニ滿ツルトキハ期限内ト雖モ交尾願ヲ拒絶ス

第六條　第三條ノ牝馬資格竝ニ配合スヘキ種牡馬ハ當該更現場ニ於テ之ヲ定ム

第七條　交尾ハ三回ヲ以テ一週トシ第四條ノ資格アルモノニ交尾許可證ヲ付與ス其許可證ハ第一號書式ニ依ル

備考　種牡馬一頭以上ヲ所有セシ者ハ其種牡馬一頭毎ニ配合セシ牡馬ヲ區別記載スヘシ

第一號雛形　★

第二號雛形　○

第八條　牝馬合格シタルトキハ所有者又ハ管理者ハ第一回ノ交尾料金ヲ納付シ交尾許可證ヲ受ケ交尾施行ノ際之ヲ携帶シ當該更ニ示シテ交尾ヲ受クヘシ第二回及第三回ニ於テハ其都度各料金ヲ納付シ同シク許可證ヲ示シテ交尾ヲ受クヘシ

第九條　交尾料ヲ納入シタル後牝馬發情セスシテ交尾期日ヲ經過シ又ハ自己ノ都合ヲ以テ交尾ヲ受ケサルモ前納ノ料金ハ之ヲ還付セス

第十條　種牡馬疾病ニ罹リ又ハ其他ノ事故ニ由リ交尾ノ許可ヲ取消シタルトキ若クハ交尾場ノ都合ヲ以テ期間中交尾ヲ施行セサルトキハ前納ノ交尾料ヲ還付スヘシ

第十一條　合格牝馬一週ノ交尾ヲ受ケタル後其所有者又ハ管理者ニ於テ尚ホ交尾ヲ願フトキハ第七條ニ依リ許可證ヲ再渡スヘシ

但餘勢ノ存セサルトキハ此限リニアラス

第十二條　牝牡親和ヲ缺クカ爲メニ交尾ヲナスモ受胎セサル爲メ他ノ種馬ノ配合ヲ望ム者アルトキハ前條ノ例ニヨル

第十三條　交尾許可證ヲ紛失若クハ毀損シ其再渡ヲ請フ者アルトキハ書換料トシテ一枚ニ付金貳拾錢ヲ納入セシムヘシ

第十四條　種畜場ニ在テハ交尾ノ爲メ合格牝馬ヲ來來ル同場飼養ノ牝馬ヲ配合セシムルカ爲メ所定ノ種牡馬ニ餘勢ノ存セサルトキハ當月ノ交尾ヲ拒絶スヘシ

第十五條　交尾ヲ受クルカ爲メ交尾場ニ牽附ケタル牝馬ニシテ當該更ニ於テ既情ノ上發情十分ナラスト認ムルトキハ當日交尾ヲ行ハス

第十六條　交尾ノ順序ハ牝馬ノ著順ニ依ル但シ當日當該更ノ定メタル配合定數外ノ牝馬ニ對シテハ交尾ヲ行ハス

第十七條　交尾ヲ受ケタル牝馬仔馬ヲ産出シタルトキハ十日以内ニ第二號書式ニヨリ北海道種畜場ニ届出ヘシ

但シ口頭ヲ以テ届出ルモ妨ケナシ

第十八條　前條ノ生産届ナキ馬ニ對シテハ他日血統書ヲ請求スルモ之ヲ下付セス

第一號書式（表）

交尾許可證

所有者（管理者）住所　氏　名

種類	牝馬
名	
産地	
年齢	
毛色	
體尺	
特徴	

右（何種牡馬何號）ニ交尾スルコトヲ許可ス

（裏）

交尾料

	第一回	第二回	第三回
金	金　明治　年　月　日受領	金　明治　年　月　日受領	金　明治　年　月　日受領
明治　年　月　日交尾	明治　年　月　日交尾	明治　年　月　日交尾	明治　年　月　日交尾

明治三十五年　月　日　北海道廳種畜場

第二號書式

駒生産届

種類　牡　牝

名

生年月日

産地

父馬

母馬

明治　年　月　日

住所　氏　名㊞

北海道廳種畜場宛

○明治三十五年十一月二十二日廳令第百四十六號

北海道廳種畜場飼養ノ種牡牛ヲ以テ交尾ヲ施行セシムル爲種牡牛交尾規則左ノ通定ム

種牡牛交尾規則

第一條　北海道廳種畜場ニ於テ飼養スル種牡牛ノ交尾ヲ受ケシトスルモノハ北海道廳種畜場長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第二條　前條ノ許可ヲ得タルモノハ交尾料トシテ交尾一回ニ付金參圓ヲ納付スヘシ

第三條　交尾ノ許可ヲ得タル者ハ牝牛ヲ北海道廳種畜場ニ牽付所望ノ種牡牛ヲ指定シ口頭ニテ申出ツヘシ

第四條　左ノ各項ニ該當スルモノニハ交尾ヲ許可セス

一　年體滿二歳以下ノモノ

二　體格及營養不良竝老衰ノモノ

三　惡癖又ハ遺傳病アルモノ

許可ヲ與ヘタル後前各號ニ概當スト認メタルトキハ其許可ヲ取消ス

第五條　牝牛ヲ牽付ルモ種牡牛ニ故障アルカ又ハ種畜場ニ於テ差支アルトキハ當日交尾ヲナサシメサルコトアルヘシ

第六條　交尾ヲ受ケタル牝牛懷ヲ産出シタルトキハ十日以内ニ左ノ書式ニ依リ北海道種畜場ニ届出ツヘシ但口頭ヲ以テ届出ツルモ妨ケナシ

第七條　前條ノ生産届ナキ牛ニ對シテハ血統書ヲ請求スルモ之ヲ下付セス

第八條　本規則施行ニ關シ必要ナル手續ハ種畜場長之ヲ定ム

懷産出届（書式）

一牝牛何號（名號ナキモノハ必シモ記載ニ及ハス）明治何年何月何日於何地出生

毛色何色又ハ何何班

父何種何號

母何種何號

明治何年何月何日交尾

右懷産出致候間此段及御届候也

岡郡（區）町村大字何何番地

何　某　印

明治何年何月何日

北海道廳種畜場

御中

○明治三十四年七月十九日廳令第百三十號

明治二十八年十二月北海道廳令第百一號牛馬貸與規則左ノ通改ム

種牡牛馬貸付規則

第一條　願體又ハ個人ニシテ蕃殖適齢ノ牝牛十頭以上又ハ牝馬二十頭以上ヲ所有シ牧畜事業ヲ經營スルニ足ル設備アルモノハ種牡牛又ハ種牡馬ノ借用ヲ出願スルコトヲ得

前項ノ蕃殖適齢トハ牝牛ニアリテハ滿三箇年種牡馬滿四箇年トス但種牡牛ノ滿二十四箇月ニ達セサルモノ又ハ種牡馬ノ滿三十六箇月ニ達セサルモノヲ貸付スルトキハ貸月數ニ達スル迄ハ本項ノ年限中ニ算入セス

第三條　種牡牛又ハ種牡馬ノ借用願書ハ毎年一月一日ヨリ六月三十日迄ノ期間ニ北海道廳長官ニ差出スヘシ

當該年内ニ貸付シ難キ者ニ對シテハ指令ヲ須弁スシテ其願書ヲ無效トス

第四條　種牡牛又ハ種牡馬ヲ借用セントスルトキハ二人ノ保證人ヲ定メ（但第一ノ場合ヲ除ク）第一號書式ノ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ北海道廳長官ニ差出スヘシ

一　牽牛馬組合又ハ農會ニアリテハ經營書、種牡牛又ハ種牡馬借用ニ關スル決議書、組合若クハ組合員　會若クハ會員所有蕃殖適齢ノ牝牛又ハ牝馬調書（第二號書式以下倣之）

二　前項以外ノ團體ニアリテハ經營書、規約書、團體員名簿、團體所有蕃殖適齢ノ牝牛又ハ牝馬調書

三　商人ニアリテハ經營書、區町村長戸長ノ證明シタル財産調書　所有蕃殖適齢牝牛又ハ牝馬調書

第五條　保證人ハ現ニ北海道ニ住所ヲ有シ國稅年額參圓以上ヲ納付シ若クハ宅地四町歩以上ヲ所有シ且ツ區町村長戸長ニ於テ證明シタルモノニ限ル

第六條　左ニ掲クルモノハ保證人タルヲトヲ得ス

一　成年未滿者

二　禁治産者及準禁治産者

三　負債限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者

四　剝奪公權者及停止公權者

五　瘋癲白痴ノ者

第七條　保證人ハ借用者ニ於テ種牡牛又ハ種牡馬ノ借用期限ニ至ルモ返納ノ手續ヲナサス若クハ本則ニ違反シ返納若クハ賠償ヲ命セラレ其責ヲ盡ササルトキハ借用者ニ代リ其義務ヲ負擔スヘシ

第八條　貸付種牡牛又ハ種牡馬ノ價格ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第九條　北海道廳長官ハ種牡牛又ハ種牡馬ノ貸付料トシテ一箇年ニ付命令書ニ記載セル價格ノ百分ノ三ヲ徴收ス但滿二十四箇月ニ達セサル種牡牛又ハ滿三十六箇月ニ達セサル種牡馬ヲ貸付スルトキハ該月數ニ達スル迄ハ本項ノ貸付料ヲ徴收セス

貸付云云（三十四年十月廳令第百五十九號ヲ以テ本項削除）

貸付料ノ徴收方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十條　種牡牛又ハ種牡馬ノ貸付ヲ許可シタルトキ及返納ヲ命シタルトキハ北海道廳長官ノ指定シタル場所ニ於テ受渡シヲナスモノトス

前項ノ乘付賃費ハ總テ借用者ノ負辨トス

第十一條　借用者種牡牛又ハ種牡馬ヲ受取リタルトキハ第三號書式ノ借用證書ヲ其受渡地ノ町村役場、戸長役場、支廳若クハ區役所ヲ經由シ種畜場ニ差出スヘシ種畜場ニ於テ受渡シタル場合ハ町村役場、戸長役場、支廳若クハ區役所ヲ經由スルヲ要セス

第十二條　種牡牛又ハ種牡馬ノ借用者ハ借用期限滿期三十日以前第四號書式ノ返納申請書ヲ保證人アル者ハ保證人連署北海道廳長官ニ差出スヘシ

第十三條　貸付ノ種牡牛又ハ種牡馬ノ返納ヲ命シタルトキハ其命令書ニ種貸又ハ公費ノ旨記載シタルトキハ該處分結了迄前借用者ニ於テ飼養管理ヲナスヘシ

前項ノ期間借用者ノ負擔スヘキ一切ノ義務ハ貸付料ヲ除ク外借用中ニ同シ

第十四條　種牡牛又ハ種牡馬ノ借用者第一條ノ資格消滅シタルトキハ十日以内ニ返納申請書ヲ保證人アルモノハ保證人連署北海道廳長官ニ差出シ乘付場所ノ指揮ヲ請フヘシ

第十五條　種牡牛又ハ種牡馬ヲ借用スル團體ノ代表者ニ異動アリタルトキハ十日以内ニ其旨北海道廳長官ニ届出ルト同時ニ新代表者名義ノ借用證書ヲ差出シ猶借用證書ト引替ヲ請フヘシ

團體解散シタルトキハ十日以内ニ返納申請書ヲ保證書ヲ差出シ乘付場所ノ指揮ヲ請フヘシ

北海道廳長官ニ差出シ乘付場所ノ指揮ヲ請フヘシ

第十六條　種牡牛又ハ種牡馬ノ借用者居所不明トナリタルトキハ其家族又ハ保證人ヨリ死亡シタルトキハ相續人ヨリ借用種牡牛又ハ種牡馬ノ返納申請書ヲ保證人連署十日以内ニ北海道廳長官ニ差出シ乘付場所ノ指揮ヲ請フヘシ

相續人ニ於テ借用ノ種牡牛又ハ種牡馬ヲ借用セント欲スルトキハ前項ノ返納申請書ト同時ニ願書ヲ差出スヘシ但其借用期限ハ前借用者ノ借用期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條　借用者ハ保證人死亡若クハ居所不明トナリタルトキ又ハ第五條ノ要件ヲ失ヒ若クハ第六條第一號乃至第五號ノ一ニ該當シタルトキハ新保證人ヲ定メ十日以内ニ北海道廳長官ニ届出新保證人連署ノ借用證書ヲ差出シ猶借用證書ト引替ヲ請フヘシ

第十八條　種牡牛又ハ種牡馬ノ借用者ハ毎年八月

若クハ返納ヲ許可シ其命令書ニ種貸又ハ公費ノ旨記載シタルトキハ該處分結了迄前借用者ニ於テ飼養管理ヲナスヘシ

前項ノ期間借用者ノ負擔スヘキ一切ノ義務ハ貸付料ヲ除ク外借用中ニ同シ

第十四條　種牡牛又ハ種牡馬ノ借用者第一條ノ資格消滅シタルトキハ十日以内ニ返納申請書ヲ保證人アルモノハ保證人連署北海道廳長官ニ差出シ乘付場所ノ指揮ヲ請フヘシ

第十五條　種牡牛又ハ種牡馬ヲ借用スル團體ノ代表者ニ異動アリタルトキハ十日以内ニ其旨北海道廳長官ニ届出ルト同時ニ新代表者名義ノ借用證書ト引替ヲ請フヘシ

團體解散シタルトキハ十日以内ニ返納申請書ヲ保證書ヲ差出シ猶借用證書ト引替ヲ請フヘシ

北海道廳長官ニ差出シ乘付場所ノ指揮ヲ請フヘシ

第十六條　種牡牛又ハ種牡馬ノ借用者居所不明トナリタルトキハ其家族又ハ保證人ヨリ死亡シタルトキハ相續人ヨリ借用種牡牛又ハ種牡馬ノ返納申請書ヲ保證人連署十日以内ニ北海道廳長官ニ差出シ乘付場所ノ指揮ヲ請フヘシ

相續人ニ於テ借用ノ種牡牛又ハ種牡馬ヲ借用セント欲スルトキハ前項ノ返納申請書ト同時ニ願書ヲ差出スヘシ但其借用期限ハ前借用者ノ借用期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條　借用者ハ保證人死亡若クハ居所不明トナリタルトキ又ハ第五條ノ要件ヲ失ヒ若クハ第六條第一號乃至第五號ノ一ニ該當シタルトキハ新保證人ヲ定メ十日以内ニ北海道廳長官ニ届出新保證人連署ノ借用證書ヲ差出シ猶借用證書ト引替ヲ請フヘシ

第十八條　種牡牛又ハ種牡馬ノ借用者ハ毎年八月三十一日限リ第五號書式ニヨリ交尾及蕃殖ノ狀況ヲ北海道廳長官ニ届出ヘシ

第十九條　獸疫豫防法ニ依ル獸疫又ハ飼養管理ノ不注意ニ原因セサル疾病ニヨリ斃死セシメタル場合其他總テカヲサル災害ニ因ルモノヲ除ク外貸付ノ種牡牛又ハ種牡馬ヲ斃死、癈疾、逸走若クハ盜難ニ罹リタルトキハ借用證書記載ノ價格以内ニ於テ北海道廳長官ノ指定スル金額ヲ賠償セシメ尚之カ爲メ生スル費用ハ總テ借用者ノ負擔トス

第二十條　借用ノ種牡牛又ハ種牡馬ヲ斃死、癈疾、逸走若クハ盜難ニ罹ラシメタルトキハ町村長戸長又ハ警察官ノ狀況取調書ヲ添ヘ斃死若クハ癈疾ニ罹ルモノハ尚獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ十日以内ニ第六號書式ノ届書ヲ北海道廳長官ニ差出スヘシ

第二十一條　借用ノ種牡牛又ハ種牡馬ハ經營書記載ノ場所外ニ飼養スルコトヲ得ス經營書記載ノ場所外ニ移畜セントスルトキハ其理由ヲ具シ保證人アルモノハ保證人連署北海道廳長官ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二十二條　借用者ハ借用ノ種牡馬ヲ以テ種付スヘキ牝馬頭數尚他人ノ牝馬ニ種付セントスルモノハ交尾料ヲ記載シ毎年四月十五日限リ北海道廳長官ニ届出ヘシ

北海道廳長官ニ於テ前項届出ノ牝馬頭數及交尾料ヲ不當ナリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ訂正セシムヘシ

交尾ハ經營書記載ノ飼養場外ニ於テ行フコトヲ得ス

第二十三條　借用ノ種牡牛又ハ種牡馬疾病ニ罹リタルトキハ速ニ獸醫ノ診察ヲ受ケ其指定ニ從ヒ

保護治療ヲ加ヘ尚主務官吏ニ於テ特ニ保護ノ方法ヲ指定シタルトキハ其指定ニ從フヘシ但保護治療ニ關スル費用ハ借用者ノ負辨トス

第二十四條　借用ノ種牡牛又ハ種牡馬ニシテ獸疫豫防法ニ依ル獸疫ニ罹リタルトキハ該法律ニヨリ届出ト同時ニ北海道廳種畜場ニ其旨届出ヘシ其獸疫快復ノトキモ亦同シ

第二十五條　貸付ノ種牡牛又ハ種牡馬ハ使役若クハ放牧スルコトヲ禁ス

第二十六條　借用者ハ平素借用ノ種牡牛又ハ種牡馬ノ飼養擬試運動及側蹄ニ注意シ種畜ノ健全ヲ保持スヘシ

第二十七條　北海道廳長官ハ毎年一回以上主務吏員ヲ派遣シ貸付種牡牛及種牡馬ヲ檢査セシム

何等ノ事故アルモ借用者ハ檢査員ノ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十八條　左ノ各項ノ一ニ該當スルトキハ命令ヲ以テ貸付ノ種牡牛又ハ種牡馬ヲ返納セシム

一　改良蕃殖ノ實效ヲ奏シ難キト認メタルトキ

二　第九條ノ貸付料ヲ指定ノ期日ニ納入セサルトキ

三　第十四條第十五條第一項第十六條第一項第十七條第十八條第二十一條第三十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二項ニ違背シタルトキ

第二十九條　此規則ニ據リ北海道廳長官ニ差出スヘキ願書、申請書、及届書ハ總テ町村役場戸長役場支廳若クハ區役所ヲ經由スルモノトス

第三十條　明治十九年北海道廳甲第九號布達ニ據リ貸與シタル種畜ハ同則ニ據リ明治二十八年十二月北海道廳令第百一條ニ據リ貸與シタル種畜ハ貸與年限滿期迄同則ニ據リ貸與シタル種畜

第三十一條　本規則ノ改正追加ヲナシタルトキハ貸付料ヲ除キ改正追加前ノ借用者ニ於テモ尚其條項ヲ遵守スヘシ

（第一號書式）

種牡牛（馬）借用願

種牡牛馬貸付規則ニ據リ何種牛（馬）何頭借用仕度書類相添此段相願候也

年　月　日

何國何郡何町（村）何字何番地

何牽牛（馬）組合（農會）長

借用者　氏　印

（借用者ハ牽牛馬組合及農會以外ノ團體又ハ個人ナルトキハ左式ニ準ルヘシ以下倣之）

何國何郡何町（村）何字何番地

族籍

借用者　氏　名　印

同

保證人　氏　名　印

同

保證人　氏　名　印

北海道廳長官侍氏名殿

經營書

一　借用種牡牛馬飼養場所

一　借用種牡牛馬飼養管理ノ方法

一　所有牛馬ノ頭數區別

一　改良ノ順序方法

一　牧畜上ノ事蹟履歴

右ノ通相違無之候也

年　月　日

借用者　氏　名　印

（第二號書式）

牝牛（馬）調書

種類	名號	毛色	身幹	生年月
計何頭				

右ハ何牽牛（馬）組合（組合員農會員會社又ハ自分）ノ所有ニ相違無之候也

年　月　日

借用者　氏　名　印

（第三號書式）

種牡牛（馬）借用證

（印紙）（印紙税法第二條ニ據リ記載金高相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ）

種類及蕃殖名號

毛色

身幹

生年月日

特徴

價格

右正ニ借用致候ニ就テハ明治三十四年七月北海道廳令第百三十號牛馬貸付規則ヲ確守可仕候也

年　月　日

何國何郡何町（村）何字何番地

何牽牛（馬）組合（農會）長

借用者　氏　名　印

何國何郡何町（村）何字何番地

族籍

借用者　氏　名　印

種(馬)付牝牛種類	頭數	種付牛所有者住所	種付ニ對スル性別	生産頭數	雌雄別	越冬
計			牡			
			牝			

右ノ通リ相違ナキモノトス

年　月　日

北海道長官伯爵　氏　名　殿

同　保證人　氏　名　印

同　保證人　氏　名　印

(第四號雛式)

種牡牛(馬)返納申請書

借用月日	種類	品類	名號	毛色	生年月日

右借用期限ニ至ル何年何月何日迄期限ニ付返納ス

年　月　日

北海道長官伯爵　氏　名　殿

同　保證人　氏　名　印

同　保證人　氏　名　印

(第五號雛式)

交尾及雛類御届

一何種牡牛(馬)名號　何年何月何日借用

借用月日	種類	品類	名號	毛色	生年月日

右借用期限ニ至ル何年何月何日迄期限ニ付返納ス

年　月　日

北海道長官伯爵　氏　名　殿

同　保證人　氏　名　印

同　保證人　氏　名　印

(第六號雛式)

種牡牛(馬)死亡(殺獲、逃走、遺失)御届

借用月日	種類	品類	名號	毛色	生年月日	及年月日

右ノ通リ相違ナキモノトス

年　月　日

北海道長官伯爵　氏　名　殿

同　保證人　氏　名　印

同　保證人　氏　名　印

(第七號雛式)

種牡牛(馬)返納(殺獲、逃走、遺失)御届

借用月日	種類	品類	名號	毛色	生年月日

右ノ通リ相違ナキモノトス

年　月　日

北海道長官伯爵　氏　名　殿

同　保證人　氏　名　印

同　保證人　氏　名　印

(第八號雛式)

種牡牛(馬)死亡(殺獲、逃走、遺失)御届

借用月日	種類	品類	名號	毛色	生年月日	及年月日

右ノ通リ相違ナキモノトス

年　月　日

北海道長官伯爵　氏　名　殿

同　保證人　氏　名　印

同　保證人　氏　名　印

(第九號雛式)

種牡牛(馬)死亡(殺獲、逃走、遺失)御届

借用月日	種類	品類	名號	毛色	生年月日

右ノ通リ相違ナキモノトス

年　月　日

北海道長官伯爵　氏　名　殿

同　保證人　氏　名　印

同　保證人　氏　名　印

○明治三十四年九月三日付令第百九號（支廳管轄所町村役場戶長役場規則）

本年(七月)北海道種牡牛馬貸付規則第三十條ニ依リ種牡牛馬借用者ロリ借用種牡牛馬ノ數定額ヲ超ユルトキハ其超過頭數ニ對スル賃料ノ下付ヲ受ケントスル時ハ其

一歐類　種類、牝牡、年齢ト
一發病月日
一發病地名
一發病ノ原因及感染ノ系統
一病類疫ノ輕重
一歐獸氏名
一診斷月日名
一所有者住所氏名

有及報告候也

年　月　日　　支廳長、警察署長、警察分署長、區長、氏　名
　　戶長
北海道廳長官宛

○明治三十二年十二月十六日勅令第八十二號（支廳區役所宛）

明治三十九年（三月）法律第六十號歐疫豚防疫第十條ニ依リ勅令ヲ以テスルトキハ支廳長區長ニ於テ之ヲ指定スベシ

○明治三十五年十二月十一日勅令第百五十四號

歐疫豚防疫第十四條ニ據リ他獸檢査ヲ施行スルトキハ歐獸ノ所有者及其管理者ハ檢査員ノ指定シタル場所ニ於テ檢査ヲ受クベシ

正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ違背シタル者ハ五十錢以上二圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

本令ハ明治三十五年十二月二十日ヨリ施行ス

○明治三十年四月二十三日勅第六十九號（內務部警察部部區役所警察署分署戶長役場宛）

豚疫本年四月一日ヨリ明治三十九年法律第六十號豚疫豚防疫施行ニ依テハ官廳所屬ノ獸醫ニ豚疫ヲ發生シタルトキハ發報官廳ト稱シテ直ニ其ノ管轄區域ニ從ヒ豚疫豚防疫法第五條ノ規定ニ從ヒ其ノ處置ヲ爲スベシ

●歐疫豚防疫工

○明治三十八年七月二十日勅令第五十五號

開業獸醫及獸醫工取締規則左ノ通リ相定ム

但シ現今開業ノ獸醫及獸醫工ハ本則第一條ノ手續ニヨリ來年七月三十一日限リ開出ベシ

獸醫及獸醫工取締規則

第一條　獸醫又ハ獸醫工開業セントスル者ハ開業地ヲ管轄スル道廳長官ニ願出ベシ

開業地ヲ記載シ願書ヲ提出スベシ（戶長役場ニ開業地ヲ管轄スル道廳長官ニ願出ベシ）

開業又ハ所轄官廳ニテ許可ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ告知スベシ

第二條　左ノ場合ニ於テハ其都度所轄戶長役場又ハ區役所ヲ經由シテ道廳長官ニ屆出ベシ

一　管內ニ於テ開業地又ハ所在地ヲ變シタルトキ

二　管內ニ於テ出張所ヲ設ケ又ハ廢止シタルトキ

三　管外ニ轉住スルトキ

第三條　獸醫又ハ獸醫工ハ左ノ書式ニ從ヒ開業ノ屆出ヲ爲ベシ

長さ四尺

寸六厘　獸醫業治療所（又ハ獸醫工治療所）

寸六厘　獸醫業出張所（又ハ獸醫工業出張所）

長さ四尺

第四條　開業獸醫ハ處方箋ヲ置キ置キ而シテ其ノ管理者ノ住所姓名年齡年月日ヲ記シ少ナクトモ五年間保存スベシ

開業獸醫ハ處方箋ヲ保存セシメタルトキハ之ヲ保存スベシ

第五條　開業獸醫ハ獸醫及公設ノ施術料獸醫工ハ公設ノ獸醫料及他業務ニ關シ料金ヲ定メ公示スベシ

○明治三十三年十二月二日勅令第六十六號

獸醫工假免狀手數料則左ノ通相定ム

獸醫工假免狀手數料則

獸醫工假免狀ヲ得ントスル者ハ左ノ書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ所轄戶長役場ヲ經テ本廳ニ差出スベシ

書式（用紙美濃紙）

獸醫工假免狀手數料

獸醫工假免狀ヲ得ントスル者ハ左ノ書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ（戶長役場）ヲ經由シテ當廳ニ差出スベシ

年　月　日　　戶長　氏　名印

北海道廳長官宛

○明治三十二年十二月十六日勅令第六十二號（支廳區役所宛）

明治三十九年（三月）法律第六十號歐疫豚防疫第十條ニ依リ勅令ヲ以テスルトキハ支廳長區長ニ於テ之ヲ指定スベシ

年　月　日　　警察署長、警察分署長、區長、氏　名
　　戶長
北海道廳長官宛

○明治三十二年十二月二十日勅令第百十六號

歐疫假免狀手續細則左ノ通定ム

歐疫假免狀手續細則

歐疫假免狀ヲ得ントスル者ハ左ノ書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ（支廳又ハ區役所）ヲ經由シテ當廳ニ差出スベシ

書式（用紙美濃紙）

歐疫假免狀下付願

住所（寄留ナレハ本籍ヲ併記スベシ）

族稱

氏　名

年月日

私儀何郡（區）何町（大字）（村）何番地ニ於テ歐疫假免狀下付ノ上度別紙履歷書相添此段願候也

年　月　日　　右　氏　名印

戶長　氏　名印

農商務大臣宛

○明治三十二年十二月二十日勅令第八十三號（支廳區役所宛）

歐疫假免狀下付願ヲ受クタル支廳區役所ハ其業業年度ヲ取調本人ノ願書ヲ添ヘ戶長內牛馬ノ頭數及證見書ヲ添ヘ意見具申スベシ

相添此段願候也

年　月　日　　右　氏　名印

戶長　氏　名印

農商務大臣宛

○明治三十二年十二月二十日勅令第百十六號

歐疫假免狀手續細則左ノ通定ム

歐疫假免狀手續細則

歐疫假免狀ヲ得ントスル者ハ左ノ書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ（支廳又ハ區役所）ヲ經由シテ當廳ニ差出スベシ

書式（用紙美濃紙）

歐疫假免狀下付願

住所（寄留ナレハ本籍ヲ併記スベシ）

族稱

氏　名

年月日

私儀何郡（區）何町（大字）（村）何番地ニ於テ歐疫假免狀下付ノ上度別紙履歷書相添此段願候也

年　月　日　　右　氏　名印

戶長　氏　名印

農商務大臣宛

○明治三十五年一月二十日勅令第四十號（廢止）

北海道種畜場規則

北海道種畜場規則

第一條　本規則ニ於テハ北海道種畜場ト稱ス

北海道地方農業ヲ改良スル種畜場ヲ謂フ

第二條　北海道種畜場ハ一箇所ニ限リ設置ス但シ分場ヲ置クコトアルベシ

第三條　北海道種畜場ハ適當ノ牧畜ヲ實施シ方牧畜ノ改良進歩ヲ圖ルヲ以テ之ヲ管轄シ及ビ種畜ヲ付ス行フ

第四條　北海道種畜場ハ左ノ業務ヲ行フコトヲ

一　牧畜ノ管理及ビ飼養方法ノ改良

第五條　北海道種畜場ハ農商務大臣ノ指定シタル事項ニ付キ調査又ハ試驗ヲ爲スコトヲ要ス

第六條　北海道種畜場ハ毎年四月限リ之ヲ北海道廳長官ニ報告スルコトヲ要ス

○明治三十五年一月二十日勅第四十號（廢止）

種畜場規則

北海道種畜場規則

第一條　北海道種畜場ハ左ノ業務ヲ行フ

一　牧畜ノ改良及ビ種畜ノ管理

二　種畜ノ生産及ビ配布

三　牧畜ノ改良ニ關スル事

第二條　北海道種畜場ハ道廳長官ノ指揮ニ從ヒ其業務ヲ處理ス

第三條　北海道種畜場ハ其業務ノ狀況ヲ毎年道廳長官ニ報告ス

第四條　場長ハ道廳長官ノ指揮ニ從ヒ其業務ヲ處理ス

第五條　左ノ事項ハ場長ニ限リ處分スルコトヲ得

一　種畜ノ生産ノ方法ノ決定

二　種畜ノ配布ノ方法ノ決定

三　公文書ノ發送ノ方法

四　制規法例ノ手續ヲ設ケスシテ公用シタル讓渡ノ方

五　開墾何町歩ノ讓渡ノ方

六　制規規定ノ何ヲ又ハ或何ノ事ヲ行ヒ或ハ或何ノ事ヲ行ハシメ北海道廳所轄官吏公衆ヲ人員ニ出張ノ方

七　公設ノ場所ニ於テ公衆ヲ人員ニ出張ノ方

八　種畜ノ讓渡ノ方

九　見積ノ金額ノ決定ノ方

十　見積ノ金額ノ決定ノ方

十一　牛馬及ビ其他ノ家畜ノ生産ノ方

十一　見積假格一口金百圓未滿ノ不用物品處分ノ事

十二　雇員以下管内出張ノ事

第六條　明治三十年(十二月)北海道廳訓第二百七・十號及訓第二百八十號ハ廢止ス

○明治三十五年二月十九日訓令第十二號（支廳區役所町村役場戸長役場宛）

左ノ事項ニ關スル願伺届其他ノ書類ハ北海道廳種畜場ニ送付スヘシ

但明治三十年(十二月)北海道廳訓令第六十一號ハ廢止ス

職別		
一　技手及書記	月額金三十圓	種馬出張交尾及森林事業ノ出張
二　技術員	月俸十五圓及日給五十錢以上	同　金二十一圓
三　同	月俸十五圓及日給五十錢以下及雇員	同　金十八圓
四　定夫		同　金十五圓

第三條　定夫種畜場所在附屬地ニ於テ一里以外ニ渉リ放牧牛馬ノ看守實却石材及木材ノ檢査或ハ營林等ノ如キ事業ニ從事シ連日出務時間外ニ及フ時ハ一日ニ付金五錢ノ雜當料ヲ支給スルコトアルヘシ

但場長ニ於テ必要ト認メタルトキハ一日金十錢以下ノ手當ヲ支給スルコトヲ得此場合ニ於テハ雜當料ヲ給セス

何レノ用務タルヲ問ハス夜間十二時過ニ渉ル勤務ヲ命シタルトキハ一夜ニ付金五錢ノ雜當料ヲ支給スルコトアルヘシ

第四條　本規程ニ明文ナキ旅費及本規程ニ定メタル旅費ノ支給方法ハ凡テ地方費旅費規則ニ依ル

○明治三十五年四月十日訓令第五十號（種畜場宛）

各出張交尾場ニ於ケル交尾料徴收ノ爲メ出納吏ヲ派遣ノ必要アルトキハ種畜場長ニ於テ之ヲ命解シ其時時届出ヘシ

○明治三十五年七月二十三日訓第七百四十號（支廳種畜場宛）

種畜場長ハ其場收入ノ徴收並滯納處分ヲ爲スヘキ地ノ支廳長ニ囑託スルコトヲ得

○明治三十五年四月五日廳令第五十一號

北海道廳種畜場ニ牛馬血統證明書ノ下付又ハ其書換ヲ願フ者ハ左ノ證明料ヲ納ムヘシ

一　血統證明書一通ニ付金五十錢

一　種畜貸付及之ニ屬スル總テノ事項

一　種畜交尾及拂下ニ關スル事項

○明治三十六年二月二十六日訓第百八十八號（內務部殖民部種畜場宛）

種畜場特別給與規程左ノ通リ定ム

第一條　本規程ニ於テハ種畜場ノ事業ニ關スル用務ニ關シ特別給與ノ例ヲ定ム

第二條　種馬出張交尾及森林事業並放牧馬監督ノ出張ニ對シテハ左表ノ區別ニ依リ月額旅費ヲ支給ス

放牧馬監督ノ出張	月額金十八圓	
同	金十五圓	
同	金十三圓	
同	金十　圓	

二　同書籍一通ニ付金二十五錢

産業組合

同業組合

○明治三十一年七月十日廳令第四十三號

同業組合例則左ノ通リ定ム

但明治十八年(一月)函館甲第一號布達同十七年(十二月)札幌縣甲第八十一號同十八年甲第四十五號布達同十八年(三月)根室縣甲第八號布達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

同業組合例則

第一條　農商工業者ニシテ其業務ヲ同ジクスルモノ又ハ之レト聯接ノ利害ヲ要スル營業者ニ於テ組合ヲ結ヒ營業上ノ福利ヲ增進シ弊害ヲ矯正セントスルトキハ適宜地區ヲ定メ其地區內同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ定メ當廳ノ認可ヲ請フヘシ（三十年八月廳令第四十九號ヲ以テ改正）

第二條　組合組織ハ成ルヘク同業者ヨリ成立セシムヘシト雖モ地方ノ狀況及便宜ニ依リ特ニ關係ヲ有スル營業者ニ限リ合併組合ヲ設クルコトヲ得

第三條　同業申合規約ハ左ノ數項ヲ揭クヘシ

第一項　業名及組合ノ名稱

第二項　組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項　目的及方法

第四項　役員選擧法及權限

第五項　會議ニ關スル規程

第六項　營業取引ニ關スル規程

第七項　加入退去ニ關スル規程

第八項　費用徴收及賦課法

第九項　違約者處分

右ノ外組合ニ於テ必要ト認ムル事項

第四條　組合ハ各自營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的トスヘシ

第五條　同業組合員ハ組合ノ資格ヲ以テ營利ノ事業ヲ爲スコトヲ得（三十年五月廳令第三十四號ヲ以テ削除）

第六條　同業組合ハ其事跡及收支決算表ヲ毎年郡區役所ヲ經テ當廳ヘ報告スヘシ

第七條　同業組合ハ業體又ハ事務上一切ニ付組合ノ資格ヲ以テ當廳ノ諮問ニ對シ答辯スルノ責メアルモノトス

第八條　組合規約ヲ改正セントスルトキハ原條文ヲ墨書シ改正條文ヲ朱記シ之レニ改正理由ヲ附記シタル改正案ヲ作リ又組合ノ分立合併ハ更ニ規約ヲ作リ當廳ノ許可ヲ請フヘシ（三十年九月廳令第五十一號ヲ以テ改正）

第九條　同業組合ニ於テ各地區內聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作リタルトキハ當廳ヘ申出テ認可ヲ請フヘシ

第十條　附則

函館札幌根室三縣布達同業組合準則及商業組合例則ニ據リ已ニ組合ヲ結ヒ營業セルモノハ更ニ其規約ノ認可ヲ請フニ及ハス今後規約ノ改正等ヲ爲サントスルトキハ本則ニ據リ當廳ノ認可ヲ請フヘシ

○明治二十八年十月二十一日訓第二百九十八號（郡區役所宛）

明治二十一年(七月)北海道廳令第四十三號同業組合例則ニ依リ同業組合申合規約認可願書ヲ進達スルトキハ左ノ各項取調具申スヘシ

一　組合地區內ニ於ケル同業者ノ總數

二　生產物ノ平均一箇年製產高價格及販路

三　最近一箇年間生產物ノ生產、輸出並販賣ノ狀況

四　新規生產品ニ付テハ生產輸出並販賣ニ關スル將來ノ見込

五　組合設定ノ利害得失ニ關スル意見

○明治三十三年三月廳令第三十二號

明治三十三年三月法律第三十五號重要物產同業組合法及同年(三月)農商務省令第七號重要物產同業組合法施行規則ニ依ル組合發起認可申請ニ關スル手續左ノ通定ム

第一條　重要物產同業組合發起認可手續

重要物產同業組合法施行規則第三條ニ依リ組合發起ノ認可ヲ北海道廳長官ニ申請スルトキハ左ノ事項調書ヲ添付スヘシ（三十六年二月廳令第二十三號ヲ以テ左ノ各項改正追加）

一　組合ノ豫定地區

二　組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類

三　同業者ノ員數但營業毎ニ區別スルヲ要ス

四　豫定地區內ニ於ケル物產ノ最近五ヶ年間ノ年ノ生產、製造又ハ販賣ノ數量並價額及重ナル販路、其各地ヘ仕向ケタル數量並價格

五　組合設置ヲ必要トスル理由若シ現ニ任意又ハ同業組合例則ニ依ル組合アルトキハ其組合ノ狀況並之ニ依ルコトヲ得サル理由ヲ附記スルヲ要ス

六　組合ノ目的及業務ノ概目

七　現ニ營業上ノ弊害アルモノニ在テハ其事實及之ヲ矯正スヘキ方法順序

八　營業者ノ檢査ヲ行ハントスルモノニ在テハ其檢査ノ方法順序

九　創立費及經費ノ概算並收入ノ財源

十　發起人各自ノ履歷書

第二條　同業組合聯合會設置認可申請書ヲ農商務大臣ニ提出スルトキハ聯合會ノ定款、聯合會創立總會議事錄謄本ヲ北海道廳長官ニ差出スヘシ

第三條　此手續ニ依リ提出スル書類ハ組合若クハ聯合會ヲ設置スヘキ地ヲ管轄スル戶長役場及支廳又ハ郡役所ヲ經由スヘシ

○明治三十三年四月二十七日訓第二百四十八號（支廳郡役所宛）

明治三十三年四月ノ北海道廳令第三十二號重要物產同業組合發起認可手續ニ依リ同業組合發起認可申請書又ハ同業組合聯合會設置認可申請書ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ尙左記ノ意見ヲ付シ進達スヘシ

一　地方經濟上議物產ノ重要ノ程度及ヒ組合又ハ組合聯合會設置ヲ必要トスル理由

二　發起人タルヘキ者ノ營業ノ種類及其重ナルモノノ同業者間ニ於ケル地位、經歷並ニ性行（三十六年二月訓第百四十三號ヲ以テ本項追加）

○明治三十五年八月九日廳令第百九號

重要物產同業組合法ニ依リ組合ヲ設置申請スル場合ニ於テハ議申請書ニ添附スヘキ書類中具備ヲ要スル事項左ノ如シ

第一條　組合設置認可申請書ニ添附スヘキ書類中法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書類ニハ組合員タルヘキ者ノ總數並ニ同意ヲ表示シタル者ノ數ヲ記載シ當議行政廳ノ證明ヲ得タルモノヲ添附スヘシ但同意表示書ノ正本ヲ添附スル場合ニ於テハ同意ヲ表示シタル者ノ數ニ付テハ行政廳ノ證明ヲ要ス

前項ノ員數ハ二種以上ノ營業者相集リ設置スヘキ組合ニ付テハ各種營業毎ニ之ヲ區別スヘシ

同意ヲ表示セサリシ者ノ數及ヒ其事由ヲ記載スヘシ

第二條　創立總會ノ承認ヲ經タル創立費及ヒ其價却ノ方法ハ之ヲ其會ノ決議錄中ニ記載スルヲ要ス

第三條　創立總會ニ於テ議決シタル定款ノ規定ニ從ヒ其會ニ於テ役員ヲ選擧シタルトキハ其顚末ヲ決議錄中ニ記載スヘシ其組合ノ設置後ニ於テ選擧スルモノニ在テハ初期ノ役員ヲ選擧スルニ付其選擧ヲ管理スヘキ者若ハ其管理者ヲ定ムヘキ方法又ハ第一回ノ總會招集者ヲ定款中ニ附則トシテ規定シ置クコトヲ要ス

❸酒造組合

○明治三十二年八月二十二日勅令第七十一號

明治三十二年(七月)勅令第三百四十號酒造組合規則ニ依リ酒造組合ヨリ本廳ニ提出スル文書ハ其組合事務所所在町村ヲ管轄スル戸長役場支廳ヲ經由スヘシ

○明治三十二年八月二十二日訓令第四十七號(支廳宛)

明治三十二年(八月)北海道廳令第七十一號ニ依リ酒造組合ヨリ本廳ニ提出スル文書中酒造組合規則第三條ニ適當スル認可申請書ヲ受ケタルトキハ支廳印ヲ押捺シ年月日ヲ記入シテ之ヲ其組合酒類製造者ヲ管轄スル稅務署ニ回送スヘシ

❹産業組合

○明治三十四年十一月三十日勅令第百六十九號

産業組合ヨリ當廳ニ提出スル書類ハ事務所所在ノ町村役場又ハ戸長役場及支廳ヲ經由シ廳ニ在ルモノハ縣役所ヲ經由スヘシ

但左記ノ書類ハ縣本ヲ要ス

一　産業組合設立許可申請ニ要スル定款

二　定款變更認可申請ニ要スル定款

三　事務報告書

○明治三十四年六月二十七日訓第五百六十一號(支廳縣役所宛)

明治三十三年勅令第二百五十五號ニ依リ設立スル産業組合ニ關スル施行規程令般內務省令第十三號ヲ以テ發布相成候ニ付テハ左ノ各項ニ依リ取扱フヘシ

右訓令ス

一　勞務ヲ以テ出資ノ目約トナシタル場合ト雖各組合員ノ出資ハ均一ニ之ヲ定メシムヘシ

二　第二回以後ニ於ケル出資ノ拂込ハ可成農產物收穫後ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

但シ勞務ノ出資ハ此ノ限ニ在ラス

三　持分ニ對スル剩餘金分配ノ率ハ年七分ヲ超エサル範圍內ニ於テ之レヲ認可スヘシ

四　無限責任ノ組合ノ區域ハ可成廣大ナラサルヲ必要トスルヲ以テ一町村其內ヲ一區域ト爲サシムヘシ

但シ他町村ニ渉ルノ必要アルトキハ最モ密著ノ關係ヲ有スル部落ニ限ルモノトス

五　組合員ノ數ハ強テ之ヲ限定スルヲ得スト雖モ無限責任ノ組合ハ可成多數ナラサルヲ必要トスルヲ以テ凡ソ百名ヲ超ヘサラシムル樣注意セシムヘシ

六　組合員タルノ資格ハ其組合區域內ニ所テ三年以來三町歩以上ノ土地ヲ所有又ハ占有シテ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニ限ルヘシ

一　重罪又ハ信用、財產ニ關スル輕罪ヲ犯シタル者

但シ重罪中國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限リニ在ラス

二　破產又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ未タ復權セサル者又ハ爲代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者

三　禁治產者準禁治產者

七　組合ノ保管スル金錢ハ常ニ總可總會ノ承認ヲ經タル銀行又ハ一箇人ニ預ケ入置カシムヘシ

八　組合事業ノ狀況ハ每年調査シ組合報告書ヲ添ヒ組合事業年度終了後二箇月以內ニ報告スヘシ

○明治三十六年一月二十八日告示第七十二號

産業組合法施行規則第七條及明治三十四年(五月)內務省令第十三號第十二條ニ依リ組合ヨリ差出スヘキ書類ハ左ノ樣式ニ準據スヘシ

(一)財產目錄樣式(例信用組合、其他ノ組合ハ之ニ準ス)

拂込未濟出資金	何圓
貸付金(日數)	何圓
預金(定期當座ニ分チ且各口、金額預先ヲ明記スヘシ)	何圓
證券(種類地方債證券等ニ區別シ各金額ヲ明記スヘシ)	何圓
地所(所在及坪數)	何圓
什器(何點)	何圓
何何	何圓
金銀	何圓
貯金(口數)	何圓
借入金(各口ニ分チ貸主及金額ヲ明記スヘシ)	何圓
借入金(例信用組合、其他ノ組合ハ之ニ準ス)	何圓

(二)貸借對照表樣式(例信用組合、其他ノ組合ハ之ニ準ス)

貸方		借方	
拂込未濟出資金	何圓	出資金	何圓
貸付金	何圓	貯金	何圓
何證券	何圓	借入金	何圓
地所	何圓	準備金	何圓
建物	何圓	特別積立金	何圓
什器	何圓		何圓
何何	何圓	本年度剩餘金	何圓
合計	何圓	合計	何圓

(三)事業報告書(例信用組合、其他ノ組合ハ之ニ準ス)

一　組合員ノ數及出資口數ノ異動

組合員數	本年度加入	何人	本年度脫退	何人	本年度末現在 何人
出資口數		何口		何口	何口

二　出資拂込ノ總額及剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其總額

前年度ヨリ繰越高	何圓	各自拂込	何圓	剩餘金ヨリ拂込	何圓
本年度拂込高	何圓		何圓		何圓
合計	何圓		何圓		何圓

(注意)「剩餘金ヨリ拂込」欄ノ記載ニ付テハ準備金及各種ノ積立金ノ項ノ「注意」ヲ參照スヘシ

三　借入金及其償還

前年度ヨリ繰越高	何圓	本年度借入高	何圓	本年度償還高	何圓
				本年度末現在	何圓

本欄ニハ借入先及利子歩合等ノ付記スルモ可ナリ

四　準備金及各種ノ積立金

準備金	何圓	前年度ヨリ繰越高	何圓	本年度積立高	何圓
特別積立金	何圓		何圓		何圓
何何積立金	何圓		何圓		何圓
合計	何圓		何圓		何圓

(注意)「本年度積立高」欄ニハ本年度剩餘金處分案ニ依リ積立ツヘキ金額ハ之ヲ算入セス前年度剩餘金ヨリ積立タル金額ヲ算入スヘシ例ヘハ三十五年度事業報告書ニ於テハ同年度ノ剩餘金處分案ニ依リ積立ツヘキ金額ハ「本年度積立高」中ニ算入セス之ヲ三十六年度事業報告書ノ「本年度積立高」中ニ算入スヘキ分ハ前年度剩餘金處分案ヨリ積立ツヘキ金額ト加入金等ノ如ク當然準備金等中ニ繰入ルヘキ本年度ノ金額トノ和ナリ

五　總會ノ決議

總會ノ種類、開會ノ時期、決議ノ要領等ヲ記スヘシ

(注意)本事業報告書ノ承認ヲ爲スヘキ總會ニ於ケル事項ハ翌年度ノ事業報告書中ニ記載スヘシ

六　事業ノ狀況

貸付貯金取扱ノ繁閑貸金需給ノ狀況其他組合ノ事業經營ニ關スル事項ニ付テ記載スヘシ

七　貸付シ又ハ償還ヲ受ケタル金額、受入又ハ拂戾シタル貯金額及貯金等ニ付金ノ利率

貸付金	前年度ヨリ繰越高	何圓	本年度貸付高	何圓	本年度償還高 何圓
					本年度末現在 何圓

本欄ニハ貸付ノ目的擔保ノ種類等ヲ付記スルモ可ナリ

貯金	前年度ヨリ繰越高	何圓	本年度受入高	何圓	本年度拂戾高 何圓
					本年度末現在 何圓

利率年何割又ハ日歩何錢年何分又ハ日歩何錢

本欄ニハ利率數種アレハ之ヲ記入スヘシ

八　組合員ノ職業別ノ數及出資口數

本年度末組合員數	農業	何人
	工業	何人
	商業	何人
	何業	何人
	合計	何人
本年度末出資口數	農業	何口
	工業	何口
	商業	何口
	何業	何口
	合計	何口

九　保證責任組合ニ在リテハ保證金額本欄ニハ各組合員ノ保證標準又ハ金額ヲ附記スルモ可ナリ

十　處務ノ要件

官廳ヘノ申請、報告、届出、官廳ノ檢査、命令、登記ノ件件其他重要ナル事項ヲ列記スヘシ

(四)剩餘金處分案樣式

一金何圓	本年度經費		
一金何圓	本年度總損金		
差引			
一金何圓	本年度剩餘金		
一金何圓	前年度ヨリ繰越金		
合計金何圓			
此處分	剩餘金ノ何分ノ一ニ對シ年何分ノ割	一金何圓	準備金
		一金何圓	配當金又ハ分配金

一金何圓　特別積立金
一金何圓　何何

●展覽

●陳列場

○明治二十一年九月二十一日告示第六十八號
北海道物産陳列場規則左ノ通リ相定ム但シ開場日限ハ追テ告示ス（二十六年二月告示第五號ヲ以テ本文本則中改正）

北海道物産陳列場規則

第一章　總則

第一條　本場ハ天産人工ヲ問ハス當道産出スル所ノ物品（但水産ノ部ヲ除ク）及各殖事業ノ參考トナルヘキモノヲ廣ク蒐集出陳シ洽ク公衆ノ縱覽ニ供シ各業ノ進歩ヲ謀ルヲ以テ要旨トス（二十六年二月告示第五號ヲ以テ本條中改正）

第二條　本場ハ石狩國札幌區字中島遊園地内ニ設置シ内務部ノ管理ニ屬ス

第三條　本場ノ陳列品ハ現品若クハ模型雛形圖面其他説明書等ヲ以テ示スヘシ

第四條　本場ノ列品ハ通常寄託ノ二種ニ區別ス通常列品ハ本場ニ於テ蒐集或ハ購入セルモノト有志者ノ寄付セルモノトヲ以テ之ニ充テ寄託品ハ營業者ノ出願ニヨリ出品セシムルモノトス

第五條　寄贈及寄託出品ハ農商工業ニ關シ裨益アルモノハ出品ヲ許スト雖トモ物品ノ性質又ハ場内陳列ノ都合ニ依リ拒絶スルコトアルヘシ但出品運搬費ハ出品人ノ自辨トス（二十六年二月告示第五號ヲ以テ改正）

第二章　寄託出品規定

第六條　物品ヲ寄託出品セント欲スル者ハ左ノ書式ニ據リ内務部ヘ申出指揮ヲ受ケ現品ヲ送送スヘシ

但特ニ出品物ニ説明書ヲ添附セントスルモノハ之ヲ現品ト共ニ差出スヘシ

出品人職業住所　氏　名

一　品名
一　數量
一　價格
一　産地又ハ製造地
一　説明（例ヘハ一季又ハ一箇年收穫及製造額　培養製造採收進度等其ノ方法ヲ詳記スヘシ）

右出品仕度候也

年　月　日　　何　某印

北海道廳内務部宛

第七條　出品收納ノ上ハ領收證書ヲ交付ス若シ其運搬中損傷等アルトキハ其旨ヲ記載交付スヘシ

第八條　寄託出品期限ハ一箇年以内トス但物品ノ性質ニ依リテハ本條ノ期限ニ拘ハラス特ニ繼續出品ヲ許スコトアルヘシ（二十六年二月告示第五號ヲ以テ但書共改正）

第九條　期限ニ至リ寄託出品物ヲ差替ヘ又ハ下戻ヲ請求セントスルモノハ第七條ノ領收證書ヲ添ヘ其旨内務部ヘ申出ヘシ（同上）

第十條　寄託品ハ本場ニ於テ相當ノ保護ヲナスト雖モ盜難火水風震其他ノ事故ニ因リ破損紛失スルトキハ本場其責ニ任セサルヘシ

第十一條　左ニ掲クルモノハ出品スルヲ許サス

一　發火及破裂ノ性アルモノ
一　他ノ出品ニ損害ヲ與フルノ虞アルモノ
一　衛生ニ害アルモノ其他汚穢醜體ノモノ
一　重複品又ハ本場ニ於テ不用ト認ムルモノ

第三章　縱覽規程

第十二條　本場ハ毎年四月十五日ヨリ十一月十五日迄縱覽ヲ許ス

但等金曜日ハ開場セス

第十三條　縱覽時間（自四月十五日至五月三十一日）午前九時ヨリ午後四時マテ（自六月一日至八月三十一日）午前八時ヨリ午後五時マテ（自九月一日至十一月十五日）午前九時ヨリ午後四時マテトス

第十四條　縱覽人ハ入場ノ際門衛ヨリ入場券ヲ受取出場ノトキ之ヲ返付スヘシ

第十五條　無賃或ハ自痛醒醉者ト認ムルトキハ入場ヲ禁シ又ハ退場セシムヘシ

第十六條　縱覽人ハ掛員ノ指揮ニ從フヘシ

第十七條　縱覽人ハ掛員ノ承諾ヲ經スシテ物品ニ觸ルルヲ許サス若シ誤テ物品ヲ毀損破損セシムルトキハ其損害ヲ辨償セシムヘシ

第十八條　館内ニ於テ喫煙ヲ禁ス

第十九條　館内ニ犬ヲ牽入ルヲ許サス

●共進會

○明治二十六年十月十三日調令第三十四號ノ郡區役所戸長役場宛
共進會其他之ニ類似ノ會ニシテ褒賞ヲ附與スルモノヲ開設シタルトキハ開會後十日限リ左ノ書式ニ準シ報告スヘシ。

（書式）

明治何年何會報告書

會場地名　國郡區町村名
會名　何何共進會物産會展覽會品評會ト記スヘシ

會主　何何協會何某
開場　何月何日
褒賞授與式　何月何日
閉場　何月何日
出品區域　何郡何區何町村聯合
出品人員　何人
出品總數　若干
出品總價　何圓錢
出品種類　農産水産或ハ工藝品等其種類成ヘク詳細ニ記スヘシ
出品實數　若干
出品實價總額　何圓錢
褒賞總人員　何人
褒賞等級別　一等何人二等何人三等何人褒狀何人協賛賞
褒賞賞與物件　杯或ハ牌或ハ何物品或ハ金圓（譬ハハ一等何物品或ハ金何圓二等何何）等成ヘク詳細ニ記スヘシ
來觀人員　何人
通券收額　何錢（日曜日平日等ノ區別アルハ各別ニ記スヘシ）
合賣總額　何圓錢
合賣區別　何百圓（通券料何圓醵金何圓褒捐金何圓等）其成立詳細記載スヘシ

本會景況云云
（譬ハハ特殊發見ノ鑛物或ハ有用動植物ノ近來生殖セル者或ハ工藝品ノ著シク改良進歩セシ者或ハ從來其地ニナクシテ新ニ製作移植セシモノ或ハ輸入品ニ代用スヘキモノ或ハ將來輸出ノ目的アルモノ或ハ近年輸出ノ緒ニ就キシモノ等都テ農産物水産物工藝品ニ關シ會場ノ景況ハ勿論後來ニ希圖スル意見及一般人民ノ意思傾向等成ヘク詳密ニ記載シ且過年開設ノモノハ前年比較ヲ掲ケ亦其損益及保續ノ目的等ヲ記載スヘシ）

右報告候也

明治何年　月　日　　何郡區長名

北海道廳長官宛

●氣象

●測候所

○明治三十四年六月十七日調第五百二十八號（測候所宛）
明治三十一年（三月）調第八十九號北海道廳測候所規程左ノ通改正ス

北海道廳測候所規程

第一條　測候所ハ明治三十一年三月文部省令第八號氣象臺測候所條例施行細則ニ依リ其規定スル所ノ事務ヲ行フ所トス

第二條　測候所ノ等級名稱及所在地ハ左ノ如シ

一等測候所

札幌一等測候所　經度百四十一度二十二分　緯度四十三度〇四分　石狩國札幌區字本町裏
函館一等測候所　經度百四十度四十四分　緯度四十一度四十六分　渡島國函館區高砂町
根室一等測候所　經度百四十五度三十五分　緯度四十三度二十分　根室國根室郡花咲町

二等測候所

深郡二等測候所　經度百四十度十三分　緯度四十二度四十八分　後志國上川二等測候所　經度百四十二度二十三分　緯度四十五分　石狩國上川郡旭川町
釧路二等測候所　經度百四十四度十四分　緯度四十三度二十三分　釧路國川上郡熊牛村字標茶
網走二等測候所　經度百四十四度十四分　緯度四十四度〇二分　北見國網走郡網走字ニクル
十勝二等測候所　經度百四十三度十二分　緯度四十二度五十五分　十勝國河西郡下帯廣村

第三條　測候所ハ本廳ニ左ノ報告ヲ爲スヘシ

氣象月報　翌月七日以内
氣象年報　翌年一月以内
一周年事務報告　翌年一月以内
動物季節報告　翌年一月以内
植物季節報告　翌年一月以内
天氣豫報適否報告　翌月十日以内
暴風警報適否報告　翌月十日以内
臨時氣象報告　發現ノ都度
備付器械ノ異動報告　起リタル都度

第四條　測候所ニ於テ公私ノ依頼ニ應シ通報スル天氣豫報暴風警報ハ左ノ事項ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

一　通報料ハ其日數ニ對シ必要ナル額ヲ郵券ヲ以テ豫メ差出サシムル事
二　通報日數ノ二箇月以上ニ渉ルモノニ對シテハ其通報料ハ二回乃至數回ニ差出サシムル事
三　通報ニ關スル報酬ヲ備ヘ置キ通報簡所又通報料ノ收支清算ヲナス事
四　通報ノ結了シタル後通報簡所閉鎖及通報料ノ收支ヲ本廳ヘ報告スル事

第五條　測候所職員配置左ノ如シ

一等測候所

所長　一名
技師　一名
技手　三名
書記　一名

但札幌一等測候所ニ限リ技手二名ヲ增置スルコトヲ得

二等測候所

所長　一名
技手　一名
書記　一名

第六條　所長ハ所員ヲ指揮監督シ事務整理ノ責ニ任ス

第七條　所長ハ別ニ命令若クハ規程アルモノノ外左ノ事項ヲ專行スルコトヲ得

一　小使ヲ進退スル事
二　臨時人夫ヲ使用スル事

第八條　技師及技手ハ命ヲ所長ニ承ケ氣象觀測及製表ニ從事スヘシ

第九條　書記ハ命ヲ所長ニ承ケ庶務竝ニ物品會計ノ事務ニ從事スヘシ

○明治三十二年十月十四日訓第五百九十七號（宛名略ス）

氣象觀測規則別冊ノ通リ相定ム

但明治二十六年（十月）訓第二百九十五號雨雪觀測ノ件廢止ス又氣象觀測規則ハ別ニ之ヲ頒ツ（別冊）

氣象觀測規則

第一條　氣象觀測所ハ氣象觀測法ニ據リ所在地ノ氣象觀測ヲ施行スル所トス

第二條　氣象觀測所ハ左ニ掲クル支廳及戶長役場トス（本則發令以來觀測所位置及名稱ノ變更等アリ今一一之ヲ詳記スルヲ略シ三十六年三月末日現在ノモノヲ掲ク）

七飯村役場　大野村役場
木古内村役場　知内外一村戶長役場
森村役場　白尻外一村戶長役場
鹿部村戶長役場　八雲村役場
長萬部村戶長役場　福島村役場
江良町外二村戶長役場　熊石村役場
乙部村役場　鈎懸外三村戶長役場
久遠村役場　瀬棚村役場
太櫻外三村戶長役場　黑松内村戶長役場
利別村戶長役場　磯谷村役場
永豐外三村戶長役場　岩内支廳
神恵内外二村戶長役場　磯谷外一村戶長役場
小樽支廳　古平町役場
大江村役場　野塚外七村戶長役場
美國町役場　當別村役場
江別外二村戶長役場　濱益村黃金村組合役場
厚田村望來村組合役場　空知支廳
千歲外三村戶長役場　由仁村役場
瀧川村戶長役場　留萬村三笠村組合役場
月形村戶長役場　燒尻村戶長役場
菅前村役場　技幸外三村戶長役場
宗谷支廳　船泊村役場
鬼脇村役場　伊達村役場
香深村役場　苫小牧村役場
蛯田村辨邊村組合役場　門別外八村戶長役場
白老外二村戶長役場　鵡布外五村戶長役場
下下方外七村戶長役場　鳥取村戶長役場
霞寄村戶長役場　白糠外六村戶長役場
大津外三村戶長役場　霧多布外五村戶長役場
香幸外三村戶長役場　別海外四村戶長役場
太田村戶長役場　美幌外五村戶長役場
標津外五村戶長役場　當別外四村戶長役場
紋別外四村戶長役場　清里外四村戶長役場
紋別外三村戶長役場　清外二村戶長役場
紋別外一村戶長役場　留別外四村戶長役場
紋別外四村戶長役場

第三條　氣象觀測所ハ最寄測候所ヲ經テ左ノ定期報告ヲ爲スヘシ三十四年十二月訓第千二十八號ヲ以テ本條中改正

氣象月報　翌月十日限リ
動物季節報告　翌年一月三十一日限リ
植物季節報告　翌年一月三十一日限リ

第四條　氣象觀測所ハ左ノ場合ニ於テハ當廳ニ臨時報告ヲ爲スヘシ但痛害災害其著シキモノハ特ニ電報スヘシ

一　雷雨
一　暴風雨
一　霜ノ初終日
一　雪ノ初終日
一　地震
一　其他根雪ノ初終日及ビ異狀ノ現象ヲ認メタルトキハ其時狀況等ヲ詳記シ臨時報告スヘシ

第五條　地震報告ノ發震都度中央氣象臺ヘ報告スヘシ但此場合ニハ第四種郵便物トシ家ノ向付ノ證印帶紙ヲ貼用スルモノトス

氣象觀測法

一般ノ注意

一　氣象ノ觀測ハ最モ正確ニシテ缺漏ナク且遲遲ナルヲ要ス故ニ測器其他ノ現象ヲ觀測スル時ハ能ク注意シテ誤謬ナキ樣反覆點檢シ直チニ記帳スヘシ決シテ記憶ニ任セテ記載ヲ怠リ又ハ揣摩臆測ヲ以テ其缺ヲ補フヘカラス

二　定時觀測ハ標準時午前十時午後二時ノ二回トス但雨量計及積雪ノ觀測ハ午前十時一回トス而シテ管內各所同時ニ施行スヘキモノナルヲ以テ時刻ニ遲速ナキ樣注意シ且電信局所在地ニアリテハ常ニ電信局ノ正午報ニ依リテ時計ヲ更正シ電信局ノ設ナキ地ニアリテハ日時計ニヨリ更正スヘシ

三　觀測ノ場所及諸器械ノ排置ハ常ニ一定シテ濫リニ移動スヘカラス

器械ノ裝置

一　寒暖計ハ百葉箱中ニ懸垂スルヲ善シトス然レトモ未タ其設置ナキ所ニ於テハ室外北方ニ面シ常ニ日蔭ニシテ開豁ナル場所ヲ撰ミ地面ヲ距ルコト四尺乃至六尺ノ高サニ之ヲ掛ケ常ニ垂直ナラシムヘシ

最高寒暖計及ヒ最低寒暖計ハ百葉箱內ニ水平ニ横架スヘシ地上ヲ距ル高サハ凡四尺トス但毎日取外シ復基スルヲ以テ之カ取外シニ便ナル樣據付クルヲ要ス

二　雨量計ハ成ヘク樹木又ハ家屋等ノ障碍ナキ四方開豁ナル場所ヲ撰ミ地中ニ穴ヲ穿チ外器ヲ其中央ニ安置シ動搖セサル樣土塊ニテ四周ヲ堅メ外器內ニ潛水器ヲ入レ外器ノ頂部ニ漏斗ヲ挿ミ其緣邊ナシテ水平ナラシメ且常ニ降雨雪外ノ水滴ヲ其中ニ入シメサル樣注意スヘシ又據付タル雨量計ノ周邊ニハ「グロバー」「アルユーグラス」ノ如キ背草ヲ植付ヘシ但時時刈リ去リ餘リ成長セシメサルヲ要ス

雨量計ノ高サハ一尺二寸トス

積雪量ハ特種ニ目盛シタル柱ニ過キス之ヲ平坦ニシテ且積雪集散ノ憂ナキ所ニ建設スヘシ但尺度ノ零尺ヲ地面ト同一ナラシムルヲ要ス

觀測法

一　寒暖計ハ水銀柱ノ頂端ト目ヲ水平ニ置キ一度ノ十分一迄ヲ測ルヘシ其法先ツ一度ヲ目分量ニテ十分シ示度ノ高低ニヨリ何度何分ト算スルナリ例ヘハ水銀ノ高サ十一度ト十二度トノ中央ニアル時ハ之ヲ十一度五分トシ尖ヨリ稍低クキトキハ之ヲ十一度四分トスルカ如シ

最高寒暖計ハ水銀柱ノ頂端最低寒暖計ハ指針ノ頂端ニ相當ノ度ヲ讀ミ取ルヘシ最高溫度ハ正午ヨリ午後三時ノ間ニ現ハレ最低溫度ハ夜半ヨリ午前七時ノ間ニ現ハルルヲ以テ毎日最高ハ午後四時最低ハ午前十時ニ讀ミ取リ記帳シ後該器ヲ取リ外シ輕ク振リテ最高ハ度ヲ下ヶ最低ハ度ヲ上セ置クヘシ

凡ソ觀測シ得タル寒暖計ノ示度ハ之ヲ該器ノ證狀ニ示ス所ノ更正數ニ依リ改算スヘシ

但證狀中ニ負即チ（－）トアルトキハ之ヲ示度ヨリ減シ正即チ（＋）トアルトキハ之ヲ示度ニ加フヘキモノトス

（注意）空氣ノ溫度ハ外氣ノ眞正ナル溫度ヲ計ルヲ以テ主眼トスルカ故ニ其水銀球雨或ハ霧等ノ爲メニ濕潤シタルトキハ之ヲ能ク拭ヒ去リ後凡ソ十分時ヲ過キテ觀測スルヲ要ス

觀測用寒暖計ハ攝氏トス故ニ之カ華氏又ハ攝氏ノ度ニ改算ノ法ヲ記スルコト左ノ如シ

華氏ニ改算スルニハ攝氏ノ度ニ九ヲ乘シ五ニテ除シ三十二度ヲ加フレハ得但攝氏ノ氷點以下ノ時ハ九ヲ乘シ五ニテ除シ之ヲ三十二度ヨリ減スヘシ若シ減スヘキノ數三十二度ヨリ多キトキハ其多キ數カ華氏ノ零度以下ノ溫度トス

列氏ニ改算スルニハ攝氏ノ度ニ四ヲ乘シ五ニテ除スレハ得

二　風向及風力

風ノ方位ヲ測ルニハ風信器ニ依ルカ又ハ屋上ニ風見ヲ設クヘシ

方位ハ北、北東、東、南東、南、南西、西、北西ノ八方位ニ區別シテ觀測スヘシ但磁石ノ傾度既知ノ地方ニ於テハ其差數ヲ加減スヘシ

風力ヲ觀測スルニハ風力計ノ設置ナク肉眼觀測ナラス場合ニ於テハ必ス一定ノ標準ニ依リ類別スルヲ要ス其分類ハ左ノ如シ

無風　烟全ク上昇シ或ハ殆ント直上シ又樹葉ヲ動ササルモノ

軟風　人ナシテ風ノ感覺ヲ起サシムルモノ

和風　樹葉ヲ動カスモノ

疾風　小枝ヲ動カスモノ

強風　動枝ヲ動カスモノ

烈風　大樹ノ幹ヲ動カスモノ

颶風　樹ヲ拔キ屋ヲ發クモノ

但強風烈風颶風ヲ總稱シテ暴風トス

雨量計ヲ觀測スルニハ先ツ潛水器內ノ水ヲ量水器ニ移シ尺度ヲ其中ニ流入シ尺度ノ濕潤シタル部分ヲ以テ雨雪ノ量トス但此場合ニ於テハ量水器ヲ水平ニシ尺度ヲ垂直ナラ

氣象月報様式

シテ取ルヲ要ス其潤ノ部分ヲ検スルニ容リ
テハ八尺度ノ雨量ニ通シテ潤セルヲ以テ
ルハ尺度ヲ他用セントスルトキハ布片ミ
ヲ以テ之ヲ拭ヒ目盛ノ新鮮サ切スベシ
降雨量多ク其外ニ溢出スベシ
降雨時ノ観測ハ雨量器外ニ置クベシ
後ハ流水路内ニ降下セル水量ト共ニ他路ニ移
ハ流水路ヲ移シ後ハ徒ニ之ヲ
雨量計ハ降雨量ノ有無ニ拘ハラス定時ニ
チ水受ニ移シ而シテ前ルヘシ
降雨量ハ其日午前十時迄ノモノヲ以テ其日ノ量トス
翌日午前十時迄ノモノヲ翌二日午前十時迄ノモノヲ以テ一日ノ量トスス例之ハ一月一日午前十時ヨリ翌二日午前十時迄ノモノヲ以テ一月一日ノ量トナス

四　積雪ノ観測

カ如シ

積雪ノ観測ハ初雪以後毎日地上積雪ノ増減ヲ調査スルモノトス故ニ毎日定時ニ観測スベシ

五　天氣ハ左ノ分類ニ依リテ観測スベシ

快晴　雲量二以下
晴　雲量三乃至七
曇　雲量八以上
霧雨　多少ニ拘ハラス降霧アルトキ
霧　多少ニ拘ハラス降霧アルトキ

六　火氣現象ノ火災

一火氣現象中特現セル火氣現象ハ流星、電光、電鳴、電雨、電風、紅光、日光、雲霧、日暈、月光、月暈、冰風、雪風、火山噴煙、火山噴出物、地鳴、地震、流星及隕石等ノ如キ現象ニ

霧　霧ハ四方ヲ四ニ区分シ霧ノ有無ヲ記ス

但霧量ノ多少ハ濃霧ナル字ヲ以テ霧ノ十トシ薄霧ハ此例ニ

明治　年　月氣象表

項目		雲量		暖		計		風向		風力		雲形		氣象		雪初ノ雨		氣象		記事
日	時	前午十時	後午二時	最高	最低	午前十時	午後二時	最(強)深サ(雪)	初	終	前午十時	後午二時	二十四時間							
一	日																			
二	日																			
三	日																			
四	日																			
五	日																			
六	日																			
七	日																			
八	日																			
九	日																			
十	日																			
十一	日																			
十二	日																			
十三	日																			
十四	日																			
十五	日																			
十六	日																			
十七	日																			
十八	日																			
十九	日																			
二十	日																			
二十一	日																			
二十二	日																			
二十三	日																			
二十四	日																			
二十五	日																			
二十六	日																			
二十七	日																			
二十八	日																			
二十九	日																			
三十	日																			
三十一	日																			

平均	穏計	三十一日	三十日	二十九日

（表解摘要）

ハ一ノ表ノ如ク一日中ニ於ケル氷点以下ノ場合ニハ数字ノ上ニ（－）ヲ記スベシ又氷点以下ノ場合ニハ数字ノ上ニ（－）ヲ記スベシ

項ニ於テ讀取リタル前後兩時刻ノ差ナリ
但シ時計無クシテ單ニ推測ニ係ルトキハ特ニ其旨ヲ明記スルヲ要ス

第三項　地震ノ方向　ハ北、北東、東、南東、南、南西、西、北西ノ八方位ニ別チ取ルヘシ而シテ此方向ヲ測ルニハ器中ニ充テタル液體ノ動搖釣ランプハ竝下ク振リノ動キ方或ハ器物ノ倒伏シタル方角ヲ見テ之ヲ知ルヲ得ヘシ又或ルヘク他ノ動搖ニ惑セス且ツ水平ナル場所ニ大小數箇ノ小圓柱ヲ直立セシメ置キ其倒レタル方向ヲ測レハ更ニ善シトス例ヘハ釣ランプ東西ニ動ケハ地動ハ略ホ東西ナルコトヲ知リ圓柱南北ニ倒レタルトキハ略南北ナルコトヲ知ル又家屋竝壁等ニ生シタル龜裂障子ニ注目スルモ其方向ヲ知ルノ一助トナルヘシ

振子時計ノ止リシトキハ其指針ノ示ス時分秒ヲ讀取リ而シテ其時計ハ何レノ方角ニ向ヒ懸ケ置キタルヤ詳細記入スヘシ

第四項　地震ノ強弱　ハ大別シテ微、弱、強、烈ノ四種トス

一　微震トハ靜止セル人若クハ注意セル人ノ感シタル極メテ輕微ナル地震ヲ云フ

一　弱震トハ一般人ニ感スヘキ強サノ地震ニシテ戸、障子ノ動ク音ヲ聞キ釣ランプ掛物及其他垂下物ノ動搖又ハ液體等ノ震動セシヲ目擊シタルモノ若クハ之レニ相當スル震力ヲ有スルモノヲ云フ

一　強震トハ坐リ惡キ器物ノ倒伏、液體ノ溢出、振子時計運動ヲ停止シタル等ノコト有タルモノヨリ石燈、石燈籠ノ顚倒、古キ家屋土藏ノ破損、或ハ粗造ナル障壁煙筒等ニ龜裂ヲ生スルニ至リタルモノ若クハ之ニ相當スル震力ヲ有スルモノヲ云フ

但シ烈震トハ屋宇ヲ倒シ山岳ヲ崩壞スル等地盤ノ大化ヲ呈スルニ至リタルモノヲ云フ

但シ烈震及強震ハ其範圍其ノ廣キヲ故ニ烈震又ハ強震ノ中感覺ノ殊ニ烈キモノハ稍烈或ハ稍強ト記シテ之レヲ區別スルヲ善シトス

地震ノ性質　ハ水平動（即チ前後若クハ左右ニ震動セシモノ）ナリシカ上下動（即チ上下ニ震動セシモノ）ナリシカ上下動ハ且ツ其震動ハ急劇ナリシカ緩慢ナリシカヲ區別シ惑覺シ感覺ニ由テ之ヲ記入スヘシ

若シ地震ノ前後又ハ同時ニ遠近ニ音響ノ聞カハ其音響ハ地震ノ前或ハ後凡ソ何秒時間ニ起リ何秒時間ヲ經テ止ミシカヲ觀察シ且ツ其原因ハ全ク地ノ鳴動セシ音ナルカ或ハ家屋動搖ノ響ナルカ又其音ハ何音ニ似タルカヲ詳記スヘシ

第五項　地震ノ性質　ハ左右ニ震動セシモノ（即チ前後若クハ上下ニ震動セシモノ）ナリシカ上下動（即チ其震動ハ急劇ナリシカ緩慢ナリシカ區別シ惑覺シ感覺ニ由テ之ヲ記入スヘシ

若シ地震ノ前後又ハ同時ニ遠近ニ音響ノ聞カハ其音響ハ地震ノ前或ハ後凡ソ何秒時間ニ起リ何秒時間ヲ經テ止ミシカヲ觀察シ且ツ其原因ハ全ク地ノ鳴動セシ音ナルカ或ハ家屋動搖ノ響ナルカ又其音ハ何音ニ似タルカヲ詳記スヘシ

第六項　雜記綱　ニハ前項ニ掲ケサル稀有ノ現象ヲ記入スヘシ其概目左ノ如シ

一　地震ノ爲ニ移動セシモノアラハ其物體ノ置位置方角及ヒ性質大小ヲ記シ又地震ノ爲メニ移轉シタル新位置方角ヲ記スヘシ又物體高所ヨリ低所ヘ投出サレタル等ノコトアラハ其高サ竝ニ投出サレタル位置距離ヲ測ルヘシ或ルヘク位置等ノ略圖ヲ添ユルヲ善シトス

一　家屋土藏等ノ破損アラハ其何レノ部分カ破損セシカ之ヲ詳細記入スヘシ又壁ニ龜裂ヲ生セハ其廣狹傾斜竝ニ壁ノ性質方向ヲ掲ケ土地ノ龜裂スルコトアラハ其長サ幅及方向ノ記シ水ノ噴出スルコトアラハ其量多少ヲモ記スヘシ

地震ノ起リシ際天氣ノ模樣ヲ認知シ晴雨計竝ニ寒暖計ノ度ヲ記ル ハ驟雨ノコトナリ加之其前後數日間ノ觀測表ヲ添ハ之レニ使用セシ器械ノ種類ヲ擧レハ更ニ善シトス

地震ノ前後ニ於テ注目スヘキ要項アリ近傍ニ火山アラハ其噴動ノ有無溫泉アラハ其溫度ノ昇降ニ注意シ其他泉水井水ノ涸渴增減及天空ノ雲色鳥獸ノ動作等ニモ注意スヘシ

集項ノ其ダシキニ至リタルハ前諸項ノ外尚報告スヘキモノ若干ハ地震ケ水火ヲ噴出シ山岳崩壞シ土地沈陷シ湖沼ヲ生シ川流水路ヲ變スル等ノコトアリ此等ノ場アラハ務メテ明瞭ニ記載スルヲ要ス

前ノ諸項ヲ觀測シタルトキハ其家屋ノ位置其礎ノ種類近傍ノ地形及地質ヲ示シ且ツ震災ニ關リシ土地ノ略圖等ヲ附スレハ最モ神益アルナリ

注意

一　時刻ハ地震觀測中最モ肝要ナルモノナレハ勉メテ確實ナカランコトヲ要ス若シ時刻ニシテ其數誤アルトキハ他ノ場合ニ發シタル地震ト同一地震ナリヤ否ヤハ判別スルコト能ハスシテ調査上ニ大ナル誤リヲ生スヘケレハナリ故ニ報告者ハ時時最寄郵便局又ハ電信局ニ就テ時計ノ照合スルコト必要ナリ

一　地方ニ於テ地震如何ニ微弱ナルモ他ノ地方大震ノ餘波ナルカ未タ知ルヘカラサレハ單ニ時刻ノミ知レタル場合ニテモ必ス報告アランコトヲ望ム

一　地震ノ強弱ハ第四項ノ標準ニ依ルト雖モ其範例多クシテ一一適例ヲ掲ケ難キヲ以テ報告者ニ於テ強弱ヲ定ムルノ標準トセシ現象ハ詳細記事欄內ニ記入スヘシ

一　報告書ニハ必ス地震ノ番號（年內ノ初震ヲ第一號トスル）ヲ首行ニ埋書シ報告者ノ國郡町村竝ニ姓名ヲ記入スヘシ

報告ハ先ツ用紙一枚ニ草稿ヲ書シタルモノヲ報告者ニ於テ保存シ更ニ同一ノモノ二通ヲ淨書シ一ハ中央氣象臺一ハ北海道廳殖民部農商課ヘ報告スルヲ要ス

中央氣象臺ヘ報告スルトキニ限リ第四號郵便物トシ番ヲ封付ノ證印書紙ヲ貼用スルモノトス

○明治三十年六月十日調第百十六號　殖民部測候所宛

氣象觀測見習生ニ關スル規程左ノ通リ相定ム

第一條　氣象觀測見習生ニ關スル規程ハ氣象觀測見習生ニ關スル技術ヲ修ムルモノトス

第二條　氣象觀測見習生ハ高等小學校卒業ノ者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニ限ル

第三條　氣象觀測見習生ハ一箇測候所ハ同時ニ三名以內二等測候所ハ同時ニ二名以內トス

第四條　氣象觀測見習生ノ修業期限ハ測候所長ニ於テ一般ノ技術ニ通曉シタリト認メタル時ヲ以テ終期トシ測候所長名ヲ以テ修業證明書ヲ與フルモノトス

第五條　氣象觀測見習生ノ出願アリタルトキハ測候所長ハ其願書及履歷書ニ意見ヲ附シ殖民部長ノ認許ヲ得テ許否スヘシ

第六條　氣象觀測見習生ニシテ第四條ノ修業期限內ニ見習生ヲ辭セントスルトキハ所長限リ之ヲ許可シ其都度殖民部長ニ報告スヘシ

第七條　氣象觀測見習生修業中ノ費用ハ凡テ自辨トス

報　告

○明治三十二年四月十日調第二百十號　測候所宛

明治三十一年九月上旬ノ洪水ハ未曾有ノ現象ニシテ其被害情狀亦實ニ未曾有ノ事ニ屬スル歟ハ將來得セ斯ノ如キ災害ノ到ラントスルニ當リ氣象上關係之ヲ推測シ國家警戒ノ如ノルヿト必要ニ付別紙ノ通出示後報告相定ノ條件本年ヨリ實施スヘシ

（別紙）

地震報告							
地名	地震ニ感セシ地名ヲ記スヘシ	明治　年第　號					
震動ノ年月日時	年月日時及分秒ヲ記スヘシ（標準時）						
震動ノ時間	震動ノ初ロリ震動ノ終マテノ時及分秒ヲ記スヘシ						
震動ノ方向	北、北東、東、南東、南、南西、西、北西ノ方位ニ分記スヘシ						
震動ノ強弱	微、弱、強、烈ノ四種ニ分記スヘシ						
震動ノ性質	水平動、上下動、聲響ノ有無ヲ記スヘシ						
雜記	前項ニ漏レタルモノヲ記入スヘシ						
報告者住所姓名	國郡市町村	番地					

出水報報心得

第一條　出水報報ハ海岸五月ヨリ十月ニ至ル間北海道殖産局内石狩川十勝川釧路川ニ出水ノ候アルヲ認メタルトキ發スルモノニシテ水害ノ豫報ナリ

第二條　札幌一等測候所ハ第三條ノ認時氣象及現在ノ觀測トヲ以テ降雨量百粍以上ヨリ來ル出水ヘキ出水ヲ豫認シタルトキハ直チニ之ヲ管内各郡長役場ニ電報スル所ノ豫報ヲ認ム

第九類

●水産

●捕魚採藻

○明治三十五年十二月十六日訓令第百三十號（支廳宛）

支廳漁業事務監査規程左ノ通相定ム

支廳漁業事務監査規程

第一條　支廳漁業事務監査ハ別ニ定ムル規定ニ依リ監査スルノ外本規程ニ依リ毎年一回以上之ヲ行フモノトス

第二條　漁業事務監査員ハ本廳ニ之ヲ置ク

第三條　監査ハ左ノ各項ニ就キ施行スルモノトス

一　漁業事務ニ關スル吏員ノ配置分掌

二　漁業ニ關スル出願申請屆出等處分ノ當否及遲速

三　免許又ハ許可漁業失效若ハ制限、停止、取消處分ノ當否及寛嚴

四　漁業ニ關スル帳簿書類圖面等ノ整否

五　免許又ハ許可漁業休業屆出及取締ノ狀況

六　漁場測定ノ適否

七　漁業ニ關スル統計ノ當否

八　漁業ニ關スル定例諸報告ノ當否及遲速

九　前各號ノ外必要ト認ムル事項

第四條　監査員ハ監査ノ結果必要ト認ムル事項ニ對シ支廳主任官吏ニ推問書ヲ發シ答辯書ヲ徵スルコトヲ得

第五條　明治三十二年八月訓令第四十五號第四條ノ規定ハ本規程ニ之ヲ適用ス

第六條　監査員ハ各支廳毎ニ第三條ノ各號ニ對シ監査ノ成績ヲ詳具シ長官ニ復命スヘシ

○明治三十五年七月十日訓第七百十號（支廳宛）

漁業事務取扱手續左ノ通相定ム

漁業事務取扱手續

第一條　農商務大臣又ハ北海道廳長官ヘ進達スヘキ漁業ニ關スル出願申請屆出等ノ書面ハ之ヲ精査シ左ノ事項ニ對シテハ意見ヲ付スヘシ

一　願書記載事項及漁場區域ノ適當

二　條件又ハ制限ヲ附スヘキ必要アリト認ムルモノハ其之項

三　出願漁場區域内ニ於テ他ノ免許漁業アルトキハ其漁業ト出願漁業トノ關係

四　地先水面專用漁業ニアリテハ限定ヲ要スヘキ漁業ノ種類

五　前各號以外ニ於テ必要ト認ムル事項

第二條　漁業ニ關スル出願申請屆出等ノ書面ハ書式ノ不備アルモ實質上ノ要件ヲ具備スルトキハ之ヲ受理シ便宜訂正セシムヘシ

第三條　農商務大臣又ハ北海道廳長官ニ於テ免許若ハ許可シタル漁業ニシテ制限停止取消等ノ必要アリト認ムルトキハ其事由ヲ詳記シ北海道廳長官ヘ上申スヘシ

第四條　水産動植物ノ蕃殖保護上禁漁區ヲ設定スルノ必要アリト認ムルトキハ其旨北海道廳長官ニ上申スヘシ

第五條　左記事項ハ意見ヲ具シ北海道廳長官ノ指揮ヲ受クルニ在ラサレハ處分スルコトヲ得ス

一　漁業法施行規則第二條第七號ノ漁業及區劃漁業ノ出願アリタルトキ

二　免許漁業ニ付競願アリタルトキ

三　免許漁業ニ對シ新ニ制限ヲ加ハ又ハ停止シ若ハ免許ヲ取消サントスルトキ

四　許可漁業ノ數ヲ制限シ又ハ停止シ若ハ取消サントスルトキ

五　裁決ヲ與ヘントスルトキ

六　休業ノ認可ヲ與ヘントスルトキ

七　慣用ナキ漁具漁法ニ依リ免許又ハ許可ノ出願アリタルトキ

第六條　免許期間ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ但廳制漁業ハ前條第一號ニ依リ豫講ノ際北海道廳長官ニ於テ指定スヘシ

定置漁業　　貳拾ヶ年

鮭、鱒、鰊、鰯、鯛、鰤　　五ヶ年

前記以外ノ各種

特別漁業

鰯、鮭、鱒、鯉　　貳拾ヶ年

前記以外ノ各種　　五ヶ年

第七條　漁業ノ免許又ハ漁場區域ノ變更ハ實測ノ上（第八條第三號ノ場合ヲ除ク）處分スヘシ但實測ノ上ハ實測圖ヲ添ヘ報告スヘシ

第八條　漁場區域ノ變更ハ左記各號ノ一ニ該當シ故障ナキモノニ限リ免許ヲ與フヘシ

一、基點ヲ動カサスシテ沖出ヲ伸縮シ又ハ方位ヲ變更スルトキ

二、數綱ノ位置ヲ動カサスシテ基點ノ伸縮又ハ移轉若ハ之ニ伴フ方位ヲ變更スルトキ

三　定置漁業ノ數綱ノ大サヲ伸縮スル時

四　特別漁業ノ沿岸間數ヲ伸縮スル時

第九條　休業ノ認可申請書ニハ理由書ノ外事實ヲ證スヘキ書面ヲ添附セシムヘシ

第十條　免許漁業ノ休業ノ届出ヲ怠ラサル者ハ事實果シテ著業シタルヤ否ヤヲ注意シ事實判明セ

サルモノハ實地調査ノ上認定スヘシ

第十一條　漁業法第八條ニ相當ス漁業ヲ免許ヲ取消シ行ハレタル者ハ其分業ヲ以テ北海道ニ於テ上申スヘシ

第十二條　守號錨決ノ申請アリタルトキハ副本ヲ相手方ニ送付シ日限ヲ指定シテ答辯書ヲ提出サシム

第十三條　農商務大臣又ハ北海道廳長官ニ於テ免許若ハ許可ヲ與ヘタル漁業ニ關シテハ免許狀又ハ許可狀ヲ發行シ申請人ニ交付ス

第十四條　從來漁業及許可漁業ニ關スル訴願ハ第一號及第二號樣式ニ依ルヘシ

第十五條　免許漁業原簿及許可漁業原簿ハ第一號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十六條　免許漁業原簿ニ登錄シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添シ之ヲ北海道廳長官ニ届出ツヘシ

第十七條　左記事項ハ下ニ掲クル期日限リ報告スヘシ

一　許可漁業ノ種類及其變更（樣式第三號及第四號）毎年年分終期ヨリ十日限

二　免許漁業休業（樣式第五號）毎年一月十日限

三　免許狀用紙ノ受拂（樣式第六號）毎年年分終期ヨリ十日限

四　漁業ニ關スル手數料ノ收入（樣式第七號）毎年年分終期ヨリ十日限

第十八條　漁業ニ關スル文書ハ左記區分ニ從ヒ別表ニ依リ年分ヲ區別シ編綴保存スヘシ

一　免許漁業　免許ニ關スル申請書類及第一號ノ切ノ作製書類

一　許可漁業　許可漁業ニ關スル申請書類及第一號ノ切ノ作製書類

一　漁業法第八條及漁業法第八條ノ二ニ關スル一切

一　漁業法第八條及漁業法第八條ノ二ニ關スル一切

樣式第一號（甲）　免許漁業原簿　（用紙菊半）

置換漁業	免許番號	期間	免許年月日	限制ハ又ハ條件	漁業ノ種類及名稱	類種ノ物産漁	期間	漁業	休業	所有者代表者住所氏名
免許漁業原簿										北海道

付與有共漁業權相

記事

樣式第一號（乙）　免許漁業共同人名簿　（用紙同上）

番號	免許號	共有者氏名住所	持分	相續讓渡共有貸付	記事

（表裏同ジ）

樣式第一號（丙）　免許漁業共同人名簿　（用紙同上）

番號	免許號	共同借主氏名住所	持分	相續讓渡共有	記事

（表裏同ジ）

様式第三號　許可漁業帳　（用紙共通）

無效年月日及事由	業休	件條	漁具數	漁船數	漁業時期	漁業名稱	漁場所	電信札付番號	電信札付年月日	代表者氏名	氏名	住所

許可漁業帳　北海道

（袋綴同ジ）

様式第三號

種類漁業　漁業名稱　漁業水數　至自年月日　許可漁業廢止分許報告

漁業札型	漁業			計	漁業札型	漁業			計	右報告候也	年月日	長官殿
海苔浜水雲漁業					鰊網漁業	昆布採取業						
何			何		何		何					

支廳長

様式第四號

種類漁業　漁業名稱　廢業漁業者數　無效漁業者數　至自年月日　許可漁業異動報告

漁業札型	漁業			計

右報告候也

年　月　日

長官　宛

文部大臣

様式第五號

明治　年免許並許可漁業休業報告

區分		漁業種類及名稱	休業者數
免許漁業	小	計	
	漁業區域定		
漁業	小	計	
	漁業區域特		
合計			
營利漁業			
合計			
普通漁業			
合計			

又十二月十八日現在免許可漁業休業者數

様式第六號

年月日漁業免許狀用紙受拂報告

漁業			枚數
受	前期末殘高		
	本期中本廳ヨリ交付高		
計			
拂	新規下付		
	再下付		
	書替		
計			
本期末殘高			

右報告候也

年　月　日

長官　宛

文部大臣

様式第七號

自年月　至年月　漁業ニ關スル手數料收入報告

區	分	數	額
計			

右報告候也

年　月　日

長官　宛

支廳長

○明治三十六年四月三日告示第二百三十二號

漁業法施行細則、北海道漁業取締規則ノ規定ニ依リ差出スヘキ願書、申請書、届書、漁場圖ノ樣式左ノ如シ

但シ明治三十五年(七月)北海道廳告示第二百九十六號ハ之ヲ取消ス

書式(注意文書綴屬ノ所ニハ適宜奨印スヘシ)

第一號

收入印紙

定置(區劃、特別)漁業免許願

一　漁場ノ位置及區域　何國何郡何村字何何(何第何號)別紙漁業場圖ノ通

一　漁業ノ種類　何何

一　漁業ノ名稱　何何

一　漁獲物ノ種類　何魚(何何)

一　漁業時日　北海道廳令ノ規定ニ據ル(自何月何日至何月何日)

一　免許期間　何箇年

前記ノ通定置(區劃、特別)漁業ノ免許相受度別紙漁場圖(及關係書類、漁業目論見書)相添此段相願候也

年　月　日　住所　氏名　印

北海道廳長官氏名殿

附屬書類ノ表示

一　漁場圖正副　二通

一　何何

以上何通

(注意)

一　主タル漁獲物以外ノ魚ハ括弧内ニ記スヘシ

二　漁業時期ニ付既令ノ規定ナキモノ又ハ特ニ短期ノ漁業ヲ爲スモノハ月日ヲ記スヘシ

三　漁撈ノ方法、漁網ノ構造等從來其地方ニ行ハレサルモノナルトキハ特ニ詳細ナル漁業目論見書ヲ添附スヘシ

四　特別漁業ニ在リテハ漁業目論見書ニ漁網ノ大サヲ記スヘシ但シ尋(五尺)ヲ以テ算スヘシ

五　二人以上共同出願ノ場合ニ於テ代表者ノ届出ヲ爲サントスルトキハ其旨代表者記名捺印シ別ニ届出ヲ爲サシメテ願書ニ代表者ヲ記載セントスルトキハ下ノ例ニ依ルヘシ

(出願者ノ氏名ノ場所ニ)

住所　出願者甲　氏　名　印

同　住所　乙　氏　名　印

同　住所　丙　氏　名　印

右代表者甲　氏　名　印

六　附屬書類ノ謄本ヲ提出スル場合ニ於テハ其本書ヲ添附スヘシ但シ公正謄本ヲ提出スル場合ハ此限ニアラス

第二號(注意免許漁業ニ關スル願、届、申請ニシテ第一號書式ニ據ルヘキモノノ外ハ本號書式ニ據ルヘシ)

收入印紙

何何願(届、申請)書

何年月日免許何何第何號何第何號漁場

一　出願(届出、申請)ノ事項

一　同上ノ理由(特ニ記載スルノ必要ナキモノハ省略スルモ妨ケナシ)

右出願(届出、申請)候也

年　月　日　住所　氏　名　印

北海道廳長官氏名殿

附屬書類ノ表示

一　何何

一　何何

以上何通

(注意)

一　何何願書等題目ノ記載方ハ明治三十五年六月四日農商務省告示第五號ニ準スヘシ

二　何年月日免許何第何號トアルハ免許狀ニ記載シタル免許年月日及免許番號、何第何號トアルハ漁場ノ番號トス漁場ニ番號ナキモノハ漁場ノ位置ト漁業名稱ヲ記スヘシ

代表者選定届書等免許以前ニ差出スモノニハ何年何月出願ト記スヘシ

三　二人以上共同ノ出願、申請、届出ハ前號書式ニ準シテ記名捺印スヘシ

四　申請、届出ニ期間ノ規定アルモノハ事故ノアリタル日ヲ一項トシテ記入スヘシ

五　相續ノ場合ニ免許狀ノ書換ヲ申請スル者ハ戸籍謄本又ハ相續人決定書若ハ遺言書ノ寫ヲ添附スヘシ

六　漁業權貸付登錄ノ申請ニハ當事者雙方記名連名シ契約書ノ謄本ヲ添附スヘシ

七　附屬書類ノ謄本ヲ提出スル場合ノ注意方ハ前號書式ノ注意ニ準スヘシ

八　漁場區域變更ノ出願ニ付テハ漁場圖正副二通ヲ添附スヘシ

九　讓渡ノ場合ニハ讓渡人、讓受人、共有ノ場合ニハ共有者記名連印シ之ニ關スル契約書等ヲ添附スヘシ

十　漁業權者ノ代表者變更ノ場合ニハ共同者記名連印スヘシ

十一　借主ノ權利處分ニ付漁業權者ノ承諾ヲ要スヘキ場合ニ在テハ其承諾アリタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スルカ又ハ申請書中ニ漁業權者記名連印スヘシ

十二　漁業權ノ持分ニ付相續、讓渡、共有、貸借アリタル場合ハ前各項ニ準ス

漁業願書(注意漁業取締規則第四條ニ依ル漁業願書ハ本號書式ニ據ルヘシ)

何漁業願書

一　漁業場所　何郡(何村)沿海

一　漁業時期　自何月何日至何月何日

一　漁船　何艘何隻

一　漁具　何網何放

一　從業者　何人

前記ノ通何漁業ノ許可相受度此段相願候也

年　月　日　住所　氏　名　印

北海道廳長官何支廳長氏名殿

(注意)

一　何漁業ト記載セル所ハ明治三十五年(六月)北海道廳告示第二百七十二號又ハ漁業取締規則第五條ノ漁業名稱ヲ記スヘシ

二　鯨網、鮫網、長刺網ハ網ノ大サヲ記載スヘシ

三　鰊定網ハ其名稱幾ノ大略及大サヲ記載スヘシ

四　手繰網、地曳網ハ網目ノ大サ及網ノ長サヲ記載スヘシ

五　漁網ノ大サハ總テ尋(五尺)ヲ以テ算スヘシ

第四號　注意(漁業取締規則第二十八條第一號ニ依ル申請書ハ本號書式ニ據ルヘシ)

漁業名稱

鑑札番號

一　鑑札書下付(書換)申請書

一　下付年月日

前記ノ證札何ノ事ニ依リ亡失（毀損）致候ニ付其下付（交換）相受度（毀損證札相添）此段申請候也

年　月　日　住所　氏名　印

北海道長官氏名殿

第五號　注意（漁業取締規則第二十八條第二號ニ依リ證札返納ヲ命スルモノハ本號書式ニ準ルモノトス）

證札返納書

一　漁業名稱
一　證札番號
一　下付年月日

右何年何月何日漁業（證札無效ト相受、證札受有者氏名死亡）致候間證札返納候也

年　月　日　住村（相續者）氏名　印

北海道長官氏名殿

第六號　注意（北海道漁業取締規則第二十八條第三號ニ依ル屆出ハ本號書式ニ準ルベシ）

廢業（休業）屆

一　漁業名稱
一　證札番號
一　許可年月日
一　屆出ノ事由

右及御屆候也

年　月　日　住所　氏名　印

北海道長官氏名殿

（注意）

一　漁業名稱ノ記載ハ第三號書式ノ注意ニ準ス

第七號　注意（北海道漁業取締規則第二十九條第一號ニ依ル願、屆ハ本號書式ニ準ルベシ）

一　漁業名稱
一　漁業場所
一　許可年月日
一　願出、（屆出）ノ事由

右漁具（漁船、從業者）從來何故（何隻、何人）此度相致居候處前記ノ通相加致度候間御許可相受度候也（減少致候間此段及御屆候也）

年　月　日　住所　氏名　印

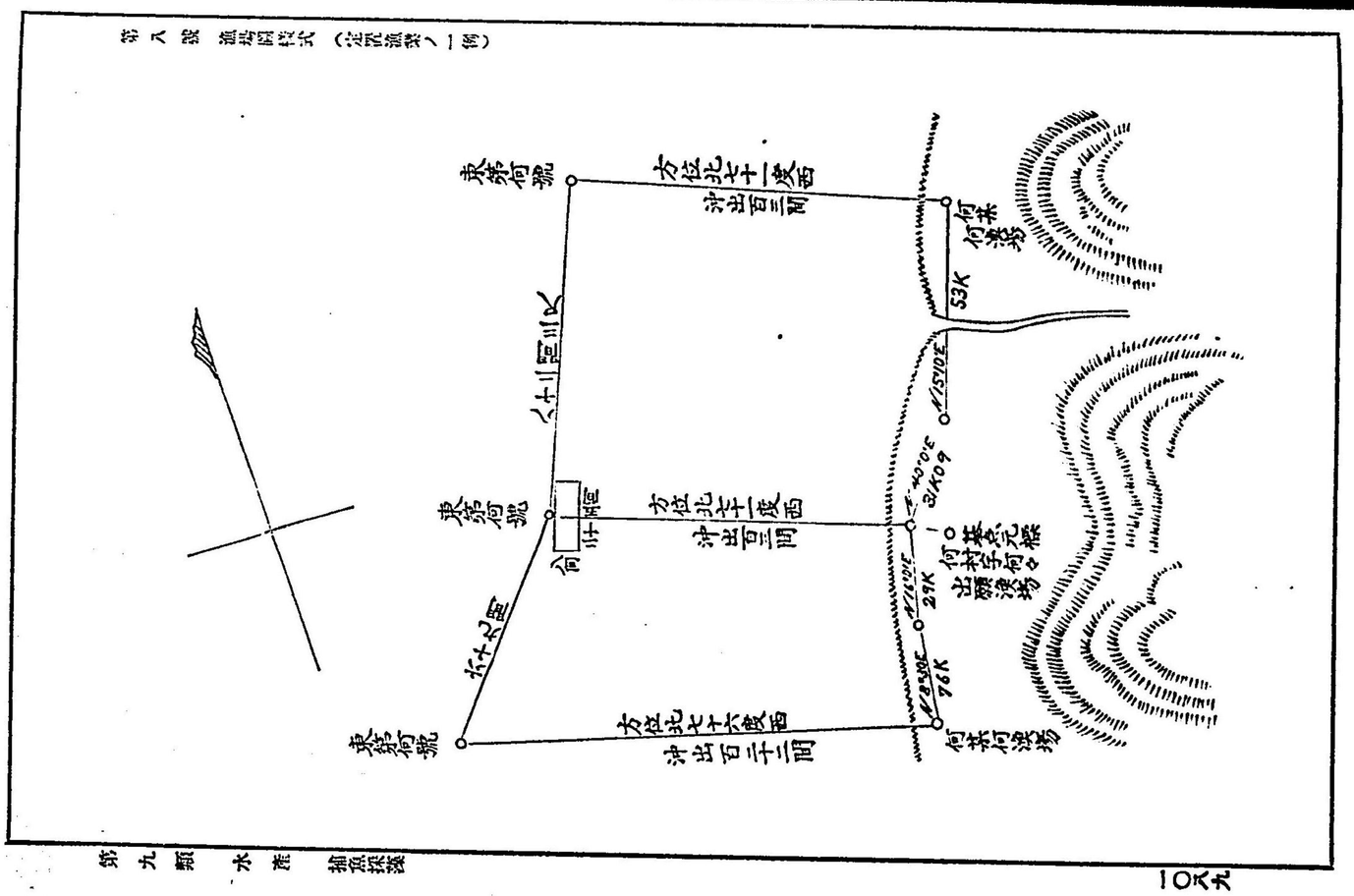
北海道長官（何支廳長）氏名殿

（注意）

一　漁業名稱ノ記載ハ第三號書式ノ注意ニ準ズベシ

二　願出、屆出ノ事由ニハ漁具、漁船ノ名稱員數又ハ從業者員數ヲ記載スベシ、屆出ハ漁具ニ付テハ第三號書式ノ注意ニ準スベシ

第八號　漁場圖樣式（定置漁業ノ一例）



（注　意）

一　漁場圖ノ調製ハ明治三十五年六月九日農商務省告示第百七號ニ據ルノ外同一名稱ノ隣接免許漁場トノ距離ヲ記載スヘシ異名稱ノ免許漁場其間ニ介在スルトキハ其直近漁場トノ距離ヲモ記載スヘシ

二　千五百間以内ニ免許漁場ノ設ケナキトキハ前項ノ記載ヲ要セス

三　測線ニハ方位及間數ヲ記載スヘシ測量器械ノ種類ニ依リ角度ヲ以テ測量シタルモノハ其角度ヲモ記載スヘシ

四　測線短距離ニシテ其傍ニ方位間數等ヲ記入シ難キトキハ符合ヲ付シ適宜ノ箇所ニ記載スヘシ

五　漁場標識沖出指定標ハ朱圍ヲ以テ其他ノ測點ハ黑圍ヲ以テ表示スヘシ

六　出願漁場區域ヲ表示スルニハ朱線ヲ用ヒ其他ハ黑線黑雲ヲ用フヘシ

七　漁場圖ノ調製ハ二千五百分一縮尺ヲ用フヘシ但シ漁場區域ノ大ナルモノ又ハ隣網距離遠隔ニシテ圖面三尺以上ニ渉ルトキハ便宜縮少スルモ妨ナシ

八　用紙ハ罫水引美濃紙ヲ用フヘシ

九　製圖ニハ「インキ」ヲ用フヘカラス

十　出願漁場ニシテ漁場番號ノ未定ナルモノハ之ヲ省クシ

十一　漁場區域ノ變更ヲ出願スル場合ハ舊區域ヲ黑點線ヲ以テ記載シ且舊區域ナルコトヲ表示スヘシ

十二　漁場區域ハ間（六尺）ヲ以テ算スヘシ

○明治三十五年七月三日告示第二百八十五號漁業法施行規則第五十六條ノ規定ニ依リ下付スヘキ漁業鑑札離形左ノ通相定ム

木製厚三分

三寸五分

第　號

（共同漁業代表者）住所　氏　名

○何　漁　業　鑑　札

明治年月日下付

二寸五分

裏面

○北　海　道　廳

焼印

○明治三十五年七月十一日廳令第九十九號

明治三十五年（六月）農商務省令第十二號第一條第六號中漁場圖ニ關スル手數料左ノ通相定ム

北海道廳ニ於テ下付スル漁場圖ノ謄本又ハ抄本ハ美濃紙一枚ヲ超ヘサルモノヲ金五拾錢トシ美濃紙一枚又ハ一枚未滿ヲ增ス毎ニ五拾錢ヲ加ヘ五圓ニ止ム

○明治三十五年六月二十八日告示第二百七十二號

漁業法施行規則第五十六條第一項ニ該當スル漁業ノ名稱左ノ如シ

一　藻手繰網漁業

海老藻手繰網　其他各種ノ藻手繰網漁業

（三十五年十二月告示第七百八十五號ヲ以テ本項中改正）

一　潜水器漁業

海扇潜水器漁業　海鼠潜水器漁業

一　空釣縄漁業

各種ノ空縄漁業

（三十五年十二月告示第七百八十五號ヲ以テ本項追加）

○明治三十六年三月二十五日廳令第四十一號

北海道漁業取締規則左ノ通相定メ發布ノ日ヨリ施行ス

八號同年（十二月）北海道廳令第八十三號明治三十四年（一月）北海道廳令第一號明治三十五年（六月）北海道廳令第九十號同第九十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

北海道漁業取締規則

第一章　免許及許可漁業

第一條　農商務大臣ニ提出スヘキ漁業ニ關スル願書申請書及屆書ハ漁場ヲ管轄スル支廳長、漁場ノ區ノ沿海ニ在ルモノハ區長ヲ經由スヘシ

第二條　本令ニ依リ提出スル書面ニシテ漁業ヲ爲ス水面一支廳ノ管轄又ハ區ノ沿海以外ニ亘ルトキハ關係支廳長區長ヲ經由スヘシ

第三條　漁業法施行規則第二條乃至第四條ノ漁業ニ關スル出願申請屆出等ノ書面ハ漁場ヲ管轄スル支廳長、漁場ノ區ノ沿海ニ在ルモノハ區長ヲ經テ北海道廳長官ニ差出スヘシ

第四條　漁業法施行規則第五十六條ニ掲ケタル漁業ヲ爲サントスル者ハ水面ヲ管轄スル支廳長、水面ノ區ノ沿海ニ在ルモノハ區長ヲ經テ北海道廳長官ニ願出ツヘシ

前項漁業ヲ許可シタルトキハ漁船一艘毎ニ鑑札ヲ下付ス

第五條　左記第一號第二號第四號乃至第八號ノ漁業ヲ爲サントスル者ハ一種類毎ニ第三號ノ漁業ヲ爲サントスル者ハ漁具一箇毎ニ願書ヲ作リ水面ヲ管轄スル支廳長ニ、水面ノ區ノ沿海ニ在ルモノハ區長ヲ經テ北海道廳長官ニ差出シ許可ヲ受クヘシ但漁業ヲ爲ス水面一支廳ノ管轄又ハ區ノ沿海以外ニ亘ルトキハ北海道廳長官ノ許可ヲ受ク可シ

一　昆布採取業

二　鮑漁業

三　練待網漁業

四　練旋網漁業

五　鰊刺網漁業

六　鰊長刺網漁業

七　手繰網漁業（網目一寸五分以上ノモノヲ除ク）

八　一定ノ引揚ヲ有セサル地曳網漁業（網目一寸五分以上ノモノヲ除ク）

前項漁業ニ付專用漁業ノ免許ヲ受ケタル場合ニ於テ北免許ニ依リ漁業ヲ爲サムトスル者ハ同種ノ漁業ニ付許可ヲ受クルコトヲ要セス

第一項ノ漁業ニ付許可ヲ受ケタル者ノ漁業場所ニシテ專用漁業ノ漁場區域ト重複スルトキハ其重複シタル部分ニ付テハ漁業ヲ制限セラルルモノトス

第六條　前條第三號ノ漁業ハ北海道廳長官ノ指定シタル區域ニ屬スル水面内ニ於テ鰊ノ定置漁業權ニ依リ漁業ヲ爲ス者ニ限リ該水面内特ニ北海道廳長官ノ指定シタル場所ニ於テ出願スルコトヲ得但シ一箇ノ定置漁業權ニ依リ漁業ヲ爲ス者二人以上アルトキハ共同シテ出願スヘシ

前項ノ出願ニ依リ許可ヲ受ケタル漁業者ノ使用スルコトヲ得ル漁具ノ員數ハ定置漁業者ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第一項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニシテ鰊ノ定置漁業權ノ消滅、讓渡、貸付又ハ貸付ヲ受ケタル期間滿了シタルトキハ許可ノ效力ヲ失フモノトス

第一項ノ區域及場所ハ別ニ之ヲ告示ス

第七條　第五條第一項第一號第二號及第四號乃至第八號ノ漁業ノ許可期間ハ五箇年トス

第八條　第四條第五條ノ漁業願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　漁獲物ノ種類

二　漁業ヲ爲ス場所

三　漁業ノ名稱員數

四　漁船ノ名稱員數

五　從業者ヲ用フルモノハ其員數

第九條　鰊、鱈ノ定置漁業、特別漁業漁場區域ノ左右各五百間鮭ノ定置漁業、特別漁業漁場區域ノ左右各千間以内又ハ第六條ニ依リ指定シタル鰊待網漁業ヲ許可スヘキ場所ニ於テハ漁業時期ヲ同フスルノ定置漁業、特別漁業ヲ免許セス

第十條　左記ノ區域及其沖合ニ於テハ鰊ト漁業時期ヲ同フスル定置漁業、特別漁業ヲ免許セス

渡島國檜山郡上ノ國村（東第二十九號同第三十號）　設定置漁業漁場　同上

同　上　（東第五十二號同東第五十三號同）　同上

同國同郡江差町（東第五十五號同第五十六號同）　同上

同　上　（東第六十二號同東第六十三號同）　同上

同國同郡泊村（東第六十四號同東第六十五號同）　同上

第十一條　定置漁業又ハ特別漁業ノ漁場ノ沖合及其漁場ノ左右各一千間ニ對スル沖合ニ於テ漁業時期ヲ同フスル定置漁業、特別漁業ヲ免許セス

第六條ニ依リ指定シタル鰊待網漁業ヲ許可スヘキ場所ノ沖合亦同シ

第十二條　第六條規定ノ外鰊漁業ニ使用スルコトヲ得ル漁具ヲ地方ニ依リ制限スルコト左ノ如シ

漁業ノ種類　使用區域

定置漁業桁網類、落網類　全道

特別漁業第三種曳地網　勝振日高十勝釧路根室千島（擇捉島ヲ除ク）

六　國　全道

旋網　渡島後志石狩天鹽四國北見國ノ内礪文利尻宗谷枝幸四郡及千島國ノ内擇捉島

刺網　渡島國　内浦灣區及鋼路國

長刺網　鋼路國

第十三條　鰊ノ定置漁業、特別漁業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニシテ第十四條乃至第十六條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ免許セス

一　特ニ免許ヲ與フヘキコトヲ告示シタル場所ニ於テ漁業ヲ爲サントスル者

二　免許ヲ受ケタル鍊ノ定置漁業權ヲ拋棄シタル者ニシテ其拋棄ノ日ヨリ三十日以内ニ漁業權ヲ拋棄シタル漁場ノ左右隣接漁業間ニ於テ新ニ漁業區域ヲ設定シ定置漁業ヲ爲サントスル者

三　前號ニ依ル出願ヲ免許セラレサル者ニシテ其處分ノアリタル日ヨリ一箇年以内ニ漁業權ヲ拋棄シタル漁場ニ於テ舊漁業ト同一名稱ノ漁業ヲ爲サムトスル者

四　鍊ノ特別漁業權ノ消滅シタル漁場ニ於テ消滅ノ日ヨリ一箇年以内ニ舊漁業ト同一名稱ノ漁業ヲ爲サムトスル者

前項第二號又ハ第四號ニ依リ出願スルコトヲ得ヘキ定置漁業、特別漁業ノ數ハ拋棄又ハ消滅シタル漁業權ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第十四條　前條第一號ニ依リ出願スル漁業ノ漁場間ノ距離ニ關シテハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス

出願漁業種類	主タル漁獲物ヲ同フスル定置漁業漁場ニ對スル距離	左右隣接漁場間ノ距離	出願漁場ト左右隣接漁場間ノ各距離	主タル漁獲物ヲ同フスル特別漁業漁場ニ對スル距離	地方別
定置漁業	二百四十間以上	四百間以上	百二十間以上	二百五十間以上	渡島國ノ内松前檜山爾志三郡後志石狩天鹽國及北見國ノ内利尻禮文三郡
特別漁業			二百間以上		前記以外ノ地方

第十五條　第二號ノ規定ハ前項ノ漁場ニ適用ス

第十五條　第十三條第二號ニ依リ出願スル漁業ノ漁場間ノ距離ニ關シテハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス

一　新設ノ漁場ハ第六條ニ依リ鍊待網漁業ヲ許可スヘキ場所及其場所ノ左右鍊ノ定置漁業漁場ニ至ルノ間又ハ鍊特別漁業漁場ノ左右二百五十間以内ニ設定スルコトヲ得ス

二　沖出ハ左右隣接漁場沖出終點間ノ直線以外ニ超出スルコトヲ得ス但シ左隣接漁場ト右隣接漁場トノ距離一千間以上新設漁場ト左右隣接漁場トノ距離各五百間以上アルトキハ此限ニアラス

三　新設漁場ト隣接漁場トノ距離ハ第十六條ニ掲ケタル地方別ニ從ヒ其最短以上ノ間數アルコトヲ要ス

四　新設漁場ト隣接漁場トノ距離第十四條ノ間數ニ滿タサルモノハ隣接漁場ニ支障ナキコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ新設漁場ト隣接漁場間ノ距離從前ヨリ延長スル場合ハ此限ニアラス

第十六條　鍊ノ定置漁業漁場間ノ距離ニ對スル漁網ノ種類及漁網ノ大サハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス但シ本令施行前免許ヲ受ケタル漁業ノ漁場ニ於テ使用スル漁網ハ此限ニアラス

漁網ノ種類	左右隣接漁場間ノ距離	隣接漁場トノ各距離	漁網ノ大サ	地方別
	百二十間以上	六十間以上	縦八間二尺以内	渡島國ノ内檜山爾志二郡後志石狩天鹽國及北見國ノ内利尻禮文二郡
	百四十間以上	七十間以内	横二十五間以内	
		七十間以上	縦十間	
		八十間以内	横三十間	

角網		行成網	瓢名小型網
縦三十二間以内	縦八十間以上	百間以上	百間以上
横三十三尺以内	同	五十間以上	五十間以上
縦三十三間	九十間以内	同	
横四十五間	百八十間以上		
縦三十間	二百間以上	百間以上	
横三十間	同	同	
縦（落網ノ端ヨリ上ル）三十五間			
横（落網ノ端ニ至ル）十五間			
縦（落網ノ最廣部）十間			
横（落網ノ最廣部）三間			
左右袖網ノ最廣距離五十間以内			

金道

第十七條　第十四條乃至第十六條ノ規定ハ鍊ノ定置漁業、特別漁業漁場區域ノ變更ニ之ヲ適用ス

第十八條　鮭、鱒ノ漁業ハ特ニ免許スヘキコトヲ告示シタル場所ニ於テ定置漁業臺網類、落網類又ハ特別漁業第三種漁業ヲ爲サムトスル者ニ非ラサレハ免許セス

第十九條　前條ニ依リ出願スル漁業ノ漁場間ノ距離ニ關シテハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス

出願漁業ノ種類	主タル漁獲物ヲ同フスル定置漁業漁場ニ對スル距離	左右隣接漁場間ノ距離	出願漁場ト隣接漁場トノ各距離	主タル漁獲物ヲ同フスル特別漁業漁場ニ對スル距離
鮭定置漁業	千六百間以上	千間以上	八百間以上	八百間以上
鱒同上		五百間以上	五百間以上	五百間以上
鮭特別漁業第三種漁業			八百間以上	
鱒同上			五百間以上	

第二十條　鍊、鮭又ハ鱒以外ノ定置漁業特別漁業ハ其漁場ノ距離左ノ制限ニ係ルニ非サレハ免許セス

第二十一條　定置漁業、特別漁業ニシテ主タル漁獲物ヲ異ニシ及漁業時期ノ混同スル漁業ノ漁場間ノ距離ハ第十四條第十九條第二十條ニ規定シタル各漁業漁場ノ制限距離ヲ比較シ長距離ニ依ルコトヲ要ス

出願漁業ノ漁場ト隣接漁場トノ沖出間數著シク差異アリテ其漁場區域間ノ最短距離百五十間以上アルトキハ前項ノ規定ヲ適用セサルコトアルヘシ

出願漁業ノ種類		主タル漁獲物ヲ同フスル定置漁業漁場ニ對スル距離	左右隣接漁場間ノ距離	出願漁場ト左右隣接漁場トノ各距離	主タル漁獲物ヲ同フスル特別漁業漁場ニ對スル距離
鍊、其他	定置漁業	三百間以上	百四十間以上	百五十間以上	
	特別漁業		百五十間以上		
鮭、鱒定置漁業		二千間以上	千間以上	千間以上	

第二十二條　鍊以外ノ定置漁業漁場ノ沖出ハ其左右隣接漁場沖出終點間ノ直線以外ニ超出スルコトヲ得ス

出願漁業ノ種類ニ依リ隣接漁場ニ支障ナシト認ムルトキハ前項ノ規定ヲ適用セサルコトアルヘシ

第二十三條　定置漁業、特別漁業ノ漁場區域ノ變更ニ付テハ第十七條規定ノ外第十九條乃至第二十二條ノ規定ヲ適用ス

第二十四條　本令施行前免許ヲ受ケタル鰊、鮭又ハ鱒ノ定置漁業、特別漁業ノ漁場區域ノ變更ニ付テハ第十三條第一號又ハ第十八條ノ規定ヲ適用セス

第二十五條　免許漁業ノ漁業時期ハ告示ヲ以テ之ヲ定ム

本令施行前免許ヲ受ケタルモノノ漁業時期ニシテ前項ニ依リ告示シタル漁業時期ノ範圍外ニ亘ルモノハ告示シタル漁業時期ニ短縮セラルルモノトス

第二十六條　本令施行前免許ヲ受ケタル漁業ノ免許期間更新ノ免許ニハ第九條第十三條第一號第十六條第二十條第二十一條ノ規定ヲ適用セス

第二十七條　免許漁業ノ漁業者著業シタルトキハ十日以内休業シタルトキハ漁業時期ノ終日ヨリ十日以内ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十八條　第四條ノ漁業者ハ左記各號ニ從フヘシ

一　鑑札ヲ亡失毀損シタルトキ又ハ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ再下付又ハ書換ヲ願出ツヘシ

二　廢業シタルトキ又ハ鑑札ノ無效ニ歸シタルトキハ十日以内死亡シタルトキハ相續者ヨリ相續ヲ戸籍吏ニ届出タル日ヨリ十日以内ニ鑑札ヲ返納スヘシ

三　著業休業ノ届出ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス但シ引續キ二箇年間休業シタルトキハ廢業ト看做シ下付ノ鑑札ヲ無效トス

第二十九條　第五條ノ漁業者ハ左記各號ニ從フヘシ

一　漁具、漁船、從業者ノ增加ハ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス又其減少ハ之ヲ届出ツヘシ

二　住所ヲ轉シタルトキ又ハ氏名ヲ改メタルトキハ十日以内ニ之ヲ届出ツヘシ

三　廢業シタルトキハ十日以内死亡シタルトキハ相續者ヨリ相續ヲ戸籍吏ニ届出テタル日ヨリ十日以内ニ届出ツヘシ

第三十條　水産動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲其他公益上必要アリト認ムルトキハ漁業許可ヲ制限停止シ又ハ取消スコトアルヘシ本則又ハ漁業ニ關スル他ノ法令ニ違背シタルトキ亦同シ

第二章　保護取締

第三十一條　湖沼ニ於テハ湖沼口ヨリ左右沿岸各三百間其沖合二百間以内又ハ河川ニ於テ定置漁業又ハ魚類ノ通路ヲ遮斷スル裝置ヲ爲ス漁業ハ本令施行前免許又ハ許可ヲ受ケタル者ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　鮭、鱒ノ蕃殖ヲ保護スル河川湖沼ヲ三等ニ區別シ其河川湖沼及保護期節ハ別ニ告示ス

前項ノ河川湖沼ニ在テハ各種ノ地曳網漁業ヲ免許セス

第三十三條　前條ノ河川湖沼ニ於テハ其保護期節中一定ノ电掛場ヲ有セサル地曳網、刺網、流網、投網、笠（魚入部ノ喰口一寸以下ノモノヲ除ク）釣、猪、「マレップ」ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十四條　第三十二條ノ河川湖沼口中左ニ定ムル區域及期節ニ於テハ本令施行前免許ヲ受ケタル漁業又ハ釣魚業、採藻業、採貝業ヲ爲スノ外水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ス

川湖沼ノ等級	區域			期節	
一等	川口ノ流	湖沼口ノ内、外及川口ノ左右沿岸	同上ノ沖合	根室千島二國	四月二十日ヨリ十二月第一日マテ
二等	六百間以内	各六百間以内	六百間以内	其他ノ諸國	九月一日ヨリ十二月第一日マテ
三等	四百間以内	各四百間以内	四百間以内		
	三百間以内	各三百間以内	三百間以内		

第三十五條　鮭、鱒ノ漁業時期中左ノ場所ニ於テハ毎日日没後日出前及毎月一、十一、二十一ノ三日漁業ヲ爲スコトヲ得ス

一　第三十二條ニ依リ告示シタル河川湖沼

二　前條制限ノ區域内

石狩川鮭地曳網漁場鮭曳第二十一號ヨリ上流ニ於テハ毎月二、十二、二十二ノ三日ヲ禁漁日トス

第三十六條　川地曳網ノ曳方ハ其流水ノ幅七分以上ヲ超ユルコトヲ得ス且ツ杭、錨其他ノ物ヲ用ヒ又ハ何等ノ方法ヲ以テスルモ網ヲ支フルコトヲ得ス

第三十七條　鮭、鱒ノ人工孵化場又ハ天然蕃殖場ヲ設置セントスル者ハ其事業ノ設計維持ノ方法等ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ其地ヲ管轄スル支廳長ヲ經テ北海道廳長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ許可シタル後ト雖設計方法ニ背キ又ハ實效ナシト認ムルトキハ其指令ヲ取消スコトアルヘシ

人工孵化場ノ設置ハ其事業ノ設計一箇所百萬粒以下ニ係ルモノハ當分之ヲ許可セス

天然蕃殖場ノ設置ハ人工孵化場ヲ設置スヘキ適當ノ場所ナキ場合ニ於テ水産組合ニ限リ出願スルコトヲ得

第三十八條　鮭又ハ鮑ハ其漁業ノ免許又ハ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

根室千島二國ニ於ケル鱒ニ付テモ亦同シ

前項ノ規定ニ違背シ捕獲シタルモノハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第三十九條　漁業法施行規則第五十六條ニ依リ告示シタル潜水器漁業ハ特ニ指定シタル區域以外ニ於テ爲スコトヲ得ス

前項ノ區域ハ別ニ之ヲ告示ス

第四十條　左ニ掲クル水産動物ハ之ヲ採捕シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

一　鮑　介殼最長部ノ直徑二寸五分以下

二　海扇　同　三寸五分以下

三　北寄　同　二寸五分以下

四　鮭　全長　六寸以下

五　鮭、鱒ノ放産セシ卵子

第四十一條　左ニ掲クル水産動植物ハ下ニ定ムル期節及場所ニ於テ之ヲ採捕スルコトヲ禁ス

一　鮑　七月一日ヨリ九月十五日マテ

二　北寄　四月一日ヨリ五月十五日マテ
六月十六日ヨリ七月十五日マテ
四月十六日ヨリ八月三十一日マテ
六月一日ヨリ六月十五日マテ

三　海扇　四月一日ヨリ六月十五日マテ
五月十六日ヨリ六月三十日マテ

四　海鼠　三月十六日ヨリ五月三十一日マテ
四月十六日ヨリ六月三十日マテ

五　石花菜　一月一日ヨリ六月三十日マテ
一月一日ヨリ七月十五日マテ
一月一日ヨリ七月三十一日マテ

前項ノ規定ニ違背シ採捕シタルモノハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス但シ期節外ニ於テ採捕シタル製品ヲ販賣スルハ此限ニアラス

第四十二條　鮑ハ特ニ指定シタル輪採區域及其年次ニ依ルニ非サレハ採捕スルコトヲ得ス

前項ノ輪採區域及其年次ハ別ニ之ヲ定ム

第四十三條　前條ノ輪採年次ニ該當セサル區域内ニ於テ潜ヲ使用シ水産動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス

第四十四條　左記ノ場所ヲ除クノ外鮑又ハ石花菜ノ潜水採取（もぐりとり）ヲ爲スコトヲ得ス渡島國松前郡大島、小島

第四十五條　鮑漁業ハ從業者ヲ使用スルコトヲ得但前條ノ場所ニハ此限ニアラス

第四十六條　昆布採取業ニシテ從業者ノ人員ヲ限定スルノ必要アルトキハ支廳長ハ北海道廳長官ノ認可ヲ經テ之ヲ制限スルコトアルヘシ

第四十七條　漁具ノ使用ニ付左ノ制限ヲ設ク

一　鰊刺網、鰊長刺網ハ各把ヲ縦ニ連結シ又ハ各把ヲ横ニ縫接シタルモノヲ使用スルコトヲ得ス

二　投入シタル鰊刺網、鰊長刺網ハ夜間之ヲ引揚クルコトヲ得ス但シ天候不穩又ハ止ムヲ得サル事情アルトキハ此限ニアラス

三　鰊刺網ハ一放ヲ五把トシ一把ノ網目數横百五十箇縦四十五箇以上ノモノヲ使用スルコトヲ得ス

四　鰊刺網ノ沈子綱ト沈子綱トノ距離二尺ヲ超過スルコトヲ得ス其他網ヲ浮上セシムル裝置ヲ爲スコトヲ得ス

五　鱒ノ蕃網類、落網類ハ渡島國函館區及亀田郡ノ地方ニ在リテハ網目二寸三分其他ノ地方ニ在リテハ二寸五分以下ノモノヲ使用スルコトヲ得ス

六　鰊ト漁業時期ヲ同フスル他ノ蕃網類、落網類ハ網目三寸以下ノモノヲ使用スルコトヲ得ス

七　北寄「マンガ」ハ爪ト爪トノ間二寸以下海扇「ハツシヤク」ハ網目四寸以下海鼠「ハツシヤク」ハ網目二寸五分以下ノモノヲ使

全道　渡島後志石狩二國
天鹽北見二國
根室釧路十勝千島四國
膽振國
日高國

渡島後志石狩三國
天鹽北見膽振三國
根室釧路十勝千島四國

渡島後志石狩膽振四國
天鹽北見根室千島四國

渡島後志二國
石狩天鹽二國
北見國

用スルコトヲ得ス

第四十八條　鰊刺網、鰊長刺網ノ浮子及浮標ニハ漁業者ノ住所姓名ヲ明記スヘシ

第四十九條　鰊ノ蓋網類、落網類漁業ニ付左ノ保護區域ヲ設ク

一　沖出ノ終點ヨリ口前中心ニ至ルノ線ニ直角ニ七十五間以内ノ區域及其區域ニ對スル沖合五十間沿岸ニ向ケ二十間以内竝垣網ノ左右五間以内

二　漁場ノ區域ヲ距ル二百間以内

前項漁業ノ施網中第一號ノ區域内ニ於テハ鰊刺網第二號ノ區域内ニ於テハ鰊長刺鰊ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十條　第五條第三號ノ漁業者其漁業ニ從事スルトキハ左ノ各號ニ從フコトヲ要ス

一　免許ヲ得タル漁場ニ於テ施網中ニ非サルコト

二　漁網間ノ距離ハ二十間以上アルコト

三　漁網ヲ常設シ又ハ豫メ之ヲ定置スルノ裝置ヲ爲ササルコト

第五十一條　常置漁業、特別漁業ニ付左ノ保護區域ヲ設ク

一　漁場區域ヲ距ル一千間以内

二　漁場區域ヲ距ル三百間以内

前項漁業ノ施網中第一號ノ區域内ニ於テハ鰊漁業、旋網漁業第二號ノ區域内ニ於テハ桁網、手操網、打瀬網、漕曳網、刺網（鰊刺網、鰊長刺網ヲ除ク）及一定ノ曳揚場ヲ有セサル地曳網漁業ヲ爲スコトヲ得ス

第五十二條　旋網漁業ハ左記期節中下ニ定ムル地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

一　白三月二十五日至五月十日　渡島國（茅部亀田二郡ヲ除ク）後志國

二　白三月二十五日至五月二十五日　石狩天塩二國

三　白四月一日至五月三十一日　北見國ノ内利尻、礼文、宗谷三郡

四　白四月一日至六月十日　北見國ノ内枝幸、紋別、常呂、網走、斜里五郡　根室國千島國ノ内國後郡

五　白四月十日至六月二十日　千島國ノ内擇捉島

六　白四月二十日至十二月三十一日　千島國ノ内國後郡、根室國納沙布岬ヨリ知床岬間　後志國高島郡日和岬ヨリ石狩國濱益郡雄冬岬間

七　白九月一日至十二月三十一日

第五十三條　養殖、學術研究其他特別ノ理由ニ依リ漁業法第十三條ニ基キ制限禁止シタル水産動植物ヲ採捕シ若クハ同條ニ基キ制限禁止シタル漁具漁法ニ依リ水産動植物ノ採捕ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ北海道廳長官ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

一　採捕スヘキ水産動植物ノ種類

二　採捕ノ目的

三　採捕ノ場所

四　採捕ノ時期

五　採捕ノ方法（禁止制限ニ係ル漁具漁法ニ依ルトキハ其漁具漁法）

第五十四條　遊漁又ハ白川ノ爲水産動植物ヲ採捕セントスル者ハ免許ヲ受クヘキ漁業ニ使用スル漁具ニ均シキ裝置ニ依リ水産動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス又本令其他漁業ニ關スル制限禁止ノ命令ハ之ヲ遵守スヘシ

第五十五條　定置漁業ニ從事スル者ハ漁業時期ヲ異ニスル特別漁業第三種地曳網漁業ニ妨害トナルヘキモノヲ放置スルヲ得ス

第三章　雜則

第五十六條　本令ニ於ケル漁場ニ對スル距離ノ計算法ハ左ノ規定ニ依ル

一　定置漁業漁場間ノ隣接距離ハ其沖出網ノ終點間ノ直線ヲ以テ算ス

二　定置漁業ト特別漁業又ハ特別漁業ノ漁場相互ノ隣接距離ハ沿岸ニ於ケル漁業標識（元標）間ノ直線ヲ以テ算ス

三　前二號以外ノ距離ハ漁場區域ノ外側ヨリ起算ス

第五十七條　鮭、鱒人工孵化場設置ノ許可ヲ受ケタル者ハ孵化期節中毎月末日樣式第一號ニ依リ毎年事業終了後二箇月以内ニ樣式第二號第三號ニ依リ其成績ヲ北海道廳長官ニ報告スヘシ

經費支辨方法收支決算竝豫算ハ適宜科目ヲ設ケ毎年一回北海道廳長官ニ報告スヘシ

天然蕃殖場設置ノ許可ヲ受ケタル者ハ毎年事業終了後一箇月以内ニ著手中ノ狀況ヲ北海道廳長官ニ報告スヘシ

第五十八條　第三十七條ノ許可ヲ得タル者事業ヲ休廢スルトキハ其理由ヲ具シ所轄支廳長ヲ經ケ北海道廳長官ニ屆出ツヘシ

第五十九條　漁業法施行規則第六十二條ノ申請書ハ爭議ノ相手方ニ送付スル爲副本ヲ添附スヘシ

第六十條　常廳官吏ニ於テ漁業免許狀漁業鑑札許可指令書等ノ提示ヲ命シタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十一條　第三十四條第四十二條ノ區域ハ樣式

第四號ニ依リ之ヲ標示ス

第六十二條　免許漁業者ハ樣式第五號ニ依リ漁場標識ヲ建設スヘシ

前項ノ標識ニシテ漁場ノ方位又ハ沖出ヲ示スモノハ元割二標以上ヲ建設スヘシ

第六十三條　前二條ノ標示又ハ標識ニハ船舶又ハ獸類等ヲ擊キ其他之ヲ動搖セシムヘキ行爲ヲ加フルコトヲ得ス

第四章　罰則

第六十四條　第五條ノ許可ヲ受ケスシテ漁業ヲ爲シタル者又ハ第三十三條乃至第三十六條第三十八條第四十條乃至第四十五條第四十七條第四十九條第五十條乃至第五十二條第五十四條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス許可ノ條件若ハ制限ニ違背シタルトキ亦同シ

ノ前項ノ場合ニ於テハ漁具又ハ漁獲物ヲ沒收ス但シ漁獲物ヲ既ニ讓渡シ又ハ消費シタルモノハ相當代金ヲ追徵ス

第六十五條　第二十七條乃至第二十九條第四十八條第五十五條第六十條第六十二條第六十三條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第六十六條　使用人、漁夫其他從業者ノ所爲ト雖モ前二條ノ罰則ハ漁業者ニ之ヲ適用ス

附則

第六十七條　本令施行前免許シタル定置漁業、特別漁業ハ本令施行後引續キ其效力ヲ有ス

第六十八條　明治三十五年（六月）北海道廳令第九十號第三條又ハ第十條ニ依リ下付シタル鑑札ハ本令施行後引續キ其效力ヲ有ス

第六十九條　漁業法施行規則第七十二條ニ依リ鑑札ノ下付ヲ申請スル者ハ第四條及第八條ノ規定ニ據ルヘシ

第七十條　本令施行前第五條ノ漁業許可ヲ受ケタル者ハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ニ該當スルモノハ本令施行ノ日ヨリ六箇月内ニ第八條ノ事項ヲ記載シタル屆書ヲ差出スヘシ此手續ヲ爲ササル者ハ廢業シタルモノト看做ス

第七十一條　本令施行前許可ヲ受ケタル鮭、鱒ノ旋網漁業ハ明治四十年十二月末日マテ從前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得

第七十二條　北見國利尻郡仙法志村、宗形村礼文郡香深村ニ於テ本令施行前許可ヲ受ケタル石花菜滯水採取ハ明治四十年十二月末日マテ從前ノ例ニ依リ從事スルコトヲ得

第七十三條　鐵路國厚岸郡厚岸湖漁業取締規則ハ別ニ之ヲ定ム

（樣式第一號）

末月前累計	數	採卵魚數		捕獲（鱒）鮭數			
	採卵	雄	雌	合計	老魚	雄	雌
分月末							
合計							

（様式第二號）

鮭（鱒）捕獲及採卵數

自明治　年　月　日　至明治　年　月　日

月日	鮭（鱒）捕獲數						採卵視数				採卵數	
	雌	雄	老魚	合計	果計	雌	雄	果計		卵數	果計
								雌	雄		

備考
鮭ト鱒トハ別表ニスヘシ

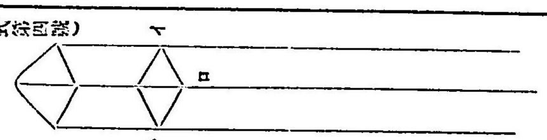
（様式第三號）

鮭（鱒）孵化成績表

孵化情況	孵化經過				點檢數		卵	孵化數	死卵數					
	孵化				前	後			發眼前	發眼後	合計	百分數	記事	
年號	採卵日	發眼日	卵日	眼日	生日	發眼	發眼							

備考
鮭ト鱒トハ別表ニスヘシ

（様式第四號）



五寸角以上地上ヨリ五尺地下根入三尺以上イロハ線以上ハ赤色ニ塗ル

記載例

輪採區用號表ノ例（乙丙號之ニ準ス）

（左側）

（前面）　輪採區用號標沖合何方位

（右側）　從是右至乙號標第一區

（後側）　年號月日　官職名

漁業制限區域左標ノ例（右標ハ之ニ準ス）

（左側）　從是沖合何方位何間

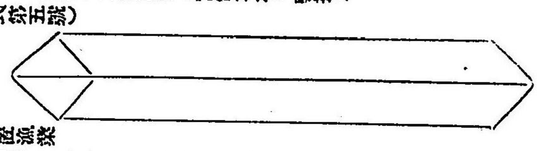
（前面）　漁業制限區域左標　至自何月何日何月何日

（右側）　從是至右標何方位何間

（後側）　年號月日　官職名

備考
右標ハ左右兩側ノ記載事項ヲ轉換ス

（様式第五號）



定置漁業

四寸角以上ヲ用ヒ元標ハ地上一尺測標ハ地上三尺地下根入共ニ三尺トス

沖出指定標ハ右ニ準ス

記載例

元標

（前面）　鱗裏角第一綱號元標

副標

（左側）　鱗裏角第一綱何號何間

（前面）　鱗裏角第一綱號副標何ノ護

（右側）　鱗裏角第二綱號何間

（後面）　沖力位何度出位何度

沖出指定標

（前面）　鱗裏角第一綱號沖出指定標

（後面）　方位何度

地曳網漁業

四寸角以上ヲ用ヒ左右標トモ地上二尺地下根入三尺トス

沖合ノ方位ヲ限定スルモノハ此外ニ陸地ノ方ニ於テ地上一尺地下根入三尺ノ元標ヲ建設ス

記載例

左標（右標ハ之ニ準ス但シ右側記載事項ヲ左側ニ記ス）

（前面）　鱗裏角第一綱號左標何ノ護

（右側）　從是至右標何間

（後面）　沖合力位何度出何間

元標

（前面）　鱗裏角第一綱號左（右）元標

其ノ他ノ漁業ニ在テハ前各種ニ準シテ記載ス

岩石等ノ上ニ建設スヘキ場合ニ在テハ根入ハ崩壊、動揺セサル程度ニ短縮スルモ妨ケナシ

○明治三十六年三月二十五日農商務省令第二百十二號

○明治三十六年（三月）北海道令第四十一號北海道漁業取締規則第六條ニ據ル區域及場所ヲ左ノ通指定ス

免許ヲ得タル鍊ノ定置漁業漁場ノ區域ヲ	鍊待網漁業ヲ許可スヘキ場所		
	町村名又ハ字名	位	五
後志國瀬棚郡	瀬棚	太櫓郡界東第一號鍊定置漁業漁場（左八十間ヲ除ク）間	
	同	東第三十八號同上（右八十間ヲ除ク）間	
	同	東第三十九號同上（左八十間ヲ除ク）間	
	原歌	東第三十一號同上（左八十九間ヲ除ク）間	
	原歌	東第三十二號同上（左八十間ヲ除ク）間	
	原歌	東第百十五號同上（右九十間ヲ除ク）間	
後志國島牧郡	千走	東第百十六號同上（左八十間ヲ除ク）間	
	江泥邊	東第百二十七號同上（右九十間ヲ除ク）間	
	江泥邊	東第百二十八號同上（左八十間ヲ除ク）間	
	木目	東第二百五號同上（右二百二十間ヲ除ク）間	
	木目	東第二百六號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國寿都郡	政泊	東第一號同上（右八十間ヲ除ク）間	
	政泊	東第二號同上（左八十間ヲ除ク）間	
	樽岸	歌棄郡界東第百一號同上（右八十間ヲ除ク）間	
	野東	磯谷郡界東第一號鍊定置漁業漁場（左九十三間ヲ除ク）間	
	野東	東第二號同上（右八十一間ヲ除ク）間	
	野東	東第三號同上（左八十一間ヲ除ク）間	
後志國岩内郡	同	東第五號同上（右百十一間ヲ除ク）間	
	同	東第六號同上（左百十一間ヲ除ク）間	
	堀株	東第八號同上（右百十六間ヲ除ク）間	
	赤石	東第百十五號同上（右八十間ヲ除ク）間	
	赤石	東第百十六號同上（左八十間ヲ除ク）間	
	珊内	東第百三十二號同上（右八十間ヲ除ク）間	
	珊内	東第百三十三號同上（左八十間ヲ除ク）間	
	同	東第百四十八號同上（右八十二間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百四十九號同上（左八十二間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百六十一號同上（右八十三尺ヲ除ク）間	
後志國赤井川郡	同	東第百六十二號同上（左八十三尺ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十一號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十二號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十三號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十四號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十五號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十六號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十七號同上（右百間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十八號同上（左百間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十九號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十一號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十二號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十三號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十四號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十五號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十六號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十七號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十八號同上（右百間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十九號同上（左百間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十一號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十二號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十三號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十四號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十五號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十六號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十七號同上（右百間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十八號同上（左百間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十九號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十一號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十二號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十三號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十四號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十五號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十六號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十七號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十八號同上（右百間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十九號同上（左百間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十一號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十二號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十三號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十四號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十五號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十六號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十七號同上（右百間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十八號同上（左百間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十九號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十一號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十二號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十三號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十四號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國古宇郡	同	東第百七十五號同上（左八十間ヲ除ク）間	
後志國茅内郡	同	東第百七十六號同上（右八十間ヲ除ク）間	
後志國神恵内郡	同	東第百七十七號同上（左百

鮭保護河川湖沼				
釧路	釧路郡釧路川			
十勝	十勝郡十勝川			
同	大津川			
千島	國後郡東沸沼	國後郡ニキシロ沼		
同	東沸川	同郡ニキシロ川		
擇捉郡内保沼		同郡オンネト沼		
同	内保川	同郡オンネトー川		
同郡ウルモベツ沼		同郡音根別川		
同郡ウルモベツ沼		擇捉郡ベウンベツ川		
紗那郡ラウシ沼		振別郡老門川		
同郡ラウシ川		紗那郡有萌川		
同郡留別沼		薬取郡モヨロ川		
同郡留別川		同郡ピライト川		
同郡トシモイ沼				
同郡トシモイ川				
同郡紗那川				
同郡別様川				
薬取郡トーロ沼				
同郡トーロ川				
同郡薬取川				

鮭保護河川湖沼				
釧路	釧路郡釧路川			
十勝	十勝郡十勝川			
同	大津川			自六月一日至翌年一月三十日
千島	國後郡泊川			
同	郡ルルイ川			
同郡ケラムイ川				
同郡オンネチフ川				
同郡ポンチフンベツ川				
同郡ノッカ川				
同郡チクニ川				
同郡フルカマツブ川				自四月二十日至翌年一月三十一日
振別郡クロキナイ川				
薬取郡チコハイ川				
同郡サルヤ川				
同郡トシルリ川				

鮭保護河川湖沼				
勝振	有珠郡オサルベツ川	勇拂郡錦多峯川	新冠郡新冠川	
山越郡遊楽部川			勇拂郡勇拂川	
			白老郡白老川	
			同郡敷生川	
			山越郡長萬部川	
			同郡國縫川	

前二表ノ河川ニハ本川ノ上流及支川湖沼ニハ之ニ注入スル河川ヲ包含ス

○明治二十三年十二月二十日廳令第七十五號

鮭魚産卵孵化期節中卵毎年九月二十日ヨリ翌年五月迄千歳川本支川（支川ハタ張、アツ、島松、流、チサツ、五川ヲ指ス）ニ於テ木材薪木ノ川流シヲ禁ス犯シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス（明治二十四年一月廳令第四號同二十五年一月廳令第二號同二十八年十月廳令第八十四號同年十二月廳令第九十六號ヲ以テ本令中改正）

但ママヲ太ヨリ下流ノ本支川ハ翌年二月ヨリ十月迄其禁ヲ解ク

○明治二十九年八月二十九日廳令第四十八號

釧路國厚岸郡厚岸湖牡蠣取締規則左ノ通リ定ム

但シ明治十八年（五月）根室縣甲第二十一號布達ハ廢止ス

釧路國厚岸郡厚岸湖牡蠣取締規則

第一條　釧路國厚岸郡厚岸湖中ニ於テ牡蠣採取營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ本籍戸長ノ證明アル戸籍寫ヲ添ヘ地元戸長役場ヲ經テ所轄郡役所ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ牡蠣ノ採取區域ハ別記圖面點線内ニ限ル

第二條　牡蠣採取營業免許ハ左ノ要件ヲ具備スル者四百五十名ヲ限リトス

但シ本條ノ要件ヲ具フル者其數ニ滿タサルトキハ一年以來厚岸湖岸町村ニ居住シ左ノ二、四ノ要件ヲ具フルモノニ限リ特ニ免許スルコトヲ得（三十二年六月廳令第五十二號ヲ以テ本項改正）

一　厚岸湖岸町村ニ本籍ヲ有シテ居住シ若クハ三年以來寄留シ尚ホ引續

二　年齡十四歳以上六十歳以下ノ者ニシテ自ラ牡蠣採取ニ從事スルモノタルコト

三　從來牡蠣採取營業ノ免許ヲ受ケタル者又ハ其家族タルコト

四　本則第一條ノ營業免許ヲ受ケスシテ牡蠣ヲ採取シタルコトナキモノタルコト

第三條　牡蠣採取免許期限ハ滿四年ヲ以テ一期トシ明治二十九年十月一日ヨリ起リ明治三十三年九月三十日ニ至ル次期以下之ニ準ス

第四條　前條期間内ニ於テ受ケタル牡蠣採取營業免許ハ該期間ノ滿了ト共ニ其效ヲ失フモノトス

第五條　免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルコトヲ得ス

第六條　免許期間滿了失效若クハ廢業ノ節ハ五日以内ニ免許鑑札ヲ返納スヘシ

但シ死亡者ノ鑑札ハ其家族ヨリ返納スヘシ

第七條　免許鑑札ヲ亡失毀損シタルトキ若クハ改氏名轉居シタルトキハ再下付若クハ書換ヲ受クヘシ

第八條　前條ノ鑑札書換出願中ノモノニシテ牡蠣採取ニ從事セントスルトキハ其旨地元戸長ニ願出假鑑札ヲ受クヘシ

但シ本鑑札交付ト同時ニ假鑑札ヲ返納セシムヘシ

第九條　牡蠣採取ニ從事スルトキハ常ニ其免許鑑札ヲ携帶シ警察官吏又ハ當該官吏ニ於テ該鑑札ヲ檢閲センコトヲ求ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十條　牡蠣採取取締ニ從事スル當該官吏ニハ郡長ニ於テ其證憑ヲ交付シ之ヲ携帶セシムヘシ

第十一條　牡蠣採取營業者ハ漁業組合準則第一條第二條第四條第六條ニ依リ組合ヲ設置スヘシ

牡蠣採取營業者ハ既ニ其免許ヲ受ケタル後ト雖モ本組合ニ加入セサル間ハ牡蠣採取ニ從事スルコトヲ得ス（三十一年二月廳令第十六號ヲ以テ本條中改正）

第十二條　（漁業法ニヨリ自然消滅）

第十三條　牡蠣採取營業者ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　牡蠣ハ毎年七月一日ヨリ九月三十日マテ採取スヘカラス

二　牡蠣ハ其大サ二寸五分ニ達セサルモノハ採取スヘカラス

三　牡蠣ハ官廳指定區域内ニ於テ之ヲ剝クヘシ

第十四條　何人ヲ問ハス厚岸湖中ノ苔藻ヲ採取シ又同湖中ニ貝殼其他糞芥土石ヲ投棄スヘカラス

第十五條　營業者ノ外何人ヲ問ハス厚岸湖中ニ於テ牡蠣ヲ採取スルコトヲ得ス

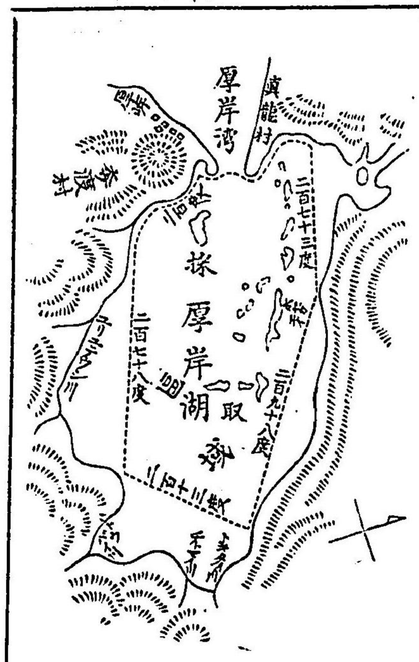
學術研究ノ爲メ牡蠣ノ採取ヲ出願スルモノアルトキハ郡長ハ場所及期節ヲ論セス許可スルコトヲ得

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者牡蠣ヲ採取セントスルトキハ許可票ヲ携帶スヘシ（二十九年十月廳令第五十八號ヲ以テ本條改正）

第十六條　本則第一條ノ免許ヲ得スシテ牡蠣ヲ採取シ又ハ第五條第十三條第一項第三項第十四條ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

本則第六條ノ本項及第九條第十一條第三項第十三條第二項第十五條第一項第三項ニ違背シタル者ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス（二十九年十月廳令第五十八號ヲ以テ本項改正）

第十七條　前條第一項ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シ郡長ハ其營業ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得



○明治三十年二月五日告示第二十號

明治二十九年（八月）北海道廳令第四十八號　釧路國厚岸郡厚岸湖牡蠣取締規則第十三條第三項牡蠣親場區域別紙ノ通リ定ム

但シ別紙圖面ハ所轄戸長役場ニ就キテ閲覽スヘシ

（別紙略）

○明治十三年九月十四日開拓使札幌本廳達甲第七十八號達

昆布ハ當道物産中ノ最大ナルモノニシテ外國貿易上ニ於テ其効益アルハ普ク熟知スル所ナリ故ニ漸次其繁殖方法ヲ考究シ苟モ生立ニ妨害アル雜草ハ勉メテ芟除セサルヘカラス就中方言ゴムト名クルモノハ多ク日高國方面ノ海岸ニ生シ極メテ繁茂シ易ク其害ヲ與フル最モ酷シ其生長ニ任セ之ヲ等閑視スルニ於テハ年年衰大ノ減耗ヲ來スノミナラス余ク其發生ヲ經ツニ至ルモ難計然ルトキハ乍チ營業者ノ浮沈ニ關スルハ勿論経ニ國益ノ一端ヲ失フニ至ルノ基ナリ豈天レ忽ニスヘケン乎從來該草ヲ芟除スルハ漁戸ノ慣行ナリシニ近來之ヲ怠ルカ故ニ有志者率先スルアリ雖モ更ニ行ハサルアリ是徒ニ一日ノ安キヲ得ント欲シ却テ永世ノ大利ヲ失フモノト云フヘシ若シ今ニシテ之ヲ顧慮セスンハ他日凶歉ノ時ニ臨ミ之ヲ患フルモ亦何ソ及ハン乎因テ漁戸タル者ハ皆宜シク忍ヲ抜ニ注キ奮勵協議社識必ラス該草芟除ノ方法ヲ實行シ永ク産業ノ利根ヲ培養シ愈國産ノ興隆ヲ謀レ此旨諭達候事

○明治二十六年八月二十四日廳令第三十四號

昆布製造取締規則左ノ通定ム

但本令ハ渡島國ノ内上磯郡檜振國ノ内室蘭幌別二郡日高國一國十勝國ノ内廣尾十勝二郡釧路國ノ内白糠釧路厚岸三郡根室國ノ内根室郡花咲郡千島國ノ内國後郡ノ外當分之ヲ施行セス（三十四年七月廳令第百二十四號ヲ以テ但書中改正）

昆布製造取締規則

第一條　本規則ニ於テ昆布ト稱スルハ左ノ四種トス

長切昆布　水昆布　棹前昆布　拾昆布

第二條　昆布製造ニ關スル組合ニ於テハ其組合規則中尚左ノ二項ヲ規定シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

一　昆布乾燥撰擇法

一　昆布ノ尺度結束法及最日

第三條　昆布製造ニ關スル組合ハ二名以上ノ取締人ヲ設置スヘシ

第四條　前條組合事務所ハ別紙雛形ノ證票ヲ製シテ其組合區域内ノ生産者ニ交付シ生産者ハ昆布結束ノ際之ヲ一駄毎ニ挿入スヘシ

第五條　昆布結束ノ後輸出若クハ販賣セントスルトキハ其生産地ノ組合取締人ノ檢査ヲ受クヘシ組合取締人ハ第二條ノ規定ニ合格スルモノハ毛刺ヲ押捺シテ檢査濟ヲ證スヘシ

但シ毛刺ハ組合ニ於テ之ヲ定メ北海道廳長官ヘ届出ヘシ

第六條　組合頭取ハ取締人ノ檢査シタル昆布ニ付更ニ檢査ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テ取締人ノ爲シタル檢査カ組合規約ニ適合セサルモノト認ムルトキハ之ヲ取消スコトヲ得（三十四年七月廳令第百二十四號ヲ以テ本條追加改第六條以下順次繰下ク）

第七條　第四條ノ證票及第五條ノ毛刺ナキ昆布ハ何人ト雖モ輸出販賣スルコトヲ得ス

第八條　北海道廳長官ハ官吏ヲ派シ昆布ノ製品ヲ檢査セシムルコトアルヘシ（三十四年七月廳令第百二十四號ヲ以テ本條中改正）

第九條　本則第四條ノ證票ヲ挿入セス又ハ第五條ノ檢査ヲ受ケサルモノ若クハ第七條ニ違背シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス（三十四年七月廳令第百二十四號ヲ以テ本條中改正）

附則

第十條　從來北海道廳長官ノ認可ヲ得タル組合規約ニシテ本則ニ適合スルモノハ更ニ認可ヲ受クルニ及ハス

第十一條　第四條ノ證票ハ明治二十六年採收ノ昆布ニ限リ從前使用ノモノヲ以テ代用スルヲ得

（別紙）證票雛形

厚紙又ハ綿布製

一尺一寸

日付

何昆布

組合事務所ノ印

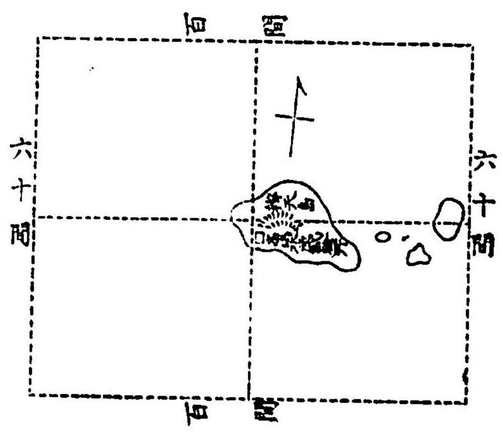
取締印

出産人　國郡町村　何ノ誰印

○明治三十年十月二十七日廳令第五十九號

後志國高島郡高島村字舞天島ヘ水産調査所ヲ置キ高島水産調査所ト稱シ左ノ線内海面ヲ調査用ニ充ツ（三十四年八月廳令第百四十二號ヲ以テ本項中改正）

該線内ニ於テハ水産動植物ヲ採捕シ若クハ海底ノ土石ヲ採取シ又ハ塵芥其他汚穢物ヲ投棄スルヲ禁ス犯ス者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス



○明治三十四年十二月六日告示第五百二十二號

北海道水産試驗場ヲ後志國高島郡高島村ニ置キ高島本場ト稱シ分場ヲ瞻振國千歳郡島松村ニ置キ千歳分場ト稱ス

但シ當分ノ内高島本場ニ屬スル事務ハ北海道廳内ニ於テ取扱フ

○明治三十四年十二月六日廳令第百七十號

北海道水産試驗場規程左ノ通定ム

北海道水産試驗場規程

第一條　北海道水産試驗場ハ水産業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ漁撈、製造、養殖等ニ關スル事項ニ付試驗ヲ行フモノトス

第二條　試驗場ハ左ノ業務ヲ行フコトヲ得

一　魚苗、介苗ノ配付

一　水産製品其他ノ分析及鑑定

一　漁撈、製造、養殖等ニ關スル調査

第三條　試驗場ハ試驗ノ成績ニ付當業者ニ傳習スルコトヲ得

第四條　試驗場ニ於テハ毎年一回以上試驗ノ成績ニ付報告書ヲ發行スルコトヲ要ス

○明治二十五年九月十日廳令第二十七號

本道各漁業組合等ニ於テ魚介藻ノ蕃殖保護ヲ圖ルカ爲メ監守人ヲ置クノ必要アルトキハ取締ノ爲メ左記雛形ノ鑑札ヲ下付スヘキニ付其方法及監守人員ヲ定メ當廳ヘ屆出ヘシ

記

鑑寸法圖面ノ通

表面

第一號

何處何何監守人證

裏面

北海道廳

○明治三十五年六月二十一日廳令第八十五號

水産組合規則施行手續左ノ通相定ム

第一條　組合設置發起ノ認可ヲ申請スルトキハ重要物産同業組合法施行規則第三條ニ定ムルモノノ外左ノ調書ヲ添附スヘシ

一　豫定組合ノ地區郡區以下ナルトキハ其事由

二　豫定組合ノ地區內ニ於テ組合員タルヘキモノノ員數但當業每ニ區分スルヲ要ス

三　組合ノ目的及業務ノ概目

四　發起人各自ノ履歷書及當業者タルコトヲ證スル書面

第二條　組合聯合會設置認可申請書ニハ聯合會定款ノ外聯合會總會議事錄謄本ヲ添附スヘシ

第三條　組合又ハ組合聯合會ノ設置定款變更經費豫算業務成績報告豫算並徵收法ノ認可申請經費決算業務成績報告書並徵收法ノ認可ヲ求ムルトキハ書類正副二通ヲ差出ス可シ（三十五年十二月廳令第百六十三號ヲ以テ本條改正）

第四條　組合ヨリ提出スル書類ハ組合若ハ組合聯合會ヲ設置スヘキ地ヲ管轄スル支廳長又ハ區長ヲ經由スヘシ

組合ノ地區一支廳又ハ一區役所管轄以外ニ亘ルトキハ關係支廳長區長ヲ經由スヘシ

附則

第五條　本令ハ水産組合規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○明治三十五年十一月二十一日廳令第百四十五號

漁業組合規則施行細則左ノ通相定メ發布ノ日ヨリ施行ス

漁業組合規則施行細則

第一條　組合設置ノ認可ヲ申請スルトキハ漁業組合規則第十三條ニ定ムルモノノ外左ノ調書ヲ添附スヘシ

一　豫定組合ノ地域內ニ住所ヲ有スル漁業者ノ員數

二　漁業組合規則第七條第九條ノ手續ヲ爲シタルコトヲ證スル書面

第二條　組合規約又ハ其變更認可申請ノ際ハ規約正副二通差出スヘシ

第三條　理事監事收入役又ハ清算人ヲ選任シタルトキハ履歷書ヲ添ヘ所轄支廳長ニ區ニ在テハ北海道長官ニ其認可ヲ申請スヘシ

第四條　北海道廳長官ニ提出スル書類ハ所轄支廳長又ハ區長ヲ經由スヘシ

第五條　漁業組合規則第三十三條第一項第三號豫算並徵收法ノ決議物年度後ニ於ケル經費豫算及賦課徵收法ノ決議又ハ第三十五條第三十六條第四十二條第二項ノ指揮第五十一條ノ裁決ノ所轄支廳長ニ區ニ在テハ北海道廳長官ニ申請スヘシ

第六條　漁業組合規則第二十六條第三十九條第二項第五十五條第二項ニ因ル選任ハ支廳所轄內ニ在テハ支廳長區ニ在テハ北海道廳長官之ヲ行フ

第七條　支廳長前二條ノ處分ヲ爲シタルトキハ遞

滯ナク關係文書ノ謄本ヲ添ヘ北海道廳長官ニ報告スヘシ

○明治三十六年一月十一日告示第二十號

水産組合又ハ水産組合聯合會ノ事務ヲ監査スル官吏ニハ左記樣式ノ證票ヲ携帶セシム

樣式　紙製

三寸

表面

水産組合
水産組合聯合會　事務監査官吏之證

二寸

裏面

北海道廳

廳印

●水産奬勵

○明治三十六年一月二十三日廳令第八號

水産業補助規定左ノ通定メ本令發布ノ日ヨリ施行ス

水産業補助規程

第一條　水産業ノ改良發達ヲ奬勵スル爲左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ補助金ヲ交付スルコトアルヘシ

一　卵數百萬粒以上ヲ孵化シ得ヘキ設計ノ鮭鱒人工孵化場ヲ新設スル者

二　卵數百萬粒以上ヲ孵化シ得ヘキ設計ノ鮭鱒人工孵化場ヲ經營維持スル者

三　前號人工孵化場ト同等以上ノ效果アリト認ムル鮭鱒天然蕃殖保護事業ヲ經營スルモノ

四　鮭鱒人工孵化ノ爲五十坪以上ノ鮭鱒養魚池ヲ設クルモノ

五　開墾スル者

六　將來地方ノ産業トナルヘキ新規ノ漁撈、製造養殖ニ關スル試驗ヲ爲ス者

七　將來地方ノ模範トナルヘキ新規ノ漁具漁船製造器具又ハ漁獲物沖揚運搬ニ關スル試驗ヲ爲ス者

八　水産業者ヲ指導スル目的ヲ以テ教師ヲ傭入ルル者

第二條　補助金ハ左ノ制限ニ依リ交付ス

一　第一條第一號ニ該當スル者ハ每百萬粒ノ設計ニ對シ三百圓以下

二　第一條第二號ニ該當スル者ハ發眼卵數百萬粒以上ニ達シタルトキ每十萬粒ニ對シ十圓以下

三　第一條第三號第四號ニ該當スル者ハ其ノ豫算額ノ二分ノ一以下

四　第一條第五號ニ該當スル者ハ其ノ出品點數每百點ニ對シ二十圓以下

五　第一條第六號第七號第八號ニ該當スルモノハ其ノ豫算數額ノ二分ノ一以下

第三條　本規程ニ據リ補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ前年度四月三十日限リ左ノ調書ヲ添ヘ所轄支廳長又ハ區長ヲ經由シ北海道廳長官ニ願出ツヘシ

一　第一條第一號第三號第四號第六號第七號第八號ニ該當スルモノハ其ノ設計方法經費豫算

二　第一條第二號ニ該當スル者ハ其ノ豫定孵化卵數

三　第一條第五號ニ該當スル者ハ其ノ豫定出品點數

第四條　補助金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ規定ニ依ルコトヲ要ス

一　第一條第一號ニ該當スル者ハ著手竣功後十日以內ニ其旨屆出ツヘシ

二　第一條第二號ニ該當スル者ハ卵ノ發眼ヲ了リタルトキ直ニ其ノ卵數ヲ屆出ツヘシ

三　第一條第四號ニ該當スル者ハ其ノ竣功後十五日以內ニ經費決算ヲ屆出ツヘシ

四　第一條第五號ニ該當スル者ハ開會十五日前ニ其ノ期日ヲ開會後十日以內ニ出品點數經費決算總覽人員ヲ屆出ツヘシ

五　第一條第三號第六號第七號ニ該當スル者ハ事業著手十五日前ニ其ノ期日ヲ事業終了後十五日以內ニ其ノ成績及經費決算ヲ屆出ツヘシ

六　第一條第八號ニ該當スル者ハ教師傭入ノトキ其ノ履歷書ヲ添ヘ豫メ認可ヲ受クヘシ解傭ノトキハ指導ノ狀況及經費決算ノ調書ヲ添ヘ十五日以內ニ屆出ツヘシ

七　中途事業ヲ休廢スルトキハ即時其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第五條　事業ノ設計方法ヲ變更セントスルトキハ願出許可ヲ受クヘシ

第六條　北海道廳長官ハ必要ト認メタルトキハ設計又ハ方法ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　北海道廳長官ハ官吏ヲ派遣シ事業ノ監督ヲ爲サシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ監督ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　補助金交付ノ許可ヲ受ケタル者本規程又ハ命令ニ違背シ若ハ事業ヲ休廢シタルトキハ許可ヲ取消シ又ハ補助金額ヲ減少シ若ハ既ニ交付

シタル補助金ヲ還納セシムルコトアルヘシ

第九條　補助金ハ事業終了後其ノ成績ヲ檢定シテ之ヲ交付ス

第十條　本規程ニ定メタルモノノ外北海道廳長官ニ於テ必要ト認ムルコトハ特ニ命令スルコトアルヘシ

附則

第十一條　明治三十六年度ニ於テ補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ明治三十六年三月末日限リ出願スヘシ

●海獸獵

○明治二十九年四月二日訓第八十一號（警察署同分署宛）

○明治二十八年（十二月）農商務省令第十二號（臘虎膃肭獸獵免許規則第四條第一項ニ依リ届出又ハ免許證ニ檢印シタルトキハ左ノ書式ニ據リ其都度報告スヘシ

（甲號報告書式）

（臘虎又ハ膃肭獸）獵船出港届出報告

免許證番號	船名又ハ船種	噸數	出港地名	出港年月日	免許者氏名
第何號	何丸	何噸	何所	何年何月何日	何誰
何號	何船				

右報告候也

年　月　日

北海道廳長官宛

何警察本分署長官　氏　名印

（乙號報告書式）

（臘虎）（膃肭獸）獵免許證檢印報告

免許證番號	船名又ハ船種	噸數	檢印年月日	免許者氏名
第何號	何丸	何噸	何年何月何日	何ノ誰
第何號	何船			

右報告候也

年　月　日

北海道廳長官宛

何警察本分署長官　氏　名印

○明治二十九年七月二十八日告示第百四十七號

明治二十八年（十二月）農商務省令十二號臘虎膃肭獸獵免許規則第二條但書ニ該當スルモノハ所轄郡區役所ヲ經由シテ本長官ニ出願スヘシ

○明治二十九年七月二十八日訓令第四十號（郡區役所宛）

本年（七月）當廳告示第百四十七號ニ依リ臘虎膃肭獸業免許願書ヲ提出スル者アルトキハ免許規則第二條ニ照合シテ記載ノ事項ヲ調査シ意見ヲ添ヘ本長官ヘ差出ヘシ

●森林

●林務課派出所

○明治二十五年十月三日廳令第百二十七號

當廳殖民部林務課派出所ヲ設ケ左ニ掲クル事務ヲ取扱ハシム

一　森林監護ノ事

二　官林地貸渡ニ關スル事

三　官有林野産物賣拂ニ關スル事

四　森林調査ニ關スル事

○明治三十五年十月三日告示第五百二十七號

當廳殖民部林務課派出所ノ名稱位置及管轄區域左ノ通相定メ本年十一月十五日ヨリ開所ス

北海道廳殖民部林務課派出所名稱位置及管轄區域

名稱	位置	管轄區域
北海道廳殖民部林務課		
札幌派出所	札幌區	札幌郡石狩郡手稲郡
同　厚田派出所	厚田郡厚田村	厚田郡濱益郡
同　岩見澤派出所	空知郡岩見澤村	空知郡ノ内岩見澤村幌向村沼貝村栗澤村奈江村北村及市來知村戸長役場ニ屬スル各村夕張郡
同　瀧川派出所	空知郡瀧川村	空知郡ノ内瀧川村雨竜村歌志内村豊別村樺戸郡雨竜郡
同　紋別派出所	紋別郡紋別村	紋別郡
同　枝幸派出所	枝幸郡枝幸村	枝幸郡
同　稚内派出所	宗谷郡稚内町	宗谷郡利尻郡礼文郡
同　天鹽派出所	天鹽郡天鹽村	天鹽郡中川郡
同　留萌派出所	留萌郡留萌村	留萌郡留萌郡増毛郡留萌郡苫前郡
同　紗那派出所	紗那郡紗那村	紗那郡蘂取郡擇捉郡振別郡

同　網走派出所	網走郡網走町	網走郡斜里郡常呂郡
同　紋別派出所	紋別郡紋別村	紋別郡
同　枝幸派出所	枝幸郡枝幸村	枝幸郡
同　稚内派出所	宗谷郡稚内町	宗谷郡利尻郡礼文郡
同　天鹽派出所	天鹽郡天鹽村	天鹽郡中川郡
同　留萌派出所	留萌郡留萌村	留萌郡留萌郡増毛郡留萌郡苫前郡
同　紗那派出所	紗那郡紗那村	紗那郡蘂取郡擇捉郡振別郡
同　旭川派出所	上川郡旭川村	石狩國上川郡天鹽國上川郡
同　富良野派出所	空知郡富良野村	空知郡富良野村
同　余市派出所	余市郡余市町	小樽區小樽郡高島郡忍路郡余市郡古平郡美国郡積丹郡
同　岩内派出所	岩内郡岩内町	岩内郡古宇郡虻田郡ノ内倶知安村
同　蘂都派出所	蘂都郡蘂都町	蘂都郡歌棄郡磯谷郡島牧郡
同　利別派出所	瀬棚郡利別村	瀬棚郡太櫓郡久遠郡山越郡ノ内長萬部村
同　江差派出所	檜山郡江差町	檜山郡爾志郡奥尻郡
同　福山派出所	松前郡福山町	松前郡
同　七飯派出所	亀田郡七飯村	亀田郡上磯郡茅部郡ノ内尼札部村臼尻村二戸長役場ニ屬スル各村函館區
同　森派出所	茅部郡森村	茅部郡ノ内森村及鹿部村砂原村落部村三戸長役場ニ屬スル各村山越郡（長萬部村ヲ除ク）
同　伊達派出所	有珠郡伊達村	有珠郡虻田郡（倶知安村ヲ除ク）室蘭郡幌別郡白老郡
同　鵡川派出所	勇拂郡鵡川村	勇拂郡沙流郡
同　浦河派出所	浦河郡浦河町	浦河郡三石郡靜内郡新冠郡幌泉郡様似郡
同　大津派出所	十勝郡大津村	十勝郡厚尼郡當縣郡中川郡
同　帶廣派出所	河西郡帶廣町	河西郡河東郡上川郡
同　釧路派出所	釧路郡釧路町	釧路郡阿寒郡白糠郡足寄郡川上郡
同　厚岸派出所	厚岸郡厚岸町	厚岸郡
同　根室派出所	根室郡根室町	根室郡花咲郡野付郡（茶志骨及野付村ヲ除ク）國後郡色丹郡
同　標津派出所	標津郡標津村	標津郡目梨郡野付郡ノ内茶志骨及野付村

○明治三十五年十一月十六日訓令第百二十二號（殖民部林務課派出所宛）

殖民部林務課派出所處務規程左ノ通相定ム

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

殖民部林務課派出所規程

第一條　派出所ニ於テハ其ノ管轄區内官有林野ノ保護利用及調査ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　派出所ニ所長一名所員若干名ヲ置キ所長ハ屬又ハ技手所員ハ屬技手森林看守等業手ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　所長ハ殖民部長ノ指揮ヲ受ケ所中一切ノ事務ヲ處理ス

第四條　所長事故アルトキハ首席ノ所員ニ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第五條　所員ハ所長ノ命ヲ受ケ所務ニ從事ス

第六條　所長ハ職權ノ範圍内ニ於テ派出所區域内ニ出張シ及所員ヲ出張セシムルコトヲ得

第七條　所長又ハ所員派出所區域外ニ出張ノ必要アルトキハ所長ハ其ノ事由及往復日數ヲ詳記シ殖民部長ノ認可ヲ受クヘシ但臨時緊急ノ場合ニ於テ經伺ノ遑ナキトキハ其ノ旨報告ノ上派出所區域外ニ出張シ又ハ所員ヲ出張セシムルコトヲ得

第八條　所長ハ所員ノ身分進退ニ關シ殖民部長ニ報告スヘシ

第九條　所長ハ主管ノ事務ニ付事ノ輕易ナルモノハ直ニ他官衙ト照會往復ヲ爲スコトヲ得

第十條　左ノ各項ノ事務ハ所長限リ處分スルコトヲ得

一　官有林野收額豫算内ニ於テ金額五十圓以内ノ産物特賣ノ事
　但年期賣拂又ハ土石掘取面積二段歩ヲ超ユルモノハ此限ニアラス
二　官有林野收額豫算外ニ於テ金額三十圓以内ノ産物特賣ノ事
　但保安林ニ係ルモノ及官林内生立木竝年期賣拂又ハ土石掘取面積一段歩ヲ超ユルモノハ此限ニアラス
三　官有林收額豫算内ノ土地貸付ノ事
四　官有林收額豫算外ニ於テ林業及鑛業附帶用ノ爲メ面積一町歩以内ノ土地臨時貸付ノ事
五　物件搬出延期ノ事
六　非常災害又ハ軍事ノ爲メ伐木及處分ノ事
　但經伺ノ遑ナキトキニ限ル
七　測量調査電線道路等ノ支障木危險等竝檢證ノ爲メ伐木ノ事
　但道路鐵道等新設ノ場合ハ此限ニアラス
八　官有林野ニ對スル金額十圓以内ノ損害辨償ニ關スル事
第十一條　派出所長處分事項ニ範圍外ニ於テ官有林野産物ノ賣拂若クハ官林地ノ貸付ヲ出願スル者アルトキハ關係書類ニ意見書ヲ添附シ經伺ノ上處分スヘシ

❸ 森林調査

○明治三十二年四月十一日訓令第十九號（支廳宛）
北海道官林種別調査規程左ノ通定ム
北海道官林種別調査規程
第一章　總則
第一條　本調査ハ森林管理ノ必要ニ據リ官林ノ種類ヲ撰定區別スルヲ以テ目的トス
第二條　官林ヲ別テ左ノ四種トス
第一種官林
第二種官林
第三種官林
第四種官林
第三條　第一種官林ハ將來永ク國有林トシテ保存經營スヘキモノヲ謂フ
第四條　第二種官林ハ將來公有林トシテ經營スヘキモノヲ謂フ
第五條　第三種官林ハ將來私有林トシテ經營スヘキモノヲ謂フ
第六條　第四種官林ハ將來森林トシテ經營スルノ必要ナキモノヲ謂フ
第二章　種別ノ標準
第七條　第一種官林ニ編入スヘキ標準左ノ如シ
一　保安林及保安林トナスヘキ森林
二　木材ヲ供給スルニ必要ナルモノニシテ政府ノ管理スヘキ森林
三　第二種以下各種官林ニ編入スルノ必要ナキ森林
四　第一種官林ニ編入スヘキ面積ハ全道（千島ヲ除キ以下倣之）ヲ通シテ二百萬町歩以上トス
五　第一種官林ハ將來國有トシテ政府管理ノ便否ト一般經濟上ノ關係ヲ酌量シ適當ノ配置ナスヘシ
第八條　保安林トナスヘキ森林ハ左ノ箇所ニ設置スヘシ
一　土砂崩壊流出ノ防備ニ必要ナル箇所
二　飛砂ノ防備ニ必要ナル箇所
三　水害風害潮害ノ防備ニ必要ナル箇所
四　頽崖墜石ノ危險ヲ防止スルニ必要ナル箇所
五　水源ノ涵養ニ必要ナル箇所
六　魚附ニ必要ナル箇所
七　氣行ノ目標ニ必要ナル箇所
八　公衆ノ衛生ニ必要ナル箇所
九　社寺名所又ハ舊跡ノ風致ニ必要ナル箇所
第九條　木材ヲ供給スルニ必要ナルモノニシテ政府ノ管理スヘキ森林ハ左ノ箇所ニ設置スヘシ
一　木材供給上殖ク社會公衆ニ關係ヲ有スル箇所
二　材積弐萬町歩五百尺綿以上ヲ有スル箇所
三　建築用材弐萬町歩材積百尺綿以上ヲ有スル箇所
四　防雪若クハ實生ニ依リ其材トナルヘキ箇所
五　運材貯木其他林業附帶地トシテ必要ナル箇所
第十條　前條第一項乃至第四項ニ該當スル箇所ト雖モ面積五百町歩以下ノ飛地ハ第二種官林ニ編入スルコトアルヘシ
第十一條　第二種官林ニ編入スヘキ標準左ノ如シ
一　區町村ニ接近シ植伐運材ニ便利ニシテ其地方ノ需用材ヲ供給スルニ適スル箇所
二　公有地若クハ私有地ニ介在シ又ハ接續スルモノニシテ區町村ノ管理ニ適スル箇所
三　第二種官林ノ面積ハ其地方區町村將來ノ人口豫定數ニ對シ一人ニ付面積二段歩ノ割合ヲ以テ撰定スヘシ
　但シ一區町村ニ對スル面積ハ五百町歩ヲ程度トシ區町村ノ狀況ニ依リ適宜參酌スヘシ
四　第二種官林ニ編入スヘキ面積ハ全道ヲ通シテ二十萬町歩以下トス
五　第二種官林ハ將來其地方區町村公共經濟ノ發達竝ニ農耕地開墾ノ程度ヲ酌量シ適當ノ配置ナスヘシ

第十二條　第三種官林ニ編入スヘキ標準左ノ如シ
一　森林トシテ保續ヲ要スルモノニシテ個人ノ經營ニ適スル箇所
二　第三種官林ニ編入スヘキ面積ハ全道ヲ通シテ四十萬町歩以下トス
第十三條　第一種第二種第三種官林ノ合計面積ハ全道ヲ通シテ三百六十萬町歩以上トス
第十四條　第四種官林ニ編入スヘキ標準左ノ如シ
一　農耕地ニ適スル箇所
二　秣場ニ適スル箇所
三　牧場ニ適スル箇所
四　宅地其他民有地トナスノ必要アル箇所
五　第四種官林ニ編入スヘキ面積ハ全道ヲ通シテ百九十二萬町歩以下トス
第十五條　支廳管轄區域内第一種第二種第三種官林配置面積ノ標準ハ別ニ之ヲ定ム
第三章　調査方法
第十六條　本調査ハ支廳ニ於テ行フモノトス
第十七條　本調査ハ實地踏査ニ依リ之ヲ行ヒ林種圖及林種簿ヲ調製スヘシ
第十八條　前條調査若手前支廳長ハ其管内各郡ニ於ケル各種官林區別ノ概略位置面積ヲ長官ニ具申シ檢閲ヲ經タル上調査ニ著手スヘシ
第十九條　實地踏査ハ第二章各條ニ準據シ林種ヲ區別シ境界標ヲ設置スヘシ
第二十條　境界標ヲ設置シタルトキハ之ヲ圖面ニ記入シ其連結線ヲ以テ境界トナシ以テ林種圖ヲ製シ面積ヲ算出スヘシ
第二十一條　踏査ヲ爲シタルトキハ境界標ノ位置番號及各種官林ノ地況林況ヲ仔細ニ野帳ニ記載シ以テ林種簿ニハ左ノ各項ヲ記載スヘシ
第二十二條　林種簿ニハ左ノ各項ヲ記載スヘシ
一　林種
二　面積
三　地況
四　境界
五　樹種
六　樹齢
七　材積
八　朋寄若クハ實生ノ程度
九　編入ノ理由
第二十三條　調査結了シタルトキハ林種圖及林種簿ヲ調製シ長官ニ提出スルモノトス
附　則
第二十四條　境界標ノ記號竝ニ設置ノ方法圖簿調製手續其他必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム
第二十五條　此規程ハ千島國ニ施行セス
○明治三十二年四月十一日訓第二百十六號（殖民部支廳宛）
北海道官林種別調査細則
官林種別調査規程ニ準據シ左ノ通リ定ム
第一條　調査員ハ官林種別調査規程第七條第一號第二號ノ撰定各項ニヨリテ調査スヘシ
第二條　本調査ハ規程第七條第一號第二號ノ撰定ヲ主トシ順次次種ニ編入スヘシ
農耕ニ適スル土地ノ撰定ハ國土保安ニ關係アル箇所ノ外前項ニ依ルノ限ニアラス
第三條　各種官林ノ配置ハ五ニ介在錯雜スル事ナク境界ハ峯嶺溪川若クハ不變道路等ニヨリテ之ヲ定メ將來ノ紛雜ヲ避ケ且林業經理上便利ナル境界ヲ撰定スヘシ
第四條　前條ニヨリ各種官林ノ位置境界ヲ撰定シタルトキハ之カ踏査見取圖ヲ作リ實地ニ於テ境界標ヲ設置スヘシ
　但圖面ニ林種境界標ノ種類位置及番號ヲ記スヘシ
第五條　境界標ハ左ノ方法ニヨリ設置スヘシ
（イ）境界線上生立木アルトキハ地上六尺以上ノ部分ヲ切去リ殘部ノ皮ヲ剥キ以テ境界標トナスヘシ
　但生立木ハ容易ニ腐朽セサルモノヲ撰定スヘシ
（ロ）前項生立木ナキトキハ方四寸以上長サ九尺ノ方柱ヲ以テ境界標トナシ内三尺ヲ地中ニ埋ムヘシ
第六條　境界標ハ主要ナル角點ニ設置スヘシ
　但甲乙境界表間ノ距離長キニ亘ルトキハ中間標ヲ設ケ可成境界線ナシカ明了ナラシムヘシ
第七條　境界標ノ記號ハ第一號式ニ準シ境界線ニ沿フタル部分ニ林種及境界標ノ番號ヲ記入シ且矢ヲ記シテ標界線ノ方向ヲ表ハスヘシ
　但記號ハ赤色ペンキヲ以テ地上五尺以上ノ部分ニ記入スルモノトス
第八條　野帳ハ第二號式ニヨリ境界標ノ位置番號境界ノ方位距離林種狀況及地況ヲ記入シ備考欄内ニ編入ノ理由及其他必要ト認ムル事項ヲ記載スヘシ
第九條　林種圖ハ第三號式ニ準シ踏査見取圖及野帳ニヨリテ五萬分一石版圖ニ記入ノ上調製スヘシ
　但五萬分一石版圖ハ木版ニヨリ送付ス
第十條　林種簿ハ第四號式ニ準シ野帳ニヨリテ調製スヘシ
第十一條　野帳見取圖及林種簿ハ一官林毎ニ調製

スベシ

第十二條　第十一條ノ一官林ハ左ノ標示ニヨリ區分命名スベシ

一　一官林ノ面積ハ一反町歩以下トス

二　一官林ノ境界ハ區町村界若クハ柵渠堤塘ニ類ル主トシテ其他河川道路ノ如キ常來施設及管理上便利ナル境界ニ據ルベシ

但國郡ニ跨ルコトヲ得ス

三　前項ノ區域ト雖モ面積一反町歩以上ナルトキハ適宜區分スルハ勿論ナリトス

四　官林名ハ區町村名若クハ著名ナル山川ノ名稱ニ據ルベシ

五　從來區分命名セルモノニシテ前各項ニ違ハサルモノハ可成變更セサルモノトス

第十三條　林種欄ニハ一官林毎ニ其分劃圖ヲ添附スベシ

但分劃圖ノ圖式ハ林種圖ト同シ

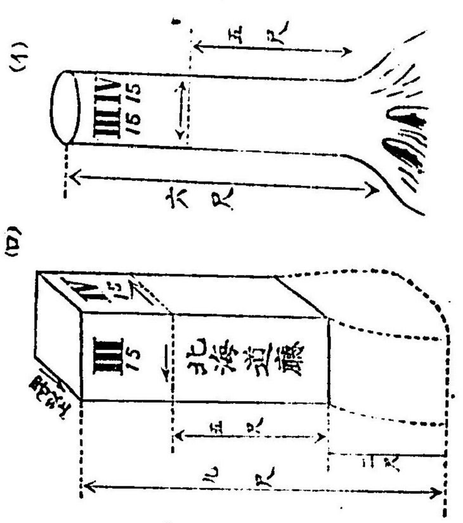
第十四條　路線並道路及所劃ハ林種圖及林種調製ノ後條存スベシ

第十五條　路線路切四等ノ爲メ伐採シタル樹木ノ直徑五寸以上ナルモノハ其木幹及根株㊞極印ヲ打採シ其樹種、樹齢、直徑、長、材積、本數ヲ記シ當廳支廳長ニ報告スベシ

第十六條　開墾並ハ毎月末日著淡刈潅漑（第五號式）及緩設（第六號式）ヲ開墾シ當廳支廳長ニ報告スベシ

第十七條　本則ニ規定スルモノノ外必要ナル開墾員心得ハ支廳長之ヲ定ム

第一號式



記號並ニ符號ノ記載例

一、第一種官林ハI、第二種官林ハII、第三種官林ハIII、第四種官林ハIVノ區別數字ヲ以テ記號トナシ境界線ノ地點ハ1、2、3、4等（アラビヤ）數字ヲ用ヒ

二、製圖ノ際生立木ハ境界線ハ○印ニ標柱ハ□印ヲ以テ

第十一號式

種別	字	境界 方位	境界 距離	境界標 番號	境界標 種類	面積	林況 樹齢（歩合）	林況 樹齢	林況 一町歩ノ本數	林況 毎一町歩平均材積	林況 著生ノ狀況	地況 傾斜	地況 方向	地況 地質	地況 地味	地況 植生	編入ノ理由	備考
I	マツカリ	度	間	0	角		トトマツ二分	八十年			著生ニテ新更ナスヲ要セン	地勢緩ナリ	南	火山岩	瘠薄	地多 竹シ	私有林及公有林トナシスノ必要ナシ	深山ニシテ當時運搬ノ便ナク木材利用ノ道開ケス
		N30° W	100	1	立木		雜木八分											
		N15° W	250	2	立木				150	450,000								
		N25° S	300	3	立木													
II	右ニ股	N10° E	200	1	角		トトマツ三分	八十年			著生ニテ新更スヘシ	地勢稍緩	東	火山岩	瘠薄	地多 竹シ	町村ニ接近シ其保護及採伐ニ便ニシテ現ニ地方ノ薪炭材ヲ供給ス	現ニ稚樹發生ノ狀アリ故ニ山火ヲ防禦スルトキハ必ス其成林ヲ見ルヲ得ヘシ
		N15° E	150	2	立木		雜木七分		150	450,000								
		N10° E	250	3	立木													
III	カツラノ澤	N10° E	257	1	角		雜木七分	四十年				稍緩	東	第三紀層	稍沃	地竹及雜草	現民地ニ介在シ一個人ノ營林業ニ適ス	
		N15° S	350	2	立木		トトマツ三分		200	57,000	同上							
IV	パンノ澤	N10° S	300	1	立木			五十年			萠芽ニテ更新ス	緩	南	第三紀層	稍沃	地竹及雜草	農耕地及牧場地トナスヘシ	現今運搬ノ便ニ乏シキカ故ニ農耕地トナスモノナシト雖モ將來農耕地トナスヲ得ヘシ
		N8° E	150	2	立木				100	60,000								
		N9° E	160	3	立木													

何縣何郡何（町）村
何官林

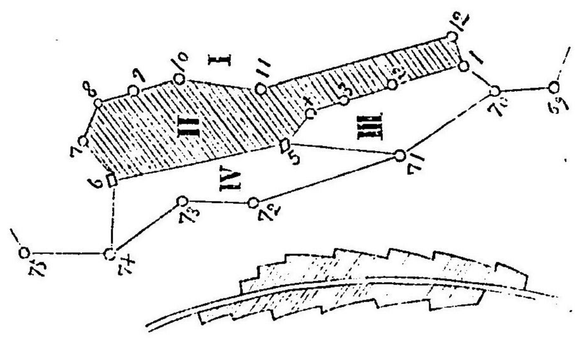
說明

最上欄ニハ林種ヲ記スヘシ

樹種欄ニハ針闊ノ區別樹齢欄ニハ老幼兩限界ノ年齢本數欄ニハ一町歩ニ於ケル平均本數積材欄ニハ一町歩ニ於ケル現在材積ニシテ尺樹ヲ以テ單位トナス

適宜備考欄ヲ設ケ編入ノ理由其他必要ト認ムル事項

（第三號樣式）



一　地況　第一種官林ハ黃色II ハ紫色ノ線III ハ淺色ノ斜線IV ハ淺色ヲ用テ區別スベシ

二　林種ノ區別、境界線、境界標ノ番號ハ黑色ヲ用ヒ境界標ノ種類ヲ區別スベシ

三　從來ノ施業區域ハ紅線ヲ用フ

（第四號樣式）

境界標ノ種類	國郡町村字	官林班	境界標ノ種類	地況	地況	地況	地況	林況	林況	備考
				地味	地況	傾斜	植生ノ見込ノ有無	本數	樹齡	
I										
II										
III										
IV										

（記載例）
一　境界標ニハ番號ヲ記入スベシ
二　林況ニハ樹種ノ種類及樹齡ヲ記入スベシ
三　備考ニハ地況ノ變化ヲ記入スベシ

第五號樣式

森林調査業務報告

何年何月分

調査年月日	國	郡	町村	字	小字	調査距離	內外業	調査班外傳數	發送地	旅行里數 同村內	旅行里數 三町村以上	備考
三十二年七月一日						三十町	外	一				
同　二日						五十町	外	二				
同　三日									毛白		三、一六	川筋地形ノ變化ヲ認メタリ
計							內何日 外何日					

右及報告候也

年　月　日

何郡何村字田淵

官・兵　名印

支廳長殿

一、說明

二、調査距離ハ可ナリ正確トシ町以下ハ記入スルニ及ハス

三、備考欄內ニハ天幕移轉或ハ川筋打合或ハ地方視察等必要ナル事項ヲ記入スベシ

第六號樣式

森林調査出張中經費明細表

何年何月分

人夫賃ノ部

月日		使用人夫數 定傭	使用人夫數 臨時	單價	計金	備考
毛白同 七月二日		四		〇、五〇〇	二〇〇〇	何年何月何日ノ調査ニ使用ス
	計	、	、		、	、、、
累計						

但臨時人夫使用ノ時其理由其他必要ノ事項ハ備考欄內ニ明記スベシ

物品購入ノ部

月日		品名	數量	單價	計金	備考
七月十日		石油	二〇	〇、一五	三〇〇	〇〇〇ノ落葉用
	計					
累計						

通信費ノ部

月日	品名	容積又ハ重量	個数	地積	名称	理由	数量	単価	計金	備考
七月三日	御買入巻莨他物他				函館何地		五〇			
	計									
累計										

選擇費ノ部

月日	品名							料金	備考
七月二日	支廳郵便	官個種	新字型	一	三	九	〇〇三〇		
計									
累計									

右及報告候也

年　月　日

何郡何村字山班

官　氏　名　印

支廳長宛

一　説明

二　表中各欄ニ記載ノ金額ハ毎一箇月ツツ調製ノ上五日限リ送付スベシ

表中各欄ニ記載ノ金額ハ算出シ得サル場合或ハ説明ヲ要スベキ事項アルトキハ其ノ他備考ニ記載スベシ

三　表中何レノ部ニモ編入シ難キモノハ適宜部内ヲ設ケテ記載スベシ

○明治三十二年四月十一日調査二百十七號（支廳宛）（函館郡郡ニ支廳ヲ除ク）

北海官林種別調査規程第十五條ニ於ケル非支廳管轄區域内各種官林配當面積ノ選擇法ノ通達

第一種官林（小樹皮ハ六尺ノ三七、三七九町ヲ記入ス而シテ六尺ノ二七六町ヲ記入ス）

第二種官林（面ニ倣フ）

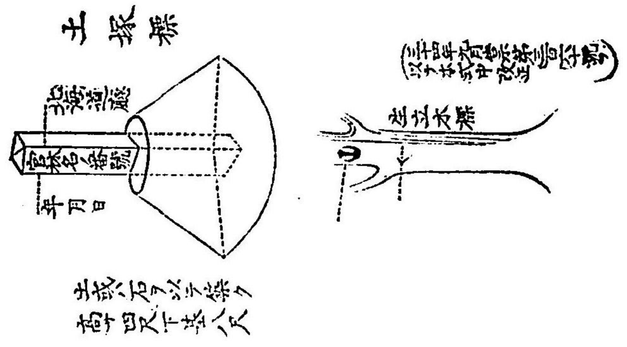
第三種官林（面ニ倣フ）

	官林面積	第一種	第二種	第三種
小樹	一〇三〇	三七三七	一〇三一〇	三六〇六
岩内	六六三四	一七八七	七三三六	一六六
浜都	一一〇六	六七一七	一六一〇	五三三
檜山	三〇〇六四	七三六〇	三〇一六七	一〇〇六
松前	三七六一	一〇〇八	四〇八六	一三三七
勇田	一六三六〇	七〇一〇一	四三六三六	一四〇八
室蘭	三三〇五一	一一六三六	八四〇八六	三八四六三
札幌	九六六一〇	三四六九〇	四三七〇〇	一四三三
空知	四六四三六	一六八四〇三	一三〇八三四	四〇三六
上川	一七七三三	六四一八七	四三〇七八	一八〇三六
増毛	四八〇一四	一七三六〇七	一四六四六	四一七八
宗谷	三一〇八七	一一三三〇四	七一〇三四	三三六四
網走	九四七六六	三四三一三三	一六六九三〇	四四六〇
浦河	三六〇〇三一	一三〇三八八	四六三六	一七六六
河西	六三一八四〇	三三四三七六	一七一三一	四六四四

勇路	四六七一四七	一七六四三一	一三八四三六	四六一四八
根室	四三九六〇四	一九四四三七	七四六九一	三四八六六

○明治二十八年六月十九日告示第七十五號

官林境界ハ從來建設セル標柱ノ外境界標示ノ個所ニ於テ更ニ左ノ二種ヲ加フ



❷森林保護

○明治十一年十月九日開拓使乙第二十四號布達

森林警護假條例別冊ノ通相定候條此旨布達候事

但從前本道布達等此條例ニ抵牾スルモノハ取消候條ト相心得可事

（別冊）

森林警護假條例

第一條　官林ノ等級ヲ分ツ左ノ如シ

一等官林

耳目ノ際列ヲ遮斷ノ便ナルモノ

三等官林

耳目ノ際列ヲ遮斷ノ便ナルモノ

新設山及其他ノ雑林

第二條　（三十年法律第四十六號森林法ニ曰ハク自然法）

第三條　私林　人民其所有地ハ一人一己ニ限リ所有スルモノ

第四條　官林ハ勝手ニ新設スルヲ禁ス

但勝手ニシテ其官ニ効ナキモノハ直ニ伐採ス

第五條　許可ナクシテ官林ニ採伐シ種樹ヲ蹂躙シ種子ヲ蹂躙シ樹木ヲ刈ル等ノコトヲ禁ス

第六條　山林ヲ採伐シ或ハ許可ナクシテ開墾シ山麓起伏トナスヲ禁ス

第七條　許可ナクシテ其他ノ官林ニ入ルコトハ山林官吏之ヲ礼シ

違解並ニ其他其ヲ或ハ

第八條　木ヲ伐リ竹ヲ刈リ或ハ材木ヲ運搬スル者ハ相当ヲ告ケモシ

注意スベシ

第九條　（十六年六月第十七號太政官布達ヲ以テ廃止）

第十條　山野ニ放火スルハ勿論火ヲ焚ク等ノコトヲ禁ス

第十一條　山野ニ火ヲ焚キ又ハ山林官吏或ハ村吏其他ノ人民ヲ召集シ消防ノ役ニ従ハシムルハ道カニ強カニ召集シ其指揮ニ従フベシ

第十二條　山野ノ火ヲ消防スルニ際リ故意ニ怠リ或ハ従ハザルモノアレバ

明治八年（四月）公達第五十四號ニ準ジ手錠ヲ加フベシ

但私林ハ其所有主ヨリ相當ノ手錠ヲ給与スベシ

第十三條　此條例ノ規定ヲ違ヒ其他不法ヲ為シタルモノハ金三十錢ヨリ少ナカラザル過料ヲ課スベシ

○明治三十年四月二日達令第十三號

明治十一年（十月）開拓使乙第二十四號布達森林警護假條例第十條ニ準ジ

北海道官林區域内ノ土地ヲ開墾シ或ハ二回以上十回以下ノ罰金ニ処ス

○明治三十年四月一日調令第十五號（都庁及支庁所管区分ニ関スル規定）

森林監守規則及駐在所位置並ニ管轄区域ヲ左ノ通リ定ム（三十年四月調令第二十號ヲ以テ本文ヲ改正）

第十三條　前條ノ火災ニシテ鎮火ノ上ニ於テ出火ノ原因ト認ムル

但シ鎮火ノ上ニ於テ出火ノ原因式第八條ニ準ジ報告ス

第十二條　森林ノ所有者ハ其ノ所有ノ森林ニ火災ノ生シタルトキハ遅滞ナク其ノ事由ヲ最寄ノ警察官吏ニ届出ツヘシ

第十一條　森林ノ所有者ハ其ノ所有ノ森林ニ火災ノ生シタルトキハ遅滞ナク其ノ事由ヲ最寄ノ警察官吏ニ届出ツヘシ

第十條　何人ニ限リ森林ニ火ヲ放ツヘカラス

第九條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第八條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第七條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第六條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第五條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第四條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第三條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第二條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第一條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十四條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十三條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十二條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十一條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第九條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第八條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第七條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第六條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第五條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第四條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第三條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第二條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第一條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十四條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十三條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十二條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十一條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第九條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第八條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第七條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第六條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第五條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第四條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第三條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第二條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第一條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十四條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十三條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十二條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十一條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第九條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第八條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第七條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第六條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第五條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第四條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第三條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第二條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第一條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十四條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十三條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十二條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十一條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第九條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第八條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第七條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第六條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第五條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第四條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第三條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第二條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第一條　何人ニ限リ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第一條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第二條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第三條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第四條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第五條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第六條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第七條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第八條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第九條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十一條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十二條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十三條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十四條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第一條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第二條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第三條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第四條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第五條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第六條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第七條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第八條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第九條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十一條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十二條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十三條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十四條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第一條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第二條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第三條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第四條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第五條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第六條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第七條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第八條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第九條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十一條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十二條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十三條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

第十四條　森林監守ハ森林ニ於テ火ヲ焚キ又ハ火ヲ放ツヘカラス

視察並伐了其他跡地檢査

第三十六條　擅當區内ニ於テ林産物ノ賣渡及林地ノ貸渡ヲ受ケタルモノアルトキハ巡視シ其取締ヲナスヘシ

第三十七條　林産物賣渡願人及林地貸渡願人ニシテ引渡以前物件ヲ採取シ若クハ土地ヲ使用シタル者アルトキハ直ニ之ヲ差止メ手續書ヲ認シテ森林檢査員ニ通報スヘシ

其盜意アリト認ムル者ハ第三十條ノ手續ニ據ルヘシ

第三十八條　主産物買受人ニシテ特賣規程第九條但書又ハ公賣規程第十九條但書ニ違背シ伐了檢査前其物件ヲ搬出スルモノアルトキハ直ニ之ヲ差止メ手續書ヲ認シテ森林檢査員ニ報告スヘシ

第三十九條　林産物買受人ニシテ引渡ヲ受ケサル物件ヲ採取シ或ハ林地借受人ニシテ其契約ニ違背シテ土地ヲ侵犯シ若クハ産物ヲ採取シタル爲メ相當ノ手續ヲナシタルトキハ之ヲ森林檢査員ニ通報スヘシ

第四十條　林産物買受人及林地借受人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ森林檢査員ニ之ヲ通報スヘシ

但シ第二項ノ場合ニ於テハ特賣規程第十九條或ハ公賣規程第二十九條ニ據リ其物件ヲ差押ヘ若クハ其事業ヲ中止スヘシ

一　約定ノ搬出期限ヲ經過シ猶買受物件ヲ搬出セサル者

二　買受物件ヲ伐採蒐集若クハ工作運搬ノ際ニ於テ森林ニ損害ヲ加ヘタル者

三　借受林地ニ對シ當初ノ使用目的ヲ變更シ若クハ使用權ヲ擅保ニ供シ又ハ之ヲ他ニ移シタル者

第四十一條　林野産物賣渡及林地貸渡處分手續第二章第三章及第四章ノ檢査若クハ引渡ヲ爲サントスルトキハ同規程及森林檢査員執務細則ノ手續ニ據リ執行スヘシ（三十一年十一月調第四百六十號ヲ以テ本條改正）

森林境界標

第四十二條　森林内ニ在ル境界標ハ常ニ其所在ヲ認知シ置クヲ要ス

第四十三條　森林境界標朽損シテ其用ヲ爲ササル カ又ハ紛失若クハ總テ滅失シタルトキハ書式第十八號ニ據リ郡長ニ申出テ再建ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十四條　森林境界標ヲ毀損シ或ハ之ヲ移轉シタル者アルトキハ利法第四百二十條ノ犯罪トシ取調ノ上相當ノ手續ヲナスヘシ

前項ノ手續ヲ了シタル後書式第十八號ニ據リ郡長ニ報告スヘシ

書式第一號

明治何年何月

森林巡視復定順路報告

一何月何日出發左ノ官林巡視何日歸所ノ見込

何郡何町村何官林

同郡同町村何何官林　（本官林ニ於テ伐了檢査執行）

何郡何町村何何官林

一何月何日出發左ノ官林巡視何日歸所ノ見込

何郡何町村何官林

同郡何町村何何官林

右復報候也

何何駐在所

森林監守　氏　名印

年　月　日

郡長宛

第六章　森林内ニ在ル境界標ハ常ニ其所在ヲ認知シ置クヲ要ス

第四十二條　森林内ニ在ル境界標ハ常ニ其所在ヲ認知シ置クヲ要ス

第四十三條　森林境界標朽損シテ其用ヲ爲ササル カ又ハ紛失若クハ總テ滅失シタルトキハ書式第十八號ニ據リ郡長ニ申出テ再建ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十四條　森林境界標ヲ毀損シ或ハ之ヲ移轉シタル者アルトキハ利法第四百二十條ノ犯罪トシ取調ノ上相當ノ手續ヲナスヘシ

前項ノ手續ヲ了シタル後書式第十八號ニ據リ郡長ニ報告スヘシ

書式第一號

明治何年何月

森林巡視復定順路報告

一何月何日出發左ノ官林巡視何日歸所ノ見込

何郡何町村何官林

同郡何町村何何官林

何郡何町村何何官林

同郡同町村何何官林　（本官林ニ於テ伐了檢査執行）

何郡何町村何何官林

一何月何日出發左ノ官林巡視何日歸所ノ見込

何郡何町村何官林

同郡何町村何何官林

右復報候也

何何駐在所

森林監守　氏　名印

年　月　日

郡長宛

備考

一　巡視毎ニ區別シテ之ヲ記載スヘシ

二　伐了檢査盜伐調査其他ノ事件ヲ目的トシ巡視スルトキハ其理由ヲ記載スヘシ

書式第二號

隣區應援ノ儀上申

隣區何郡何町村何何官林ニ於テ山火（盜伐）ノ事件起リ被害區域廣大ニ付何町歩ニ渉リ（或ハ加害者凡何十人ニ渉リ）其處分上困難ノ趣ヲ以テ當區擅當員ニ對シ應援方別紙ノ通照會ノ處當區ニ於テハ目下何等ノ異狀無之取締上懸念ノ儀モ無之ニ付來ル何日ヨリ何日マテ何日間ノ見込ヲ以テ該區ニ出張ノ儀御認可相成度此段上申候也

何何駐在所

森林監守　氏　名印

年　月　日

郡長宛

（事件切迫ニ出張ヲ要スル場合ハ左ノ通添申スヘシ）

迫テ本件ハ（事件切迫其機ヲ失スルノ虞有之ニ付本日（或ハ明何日）直ニ出發仕候此段添申候也

書式第三號

犯罪事件取調トシテ隣區出張ノ儀上申

今般何郡何町村何官林字何何ニ於テ盜伐事件有之候處其加害者何ノ誰ハ隣區部内何郡何町村ノ者ニシテ盜伐シタル木材ハ既ニ居住地ニ運搬シタル形跡有之（以上擅當區外ニ關係ノ事實ヲ詳記スヘシ）該擅當區員ニ照會ノ上取調フヘキノ處當區ニ接近シ且證據湮滅ノ慮モ有之（又ハ何何ノ理由ニヨリ其關係複雜スル等出張ノ上取調ヘサルヲ得サル事由ヲ詳記スヘシ）候ニ付テハ來ル何日ヨリ何日マテ何日間ノ見込ヲ以テ出張ノ上調査ヲ了シ度候條御認可相成度此段上申候也

何何駐在所

森林監守　氏　名印

年　月　日

郡長宛

（事件切迫直ニ出張ヲ要スル場合ハ左ノ通添申スヘシ）

迫テ本件ハ（事件切迫其機ヲ失スルノ虞有之ニ付本日直ニ出張ヲ要スル場合ハ左ノ通添申スヘシ）

書式第四號

隣區被害事件處分トシテ出張ノ儀上申

隣區何郡何町村何官林ニ於テ山火（盜伐）アルヲ認メ候處該地ハ駐在所ヲ距ル何里ニシテ却テ當區境界ヲ距ルコト僅カニ何里何町ニ有之直ニ出張其處分ヲナスノ必要ヲ認メ候ニ付テハ往復何日ノ見込ヲ以テ本日直ニ出張候條御認可相成度此段上申候也

何何駐在所

森林監守　氏　名印

年　月　日

郡長宛

書式第五號

訴訟事件證人トシテ出廷屆

何郡何町村何官林ニ於ケル何ノ誰盜伐事件ニ付何裁判所列事（檢事又ハ豫審判事）ヨリ證人トシテ召喚ヲ受候ニ付往復何日ノ見込ヲ以テ本日出發候條此段及御屆候也

何何駐在所

森林監守　氏　名印

年　月　日

郡長宛

書式第六號

明治何年何月

森林巡視報告

年　月　日　巡視順路　事故

明治三十年五月一日　駐在所ヲ發シ何何官林ヲ巡視シ何村ニ宿ス　何何官林ニ於テ何村某ノ盜伐ヲ發見シ取調ノ上送致セリ

同　二日　何村ヲ發シ何何官林ヲ巡視シ何村ニ宿ス　何何官林出火ニ付消防ニ從事午後何時迄ク消止ル

同　三日　何村ヲ發シ何何官林巡視何村ニ宿ス　何何官林境界標第何號見當ラス本日付第何號申報ノ通

同　四日　何村ヲ發シ何何官林巡視何村ニ宿ス　何區擅當員何某ヨリ同區何何官林盜伐者ハ本職擅當區内何村住人ニ付取調落ノ分取調方依頼越セシヨリ取調ノ上回答セリ

同　五日　何村ヲ發シ何何官林巡視何村ニ宿ス　何何官林ニ於テ何村某方ヘ賣渡木伐採箇所臨檢不都合ナシ

同　六日　何村ヲ發シ何何官林巡視何村ニ宿ス　何何官林ニ於テ何村某ヘ賣渡木伐了檢査命セラレタルニヨリ本日執行一本過伐ニ付取調ヘシニ疑ハシキ點アリ本日第何號ヲ以テ何出

同　七日　何村ヲ發シ駐在所ニ歸著　以下徴之

右及報告候也

何何駐在所

森林監守　氏　名印

年　月　日

郡長宛

書式第七號

明治何年度森林事故統計報告

明治何年度擅當部内森林事故別紙一覽圖ノ通ニ有之候條此段及報告候也

何何駐在所

森林監守　氏　名印

年　月　日

郡長宛

同　氏　名印